

DICENTIS

会議システム

目次

1	安全	7
2	本書について	8
2.1	対象とする読者	8
2.2	本書について	8
2.3	著作権および免責事項	9
2.4	文書履歴	9
3	システム概要	11
3.1	ハードウェア要件	14
3.2	ネットワーク要件	19
3.3	ソフトウェア要件	19
3.4	ライセンス要件	19
3.4.1	ライセンスの概要	20
3.5	安全対策	25
3.6	GUI 言語	25
4	ソフトウェアのインストール	28
4.1	DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール	28
4.2	デバイスへのソフトウェアのダウンロード	30
4.3	ライセンスの追加と削除	30
4.3.1	アクティベーションツールの説明	31
4.3.2	システムの初期登録	32
4.3.3	ライセンスの追加/返却	33
4.4	サーバーコンソール	34
4.5	高速スパニングツリープロトコル (RSTP) のサポート	36
4.6	Web ベースクライアント用の証明書の作成	37
4.7	参加者アプリケーションのインストール	38
4.8	電子ネームカード	39
5	会議アプリケーション	40
5.1	ユーザーの権限と会議の権限	43
5.2	Manage (管理)	45
5.2.1	会議	46
5.2.2	議題	47
5.2.3	参加者	47
5.2.4	投票	47
5.2.5	議論	49
5.2.6	メニュー	50
5.3	準備	51
5.3.1	登録者	51
5.3.2	議論プロフィール	54
5.3.3	会議	59
5.3.4	Meeting details (会議の詳細)	60
5.3.5	参加者	62
5.3.6	議題	63
5.3.7	項目の詳細	64
5.3.8	参加者リスト	64
5.3.9	発言待機者リスト	64
5.3.10	投票スクリプト	65
5.3.11	投票の詳細	65
5.3.12	投票設定	70

5.3.13	通訳の準備	70
5.4	Configure (設定)	71
5.4.1	ユーザーグループ	71
5.4.2	ユーザー	71
5.4.3	言語	72
5.4.4	会議室設定	72
5.4.5	音声設定	75
5.4.6	音声ルーティングの設定	77
5.4.7	カメラ設定	78
5.4.8	座席とデバイス	78
5.4.9	参加者申込	84
5.4.10	言語選択	85
5.4.11	通訳デスク	89
5.4.12	Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)	96
6	DICENTIS Web サーバー	102
6.1	初回のログイン	104
6.2	構成手順	104
6.3	マイクの制御	105
6.4	Manage speech time (スピーチ時間の管理)	107
6.5	投票の制御	108
6.6	プレゼンテーションの制御	108
6.7	議題の制御	109
6.8	会議の制御	109
6.9	シノプティックビューの切り替え	111
6.10	参加者とチャット	111
6.11	ホールディスプレイの自動ログインとレイアウト選択の設定	111
6.12	会議後のツール	113
6.12.1	Web サーバー経由のアクセス	113
6.12.2	XSLT スタイルシートの変更	115
6.12.3	ソフトウェア更新後のスタイルシートへのカスタム設定の追加	115
6.12.4	信頼性チェック	116
7	ハイブリッド会議用の DICENTIS の構成	118
7.1	システムセットアップ	118
7.1.1	ライセンス	118
7.1.2	利用規約	118
7.1.3	追加のハードウェア	118
7.1.4	ネットワーク要件	118
7.1.5	ホールディスプレイと室内カメラ	119
7.1.6	オーディオのセットアップ	119
7.2	リモート参加者のセットアップ	120
7.3	ハイブリッド会議の準備	120
7.4	ハイブリッド会議の管理	120
7.5	リモート参加者としてミーティングに参加する	122
7.6	自動更新	122
7.7	シングル サインオン (SSO) ログイン	122
7.7.1	DICENTIS ハイブリッド ミーティングでのシングル サインオン (SSO) の仕組み	123
7.7.2	シングル サインオン (SSO) ログインを有効にする	123
8	メディアゲートウェイ	126
8.1	梱包品	126

8.2	設定方法	130
8.3	ビデオ転送	132
8.4	参加者アプリの画面を共有するためのメディアゲートウェイの設定	134
8.5	ハイブリッド会議用メディアゲートウェイの構成 (詳細モード)	135
8.5.1	キャンバスの作成	135
8.5.1.1	キャンバス構成の主要概念	135
8.5.1.2	キャンバス : 概要	136
8.5.1.3	キャンバス : 概要 + リモート参加者	137
8.5.1.4	キャンバス : 概要 + リモート発言者	139
8.5.1.5	キャンバス : 1 人の発言者	141
8.5.1.6	キャンバス : 2 人の発言者	142
8.5.1.7	キャンバス : 4 人の発言者	143
8.5.1.8	キャンバス : プレゼンテーション	146
8.5.2	コンテンツとシーンの構成	146
8.5.2.1	シーンロジックとフォールバック動作	147
8.5.3	リモートビデオストリームの設定	147
8.5.4	ローカル DCNM デバイスとリモート参加者へのビデオソースの割り当て	148
8.5.5	最終出力	148
8.6	サポートしている機器	150
8.7	メディア ゲートウェイのパフォーマンスの制約と Advanced モードの GPU 要件	152
8.8	メディアゲートウェイのビデオ出力への字幕の追加	153
8.8.1	前提条件	153
8.8.2	字幕用メディアゲートウェイの構成	153
8.8.3	メディアゲートウェイへの字幕データの送信	153
8.8.3.1	プラグイン情報	153
8.8.3.2	会議プロトコルを介して字幕を送信する	154
8.8.3.3	字幕データモデル	154
9	システム拡張	155
10	IDESK の構成 (デバイス上での直接構成)	158
11	電子名刺の構成	159
12	会議プロトコル	162
13	システムサーバー	163
13.1	サーバーでのバックアップの作成	165
13.2	サーバーの出荷時のイメージの復元	165
14	Dante ゲートウェイ	166
15	ヒント	168
15.1	NetTime オプションの変更	169
15.2	幹事の PC を他の VLAN で DICENTIS サーバーとして使用できるように構成する	169
15.3	コントロールの暗号化の無効化	170
15.4	DICENTIS を (リモート) SQL server に接続	170
15.5	DICENTIS ソフトウェアを前のバージョンにダウングレード	173
15.6	4.1 以降の DICENTIS ソフトウェアを 4.0 以前のバージョンにダウングレードする	174
15.7	DICENTIS 会議システム Pre-4.40 の場合	174
15.7.1	システムの最初の有効化	175
15.7.2	その他のフルフィルメント / ライセンスの追加	177
15.7.3	ライセンスの返却と修復	177
15.8	FNPライセンスファイルのバックアップの作成	178
15.9	異なるコンピュータへの画像サーバーのインストール	178
15.10	フェイルセーフモードからのデバイスの復旧	179

15.11	不具合のあるデバイスの交換	179
15.12	ファイルのアップロードとアクセス	180
15.13	DICENTIS マルチメディアデバイスの日付時刻形式の設定	181
15.14	ARNI をサポートしている DICENTIS システムの DICENTIS サーバーに固定 IP アドレスを使用する	182
15.15	DICENTIS で動作するネットワークインターフェイスの選択	183
15.16	電源ボタンを使用してサーバーの電源をオフにする	183
15.17	カメラストリームとプレゼンテーションストリーム	184
15.18	バックアップの作成とシノプティック構成の復元	184
15.19	Dante™ 互換デバイスの構成	184
15.20	デバイスへのサードパーティ製アプリケーションの追加	185
15.21	デバイスへの他のキーボードの追加	186
15.22	議題項目の変更時にサードパーティの Android アプリをマルチメディアデバイスで使い続ける	186
15.23	コマンドラインツールによる証明書の作成	187
15.24	使用しない画像の削除	188
15.25	API アプリケーション (Synoptic を含む) に対する .net API での安全なログイン	188
15.26	参加者アプリの SSL 証明書の更新	188
15.27	DCNmMediaPlayer のインストールと実行	189
15.28	6.8 以降の DICENTIS ソフトウェアを以前のバージョン (V4.1 ~ V6.7) にダウングレードする	190
16	トラブルシューティング	191
16.1	デバイスの LED の動作	191
16.2	Network Docent	193
16.3	DeviceBrowser を使用した接続済みデバイスの確認	194
16.4	会議を中断せずに言語の追加や削除を行う	194
16.5	既知の問題	194
16.5.1	ネットワーク	194
16.5.2	ソフトウェアのインストール / ハードウェアの設置	195
16.5.3	会議アプリケーションと DICENTIS デバイス	195
16.5.4	通訳デスクに DICENTIS ロゴが表示される	196
16.5.5	MMD にロゴと参加者の画像が表示されない	196
17	顧客サービスとトレーニング	197

1

安全

製品の設置や操作の前には、別途、多言語に翻訳された資料の『安全に関する重要事項』(Safety_ML) を必ずお読みください。この資料は、主電源に接続されるすべての機器に添付されています。

安全上のご注意

DICENTIS 会議システム製品の一部は、商用電源に接続するように設計されています。感電の危険性を避けるため、あらゆる設置作業は、電源を抜いた状態で行ってください。機器のスイッチを切ることが不可能な場合に限ってのみ、機器のスイッチを入れた状態での作業となります。これらの作業は、必ず有資格者のみが行ってください。

古い電気・電子機器



本製品やバッテリーは、家庭ごみとは別に廃棄する必要があります。そのような機器を再利用またはリサイクルできるように、地元の法規制に従って処分してください。これにより、資源を維持し、人の健康と環境を守ることができますようになります。

最新のソフトウェアの使用

本機を初めてお使いになる前に、お使いのソフトウェアが最新であることをご確認ください。機能、互換性、性能、セキュリティを維持するために、デバイスの使用期間中は定期的にソフトウェアをアップデートしてください。製品マニュアルの指示に従って、ソフトウェアをアップデートしてください。

以下のリンクで詳細情報をご覧ください:

- 一般情報: <https://www.keenfinity-group.com/xc/en/support/product-security/>
- セキュリティ勧告 (特定された脆弱性と提案された解決策のリスト): <https://www.keenfinity-group.com/xc/en/support/product-security/security-advisories.html>

Electro Voice Dynacord B.V. は、以前のソフトウェア コンポーネントを使用して製品を操作することによって生じたいかなる損害についても一切責任を負いません。

2 本書について

このマニュアルでは、DICENTIS 会議システムの構成、会議アプリケーションにおける会議の準備および準備済みの会議の管理の方法について説明します。このマニュアルには、ハードウェアの設置やユーザーの操作に関する手順は掲載されていません。必要に応じて、DICENTIS のハードウェア設置マニュアルと DICENTIS ユーザー操作マニュアルを参照してください。

このマニュアルは、Adobe Portable Document Format (PDF) の電子版ドキュメントで提供されています。

製品関連の情報については、こちらを参照してください: <https://www.keenfinity-group.com/>

2.1 対象とする読者

このマニュアルは、DICENTIS 会議システムの技術者、システムインテグレータ、および会議の準備や準備済みの会議の管理の権限がある担当者を対象としています。このマニュアルを使用する前に、DICENTIS 会議システムのトレーニングコースを修了しておく必要があります。

2.2 本書について

システムの設置と保守を行う際は、以下の章を参照してください。

- **安全について** : システムのインストールや操作の前に読んでおくべき、非常に重要な安全情報について記載しています。
- **本書について** : 対象読者に関する情報を提供し、このマニュアルの使い方を説明しています。
- **システムの概要** : DICENTIS 会議システムの高度な説明を記載しています。システムのハードウェアとソフトウェアに関する簡単な説明と、ソフトウェアライセンス/モジュールの概要が含まれます。
- **ソフトウェアのインストール** : DICENTIS ソフトウェアスイートをインストールし、DICENTIS デバイスにソフトウェアをダウンロードして、システムの最初の構成を行う方法について記載しています。また、システムの登録に必要なアクティベーション ツールなどのサーバー ソフトウェアについても説明します。
- **会議アプリケーション** : DICENTIS システムソフトウェアのメニュー項目すべてについて記載しています。このセクションでは、お使いの DICENTIS システムに、利用できるライセンスがすべて揃っていることを前提としています。

注 : 必要なソフトウェアライセンスがインストールされていない場合は、このマニュアルで説明されているメニュー項目の一部がシステムに表示されない可能性があります。

システムソフトウェアでメニュー項目を移動するときは、左側のペインの小さい三角形を使用して、ナビゲーションツリーのすべてのオプションを完全に展開してください。これらのオプションについては、この章のサブセクションで順次説明します。

- **DICENTIS Web サーバー** : シノプティックサイトの構成と管理の方法について記載しています。これにより、議長または書記は、発言者室のビジュアルレイアウト経由で発言を許可または停止することによって、会議を管理することができます。また、マイクコントロールを切り替え、投票結果をさまざまな方法で表示し、投票ファイルと会議ファイルにアクセスできます。この章には、また、自動生成され、会議の議事録を作成するために使用できる XML 形式の会議メモ、および、投票メモファイルに関する情報が記載されています。XSLT スタイルシートの変更 (情報をローカル言語で表示することを可能にする) に関する説明も含まれています。
- **システム拡張** : お使いのシステムを拡張するための要件について記載しています。つまり、ARNI (Audio Routed Network Interface) を使用してシステムに他の DICENTIS デバイスを追加する方法について説明しています。

- **IDESK の構成 (デバイス上での直接構成)** : デバイス自体で DCNM-IDESK および DCNM-IDESKVID を構成する方法について記載しています。これにより、ブース番号とデスク番号の割り当て、使用可能な言語の割り当て、ディスプレイの明るさの調整、出力 A - B - C の選択、使用するヘッドフォンの設定、AV 同期の設定 (DCNM-IDESKVID のみ)、デスクの自動構成、およびシステム情報の表示ができるようになります。
- **会議プロトコル** : プラットフォームに依存しないプロトコルである会議プロトコルと、DICENTIS Web サーバーの要件に関する情報を記載しています。
- **システムサーバー** : DICENTIS システムサーバー PC の接続方法と構成方法について説明しています。
- **Dante ゲートウェイ** : Dante ゲートウェイインターフェイスの仕組みを説明し、OMNEO 側と Dante™ 側の構成方法に関する情報を記載しています。
- **ヒント** : システムのアップグレード、保守、および使用に役立つ情報を記載しています。ヒントの概要もこの章の最初に含まれています。
- **トラブルシューティング** : トラブルシューティング情報を見つけることのできる場所と、既知の問題およびその解決策のリストを記載しています。

2.3 著作権および免責事項

All rights reserved.形態や媒体を問わず、電子的、機械的、フォトコピー、録画、またはその他の方法で、発行者の書面による許可なく本書の内容の一部またはすべてを複製または転送することは禁じられています。情報の転載および引用許可を申請する場合は、Electro Voice Dynacord B.V. までご連絡ください。

内容および図は、予告なく変更されることがあります。

2.4 文書履歴

バージョン 6.60 | 2025-08

次のセクションを更新 :

- 「ソフトウェア要件」 (「システムの概要」の下)。
- 「DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール」、「参加者アプリケーションのインストール」、および「電子ネームカード」 (「ソフトウェアのインストール」の下)。
- 「投票の詳細」 (「会議アプリケーション > 準備」の下)。
- 「タブレットの登録の更新」 (「ヒント」の下)。
- 「電子ネームカードの構成」および「既知の問題」 (「トラブルシューティング」の下)。

次のセクションを追加。

- 「ビデオ転送」 (「メディアゲートウェイの構成」の下)。

バージョン 6.70 | 2025-10

次のセクションを更新 :

- 「サーバーコンソール」 (「ソフトウェアのインストール」の下)。
- 「座席とデバイス」および「カメラ設定」 (「会議アプリケーション」の「構成」の下)。
- DICENTIS ソフトウェアを前のバージョンにダウングレード。

次のセクションを追加 :

- 「参加者アプリの画面共有用メディアゲートウェイの構成」 (「メディアゲートウェイ」の下)。

バージョン 6.80 | 2026-02

次のセクションを更新：

- 「セキュリティ対策」 (「システムの概要」 の下) 。
- 「会議アプリケーション」 。
- 「DICENTIS Web サーバー」 。
- 「電子ネームカードの構成」 。
- 「システムサーバー」 。
- 「Dante ゲートウェイ」 。
- 「ヒント」 。
- 「ハイブリッド会議用 DICENTIS の構成」 。
- 「メディアゲートウェイ」 。

バージョン 7.00 | 2026-08

次のセクションを更新：

- 「DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール」 (「ソフトウェアのインストール」 の下) 。
- 「アクティベーションツールの説明」 (「ソフトウェアのインストール」 の 「ライセンスの追加と削除」 の下) 。
- 「会議アプリケーション」 。
- 「シングルサインオン (SSO) ログインの有効化」 (「ハイブリッド会議用 DICENTIS の構成」 の 「シングルサインオン (SSO) ログイン」 の下) 。
- 「対応機器」 (「メディアゲートウェイ」 の下) 。
- システムの概要。
- 「システム拡張」 。
- 「デバイスの LED の動作」 (「トラブルシューティング」 の下)
- 「ハイブリッド会議用 DICENTIS の構成」 。
- 「電子ネームカードの構成」 。
- 「ヒント」 。

次のセクションを追加。

- 「メディアゲートウェイのビデオ出力への字幕の追加」 (「メディアゲートウェイ」 の下) 。
- 「ハイブリッド会議用メディアゲートウェイの構成 (詳細モード) 」 (「メディアゲートウェイ」 の下) 。

3 システム概要

DICENTIS 会議システムは、IP ベースの会議システムで、OMNEO 対応のイーサネットネットワーク上で動作し、音声、ビデオ、データの各信号の配信および処理を行います。

重要な情報については、最新の『リリース ノート』を参照してください。

DICENTIS 会議システムトレーニングに参加してから、DICENTIS 会議システムの設置、構成、準備、および運用を行うことをお勧めします。

このシステム概要には、冗長ネットワークのオプションに関する情報は記載されていません。詳細については、「冗長オプション」を参照してください。

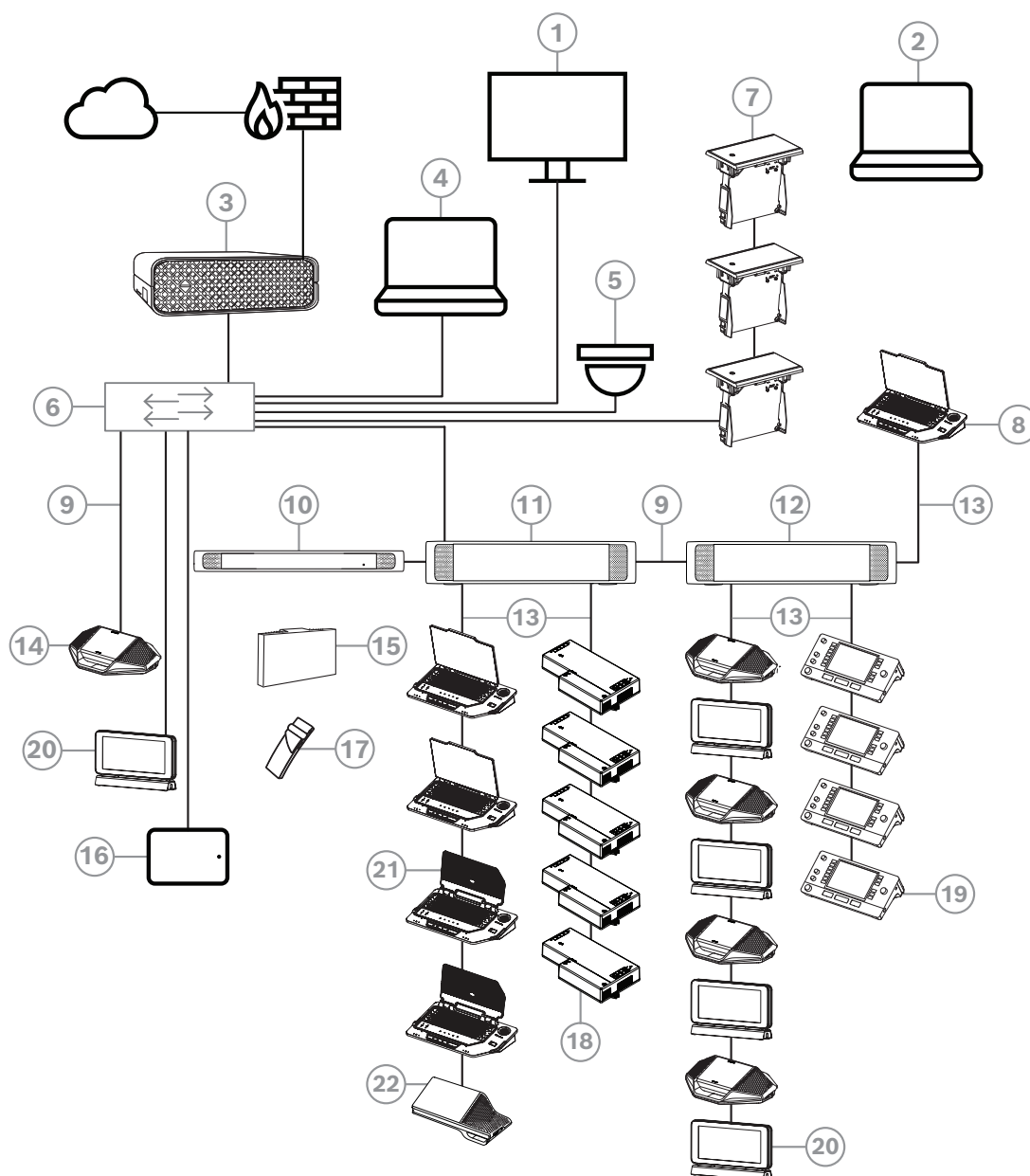


図 3.1: 一般的な DICENTIS 会議システムのセットアップ

一般的な DICENTIS 会議システムは、以下で構成されています。

1. 会議室のホールディスプレイ :
 - 会議または会議議事録の概要レイアウトを示します。
2. ラップトップ :

- リモートで参加する会議参加者によって使用されます。
- 3. DICENTISシステムサーバー：
 - システムの心臓部です。機能の使用を許可したり、システムの構成および制御を行います。
- 4. クライアント PC：
 - 会議の管理、会議の準備、およびシステムの構成に使用されます。
- 5. オプションのビデオカメラ (Onvif Profile-S 適合型カメラ、CGI コマンド経由の Sony IP カメラ、または Panasonic HD インテグレート IP) + 外部電源：
 - 発言者の画像を取り込みます。
- 6. イーサネットスイッチ：
 - 一部ポートの PoE 対応イーサネットスイッチ。
 - システムデータをイーサネット経由でルーティングします。
 - PoE 経由で電力を DICENTIS デバイスに供給します。
- 7. フラッシュマウント言語選択パネル ループスルー：
 - このデバイスは、デジタイズチェーン接続またはスター接続が可能です。このため、参加者は希望の言語を簡単に選択できます。
- 8. マルチメディアフル機能：
 - この装置は、最大限の機能性と柔軟性を提供します。ビデオ、会議コンテンツおよびインターネットアクセスに最適な 10 インチの静電容量方式タッチスクリーンが含まれています。
 - この装置は、「システムの電源オン」に使用されます。この装置は、オーディオ電源スイッチングハブまたは電源スイッチングハブの低出力ソケットに接続されます。

注：ここには装置を 1 台だけ接続する必要があります。
- 9. CAT-5e イーサネット ケーブル (最小要件) 。
- 10. トランスミッタ OMNEO：
 - ワイヤレス言語配信を実現するデバイスです。
- 11. 電源スイッチングハブ：
 - システムに接続する DICENTIS デバイスの数を増やす場合に使用されます。
- 12. オーディオ電源スイッチングハブ：
 - システム音声の制御、システムに対する音声の双方向転送、および DICENTIS デバイスへの電力供給を行います。
- 13. システムネットワークケーブル：
 - DICENTIS デバイス、オーディオ電源スイッチングハブ、および 1 つ以上の電源スイッチングハブを相互に接続します。
- 14. ディスカッションデバイス：
 - 参加者デバイスと通訳デバイスは PoE 経由で電力を供給できます。PoE 経由で電源を供給する場合は、スター配線のみ可能です。
- 15. Integrus ラジエータ：
 - 赤外線配信により、INT-TXO からの信号が室内のラジエータに送信されます。
- 16. 参加者申込：
 - 参加者アプリケーションは Android デバイス上で実行されます。オーディオの場合は、テーブルトップまたはフラッシュマウントの参加者デバイスが必要です。
- 17. Integrus ポケットレシーバ：
 - ポケットレシーバは、ラジエータから送信された信号を収集します。
- 18. フラッシュベースデバイス：
 - この装置は、フラッシュマウント ソリューションでの使用を目的としており、多くの機能が追加されています。
- 19. 通訳デスク：
 - DICENTIS 会議システムのプロフェッショナル通訳に対応した豊富な機能が装備されています。

注：1 つのブースあたり最大 10 台のユニットを設置できます。

20. 電子名刺：

- このデバイスは参加者の名前を表示します。DICENTIS ケーブルでデージーチェーン接続に、PoE 経由でスター配線に対応できます。

21. マルチメディアドッキング：

- この装置は、触覚フィードバック付きタッチボタンと点字を備え、最大限の機能性と柔軟性を提供します。サードパーティ製タブレットに対応するように設計されています。

22. マルチメディアデバイス：

- この装置は、マルチメディアコンテンツが必要な場合に最適です。システムネットワークケーブルを使ってシステムに簡単に接続できます。

DICENTIS 会議システムの一般的なカメラセットアップは、以下で構成されています。

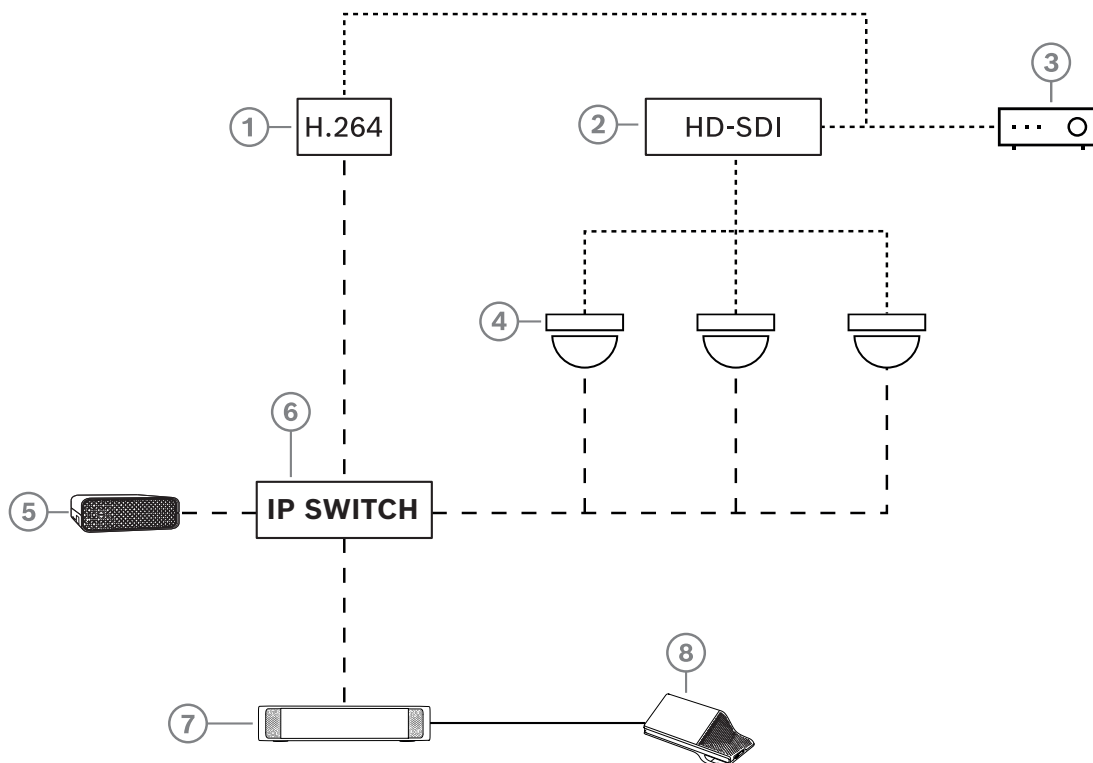


図 3.2: 一般的なカメラセットアップ

1	ビデオカメラがサポートされている H.264 ストリームを提供できない場合に HD SDI ビデオを H.264 にエンコードする H.264 エンコーダ	2	カメラの HD-SDI ストリームを切り替える HD-SDI スイッチャー
3	大型スクリーンにアクティブな発言者を表示するプロジェクター	4	ビデオカメラ (Onvif Profile-S 適合型カメラ、Sony、Panasonic)
5	DCNM-SERVER3	6	L3 イーサネット スイッチ
7	DCNM-APS2	8	DCNM-MMD2。デバイスにアクティブな発言者を表示します。
.....	HD-SDI (同軸ケーブル)	-----	イーサネット TCP/IP
_____	DCNM-ケーブル		

DICENTIS ソフトウェアスイート

DICENTIS 会議システムソフトウェアは、次の目的で使用されます。

- DICENTIS 会議システムの制御および監視。

- 会議室で開かれる会議の制御。

それぞれの会議は複数の項目からなる議題で構成され、項目ごとに議論が行われます。

DICENTIS ソフトウェアスイートは、次の 2 つの主要要素で構成されます。

1. DICENTIS ソフトウェアサーバー。
2. **会議アプリケーション。**

DICENTIS ソフトウェアサーバー

DICENTIS ソフトウェアサーバーは Windows サービスのセットです。これらのサービスは、ユーザーインターフェイスなしのバックグラウンドで実行され、すべての DICENTIS デバイスとクライアント PC 上で実行する会議アプリケーションを制御し、監視します。ソフトウェアサーバーには、ライセンス有効化モジュールも含まれています。このモジュールは、DICENTIS 会議システムのライセンスを有効にしたり、フルフィルメント (フルフィルメントは 1 つ以上のライセンスで構成されます) の追加や返却を行ったりするために必要です。「[ライセンスの追加と削除](#), ページ 30」を参照してください。

DICENTIS 会議アプリケーション

DICENTIS 会議アプリケーションは、システムを構成して会議の準備と管理を行うための PC ユーザーインターフェイスとして機能します。

サービスを実行する PC は、システムを制御するサーバーとして機能し、動作中の DICENTIS 会議システムに対するユーザー操作を必要としません。会議を管理するための基本的な機能は、マルチメディアデバイス上で利用できます。オプションで、サーバー PC に会議アプリケーションをインストールし、会議を制御および監視することもできます。必要に応じてサーバー PC の代わりにクライアント PC に会議アプリケーションをインストールすることもできます。または、技術部門の部屋によく配置されている 19 インチラックにサーバー PC を設置したり、複数の PC で会議アプリケーションを同時に実行することも可能です。

システム音声は、DICENTIS オーディオ電源スイッチングハブ (DCNM-APS または DCNM-APS2) によって制御されます。つまり、オーディオ電源スイッチングハブが存在していない場合、システムには音声機能がありません。

3.1 ハードウェア要件

システム要件

このセクションでは、システム各部の最小要件を一覧で示します。

どの部品が必須で、どの部品がオプションかの概要については、「[システム概要](#), ページ 11」のセクションを参照してください。

PC

DICENTIS システムでサービスを実行するコンピューターの最小 PC 要件は次のとおりです。

- 識別または参加者のイメージのない最大 100 台のデバイス。
- 識別または参加者のイメージのある最大 100 台のデバイス。
- 識別または参加者のイメージのない最大 1500 台のデバイス。
- 識別または参加者のイメージのある最大 1500 台のデバイス。

用途別の最小要件：

デバイスの数	識別または参加者のイメージのない 100 台未満のデバイス
--------	-------------------------------

CPU マーク	6000 以上*
RAM	8 GB
空きディスク容量	20 GB
イーサネット カード	1 GB
デバイスの数	識別または参加者のイメージを含む 100 台未満のデバイス
CPU マーク	7000 以上*
RAM	16 GB
空きディスク容量	50 GB
イーサネット カード	1 GB
デバイスの数	識別または参加者のイメージのない 1500 台以下のデバイス
CPU マーク	9000 以上*
RAM	16 GB
空きディスク容量	50 GB
イーサネット カード	1 GB
デバイスの数	識別または参加者のイメージを含む 1500 台以下のデバイス
CPU マーク	10000 以上*
RAM	16 GB
空きディスク容量	50 GB
イーサネット カード	1 GB

会議アプリケーションのみを実行する PC

識別または参加者のイメージの有無にかかわらず最大 1500 台のデバイス	Windows 11 注：Windows 11 はクライアント PC での使用にのみ対応しています。
CPU マーク	6000 以上*
RAM	8 GB
空きディスク容量	20 GB
イーサネット カード	1 GB

注：プロセッサのパワーは、CPU マークのスコアによって測定されます。これは、プロセッサファミリーのみで測定するよりもベンチマークスコアの信頼性が向上するためです。

- 多くのさまざまなプロセッサブランドおよびファミリーを利用可能
- ノート PC 用のプロセッサはデスクトップ用のプロセッサほど強力ではないが、どちらも i7 などにできる
- 同じプロセッサでも、新しいバージョンは古いバージョンより高速

プロセッサの CPU マークスコアを確認するには、次を実行します。

1. https://www.cpubenchmark.net/CPU_mega_page.html にアクセスします。
2. [CPU Name (CPU 名)] テキストボックスにプロセッサ (例 : i7-12700) を入力します。
3. [CPU Mark (CPU マーク)] 列で CPU マークスコアを確認します (例 : i7-12700 のスコアは 31114)。

または、[CPU Name (CPU 名)] テキストボックスをクリアし、[CPU Mark (CPU マーク)] 列を並べ替えて、特定のスコア (7000 など) を超えるプロセッサを確認することもできます。

ネットワークスイッチ

DICENTIS で使用されるネットワークスイッチには、次の最小要件および推奨事項が適用されます。

要件	標準	設定
Gbit イーサネット	IEEE802.3	スイッチ遅延は Gbit で最大 10 マイクロ秒です。 銅線ポートとファイバポートの両方で有効です。
パケット転送率は各ポートあたり HW で 1.2 Mpps 超	n.a.	SW によってパケット切り替えが行われると、許容できない可変遅延が発生します。
サービス品質機能 厳密な優先順位	DiffServ	PTP 同期パケットと音声パケットが制御パケットよりも優先されるようにすること。 OMNEO では IP レベルで QoS を使用して、ビジー状態のネットワーク上の同期や音声に関する問題を回避します。システムは比較的静かなネットワーク (10% 未満のネットワーク負荷) で問題なく動作しますが、ネットワークスイッチを適切に構成することが重要です。 使用されている QoS は、IP ヘッダーの Type of Services フィールド (ToS) の一部である差別化サービス (DiffServ) です。 DiffServ および IP ヘッダーの詳細については、ウィキペディアをご参照ください。

警告 : IEEE802.1p は QoS にも使用されますが、レイヤー 2 に限定されます。OMNEO では、このメカニズムに適切ではない IP 通信を使用するため、お使いの機器が DiffServ QoS を使用するようにしてください。

下記の表は、使用される **DSCP の値** の概要を示しており、スイッチで構成する必要があります。

データ	DSCP 10 進数	DSCP 16 進数	DSCP ラベル	TOS バイト (16 進数)	ネットワーク スイッチの優先度付き待機リスト
PTP 同期、遅延要求	56	0x38	CS7	0xE0	最高

PTP フォローアップ、遅延応答、音声	46	0x2E	EF	0xB8	高
(予備)	8	0x08	CS1	0x20	低
制御部	0	0x00	ベストエフォート	0x00	なし

警告： ネットワークスイッチの最優先待機リストのラベルをしっかりと確認してください。ブランドによって #1 または #8 など異なる場合があります。残念ながら、これは異なるブランドでは一貫していません。誤って設定すると、優先順位を設定しない場合よりもさらに機能が低下します。

ネットワークスイッチは DiffServ (DSCP) サービス品質をサポートするように構成する必要があります。DiffServ メカニズムを機能させるには、ネットワークスイッチに 4 つの優先度付き待機リストが必要です。

警告： VOIP QoS 設定は決して使用しないでください。

要件	標準	設定
1000 を超える MAC テーブル	n.a.	ネットワークスイッチがスペースを使い果たし、ネットワークスイッチがユニキャストパケットのブロードキャストを開始しないようにします。
EEE の無効化	IEEE 802.3az	EEE の実装には不備があるため、実装すると大抵問題が発生します。適切に実装すれば機能しますが、PTP 同期により節電はされません。そのため、EEE (グリーンイーサネットまたは低電力イーサネット) は常に無効にする必要があります。
RSTP の無効化 (ケーブルループを使用しない場合)		冗長性のために (ケーブル) ループを作成する場合、高速スパンニングツリープロトコル (RSTP) が必要です。ループを作成しない場合は、最適に動作させるために RSTP を無効にする必要があります。有効にした場合、ネットワークスイッチへの接続速度が低下する可能性があります。
VLAN の作成機能	n.a.	ほとんどのネットワークスイッチはシステム内のマルチキャスト変更を処理できないため、IGMP スヌーピングではなく VLAN セパレーションの使用を推奨します。100 Mb デバイス (Sony カメラ、TVOne、AMX など) をはじめ、一部のデバイスでは、マルチキャストデータのフィルタリングが必要になる可能性があります。
ハードウェアの IGMPv3 IGMPv2 スヌーピング		IGMPv3 または IGMPv2 スヌーピング。帯域幅の使用を最適化するために、IGMP スヌーピングを使用できます。これはマルチキャストストリームが 10 を超えるシステムで効果的ですが、必須ではありません。ネットワークスイッチに (直接または間接に) 接続されるデバイスの数に応じて、多数の IGMP クエリ応答を処理するのに十分な性能。IGMP スヌーピングのハードウェアサポートを強く推奨します。
冗長配線を使用する場合の要件	標準	設定
RSTP	IEEE802.1D-2004	RSTP を使用することで、冗長性用のループを作成できるようになります。ネットワークスイッチは、次のようにパラメータの値を変更した状態で対応する必要があります。 – Hello_Time = 9 seconds

要件	標準	設定
		- Forwarding_delay = 30 seconds - Max_age = 22 seconds
診断		
リンク層の検出	IEEE 802.1AB	Network Docent を使用したネットワーク診断用。
SNMP	SNMP	Network Docent を使用したネットワーク診断用。

ルーター

ルーターの最小要件：

- 1 Gbit 以上のイーサネットポート。
- PIM-DM または双方向 PIM をサポート。
- ルーティングの遅延を最小化する、IP ルーティングのハードウェア実行（例：レイヤー 3 スイッチ）。
- パケット転送速度は各ポート 1,000,000 パケット / 秒（例：8 ポートルーターで 8 Mpps）以上。
- スイッチングポートごとのノンブロッキングバックプレーンは 2 Gbit / ポート（例：8 ポートルーターで 16 Gbps）。
- MAC アドレステーブルは直接接続のサブネットあたり最小 1,000 アドレス。

タブレット

参加者アプリケーションを実行するタブレットには、次の推奨要件が適用されます。これらのタブレットは、DCNM-MMDOCK にドッキングして使用することも、単独で使用することもできます。

仕様	推奨
オペレーティングシステム	Android 11以上
画面解像度（ピクセル）	1920 x 1080ピクセル以上
CPU ¹	Snapdragon Gen 6以上（パスマーク：8000 超、CPUスコア：4000 超）
ビデオデコーダー ²	ハードウェアH264およびH265（HEVEC）ビデオデコード
ビデオエンコーダ	ハードウェアビデオエンコーディングH264/H265
メモリ	最小4GB
接続 ³	1 Gb/s以上の有線イーサネット接続

1 - チップセットのCPUマークスコアを確認するには、<https://www.androidbenchmark.net/> を参照してください。

2 - ビデオデコーダーのパフォーマンスは、Androidデバイスの違いにより異なる場合があります。ビデオパフォーマンスを確認するには、DICENTIS会議システムを使用してAndroidデバイスをテストすることをお勧めします。

3 - デバイスに統合イーサネットポートがない場合、DICENTISネットワークに接続するには、最低1 Gb/sの速度を持つ外部イーサネット - USB-Cアダプターを使用する必要があります。パススルー充電に対応したアダプタの使用をお勧めします。

3.2 ネットワーク要件

DICENTIS 会議システムをスタンドアロンシステムとして使用する場合は、このシステムはいわゆるダイナミックリンクローカルアドレスを使用します。これは、サーバー PC とクライアント PC の TCP/IP v4 設定を、「Obtain an IP address automatically (IP アドレスを自動的に取得する)」に設定する必要があることを意味します。通常、この設定はデフォルトであり、PC ネットワークの構成設定に変更を加える必要はありません。

たとえば、インターネットアクセスなど、より多くの機能が必要な場合は、ダイナミックリンクローカルアドレスを使用できません。そのような場合は、DICENTIS デバイスと PC を DHCP サーバーとゲートウェイに接続し、インターネットアクセスを提供する必要があります。DICENTIS システムを、既存のローカルネットワークの一部にする場合は、ネットワークの設定方法を IT 部門にお問い合わせください。

DHCP サーバーは RFC 4676 に適合している必要があり、30 秒間に 500 件のリクエストを処理する能力が必要です。ほとんどのホームルーター / ワイヤレスアクセスポイントで使用されているコンシューマー向けの DHCP サーバーは、この要件に適合しておらず、予期しない動作や要求していない動作を引き起こす原因となります。

Windows Server の DHCP サーバー機能は、これらの要件に適合しています。

DICENTIS 会議システムサービスは、ポート 13 および 9710 を通信に使用します。DICENTIS サーバーコンピュータ上でこれらのポートが他のアプリケーションに使用されていないことを確認してください。



注記!

参加者アプリケーションのビデオ品質を向上させるには、DICENTIS ネットワークスイッチで IGMP (インターネットグループ管理プロトコル) を有効にします。[Technician (技術者)] > [Tools (ツール)] で提供されているブループリントを使用して、Electro Voice Dynacord B.V. が提案するネットワーク スイッチを構成できます。



注記!

イーサネット ネットワークの設定方法については、このマニュアルでは記述していません。

3.3 ソフトウェア要件

サーバー PC の場合、DICENTIS には次のものがが必要です。

- Windows Server 2025 (.NET Framework 3.5 機能を含む)。
- どのバージョンも、最新のサービスパックと更新プログラムがインストールされている必要があります。

注 : DICENTIS サービスを実行するネットワークアダプターのネットワークプロファイルを、ONVIF Camera を検出できるように [プライベート] (パブリックではない) に設定して、不要なロギングを回避します。

3.4 ライセンス要件

DICENTIS 会議システムの使用前に、次のことを行う必要があります。

1. DICENTIS システムサーバーソフトウェアをサーバー PC にインストールする。「*DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28*」を参照してください。
2. DICENTIS ソフトウェアを有効化する。
追加のライセンスを購入してシステムに機能を追加することができます。「*ライセンスの概要, ページ 20*」を参照してください。

3.4.1

ライセンスの概要

DICENTIS システムは、参加者ベースのライセンスモデルを提供します。

注：DCNM-FSL および DCNM-FSL2 では、言語を選択するためのライセンスは必要ありません。

特長	出荷時の状態	プレミアム	アルティメット
ディスカッションモード			
– オープン（自動）	X	X	X
– オープン（標準）	X	X	X
– ファーストインファーストアウト	X	X	X
– 返答	-	X	X
– 音声	X	X	X
◦ 音声モードで自動カメラ制御に使用できる音声起動マイクログ機能が付属	-	-	X
– スピーチターンごとのスピーチタイマー	-	X	X
– 議題ごとにディスカッションモードを設定可能	-	X	X
会議と議題			
識別構成	-	X	X
定足数の構成	-	X	X
会議参加者の割り当て	-	X	X
参加者への権利の割り当て（VIP、優先順位、会議管理、投票、加重投票）	-	X	X
参加者の座席の割り当て	-	X	X
議題アイテム	-	X	X
議題項目ごとのディスカッション設定	-	X	X
議題項目ごとのリクエストリスト	-	X	X
会議ごとの通訳の構成	-	-	X
参加者			
参加者の詳細	-	X	X
UI 言語	-	X	X

特長	出荷時の状態	プレミアム	アルティメット
優先されるヘッドフォン言語	-	X	X
投票時のビーブ音	-	X	X
参加者の画像の表示	-	X	X
NFC による ID	-	X	X
ユーザー名	-	X	X
PIN コード	-	X	X
パスワード	-	X	X
投票 (投票権のある参加者のみ投票可能)			
臨時投票の投票設定を構成できます	-	X	X
臨時投票を実行できます。投票を開始する前に、番号、件名、説明を入力できます。	-	X	X
会議の準備の一環として投票を事前に準備できます	-	-	X
投票の結果は、投票ごとの投票ファイルと会議メモに保存されます	-	X	X
通訳、言語の配信と選択			
DCNM-IDESK／DCNM-IDESKVID からの通訳	X	X	X
INT-TXO、OMN-DANTEGTW、DCNM-FSL（または DCNM-LDANTE の追加による Dante マルチキャスト ストリーム）への言語の配信	X	X	X
参加者のライセンス数に基づいて、参加者がデバイス上で言語を選択	-	X	X
通訳の構成は会議アプリケーションから行うことができます	-	-	X
Synoptic による通訳の制御	-	-	X
DICENTIS 通訳デスク以外のソースが通訳を提供する場合の通訳制御用インターフェース（例：RSI）	-	-	X
System			
音声処理	X	X	X
座席の構成	X	X	X
2 人の参加者が使用するデバイスの構成	X	X	X
ID、投票、言語選択機能の座席への割り当て	-	X	X
カメラ制御とホールディスプレイ			
ONVIF、Panasonic、Sony のカメラのサポート	X	X	X

特長	出荷時の状態	プレミアム	アルティメット
ホールのディスプレイにアクティブな発言者または概観を表示するための Kramer MV6 および TvOne Coriomatrix ビデオ スイッチをサポートします	X	X	X
マルチメディアデバイス上で概観またはアクティブな発言者の表示、ビデオをサポートする通訳デスク、および会議アプリケーション	X	X	X
最初／最後の発言者を表示	X	X	X
アクティブな発言者または概観画像の表示	X	X	X
ホールのディスプレイでビデオの遅延を低減するソフトウェアビデオスイッチャー	-	X	X
複数の参加者を含む全画面のビデオとモザイク処理	-	X	X
ビデオ上での発言者の名前のオーバーレイ	-	X	X
さまざまな目的に合わせた複数の出力ビデオフィード（例：ホールのディスプレイに表示用に 1 つ、通訳デスク用に 1 つ）	-	X	X
ホールのディスプレイ、マルチメディアデバイス、通訳デスク、会議アプリケーションでのプレゼンテーションの表示	-	X	X
ライセンス			
	システムの登録は必要ですが、ライセンスは必要ありません。	- DCNM-LPP-PE - DCNM-LPPP-P1Y - DCNM-LPPP-S1Y	- DCNM-LPU-PE - DCNM-LPUP-P1Y - DCNM-LPUP-S1Y
ライセンス数			
会議に出席する参加者ごとに参加者ライセンスが必要です	-	X	X
参加者のみが投票に参加できます	-	X	X
参加者のデバイス（マイクを接続できるデバイス）で言語を選択できるのは参加者だけです	-	X	X
参加者が着席していない席の場合（聴衆のマイクなど）、参加者は必要ありません。	X	X	X
機能の有効化			

特長	出荷時の状態	プレミアム	アルティメット
この機能はアクティベーション ツールによって有効になります。	システム登録時	参加者あたり 1 ライセンス	参加者あたり 1 ライセンス

表 3.1: DICENTIS ライセンス サービスの比較

	終了日	ソフトウェアのメンテナンス	参加者アプリ
登録後	終了日なし。	同梱。	非付属品。
永久ライセンス	終了日なし。	アクティベーション後 1 年。DCNM-LPSMA-PE ライセンスを追加すると、この期間は延長できます。永久ライセンスと同数の DCNM-LPSMA-PE ライセンスが必要です。	永久(パーペチュアル)ライセンスのシステムでは、ライセンスプランの一部として 1 つのアプリを接続できます。接続するアプリの数を増やすには、DCNM-LPAPP-PE ライセンスが必要です。接続するアプリの数は、永久 (パーペチュアル) ライセンスの数を超えることはできません。
プリペイドライセンス	アクティベーション後 1 年。新しいプリペイドライセンスを追加することで、この期間は延長できます。	プリペイドライセンスの有効期間中に適用されます。	有効なプリペイドライセンスを持つ参加者 1 人につき 1 つのアプリを接続できます。
サブスクリプションライセンス	アクティベーション後 1 年。期間が自動的に延長されます。お客様が終了する必要があります。	サブスクリプションライセンスの有効期間中に適用されます。	有効なサブスクリプションライセンスを持つ参加者 1 人につき 1 つのアプリを接続できます。

異なるタイプのライセンスをアクティブ化すると、システムは動作しないことに注意してください。システムには次の機能があります:

- プレミアムライセンスのみ、または
- アルティメットライセンスのみ。
- 永久 (パーペチュアル) ライセンスのみ、または
- プリペイドライセンスのみ、または
- サブスクリプションライセンスのみ。

**注記!**

参加者アプリを実行しているユーザー所有のタブレットでは、DCNM-MMDOCK デバイスにドッキングされている場合でも、常に DCNM-LPAPP-PE、DCNM-LPPP-P1Y、DCNM-LPUP-P1Y、DCNM-LPPP-S1Y、または DCNM-LPUP-S1Y ライセンスが使用されます。

ライセンス：**DCNM-LPP-PE 参加者プレミアム永久**

DCNM-LPP-PE は、プレミアム機能パックの利用を許可する、参加者ベースの永久ライセンスです。投票機能と通訳機能を有効にする機能に加え、複数の識別オプションが含まれています。

DCNM-LPU-PE 参加者アルティメット永久

DCNM-LPU-PE は、アルティメット機能パックの利用を許可する、参加者ベースの永久ライセンスです。高度な投票機能と通訳機能を有効にできるフル装備の機能セットに加え、複数の識別オプションが含まれています。

DCNM-LPAPP-PE 参加者アプリケーション永久 (パーペチュアル)

DCNM-LPAPP-PE は、参加者がより多くのマルチメディアコンテンツと強化された機能を提供する、参加者アプリケーションにアクセスするためのライセンスです。永久 (パーペチュアル) ライセンスを持つシステムに追加できます。DCNM-LPAPP-PE ライセンスの数によって、アプリを使用できる参加者の数が決まります。最大 300 件の参加者申請がサポートされます。

DCNM-LPSMA-PE ソフトウェアメンテナンス契約

ソフトウェア保守契約 (SMA) により、ソフトウェア保守期間が 1 年間延長されます。この契約には、ライセンス済のシステムと座席ソフトウェアのアップグレードに加え、他社互換性アップデートも含まれます。参加者 1 人につき 1 SMA が必要です。

- 可能なかぎり最高のシステムパフォーマンスを実現
- 高価なハードウェアの代わりにソフトウェアを簡単にアップグレード
- 定期アップデート

DCNM-LPPP-P1Y 参加者プレミアムプロフェッショナルプリペイド

DCNM-LPPP-P1Y は、プレミアム機能パックの利用を許可する、参加者ベースの年間プリペイドライセンスです。投票機能と通訳機能を有効にする機能に加え、複数の識別オプションが含まれています。会議マネージャーは、強力な DICENTIS ソフトウェアを使用して簡単かつ効果的に会議の準備と管理を行うことができます。

DCNM-LPUP-P1Y 参加者アルティメットプロフェッショナルプリペイド

DCNM-LPUP-P1Y は、参加者にアルティメット機能パックの利用を許可する、参加者ベースの年間プリペイドライセンスプランです。高度な投票機能と通訳機能を有効にするすべての機能に加え、複数の識別オプションが含まれています。会議マネージャーは、強力な DICENTIS 統合ソフトウェアを使用して、簡単かつ効果的に会議の準備と管理を行うことができます。

DCNM-LPPP-S1Y 参加者プレミアムプロフェッショナル自動サブスクリプション

DCNM-LPPP-S1Y は、プレミアム機能パックの利用を許可する、参加者ベースの永久ライセンスです。投票機能と通訳機能を有効にする機能に加え、複数の識別オプションが含まれています。会議マネージャーは、強力な DICENTIS 統合ソフトウェアを使用することで、簡単かつ効果的に会議の準備と管理を行えます。

DCNM-LPUP-S1Y 参加者アルティメットプロフェッショナルサブスクリプション。

DCNM-LPUP-S1Y は、参加者にアルティメット機能パックの利用を許可する、参加者ベースの年間サブスクリプションライセンスプランです。高度な投票機能と通訳機能を有効にできるフル装備の機能セットに加え、複数の識別オプションが含まれています。会議マネージャーは、強力な DICENTIS 統合ソフトウェアを使用して、簡単かつ効果的に会議の準備と管理を行うことができます。

DCNM-LDANTE DICENTIS ライセンス (1 Dante ストリーム用)

このソフトウェアライセンスは、Dante オーディオストリームの送受信を可能にするライセンスです。このライセンスを使用すると、DICENTIS 会議システムを Dante ベースの他のシステムと連携させて、通訳を録音したり、サードパーティ製の会議システムや通訳システムと連携させたりすることができます。

- 最大 100 の通訳言語を Dante オーディオストリームとして送信可能
- 最大 100 の通訳言語を Dante オーディオストリームとして受信可能
- 1 ストリームにつき、1 ライセンスが必要

3.5 安全対策

インストールソフトウェアは、インターネットおよびローカル有線または無線ネットワーク経由でのシステムの不正使用を防ぐための安全対策を実施します。

セキュリティを高めるために、以下の項目を検討してください。

- DICENTIS サーバーコンピュータへの不正アクセスの防止
- DICENTIS ネットワークの有線イーサネット接続への不正な物理および論理アクセスの防止
- DICENTIS ネットワークを独立した VLAN に接続
- ファイアウォールの使用
- 管理者ユーザーに強力なパスワードを設定します
- 他のシステムとのインターフェイスには管理者ユーザーを使用しないでください
- 最新の Windows セキュリティ更新プログラムのインストール
- 最新のウイルス検索プログラムのインストール
- カスタムのセキュア通信設定の設定 (サーバーコンソール, ページ 34 を参照)
- システムの構成が終わったら、[**Automatic seat assignment (座席の自動割り当て)**] チェックボックスをオフにします。これにより、デバイスの交換や座席の追加などに関して、システムでさらに詳細な制御を行えるようになります (会議室設定, ページ 72 を参照)
- **通訳デスクで構成を有効にする**のチェックボックスを選択解除して、B - B ボタンによる構成モードを無効にします。これにより、権限のないユーザーがデバイスを設定できなくなります。これにはアルティメットライセンスプランが必要です (通訳デスク, ページ 89 を参照)
- システムに最新の DICENTIS ソフトウェアがインストールされていることを確認します。
- システムが現地のセキュリティ法に準拠していることを確認します。

Windows 更新プログラムのスケジュールは、日曜の午前 1 時など、システムを使用していない時間帯に設定してください。Windows タスクマネージャーで更新をスケジュールすると、再起動が必要な場合に更新後に自動的に再起動するよう設定できます。

3.6 GUI 言語

DICENTIS 会議システムには、次の GUI 言語が用意されています。

	マルチメディアデバイス	タッチスクリーン付きディスカッションデバイス	会議アプリケーション/サーバー コンソール/アクティブーション ツール/Certificate Manager	Web サーバー	参加者申込
アラビア語	X	X	X	X	X
ビルマ語	X	X	X	X	X

カタルニア語	×	×	×	×	×
クロアチア語	×	×	×	×	×
チェコ語	×	×	×	×	×
ドイツ語	×	×	×	×	×
英語	×	×	×	×	×
スペイン語	×	×	×	×	×
エストニア語	×	×	×	×	×
フィンランド語	×	×	×	×	×
フランス語	×	×	×	×	×
ギリシャ語	-	-	-	-	×
ヘブライ語	×	×	×	×	×
ハンガリー語	×	×	×	×	×
インドネシア語	×	×	×	×	×
イタリア語	×	×	×	×	×
日本語	×	×	×	×	×
韓国語	×	×	×	×	×
ラオ語	×	×	×	×	×
ラトビア語	×	×	×	×	×
リトアニア語	×	×	×	×	×
デンマーク語	-	-	-	-	×
オランダ語	×	×	×	×	×
マレー語	-	-	-	-	×
ポーランド語	×	×	×	×	×
ポルトガル語（ポルトガル）	×	×	×	×	×
ポルトガル語（ブラジル）	×	×	×	×	-
ルーマニア語	×	×	×	×	×
ロシア語	×	×	×	×	×
セルビア語	×	×	×	×	-
スロバキア語	×	×	×	×	×
スロベニア語	×	×	×	×	×
タイ語	×	×	×	×	×
トルコ語	×	×	×	×	×
ウクライナ語	×	×	×	×	×

ウズベク語	X	X	X	X	X
ベトナム語	X	X	X	X	X
中国語（簡体字）	X	X	X	X	X
中国語（繁体字）	X	X	X	X	X

4 ソフトウェアのインストール

DICENTIS 会議システムを使用する前に、システムを構成する必要があります。

システムの構成は、次の順序で実行します。

- **ネットワークの設置：**
 - これは、Electro Voice Dynacord B.V. のマニュアルに含まれていません。現地の IT 部門とともに定義する必要があります。「ハードウェア要件, ページ 14」および「ネットワーク要件, ページ 19」を参照してください。
- **ハードウェアデバイスの設置：**
 - これは、このマニュアルに含まれていません。DICENTIS ハードウェア設置マニュアルを参照してください。製品関連の情報については、こちらを参照してください: <https://www.keenfinity-group.com/>
- **ソフトウェアのインストール：**「DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」。
- **ソフトウェアを登録して、システムとアプリケーションソフトウェアを有効にする：**「ライセンスの追加と削除, ページ 30」。
- **デバイスのソフトウェア (ファームウェア) 更新：**「デバイスへのソフトウェアのダウンロード, ページ 30」。
- **システムとアプリケーションソフトウェアの構成：**「会議アプリケーション, ページ 40」。

4.1 DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール

ネットワークインターフェースを構成する



注記!

システムに複数のネットワークインターフェースがある場合は、DICENTIS に対して使用するネットワークインターフェースを構成する必要があります。

環境変数 DCNM_PREFERRED_NIC を使用すると、DICENTIS で使用するインターフェースの名前およびデバイス名 (ipconfig コマンドを使用したときの呼称は [説明]) を設定できます。

1. Windows の [Network Connections (ネットワーク接続)] メニューを使用して、インターフェースの名前またはデバイス名を取得します。
2. 次を使用して新しい環境変数を作成します。

```
"This PC" \ Properties \ Advanced system settings \ Environment  
Variables \ System variables \ New  
変数名: DCNM_PREFERRED_NIC
```

以下の点にご注意ください：

- NIC 名は、大文字と小文字が区別されます。
- 優先 NIC が IP アドレスを受け取っていない (たとえば、ケーブルが接続されていないか、名前が正しくない) 場合、サービスは開始されません。
- 環境変数が設定されていない場合に、複数のネットワークインターフェースがあるときは、最初に検出されたネットワークインターフェースが使用されます。

DICENTIS システムサーバーソフトウェアをインターネットからダウンロードしてインストールする 7.00 より前のバージョンをインストールする場合は、コアツール、ドキュメント、基本ファームウェア、セットアップランチャー、および ARNI パッケージ（個別のインストーラー）を含むメインソフトウェアパッケージのみをインストールする必要があります。バージョン 7.00 以降をインストールする場合、システム要件に応じて、MMFF ファームウェアパッケージと ARNI パッケージを個別にインストールする必要がある場合があります。詳細については、次の手順を参照してください：

1. <https://software-download.keenfinity-group.com/conference/> に移動します。
2. [**Software (ソフトウェア)**] リンクをクリックして、目的のバージョンのソフトウェアをダウンロードします。
3. ISO ファイルを右クリックし、[**Mount (マウント)**] をクリックします。
ISO が仮想ドライブ（例：D:\DICENTIS_x.xx）として開きます。
4. マウントされたドライブを開き、[**Run setup.exe (setup.exe を実行)**] をクリックします。
5. Web UI インストーラーで、[**DCNM-SW**] を選択してインストールを開始します。
6. 追加コンポーネントをインストールします（この手順は、DICENTIS ソフトウェアバージョン 7.00 以降にのみ該当します）：
 - MMFF ファームウェアパッケージ：MMFF ファームウェアインストーラー（.msi）を実行します。
これは、システムに MMFF デバイスが含まれている場合にのみ必要です。
 - ARNI パッケージ：ARNI インストーラーを実行し、ARNI ファームウェアおよび構成ツールをインストール / 更新します。
これは、システムで ARNI コンポーネントを使用する場合にのみ必要です。
7. インストールが正常に完了したら、インストーラー UI の [**Restart (再起動)**] ボタンを使用してシステムを再起動します。
8. 「デバイスへのソフトウェアのダウンロード, ページ 30」の手順に従って、デバイスのファームウェアをアップグレードします。

**注記!**

システムソフトウェアのインストール時に、Network Docent パッケージの一部として WinPcap アプリケーションがインストールされます。

WinPcap インストールソフトウェアをキャンセルすると、システムソフトウェアのインストールプロセスが失敗します。その場合はインストールプロセスを再開して、WinPcap インストールソフトウェアの手順に従ってください。

**注記!**

以下の点にご注意ください：

- DCMN-MMFF デバイスがシステムに接続されていても、MMFF ファームウェアパッケージがインストールされていない場合、システムはデバイスタイプを正しく認識しません。この場合、ファームウェアアップロードツールでは、デバイスが DCMN-MMFF デバイスとして識別されず、「Model 3090」と表示されます。
- ARNI デバイスが接続されていても、ARNI パッケージがインストールされていない場合、システムはデバイスを正しく認識せず、「Model 12」と表示します。

**注記!**

異なるバージョンの MMFF インストーラーを実行しても、以前のものは上書きされず、新しいものが作成されます。

4.2

デバイスへのソフトウェアのダウンロード

- 工場から出荷された DICENTIS デバイスは、診断ソフトウェアとともに提供されるため、使用する前に最新ソフトウェアバージョンにアップグレードする必要があります。
- システムサーバーソフトウェアのアップグレード後には、すべての DICENTIS デバイスをアップグレードする必要があります。

これを行うには、次の手順に従います。

- すべてのデバイスがネットワークに正しく接続され、完全に起動していることを確認します。
- Windows タスクバーで [**DICENTIS Server Console (DICENTIS サーバーコンソール)**] を右クリックします。
- [**Upgrade devices (デバイスのアップグレード)**] をクリックします。

必要に応じて、DCNM-APS2 などのその他のハードウェアコンポーネントをこの手順によってアップグレードします。

**注記!**

デバイスをアップグレードした後、FWUT を閉じます。そうでない場合、他のアプリケーションが誤動作する可能性があります。

**注記!**

ダウンロードプロセス中に DCNM-APS がリセットされるため、デバイスを DCNM-APS と同時にアップグレードしないことを推奨します。リセット時にデバイスの電源が遮断されるため、デバイスのファームウェアアップグレードは失敗します。

**注記!**

ARNI がある DICENTIS システムの場合、サーバーコンソールからサービスを再起動するのに最大 3 分程度かかることがあります。サービスを再起動するには、サーバーコンソールのサービス停止機能を使用し、30 秒待ってから、サーバーコンソールのサービス開始機能を使用します。

**注記!**

Dante コントローラーを使用してデバイスがロック (PIN コード) されている場合、デバイスのファームウェアのアップロードは失敗します。アップグレード前にデバイスのロックを解除し、アップグレード後にロックしてください。

4.3

ライセンスの追加と削除

アクティベーションツールは、次の目的で使用します。

- DICENTIS システムを有効にします。
- システムをアクティベーション Web サイトと同期します。
- 応答ファイルを処理します。

**注記!**

4.40 より前のバージョンでシステムを有効にした場合は、4.40 バージョンより前のアクティベーションツールを引き続き使用できます。アクティベーション ツールは最新バージョンにアップグレードすることもできます。

利用可能な手段...	アクティベーションの方法
4.40 より前のソフトウェア バージョンで、既存のアクティベーション ツールを引き続き使用したい場合は、	章「 <i>DICENTIS</i> 会議システム <i>Pre-4.40</i> の場合、ページ 174」に従います。
4.40 より前のソフトウェア バージョンで、新しいアクティベーション ツールにアップグレードしたい場合は、	[Upgrade (アップグレード)] ボタンを使用して DICENTIS アクティベーション ツールを開き、新しいアクティベーション ツールを使用します。
登録されていない 4.40 システム ソフトウェア バージョン	新しい DICENTIS アクティベーション ツールを使用します。

注記: ライセンスをアップグレードした後、ライセンスの追加や返却などのすべての機能は、アクティベーション Web サイトで管理されます。アクティベーション ツールをアクティベーション Web サイトと同期します。[**Refresh (更新)**] ボタンをクリックするか (オンライン)、アクティベーション Web サイトからライセンスをダウンロードしてアクティベーション ツールで処理します (オフライン)。

システムを使用する前に、DICENTIS システム ソフトウェアの登録が必要です。

4.3.1

アクティベーションツールの説明

- [**List of licenses and quantity (ライセンスと数量のリスト)**] ウィンドウ：このウィンドウでは、各ライセンスの「Qty (数量)」(ライセンスの数)、「Order number (オーダー番号)」、「Description (説明)」、「Activated (有効化済み)」(ライセンスの有効化の日付)、および「Expires (有効期限)」(ライセンスの有効期限)が表示されます。

注記: 表示されるライセンスの有効化の日付は、実際の有効化の日付の 1 日前です。[**Expires (有効期限)**] フィールドには、正しい日付が表示されています。

- [**Software Maintenance Agreement (ソフトウェアメンテナンス契約)**] 下部バー：ソフトウェアメンテナンス契約 (SMA) の終了日が表示されます。[**SMA end date (SMA 終了日)**] はその日を過ぎると赤色になり、「**System is not operational!Additional SMA is required (システムを操作できません。追加の SMA が必要です)**」というテキストが赤色でウィンドウの下部に表示されます。
- **リモート参加証明書**：この証明書によってクラウドサービスで DICENTIS サーバーが認証されることで、DICENTIS ハイブリッドサービスが有効になるとともに、DICENTIS サーバーのライセンス情報がシステムアクティベーションサイトとの間で同期されます。システムがインターネットに接続されていれば、この証明書は自動的に延長されます。システムが長期間オフラインの状態にあると、この証明書は有効期限が切れます。その場合は、[**Refresh (更新)**] ボタンをクリックしてシステムアクティベーションサイトに資格情報を入力することにより、証明書を延長する必要があります。
- [**Device ID (デバイス ID)**]：システムの ID を表示します。
- [**Register system (システムを登録)**]：このボタンを使用して、システムを登録します。
- [**Manage licenses (ライセンスの管理)**]：このボタンを使用して、登録されたシステムのライセンスを管理します。システムアクティベーション Web サイトが開きます。自身の認証情報でログインして、[**Manage devices (デバイスの管理)**] ページを開きます。

- [Refresh (更新) :]
 - このボタンを使用して、アクティベーションツールをアクティベーション Web サイトと同期します (オンラインモード)。
 - このボタンを使用すると、ユーザー名とパスワードを入力せずに、ライセンスをオンラインで更新できます。この操作は、インターネットに接続されており、システムが以前に登録されている場合にのみ実行できます。
 - [Process response file (返答ファイル进行处理)] : このボタンを使用して、アクティベーション Web サイトから取得したライセンス・ファイル进行处理します (オフライン・モード)。
- [Refresh (更新)] ボタンまたは [Process response file (プロセス応答ファイル)] ボタンをクリックすると、**アクティベーションツール**で期限切れのライセンスが表示されなくなります。期限切れのライセンスは、**システムアクティベーションWebサイト**で引き続き表示されます。

4.3.2

システムの初期登録

初めてシステムを登録する場合、次に示す手順に従います。

開始する前に、次のものが揃っていることを確認します。

- インターネット対応の PC。
- USB スティック (オフラインアクティベーション用)。



注記!

次の手順を実行するには、ユーザーアカウントに「Technician (技術者)」権限が必要です。これらの権限は、組織の「Admin user (管理者ユーザー)」が付与することができます。

システムの登録

DICENTIS アクティベーション ツールを初めて開くと、[Register system (システムを登録)] ボタンをクリックできます。初めて登録すると、[Register system (システムを登録)] ボタンが [Manage licenses (ライセンスの管理)] ボタンに変わります。

出荷時のライセンス オプションで利用可能な機能については、「[ライセンスの概要](#), ページ 20」を参照してください。

オンラインとオフラインの両方の方法でシステムを登録できます。

オンラインでシステムを登録するには、以下の手順を実行します。

1. Windowsタスクバーで [DICENTIS Server Console (DICENTIS サーバーコンソール)] を右クリックし、[Activate licenses (ライセンスの有効化)] を選択します。
2. [Register system (システムの登録)] をクリックします。
3. 必須情報を入力します。
4. [Online (オンライン)] タブを選択します。
5. ユーザーの電子メールとパスワードを入力します。
6. [Register system (登録システム)] をクリックします。[progress (進行状況)] メッセージ パネルに、登録プロセスのステータスメッセージが表示されます。システムの登録が完了しました。

オンラインでシステムを登録するには、以下の手順を実行します。

1. サーバーPCのWindowsタスクバーで [DICENTIS Server Console (DICENTIS サーバーコンソール)] を右クリックし、 [Activate licenses (ライセンスの有効化)] を選択します。
2. [Register system (システムの登録)] をクリックします。
3. 必須情報を入力します。
4. [オフライン] タブを選択します。
5. [Create request (リクエストを作成)] ボタンをクリックします。システムによりリクエストファイルが作成されます。
6. 新しく作成されたリクエストファイルをUSBスティックに保存します。
7. インターネット接続のあるコンピュータで、<https://license.keenfinity-group.com/> にアクセスします。
8. ユーザー名とパスワード (技術者の権限) を使用して、アクティベーション Web サイトにログインします。
9. [Manage license (ライセンスの管理)] タブのページを選択します。
10. USBスティックからリクエストファイルをアップロードします。
11. [Process (処理)] ボタンをクリックします。
12. リクエストファイルを処理した後、処理が成功したことを確認するメッセージが表示されます。
[Save to file (ファイルに保存)] ボタンをクリックし、 [Response file (応答ファイル)] を保存します。
13. サーバーPCで、アクティベーションツールを再起動します。
14. [Register system (システムの登録)] をクリックします。
15. [Offline (オフライン)] タブをクリックします。
16. [Process license file (ライセンスファイルの処理)] ボタンをクリックします。プロセスファイルウィンドウが表示されます。
17. 応答ファイルをアップロードし、 [Process (プロセス)] ボタンをクリックします。
これで、システムの登録が完了しました。



注記!

システムが正常に登録されたら、DICENTIS アクティベーション ツールの [Manage licenses (ライセンスの管理)] ボタンをクリックしてライセンスを管理できます。

4.3.3

ライセンスの追加/返却



注記!

ライセンスを追加および削除し、応答ファイルをアップロードおよびダウンロードするには、システムアクティベーションサイトの [デバイスの管理] タブを開きます。

次のシステムアクティベーションサイトを使用して、すべてのライセンスの変更を管理できます：
<https://license.keenfinity-group.com>。Web サイトにアクセスしたら、希望の言語でユーザーマニュアルを参照してください。

4.4 サーバーコンソール

DICENTIS サーバーコンソールのアイコンは、DICENTIS サーバー PC の通知領域（つまり、時間表示の隣にあるタスクバーの右側）に表示されています。

ライセンスを追加、更新、または返却すると、サーバーコンソールにサービスの再起動を求める通知が表示されます。

[**DICENTIS Server Console (DICENTIS サーバーコンソール)**] を右クリックすると、次のオプションにアクセスできます：

[**Start services (サービスの開始)**]、[**Restart services (サービスの再起動)**]、[**Stop services (サービスの停止)**]

– これらのオプションを使用し、サービスを手動で開始/再開/停止します。

デバイスをアップグレードします。

- ファームウェアアップグレードツールを使用し、サポートされている最新バージョンのサービスにデバイスをアップグレードします（詳細については、「デバイスへのソフトウェアのダウンロード, ページ 30」を参照してください）。
- カスタムのセキュア接続設定を行っている場合は、ファームウェアアップロードツールで必要な変更を行います。
 1. [**File (ファイル)**] > [**Options... (オプション)**] に移動します。
 2. [**Manage security users (セキュリティユーザーの管理)**] をクリックし、[**Add (追加)**] をクリックします。
 3. セキュア接続設定で設定したユーザー名とパスワードを入力します。
システムとペアリングしたデバイスがファームウェアアップロードツールに表示されるようになります。

セキュア接続を設定します。

- サービスのユーザー名とパスワードを定義して、カスタムの安全な接続設定を作成します。これにより、不正なファームウェアのアップロードや不正なデバイスの接続を防止できます。ユーザー名とパスワードを設定したら、[**Apply (適用)**] をクリックします。新しい設定を実装するために、サービスが自動的に再起動します。その後、デバイスをシステムとペアリングし（「座席とデバイス, ページ 78」を参照）、最後のステップとして、ファームウェアアップグレードツールで必要な設定を行う必要があります（上記を参照）。
- ユーザー名とパスワードを変更した場合、以前の認証情報でペアリングされていたデバイスは、サービスへの接続時に新しいユーザー名とパスワードに自動的に更新されます。



注記!

デフォルトのセキュア通信設定を使用している場合、DICENTIS Server コンソールのアイコンに警告が表示されます。



注記!

PRS-40MI4 はカスタムのセキュア接続設定をサポートしていません。PRS-40MI4 を搭載したシステムでは、デフォルトのセキュア接続設定を使用する必要があります。

- すべてのデバイスのセキュア接続設定をデフォルトに戻すには、[**Reset secure connection to default (セキュア接続をデフォルトにリセット)**] ボタンを使用します。カスタムのセキュア接続設定がサポートされていないバージョン (バージョン 6.60 以下) にシステムをダウングレードする場合は、その前にこれを実行してください。そうでない場合は、各デバイスをリセットボタンで手動リセットする必要があります。

注記!

デバイスのセキュア接続設定をリセットボタンでデフォルトに戻した場合、そのデバイスがシステムによって検出されると、引き続きシステムとペアリングされているため、カスタムのセキュア接続設定が自動的に再適用されます。これを回避するには、代わりに [**Seats and devices configuration (シートとデバイスの構成)**] セクションの [**Paired using custom secure communication settings (カスタムのセキュア通信設定を使用してペアリング)**] チェックボックスを使用します (「**座席とデバイス**, ページ 78」を参照)。

[Manage database (データベースの管理)]。

- このオプションを使用すると、データベースを簡単に管理できます。次の操作を実行します。
 - [**Create a backup of current database (データベースのバックアップの作成)**]。
 - データベースをインポートし、現在のバージョンにアップグレードします。
 - [**Create a clean database. (クリーンなデータベースの作成)**]。クリーンな構成から開始したい場合にこれを使用します。
 - [**Import a database, but do not upgrade it (アップグレードせずにデータベースをインポートする)**]。以前の DICENTIS バージョンにダウングレードする場合にはこれを使用します。
 - [**Delete the database (データベースを削除する)**]。以前の DICENTIS バージョンにダウングレードし、クリーンなデータベースから開始する場合は、これを使用します。
- [**File location (ファイルの場所)**] フィールドは、バックアップまたはインポートの場所を選択するために使用されます。
- [**Manage database (データベースの管理)**] ウィンドウの下に、選択したアクションの進行状況が表示されます。アクションが正常に完了するかキャンセルされると、ウィンドウは閉じます。

注記!

DICENTIS サービスは、アクションを開始すると自動的に停止します。また、次のアクションを除き、アクションの完了後に自動的に再起動します。

- [**Import a database, but do not upgrade it (アップグレードせずにデータベースをインポートする)**]。以前の DICENTIS バージョンにダウングレードする場合にはこれを使用します。
- [**Delete the database (データベースを削除する)**]。以前の DICENTIS バージョンにダウングレードする場合にはこれを使用します。

**注記!**

以前の DICENTIS バージョンで作成されたデータベースをインポートまたはアップグレードすることができます。ただし、新しい DICENTIS バージョンで作成されたデータベースをインポートすることはできません。

ロギングコレクター。

- このオプションを使用して、すべてのシステム、構成、およびログ情報を収集します。[**Export DICENTIS database (DICENTIS のデータベースをエクスポートする)**] チェックボックスを選択すると、このデータをエクスポートに含めることができます。

ライセンスを有効化します。

- こちらをクリックしてライセンスを有効化します (詳細については、「システムの最初の有効化, ページ 175」を参照してください)。

アクティベーションツールを起動します。

- ライセンスを追加または削除するには、「ライセンスの追加と削除, ページ 30」の章を参照してください。

DICENTIS サーバーの状態を表示するアイコンは、次のとおりです。

状態	製品説明
	実行中。 システムライセンスが登録済み (20 分ごとに確認されます) で、システムがデータベースに接続可能 (60 分ごとに確認されます) であれば、サービスが自動的に開始されます。 注： サービスを開始するには、有効な IP アドレスが割り当てられているネットワークアダプターが必要です。
	停止済み。 システムは 20/60 分ごとに条件が満たされているかを確認し、状態に応じてサービスを停止または再開します。 サービスを手動で停止した場合、自動確認も停止します。 システムライセンスが延長または短縮された場合、サービスを再起動して現在の状態に更新する必要があります。
	警告。 このアイコンは、ライセンスが有効化されていない場合などに表示されます。

4.5

高速スパニングツリープロトコル (RSTP) のサポート

DICENTIS システムでは、高速スパニングツリープロトコル (RSTP) が有効化されると、冗長配線がサポートされます。デフォルトでは、RSTP がサポートまたは許可されていないシステムでのネットワーク障害を防止するために、RSTP は無効化されています。

ケーブル冗長構成を可能にするには、次の手順に従います。

- ケーブル冗長構成なしのシステムの電源をオンにします。
- ネットワーク内の**すべての**サードパーティ製スイッチに対して RSTP を構成します。

注記!

RSTP をサポートし、IEEE802.1D-20 04 に準拠しているサードパーティ製スイッチのみを使用してください。

ネットワークスイッチは、次のようにパラメータの値を変更した状態で対応する必要があります。

- Hello_Time = 9 seconds
- Forwarding_delay = 30 seconds
- Max_age = 22 seconds

- DICENTIS サーバーで、高速スパニングツリープロトコル (RSTP) を有効化します。

- DCNM_RSTP_ENABLED という名前のシステム環境変数を作成します。RSTP を有効にするには値を 1 に、RSTP を無効にするには 0 に設定します。



- 環境変数は、ファイルエクスプローラーからこの PC に移動し、[Properties (プロパティ)] > [Advanced system settings (システムの詳細設定)] > [Advanced (詳細設定)] > [Environment Variables (環境変数)] > [System variables (システム環境変数)] の順に選択することで作成できます。
 - DICENTIS サーバーを再起動します。
4. システムが完全に再起動するまで待ちます。
 5. すべての DICENTIS セントラルユニットと、DICENTIS ディスカッションデバイスおよび通訳者デバイスを再起動します。サードパーティ製スイッチを再起動する必要はありません。
 6. システムが完全に再起動するまで待ちます。これでデバイスは、ケーブル冗長構成が可能になりました (ループは閉じることができます) 。

4.6

Web ベースクライアント用の証明書の作成

セキュリティ警告を出さずに Web ベースクライアントでシノプティックコントロールを使うための証明書を作成して管理するには、Certificate Manager を使用します。

証明書を作成して管理するには、[スタート] メニューから Certificate Manager を開き、[**Manage certificates** (証明書の管理)] 画面に必要な情報を入力します。



注記!

証明書を作成して管理するには、Windows の管理者権限が必要です。

ルート証明書

ルート証明書が既に存在する場合は、フォルダのアイコンを選択して既存の証明書を検索し、[**Root certificate password** (ルート証明書のパスワード)] フィールドにパスワードを入力します。



注記!

既存のルート証明書を使用する場合は、ルート証明書の .pfx ファイルと .crt ファイルが同じフォルダにあり、その名前が <名前>-private.pfx と <名前>.crt である必要があります。

ルート証明書がない場合は、[**Create** (作成)] ボタンをクリックして新しいルート証明書を作成します。

ルート証明書の作成

- [**Root certificate** (ルート証明書)] : 新しいルート証明書の名前を入力します。
 - [**Path** (パス)] : 新しいルート証明書を保存するフォルダを選択します。
 - [**Root certificate password** (ルート証明書のパスワード)] : 新しいルート証明書に使う安全なパスワードを入力します。
- [**Create root certificate** (ルート証明書の作成)] をクリックして [**Manage certificates** (証明書の管理)] 画面に戻ると、ルート証明書の詳細が自動的に入力されます。

サーバー証明書

- [**Server certificate (サーバー証明書)**] : 新しいサーバー証明書の名前を入力します。
- **Path (パス)** : 新しいサーバー証明書を保存するフォルダを選択します。
- [**Server certificate password (サーバー証明書のパスワード)**] : 新しいサーバー証明書に使う安全なパスワードを入力します。
- [**DNS names (DNS 名)**] : DICENTIS サーバーの DNS 名をすべて入力します。
- [**IP addresses (IP アドレス)**] : DICENTIS サーバーの IP アドレスをすべて入力します。



注記!

サーバーのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、新しいサーバー証明書を作成する必要があります。同じルート証明書を使用できるので、クライアントは新しいルート証明書をインストールする必要はありません。

[**Create and install (作成とインストール)**] をクリックして新しいサーバー証明書の作成とインストールを行った後、ルート証明書をシノプティックブラウザでダウンロード可能にしてインストールします。

[**Create (作成)**] をクリックしてサーバー証明書を作成します。これを後でインストールできます。

ヒント : クライアントが接続する必要がある DICENTIS サーバーがサイトに複数ある場合は、1 台のサーバーでルート証明書を作成した後、他のサーバーでそれを使用してサーバー証明書を作成します。こうすれば、クライアントは 1 つのルート証明書をインストールするだけですべての DICENTIS サーバーにアクセスできます。

詳細については、「[コマンドラインツールによる証明書の作成](#), ページ 187」を参照してください。

4.7 参加者アプリケーションのインストール

参加者アプリケーションは、標準の Android タブレットで実行されるネイティブアプリです。参加者にさらに多くのマルチメディアコンテンツと強化された機能を提供することで、ディスカッションデバイスの拡張機能として機能します。アプリケーションをインストールして実行するには、タブレットを DICENTIS ネットワークに接続する必要があります。最高のパフォーマンスを実現するには、有線ネットワーク接続を使用してください。

タブレットにアプリをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. DICENTIS Web サーバにログインします。
2. [**Participant App Setup (参加者アプリの設定)**] タブをクリックします。
3. 「**App Install Guide (アプリのインストールガイド)**」ページの指示に従ってください。
QR コードをスキャンするか、リンクをクリックすると、インストールパッケージをダウンロードできます。

または、Google Play ストアで「DICENTIS Participant app」を検索して、インターネットに接続されたデバイスにアプリをインストールすることもできます。

**注記!**

DICENTIS サーバーで利用可能な参加者アプリのバージョンを使用して、DICENTIS と参加者アプリのバージョンに互換性があることを確認してください。Google Play ストアから参加者アプリをインストールする場合は、DICENTIS サーバーが最新版（または少なくともバージョン 6.60 以上）であることを確認してください。そうでない場合、参加者アプリで接続の問題や機能上の問題が発生する場合があります。

タブレットがサーバー ネットワークに接続され、インストールが完了すると、アプリは自動的にサーバーを検出し、DICENTIS サービスに接続します。アプリがサーバーに接続できない場合は、DICENTIS サービスが動作していること、およびタブレットが DICENTIS サーバーと同じネットワークに接続されていることを確認してください。

**注記!**

安全な接続を確保するために、許可されていない検出サービスが DICENTIS ネットワーク内で実行されていないことを確認してください。

会議でタブレットを使用するには、会議アプリケーションで登録して設定する必要があります。詳細については、「[参加者申込](#), ページ 84」を参照してください。

4.8

電子ネームカード

電子名刺のソフトウェアは、製品カタログおよびソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードして、手動でインストールする必要があります。

インストールプロセスでは、まず DICENTIS サービスを停止し、次に電子名刺のソフトウェアをインストールします。インストールが完了すると、DICENTIS サービスが再起動されます。

サービスが実行されると、接続された電子名刺が検出され、名刺のファームウェアが正しいかどうかチェックされます。ファームウェアは、電子名刺の Web インターフェイスの座席割り当てページから手動で更新する必要があります。

注：ファームウェアのアップロード中は、名刺を接続解除しないでください。

電子ネームカードの詳細については、「[電子名刺の構成](#), ページ 159」を参照してください
Configuring the electronic name cards.

5 会議アプリケーション

会議アプリケーションは、4つの主要要素で構成されます（適用されるライセンスが存在する場合のみ、利用できます）。

1. *Manage* (管理), ページ 45: 会議を管理します。
2. *DICENTIS Web* サーバー, ページ 102: シノプティックマイクコントロールの構成と管理を行います。
3. *準備*, ページ 51: 会議を準備します。
4. *Configure* (設定), ページ 71: DICENTIS システムを構成します。



注記!

システム操作モードを DICENTIS ワイヤレスシステムに設定すると、DICENTIS ワイヤレス会議システムのデバイスに含まれる機能に基づいて、[*Manage* (管理)]、[*Prepare* (準備)]、および [*Configure* (構成)] の構成オプションが制限されます。動作モードを定義できる場所については、「*会議室設定*, ページ 72」を参照してください。

会議アプリケーションの開始

1. Windows の [*スタート*] メニューで、[*すべてのプログラム*] > [*Bosch*] > [*DICENTIS*] > [*Meeting application* (会議アプリケーション)] の順に選択します。ログインダイアログが表示されます。
2. アプリケーションにログインするには、[*User name* (ユーザー名)] と [*Password* (パスワード)] を入力します。
アプリケーションの言語を選択することもできます。

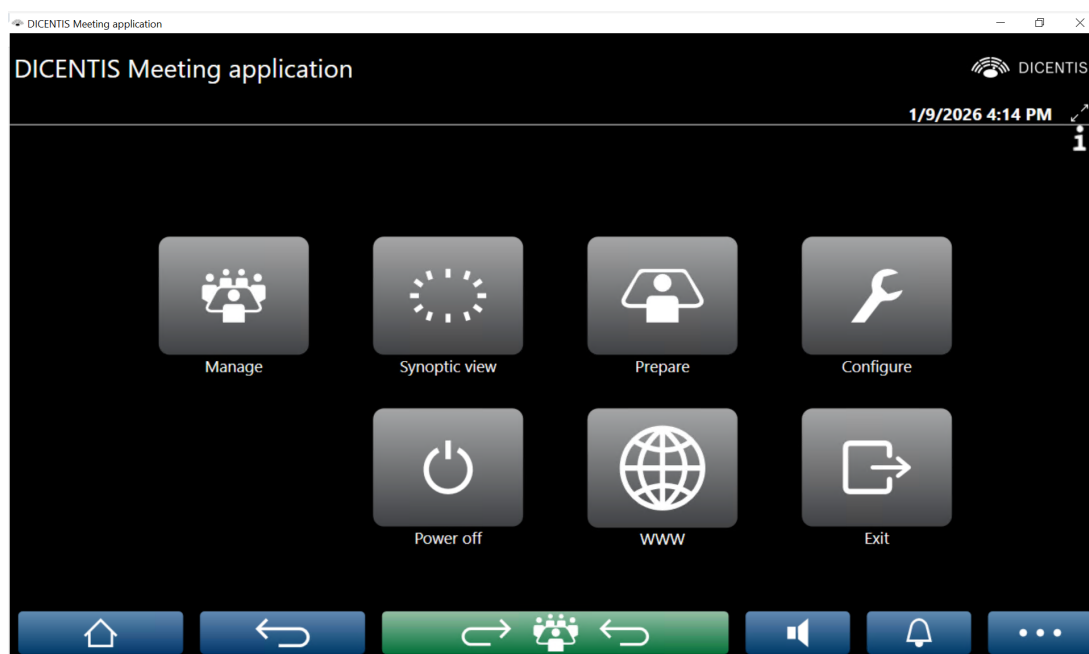


図 5.1: 会議アプリケーションのメイン画面 (すべてのアイコンが表示されます)

会議アプリケーションの移動とサイズ変更

会議アプリケーションのウィンドウは、画面の右上隅、日時の横にある  および  アイコンを使用して全画面表示とウィンドウ表示を切り替えることができます。

アプリケーションウィンドウのタイトルバーをクリックして押したままにすると、ウィンドウを移動することができます。また、ウィンドウの端/角をドラッグすると、ウィンドウのサイズを変更できます。

ウィンドウのサイズと位置は、アプリケーションを終了した後に保存されます。

会議アプリケーションへの自動ログイン

デフォルトでは、Windows のログイン ユーザー名が DICENTIS システムのユーザー名と同じ場合、システムにより、DICENTIS 会議アプリケーションに自動的にログインします。この場合、このユーザーの認証権限が DICENTIS 会議アプリケーションに使用されます。

会議アプリケーションへの自動ログインの無効化 / 有効化

自動ログイン機能は、次の手順で無効化および有効化することができます。

1. Windows エクスプローラーで、**C:\Programs (x86)\Bosch\DICENTIS** を選択します。
2. **Bosch.Dcnm.UserInterfaces.MeetingManager.exe.config** を開きます。
 - 自動ログインを無効化するには、キーの設定を [**true**] から [**false**] に変更します。

```
<add key="ENABLE_AUTOMATIC_WINDOWS_AUTHENTICATION_TO_LOGIN" value="false"/>
```
 - 自動ログインを有効化するには、キーの設定を [**false**] から [**true**] に変更します。

```
<add key="ENABLE_AUTOMATIC_WINDOWS_AUTHENTICATION_TO_LOGIN" value="true"/>
```

Windows Server 経由の認証

企業ネットワークと DICENTIS 会議システムの間で、ユーザーとパスワードのデータを同期させることができます。組織に属するユーザーは、Microsoft システムにユーザー名とパスワードがすでに登録されているのが普通です。このオプションを有効にすると、ユーザーは、Windows 認証に使用しているものと同じユーザー名とパスワードでディスカッションデバイスにログインできます。ユーザー名とパスワードは、企業ネットワークのコンピュータで検証されます。

認証サービスは、通常は企業ネットワークの一部です。IT 部門にとっては、マルチキャストトラフィック (オーディオ) が企業ネットワークに影響を与えないように、DICENTIS システムを企業ネットワークから切り離しておく方がいいでしょう。すなわち、DICENTIS システムは、企業ネットワークの一部とならずに、企業ネットワークにアクセスできる必要があります。これは次のように解決できます。

- ネットワーク内の異なる VLAN に、DICENTIS システム用の独立したサブネットを作成します。
- DICENTIS のサブネットと企業サブネットの間にルーティングを作成します。

注： DICENTIS サーバー用の別の NIC を使用して、DICENTIS サーバーを DICENTIS システムと企業ネットワークの間の踏み台として使用するソリューションを作成するのは避けてください。

- 企業ドメインに属するコンピュータを使用して、ファイルサーバー上の共有にアクセスすることで、動作が正常かどうかテストします。下の図を参照してください。

会議アプリケーションは、4 つの主要要素で構成されます (適用されるライセンスが存在する場合のみ、利用できます)。

1. *Manage (管理)*, ページ 45: 会議を管理します。
2. *DICENTIS Web* サーバー, ページ 102: シノプティックマイクコントロールの構成と管理を行います。

3. 準備, ページ 51 : 会議を準備します。
4. Configure (設定), ページ 71 : DICENTIS システムを構成します。

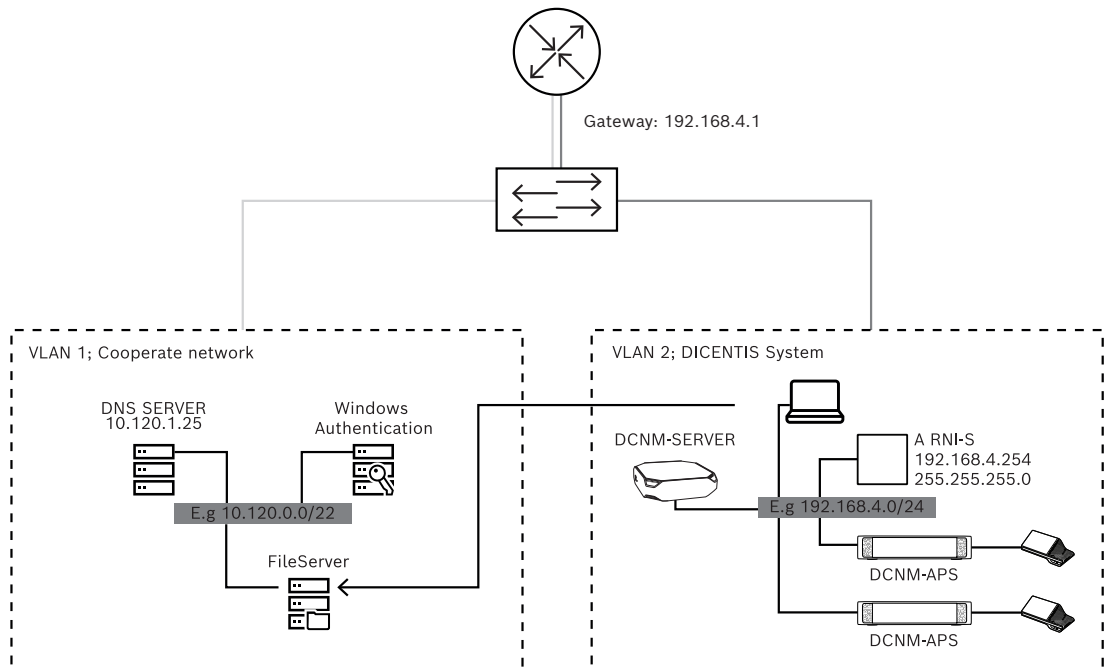


図 5.2: システム図

ノードの数が 450 台を超える DICENTIS 会議システムには、ARNI が必要です。ARNI を使用するシステムを構成するには、次の手順に従います。

- ARNI に適切なゲートウェイアドレスを定義して、企業ネットワークへのルーティングが動作するようにします。
- ARNI を DICENTIS サブネット用の DHCP サーバーとして使用します。
- DNS 親アドレスを構成します。これは企業ネットワーク内の DNS サーバーのアドレスです。

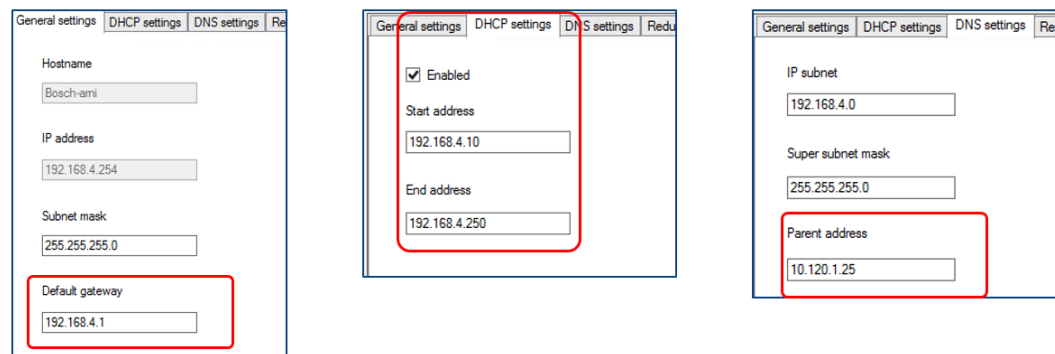


図 5.3: ARNI を使用するシステムの構成

Windows Server 経由の認証を有効にするには、次の手順に従います。

1. Windows 認証サーバーを使用するセントラルシステムで、マルチメディアデバイスを使用するすべてのユーザーが登録されていることを確認します (名、姓、ユーザー名、パスワードを含む)。ユーザー名は、Windows 認証システムでユーザーに割り当てられているユーザー名と同一である必要があります。
2. Windows Server 認証を使用するユーザーグループ「Participant group (参加者グループ)」を構成します。
 - 会議アプリケーションで [Configure (構成)] を開きます。
 - [User groups (ユーザーグループ)] に移動します。

- [Participant group (参加者グループ)] を選択します。
- [Windows Authentication (Windows 認証)] チェックボックスをオンにします。

「ユーザーグループ, ページ 71」も参照してください。

注：Windows 認証はユーザーグループ単位で適用されます。組織外部のユーザーグループ (サービス技術者など) は、通常はお客様の認証システムには登録されていません。これらのグループに対しては Windows 認証を有効にしないでください。すなわち、これらのユーザーのパスワードは会議アプリケーションに保存する必要があります。

参照情報

- 会議室設定, ページ 72

5.1 ユーザーの権限と会議の権限

機能を使用するには、特定の権限が必要です。DICENTIS では、次の 2 種類の権限が用意されています。

- 1. ユーザー権限
 - ユーザー権限は、「ユーザーグループ, ページ 71」で定義されています。
- 2. 会議の権限
 - 会議の権限は、会議内で座席ごとおよび参加者ごとに定義されています。
 - 「Seat assignment」を参照してください。
 - 「参加者, ページ 62」を参照してください。

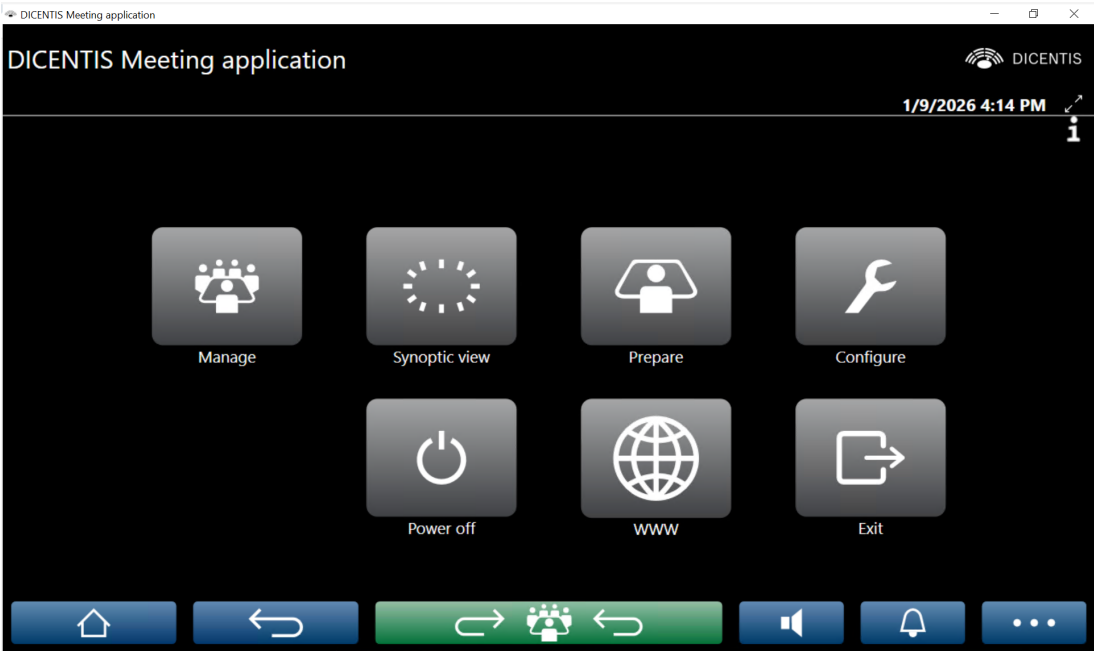


図 5.4: 会議アプリケーションのメイン画面 (すべてのアイコンが表示されます)

(タッチ) ボタン	製品説明	ユーザーの権限	会議の権限
Manage (管理)	会議を管理できます。		会議を管理します。

(タッチ) ボタン	製品説明	ユーザーの権限	会議の権限
Synoptic view (シノプティックビュー)	ビジュアルレイアウトを使用して発言者のマイクの構成と管理を行うことができます。	システムを構成します (レイアウトを構成できるようにします)。	会議を管理します (できるようにします)。
Prepare (会議設定)	会議を準備できます。	会議と議題を準備します。	
Configure (設定)	システムを設定できます。	システムを設定します。	
Power (電源)	システムをスタンバイ状態に設定するか、ウェイクアップします。		デバイスの権限：電源オフ。
WWW	Web ブラウザを開きます。		
Exit (終了)	アプリケーションを終了します。		
Home (ホーム) 	会議アプリケーションのホーム画面に戻ります。		
Back (戻る) 	ナビゲーション履歴内で 1 つ前のページに移動します。		
Back to active (会議に戻る) 	再び会議に参加します。		
Volume (音量) 	マスター音量コントロールスライダを開きます。		デバイスの権限：音量コントロール。
Summon (召集) 	チャイムを有効にして参加者を招集します。		会議を管理します。
Menu (...) (メニュー (...)) 	追加機能を使用するためのメニューを開きます。		会議を管理します。

**注記!**

会議アプリケーションの [Power On (電源オン)] ボタン、またはオーディオ電源スイッチングハブの低出力ソケットに接続された DICENTIS マルチメディアデバイスの [Power On (電源オン)] ボタンは、オーディオ電源スイッチングハブによって電力が供給されている DICENTIS デバイスのみをウェイクアップします。PoE スイッチ経由で電力が供給されている DICENTIS デバイスの場合は、DICENTIS MMD の [Power On (電源オン)] ボタンで電源をオンにする必要があります。これらのデバイスは、PoE ポートが PoE 機能を無効化してから有効化したときにも電源がオンになります。

**注記!**

マルチメディアデバイスを搭載したシステムでは、デバイスの電源を落とした後で、DICENTIS ケーブルの電力リード線から電源を遮断します。これにより、システムの電源がオフになるまでの時間が長くなります。

**注記!**

PoE スイッチ経由で電力が供給されている DICENTIS ディスカッションデバイスは、常に電源がオンになっています。これらのデバイスの電源のオンとオフを切り替えるには、PoE スイッチのイーサネットポートの PoE を無効にします。

**注記!**

マスターボリュームコントロールスライダーは、有線デバイスの音量レベルのみを制御します。ワイヤレスデバイスの音量レベルを調整するには、DICENTIS ワイヤレス会議システムの構成マニュアルを参照してください。

5.2

Manage (管理)

この機能は、プレミアム ライセンスとアルティメット ライセンスでのみ利用できます。

[Manage (管理)] を使用して会議を管理します。メイン画面で [Manage (コントロール)] ボタンをクリックして管理画面を開きます。初期状態で、管理画面には準備済みのすべての会議のリストが表示されます。

準備済みの会議がない場合、リストは空白です。これは、デフォルトの会議が有効であり、デフォルトの議論が開いていることを意味します。このデフォルトの議論にアクセスするには、緑色の [Back to active (会議に戻る)] ボタンをクリックします。「議論, ページ 49」を参照してください。

会議の管理とは、次のことを意味します。

- 会議を有効化および無効化する。「会議, ページ 46」を参照してください。
- 会議を開くおよび閉じる。「会議, ページ 46」を参照してください。
- 会議の議題を管理する。「議題, ページ 47」を参照してください。
- 投票を管理する。「投票」を参照してください。
- 議論を管理する。「議論, ページ 49」を参照してください。
- メニューを管理する。「メニュー」を参照してください。

前提条件

- 会議アプリケーションが実行される PC には、「**Manage meeting (会議の管理)**」権限が必要です。
- 会議を管理する前に、会議を準備しておく必要があります。会議を準備する方法の詳細については、「**準備**, ページ 51」を参照してください。

5.2.1

会議

準備済みのすべての会議のリストを表示するには、メイン画面の [**Manage (コントロール)**] ボタンをクリックします。会議番号と会議名の左側にあるアイコンは、会議の状態を示します。

- **灰色** : 会議は無効です。
- **緑色** : 会議は有効です。
- **赤色** : 会議は開いています。

会議を有効にする

- 会議を有効化するには、有効化する必要がある会議の [**Activate (有効化)**] ボタンを押します。
- 会議を有効化または無効化せずに会議の内容を表示するには、その会議の行で任意の場所をクリックします。

会議が有効化されると、次のことが実行されます。

- 会議の詳細画面が開きます。
 - 左側に、議題と割り当てられた参加者が表示されます。
 - 右側に、会議の詳細と議題が表示されます。
 - 有効な会議の名前は、会議アプリケーションのヘッダー内に表示されます。
- その会議に関するすべての準備済みデータがシステム全体に送信されます。データには、参加者の名前と会議の権限、および割り当てられた座席が含まれています。
- 会議メモファイルが作成されます。会議中、対象となるデータはこのファイルに保存されます。会議が無効になると、このファイルは閉じられます。詳細については、「**会議後のツール**」を参照してください。

[**Auto Open (自動オープン)**] 機能が有効な場合、その会議は自動的に開きます。

[**Activate (有効化)**] ボタンが表示されていない場合 :

- PC の割り当て先である座席に、「**Manage meeting (会議の管理)**」という権限がありません。または、
- 会議アプリケーションにログインするために使用したユーザー名が会議に割り当てられていないか、そのユーザーに「**Manage meeting (会議の管理)**」権限がないかのいずれかまたは両方です。

会議を開く

会議を開始するには、[**Open (開く)**] ボタンをクリックします。[**Auto Start (自動開始)**] オプションが有効な場合は、議題の最初の項目が自動的に開きます。

会議を閉じる

会議を閉じるには、左側にある会議を選択して、次に右側にある [**Close (閉じる)**] をクリックします。会議が閉じられ、会議リストが表示されます。ここで、その会議を無効にすることができます。

5.2.2

議題

管理できるのは、準備済みの議題のみです。

議題を管理する

1. 会議が有効で開かれていることを確認します。
2. 左ペインの [**Meeting (会議)**] をクリックします。
3. 左または右のペインから、必要な項目を選択します。
 - 開いている議題は、会議アプリケーションのヘッダー内に表示されます。
 - 準備済みの議論の設定と準備済みの発言者リストがシステム全体に送信され、有効になります。
4. 次の議題項目に進むには、議題ビューにある次の議題項目を開きます。

5.2.3

参加者

- 参加者のリストを表示するには、左ペインで [**Participants (参加者)**] をクリックします。右ペインに参加者のリストが表示されます。
- 参加者を左ペインでも表示するには、[**Participants (参加者)**] の横にある小さい三角形をクリックします。
- 参加者に割り当てられた画像がある場合は、その画像が名前の横に表示されます。
- 会議に ID がある場合は、右ペインの上部に次の情報が表示されます。
 - **登録された参加者の数**。
 - **出席している参加者の数**。参加者が出席している場合は青色のバーが表示され、欠席している場合は灰色のバーが表示されます。
 - [**Log off all participants (全参加者をログオフ)**] ボタン：会議の全参加者をログオフします。参加者は、会議に参加する前に再びログオンする必要があります。
 - [**Log off participant (参加者をログオフ)**] ボタン：参加者の詳細を選択し、ログオフボタンをクリックして、会議のシングル参加者をログオフします。

5.2.4

投票

- 準備済みの投票を実施するには、以下の手順を実行します。
 - 有効化されたアルティメット ライセンスが必要です。
 - メイン画面の [**Prepare (準備)**] ボタンで、事前に会議の準備をします。詳細については、*投票スクリプト*, ページ 65 および *投票の詳細*, ページ 65 を参照してください。
- 有効化されたプレミアム ライセンスを使用すると、臨時を簡単に実施できます。この場合、会議中に投票の詳細を入力します。

投票の管理

1. 会議アプリケーションで、[**Manage (管理)**] アイコンをクリックします。
2. 会議が有効で開かれていることを確認します。
3. 画面の右下にあるメニューボタン (...) の投票アイコン (チェックマーク) をクリックすると、次のものが表示されます。
 - 準備済みの投票のリスト (両方のペインに表示されます)。
 - **投票権がある参加者の合計数と出席している参加者の数** (右ペインの上部に表示されます)。

- 臨時投票のフィールド (右側のペインの下部の黒/灰色の領域)。
注: 左側のペインで別の項目をクリックした後、[**Votings (投票)**] をクリックすると、右側のペインにすべての投票のリストを再表示できます。
- 4. または、次のことを行います。
 - [**Number (番号)**]、[**Subject (件名)**]、[**Description (説明)**] の各フィールドに入力し、[**Ready to vote (投票準備完了)**] ボタンをクリックして、臨時投票を行います。
または、
 - 投票の [**Ready to vote (投票準備完了)**] ボタンをクリックして、準備済みの投票を開きます。
- 5. 投票画面が表示されます。
 - 投票の件名が画面の上部に表示されます。
 - [**Previous (戻る)**] ボタン: 前回の投票を選択します。
次の場合、このボタンは表示されません。
 - リストの先頭の投票が選択された。
 - 臨時投票が行われた。
 - [**Next (次へ)**] ボタン: 次の投票を選択します。
次の場合、このボタンは表示されません。
 - リストの先頭の投票が選択された。
 - 臨時投票が行われた。
 - [**Recall (取り消し)**] ボタン: 選択済みの投票を取り消します。例えば、間違った投票を誤って選択した場合にこのボタンを使用します。
 - [**Open (開く)**] ボタン: 選択した投票を開始します。
 - [**Close (閉じる)**] ボタン: 投票を終了します。
 - [**Hold (保留)**] ボタン: 現在の投票を保留にします。参加者の投票ボタンは一時的にオフになり、投票の変更や実行を行うことができなくなります。
 - [**Accept (承諾)**] ボタン: 投票が受理されていることを確定するために使用します。
 - [**Reject (拒否)**] ボタン: 投票が拒否されていることを確定するために使用します。別のときに投票を行うことができます。
 - [**Abort (中止)**] ボタン: 投票が開始されている場合、現在の投票を中止します。投票結果は保存されません。

**注記!**

投票権のある参加者のみが投票できます。投票権は、会議の管理者によって参加者に与えられます。

**注記!**

会議アプリケーションにログインすると、投票権のある参加者は投票に直接参加することが可能になります。

投票結果

インストール済みのライセンスとシステム設定に応じて、投票が開始されると投票結果ファイルが DICENTIS サーバーで作成されます。投票中、対象となるデータはこのファイルに保存されます。投票が終了すると、投票結果ファイルは閉じられます。詳細については、次のセクションを参照してください。

- 「投票の詳細, ページ 65」 (投票の設定について記載しています)。
- 「会議後のツール」 (投票結果および会議結果ファイルの情報について記載しています)。

5.2.5

議論

この機能は、プレミアム ライセンスおよびアルティメット ライセンスの登録時に利用可能になります。

議論を管理するには、[**Back to active (会議に戻る)**] ボタンをクリックします。

左側にあるリストで、議論リストが表示されます。このリストには、**発言中**の参加者と**発言待機中**の参加者が含まれています。次のように色分けされたアイコンが使用されます。

- **赤色アイコン**：参加者が発言中です。
- **灰色アイコン**：参加者のマイクが消音状態です。
- **緑色アイコン**：参加者が発言のために待機しています。
- **黄色アイコン**：参加者が現在の発言者に返答するために待機しています。

参加者を**待機中**から**発言中**にシフトさせるには、議論リストの下部にある [**Shift (シフト)**] ボタンを使用します。発言者リストがいっぱいになっている場合は、一番長く発言している参加者が発言者リストから外されます。

コンテキストメニュー

議論リストには、議論を管理するためのコンテキストメニューがあります。議論リストを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューには次のオプションが含まれています。

- **項目が選択 (クリック) されていない場合**：
 - [**Stop all speakers and remove all requests (すべての発言者の停止およびすべてのリクエストの削除)**]：すべての発言者の発言を停止させ、すべてのリクエストを削除します。
 - [**Remove all request (すべてのリクエストを削除)**]：すべてのリクエストを削除します。
 - [**Add (追加)**]：参加者を「発言者」または「待機中の参加者」としてリストに追加するためのメニューが開きます。必要な参加者を右クリックして参加者リストに追加し、[**Grant the floor (発言権を付与)**] または [**Add to waiting list (待機リストに追加)**] を選択します。オープンマイク数とマイクモードの設定によっては、待機リストに追加された参加者がすぐに発言者リストに移行する場合があります。
- **発言中の参加者を選択 (クリック) すると、次のオプションを使用できるようになります。**
 - [**Stop Speaking (発言停止)**]：選択した参加者の発言を停止します。オープンマイク数とマイクモードの設定によっては、待機リストの先頭にいる参加者がすぐに発言者リストに移行する場合があります。
- **待機中の参加者を選択 (クリック) すると、次のオプションを使用できるようになります。**
 - [**Mute/Unmute (ミュート/ミュート解除)**]：マイク入力をミュートまたはミュート解除します。発言者を一時的にミュートするために使用します。発言者はアクティブな発言者のままです。返答モードを使用している場合にのみ使用できます。
 - [**Shift (シフト)**]：選択した参加者を、待機中から発言中にシフトさせます。
 - [**Remove (削除)**]：選択した待機中の参加者をリストから削除します。

5.2.6

メニュー

その他の管理オプションを表示するには、画面の右下にあるメニューボタン (...) をクリックします。ポップアップメニューがアイコンとともに表示されます。メニューボタン (...) が表示されていない場合は、[Seats and Devices (座席とデバイス)] 画面で [**Manage meeting (会議の管理)**] 権限のチェックボックスが選択されていません。詳細については、*座席とデバイス*, ページ 78 を参照してください。

ポップアップメニューには次のオプションが含まれています。

- [**Presentation (プレゼンテーション)**] : プレゼンテーションアイコンをクリックし、[**On (オン)**] をクリックして、プレゼンテーションモードを有効にします。[**Off (オフ)**] をクリックすると、プレゼンテーションモードが無効になります。
 - プレゼンテーション モードは、アルティメット ライセンスとプレミアム ライセンスで利用できます。
- [**Discussion settings (議論の設定)**] : [Discussion settings (議論の設定)] アイコンをクリックして、現在有効となっている議論の設定を含むパネルを開きます。変更後の設定は、その議題が保有する、準備済みの議論の設定には保存されません。以下の設定を指定できます。
 - ディスカッションモード。
 - 発言者リスト。
 - 優先オプション。
 - アルティメット ライセンスまたはプレミアム ライセンスをお持ちの場合のスピーチ タイマー。
 - カメラコントロールオプション。これは登録時にのみ利用できる機能です。
 - マルチメディアデバイスと会議アプリケーションオプション。
- [**Pan and tilt camera control (PTZ) (カメラのパン / チルトコントロール (PTZ))**] : [Pan and tilt camera control (カメラのパン / チルトコントロール)] アイコンをクリックし、[**Show (表示)**] をクリックすると、カメラのパン / チルトコントロールが表示されます。[**Hide (非表示)**] をクリックすると、カメラコントロールが非表示になります。
 - このアイコンが表示されるのは、議論画面のみです。
- [**Voting (投票)**] : [Voting (投票)] アイコンをクリックして、投票画面に移動します。システムは、インストール済みのライセンスとシステム設定に応じて、「基本的な投票」と「準備済みの投票」のいずれかを使用します。
 - **臨時投票の要件 :**
 - 有効化されたプレミアム ライセンスまたはアルティメット ライセンス。
 - 投票機能が、会議アプリケーションの座席に割り当てられていること。詳細については、「*座席とデバイス*, ページ 78」を参照してください。
 - 参加者には投票権があります。
 - 有効化された会議。

臨時投票では、デフォルト設定が利用可能です。

- Answer set (回答セット)
- 多数設定
- ディスプレイ設定

- 個人 / グループ別の結果
 - 総合結果。
- 詳細については、「*投票の詳細*, ページ 65」を参照してください。

- **準備済みの投票の要件：**
 - 有効化されたアルティメットライセンス。
 - 1 つ以上の投票が会議アプリケーションで準備されていること。詳細については、*投票スクリプト*, ページ 65 を参照してください。
 - 参加者には投票権があります。
 - 有効化された会議。

5.3 準備

この機能は、プレミアムライセンスとアルティメットライセンスでのみ利用できます。会議の管理者は、会議を準備するために PC を使用する必要があります。会議を準備するには、[**Prepare (会議設定)**] をクリックします。[**Prepare (会議設定)**] 画面が開きます。

会議の準備とは、次のことを意味します。

- **登録名簿を管理する。**
- **会議を追加する。**
 - **登録名簿**を会議に追加する。
 - **議題項目**を追加する。
 - **会議の詳細**を追加する。
 - 1 つの**投票スクリプト**および 1 つ以上の**投票**を追加する。
- **議論プロファイル**を作成して、議論の設定を定義する。

前提条件

- ログイン済みユーザーには、ユーザー権限「**Prepare meeting and agenda (会議と議題の準備)**」が必要です。

5.3.1 登録者

システムに人々 / 名前を追加するには、ツリー (左ペイン) 内の [**Persons (登録者)**] をクリックします。プレミアムまたはアルティメットのシステム ライセンスが必要です。登録者は、「*参加者*, ページ 62」に記載されている手順で会議に割り当てることができます。

中央のペインには、編集アイコンと登録者のリストが表示されます。リスト内の登録者を追加または削除するには、**編集アイコン**を使用します。

各登録者について、右ペインで [**General (全般)**] フィールドと [**Security (セキュリティ)**] フィールドに入力できます。

- [**General (全般)**] フィールドは次のとおりです。
 - **First name (名)**
 - **Middle name (ミドルネーム)**
 - **Last name (姓)**

- Title (役職)
- Group (グループ)
- Region (地域)
- Country (国)
- [Device GUI language (デバイスの GUI 言語)] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : ドロップダウンリストを使用して、参加者のデバイスに必要な GUI 言語を選択します。ここで言語を選択しない場合は、[Room (会議室設定)] ページで選択された言語がデフォルトとして使用されます。
- [Headphone language (ヘッドフォン言語)] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : ドロップダウンリストを使用して、優先する通訳言語を選択します。この設定に基づいて、通訳言語が自動的に選択されます。選択した言語が利用できない場合は、フロア言語が使用されます。
- 電子メール
- [Audible beeps (ビープ音)] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : このオプションを選択すると、DCNM-DVT のヘッドフォン出力で 150 ミリ秒の 500 Hz ビープ音が聞こえます。これにより、視覚障がいのある参加者への投票が確認できます。
- Image (画像) : 参加者の写真を追加するには、[Change (変更)] をクリックします。ユーザー用に表示する写真を選択して、[Open (開く)] をクリックします。写真は、ログイン画面の [Select from list (リストから選択)]、会議に参加中のユーザーのリストにある参加者の詳細、および DICENTIS Web サーバー (参加者が存在する場合) に表示されます。写真を削除するには、[Delete image (画像の削除)] をクリックします。
- [Security (セキュリティ)] フィールドは次のとおりです。
 - User name (ユーザー名)
 - [NFC Id (NFC ID)] : 参加者の近距離通信 (NFC) タグの番号。「システムで NFC タグの使用を構成する」の副見出しを参照してください。
 - [Pin] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : ユーザーの PIN コードを変更するためのボタン。

システムで NFC タグの使用を構成する



注記!

NFC タグは、DCNM-MMFF、DCNM-MMDOCK、DCNM-MMD2、DCNM-DE、DCNM-DSL、DCNM-DVT、および DCNM-FIDP を搭載した DCNM-FBD2 でのみ使用できます。

NFC タグを使用して参加者を識別 / 認証する場合、幹事や書記は各参加者用に固有の NFC ID を作成する必要があります。これを行うには、次の手順に従います。

1. [Persons (登録者)] (中央) ペインで、NFC タグを割り当てる名前をクリックします。
2. 右ペインで [NFC Id (NFC ID)] フィールドをクリックして選択します。
3. システムで NFC ID を識別します。
 - 適切な NFC-USB カードリーダーがクライアント (幹事の) PC の USB ポートに接続されていることを確認します。Electro Voice Dynacord B.V. では、次のいずれかのスマートカードリーダーの使用を推奨しています: HID Omnikey 5022 CL、HID Omnikey 5421、Identiv SCM PC-Card uTrust 470x F、Sony USB NFC Reader RC-S380/S。

- USB カードリーダーで NFC タグをスキャンします。NFC ID が [**NFC Id (NFC ID)**] フィールドに表示されます。
- USB カードリーダーがない場合は、NFC ID を [**NFC Id**] フィールドに入力することができます。
- 複数の参加者で同じ NFC カード / ID が使用されている場合、[**NFC Id (NFC ID)**] フィールドの周りに赤い枠が表示され、検証エラーが発生したことを示します。

登録者のインポート

登録者と登録者の関連データを手動で入力する代わりに、Excel ファイル (XLS) との間で登録者をエクスポート、編集、インポートすることができます。これにより、システムでの登録者データの作成と更新がより簡単になります。

インポート用のテンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. 左 / 右矢印ボタンをクリックします。
2. [**Create template (テンプレートの作成)**] ボタンを使用して、テンプレートファイルを作成します。
注 : Excel ファイルの最初の行または列ヘッダーを変更しないでください。変更するとファイルをインポートできなくなります。
注 : 列ヘッダーは会議アプリケーションの言語設定によって異なります。会議アプリケーションでは、インポートとエクスポートには必ず同じ言語を使用してください。
3. [**import/export persons (登録者のインポート / エクスポート)**] ウィンドウを閉じます。
このテンプレートを使用して、適切な形式で登録者のデータを入力します。

システムに登録者をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 左 / 右矢印ボタンをクリックします。
2. [**Open Excel file (Excel ファイルを開く)**] ボタンをクリックします。
インポートする登録者を含んでいる Excel ファイルを選択します。
注 : Excel ファイルの有効性が確認され、エラーが表示されます。ファイルにエラーがある場合は、Excel ファイルで修正し、手順 1 ~ 3 を繰り返します。次のフィールドには、特別な注意が必要です。
 - [**User name (ユーザー名)**] (重複の確認) : ユーザー名がすでに存在する場合、そのデータは Excel ファイル内のデータによって上書きされます。
 - [**NFC Id (NFC ID)**] (重複の確認) : 適切な形式かつ一意である必要があります。
 - [**Password (パスワード)**] : フィールドが空白の場合は、同じパスワードが保持されます。パスワードを更新するには、新しいパスワードを入力します。パスワードを削除するには、<nopassword> というテキストを入力します。
 - [**Link to participant image (参加者のイメージへのリンク)**] : [**Picture file (画像ファイル)**] 列または [**Image file (イメージファイル)**] 列の写真のパス (例 : d:\image\name.png) を入力します。ファイルをインポートすると、イメージも更新されます。
3. 登録者のリストをインポートします。
注 : 結果 (エラーと正常にインポートされたデータの両方) は、登録者を一覧表示した表の下画面に表示されます。
4. [**import/export persons (登録者のインポート / エクスポート)**] ウィンドウを閉じます。

登録者をエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. 左 / 右矢印ボタンをクリックします。

2. 登録者が既にシステムに作成されている場合は、[**Export persons (登録者のエクスポート)**] ボタンを使用して、登録者の現在のリストを XLS ファイルにエクスポートします。このファイルは、テンプレートと同じ方法で編集できます。
- エクスポートされるフィールドのリスト：
 - First name (名)
 - Middle name (ミドルネーム)
 - Last name (姓)
 - Title (役職)
 - Group (グループ)
 - Country (国)
 - Region (地域)
 - User name (ユーザー名)
 - Password (パスワード)：このフィールドは、パスワードがシステムに入力されていても、空白として表示されます (セキュリティ上の理由)。フィールドを空白のままにした場合は、同じパスワードが保持されます。パスワードを更新するには、新しいパスワードを入力します。
 - PIN コード
 - NFC Id (NFC ID)
 - Image file (イメージファイル)：イメージサーバー上の画像へのリンクをエクスポートすると、Excel ファイルにもそのリンク (https://...../<image>.png) が配置されます。このようにして、ソースファイルを追跡することができます。インポートファイルに https// への参照が画像の前に含まれている場合、これは無視されます。
 - Device GUI language (デバイスの GUI 言語)
 - Headphone language (ヘッドフォン言語)
 - 電子メール
 - Audible beeps (ビープ音)：1 を入力すると、ビープ音が有効になります。このフィールドが空の場合、サウンドは生成されません。
3. [**import/export persons (登録者のインポート / エクスポート)**] ウィンドウを閉じます。

5.3.2

議論プロフィール

議論プロフィールは、議論の設定を定義するために使用します。ツリーの [**Discussion profiles (議論プロフィール)**] をクリックします。これらのプロフィールは、議題項目を準備するときに使用します。

議論プロフィールを追加または削除するには、**編集アイコン**を使用します。

次の情報を設定できます。

- [**Profile Name (プロフィール名)**]：プロフィールの名前です。
- [**Discussion settings (議論の設定)**]
 - [**Discussion Mode (議論モード)**]：
 - [**Open (automatic) (オープン (自動))**]：このオプションを選択すると、待機中リスト内の順番待ち列は自動的に発言者リストにシフトします (発言者リストに空きがある場合)。発言者リストがいっぱいになっている場合、マイクリクエストは待機リストのキュー (順番待ち列) に入れられます。
 - [**Open (manual) (オープン (手動))**]：このオプションを選択すると、参加者は発言リクエストを出して順番待ち列に入ることができます。会議アプリケーションを使用しているユーザーまたは、MMD またはシノプティックアプリケーションを使用している「会議の管理」権限を持つ参加者は、参加者に発言権を与えることができます。

- **[Response (応答)]** (動作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : この機能は、プレミアムまたはアルティメットライセンスでのみ利用できます。このオプションを選択すると、参加者は発言リクエストを出して順番待ち列 (緑色のアイコン) に入ることができます。
また、参加者は返答リクエストを出して順番待ち列に入り、アクティブな発言者に返答することもできます。会議アプリケーションを使用しているユーザーまたは、MMD またはシノプティックアプリケーションを使用している「会議の管理」権限を持つ参加者は、参加者に発言権を与えることができます。発言者リスト内 (緑色のアイコン) の次の参加者に発言権が与えられると、返答者リスト (黄色のアイコン) が消去されます。これは返答者が返答しようとしている発言者に発言権がなくなるためです。
発言権を持つことができるのは、1 人のアクティブな発言者と 1 人のアクティブな返答者だけです。発言者と返答者は、対話中にマイクボタンを使用してマイクを一時的にミュートしたり、ミュートを解除したりできます。ミュート中はマイクの LED がオフになり、マイクボタンの LED がオンになります。
返答リクエストを送信できるのは、タッチスクリーン付きのマルチメディアデバイスおよびディスカッションデバイスのみとなります。タッチ画面上の黄色のボタンを使用して、返答リクエストを送信できます。
- **[First in first out (ファーストインファーストアウト)]** : このオプションを選択すると、参加者は自身のマイクを制御できます。発言者リストがいっぱいである場合、マイクリクエストにより、最も発言が長い参加者がオーバーライドされます。
- **[Voice activated (ボイスアクティベーション)]** (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : 選択時 :
 - ディスカッションデバイスのマイクボタンが赤く点灯します。
 - 参加者が発言したときにマイクが有効になります。
 - 参加者は発言するためにマイクボタンを押す必要がありません。
 - マイクボタンを押し続けることでマイクを一時的にミュートにできます。
 - 議論リストは消去され、音声モードが有効である間は更新されません。
 - 議長は優先ボタンを使用して、すべての参加者のマイクをオーバーライドできます。
 - カメラコントロールは使用できません。
 このモードは、最大 50 台のデバイスで構成されるシステムで使用できます。このモードは、議論中に、プロフィールと議題で設定することができます。
マイクに VIP 権限 (「参加者, ページ 62」を参照) がある場合、参加者が発言したときに自動的に有効になることはありません。代わりに、VIP 権限を持つ参加者はマイクボタンを押して発言する必要があります。

アルティメットライセンスを使用してボイスアクティベーションモードを拡張し、現在話している参加者を表示できます。このライセンスでは、**[Show active microphone (アクティブなマイクを表示)]** チェックボックスをオンにすると、発言者リストで話している参加者を自動的に表示できます。これにより、カメラを発言者に向けることができます。会議プロトコルと .NET API には、誰が発言権を持っているかが含まれます。ここから、オーディオやビデオの録画などの外部アプリケーションがこのデータを使用できます。

注 : 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、この機能は使用できません。



注記!

この機能は、各参加者が個々のデバイスを使用するアプリケーション用に設計されています。そうでない場合、システムでは誰が発言しているかを識別できません。環境ノイズが大きい部屋や反響音が多い部屋では、この機能を使用しないでください。

DICENTIS システムは、動的チャネル割り当て (DCA) 技術を使用して、次の目的のためにすべてのマイクを継続的に検知します。

- 音声が発出された場合、音節の欠落を防ぐためにマイクをすばやく有効にします。
- オープンマイクの数を減らしてノイズを防ぎ、音声明瞭度を最適化します。
DCA アルゴリズムでは、最適なパフォーマンスのためにマイクを 2 秒間有効にします。
音声を継続的に感知するため、誰も話していなくても発言者リストに 1 つのマイクが表示される場合があります。
- [**Show active microphone (アクティブなマイクを表示)**] チェックボックスをオンにすると、以下が可能になります。
 - [**Attack time (アタックタイム)**] スライダーを使用して、最低発話時間を設定します。最低発話時間では、咳などの短い音声発生によって参加者が発言者リストに入るのを防ぎます。アタックタイムでは、音声が発言と見なされるまでに必要な音声の長さを設定します。デフォルトの推奨値は 2,000 ms、最小値は 0 ms、最大値は 10,000 ms です。
 - [**Release time (リリースタイム)**] スライダーを使用して、オーディオレベルが低くなりすぎた後もマイクをオンにしておく時間を設定します。デフォルトは 500 ms、最小値は 0 ms、最大値は 10,000 ms です。
 - 参加者が発言者リストに含まれているときに赤いマイク LED を点灯するには、[**Show active by red mic LED (アクティブなマイクを赤い LED で表示)**] チェックボックスをオンにします。
 - [**Max active microphones (アクティブにできるマイクの最大数)**] で発言者リストに表示される発言者の数を設定します。推奨値は 1 です。
- [**Speakers list (発言者リスト)**] :
 - [**Max active microphones (アクティブにできるマイクの最大数)**] : 発言者リスト中のアクティブなマイクの最大数をあらかじめ選択できます (最大 25)。音声モード時、または [**Response (返答)**] の使用時は無効になります。
 - [**Allow speaker to mute mic (スピーカーによるマイクのミュートを許可)**] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は常に有効/非表示) : 選択すると (デフォルト)、参加者は左のマイクボタンを使用してマイクを一時的にミュートできます。無効である場合、左側のマイクボタンは右側のマイクボタンと同様に動作します。
 - [**Allow speaker to switch mic off (発言者にマイクのスイッチオフを許可)**] : このオプションを選択すると、参加者は自らのマイクをオフにすることができます。[**Open (automatic) (オープン (自動))**]、[**First in first out (ファーストインファーストアウト)**]、または音声モードの使用時は無効になります。
 - [**Switch mic off after 30 sec of silence (30 秒間発言がない場合にマイクをオフに切り換え)**] : この機能は、発言者がマイクのスイッチを手動でオフにするのを忘れたときに役立ちます。音声モード時、または [**Response (返答)**] の使用時は無効になります。
 - [**Ambient microphone (アンビエントマイク)**] (動作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : 選択すると、入力 1 に接続されたアンビエントマイクが有効になります。
 - [**Speakers queue size (発言待機リストのサイズ)**] : 待機リストで許可されるリクエストの最大数。最大 200 件のリクエストを選択できます。[**First in first out (ファーストインファーストアウト)**] または音声モードの使用時は無効になります。

- [**Allow request to speak (発言リクエストを許可)**] : このオプションを選択すると、発言リクエストが許可されます。 [**Open (automatic) (オープン (自動))**]、 [**First in first out (ファーストインファーストアウト)**]、または音声モードの使用時は無効になります。
- [**Allow cancel request to speak (発言リクエストのキャンセルを許可)**] : このオプションを選択すると、参加者が自身の発言リクエストをキャンセルすることが許可されます。 [**Open (automatic) (オープン (自動))**]、 [**First in first out (ファーストインファーストアウト)**]、または音声モードの使用時は無効になります。
- [**Responders queue size (応答キューサイズ)**] (動作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : 応答キュー内の要求の最大数。最大 99 件を選択できます。返答モードを使用している場合にのみ使用できます。
- [**Allow cancel request-to-respond (応答要求のキャンセルを許可)**] : このオプションを選択すると、参加者が自身の応答要求をキャンセルすることが許可されます。返答モードを使用している場合にのみ使用できます。
- [**Show waiting in queue by green mic LED (緑色のマイク LED 点灯により発言待機中を表示)**] : このオプションを選択すると、待機リストにあるデバイスのマイク LED が点灯します (選択しない場合、LED はオフになります)。 [**First in first out (先入先出)**] または [**Voice mode (音声モード)**] が使用されている場合は無効になります。

注 : 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合、このオプションは [**Show waiting queue by green mic and button LED (緑色のマイクとボタン LED で待機キューを表示)**] に変わります。
- [**Show first in queue by blinking green LED (緑色の LED 点滅により発言待機リストの先頭を表示)**] : このオプションを選択すると、待機リストの先頭の登録者のマイクボタンとマイク LED が緑色に点滅します。これは、 [**Show waiting in queue by green mic LED (緑色のマイク LED 点灯により発言待機中を表示)**] も選択したときにのみ使用できます。 [**First in first out (先入先出)**] または [**Voice mode (音声モード)**] が使用されている場合は無効になります。

注 : 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合、このオプションは [**Show first in queue by green blinking mic and button LED (緑色のマイクとボタン LED 点滅により発言待機リストの先頭を表示)**] に変わります。
- [**Show queue for participants (参加者に待機リストを表示)**] : このオプションを有効にすると、すべての座席に待機リストが表示されます。無効にすると、会議の管理権限または VIP 権限を持つ座席にのみ表示されます。これにより、議長およびオペレータに待機リストを表示しますが、他の参加者全員には非表示にできます。この機能は、シノプティックレイアウトにも使用できるため、議長およびオペレータに待機リストが表示されますが参加者には非表示になります。無効の場合 [**First in first out (先入先出)**] または [**Voice mode (音声モード)**] が使用されます。

注 : 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されているときにこのオプションを無効にすると、参加者が VIP 権限を持っている場合でも、キューはすべての DCNM-WDE で非表示になります。
- [**Priority options (優先オプション)**] :

- [**Priority tone (優先トーン)**] : このオプションを選択すると、優先ボタンを使用するときに、優先トーンが鳴ります。デフォルトではオンに設定されます。優先トーンは、議題項目ごとまたは議論中に設定できますが、優先トーンが定義されている場合のみ使用可能です。
- [**Mute all speakers (すべての発言者をミュート)**] : このオプションを選択すると、優先ボタンを使用するときに、すべての発言者が一時的にミュートされます。
- [**Switch off microphones and clear queue (マイクをオフに切り換え、待機をクリア)**] : このオプションを選択すると、優先ボタンを押したときに、待機リスト中のすべての発言者と参加者がキャンセルされます。
- [**Speech timer (スピーチタイマー)**] :
 - [**Speech time per speaking turn (発言機会ごとにスピーチ時間を設定)**] : このオプションを選択すると、発言機会ごとのスピーチタイマーを最大 99 分まで分および秒単位で設定できます。発言者が発言を許可されるたびに、この時間が付与されます。
 - [**Show last minute by red blinking mic button (残り 1 分をマイクボタンの赤い点滅で表示)**] : このオプションを選択した場合、スピーチ時間の最後の 1 分になると、アクティブな発言者のデバイスのマイクボタンが点滅を開始します。
 - [**Show last minute by red blinking mic LED (残り 1 分をマイク LED の赤い点滅で表示)**] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は常に有効/非表示) : 選択すると、発言時間の最後の 1 分に達すると、アクティブスピーカーのデバイスのマイクの LED が点滅し始めます。
 - [**Adjust speech time (スピーチ時間を調整)**] : このオプションを選択すると、議論プロファイル画面の上部にある +/- アイコンをクリックすることで、スピーチ時間を、入力した分・秒数だけ増減することができます。
 - [**Turn microphone off when time has elapsed (時間が経過したらマイクをオフにする)**] : このオプションを選択すると、設定されたスピーチ時間が経過したときにマイクがオフにされます。選択しないと、設定されたスピーチ時間が経過してもマイクはオンのままです。
- [**Camera Control options (カメラコントロールオプション)**] (この機能は登録時にのみ利用可能で、プレミアム ライセンスおよびアルティメット ライセンスでは利用できません) :
 - [**Camera control (カメラコントロール)**] : このオプションを選択すると、外部または SDI ビデオスイッチャーが必要に応じて有効になり、事前に構成された方向にカメラが向けられ、カメラ画像がマルチメディアデバイスに表示されます。
 - [**Camera override (カメラのオーバーライド)**] : このオプションを選択した場合、最後にマイクをアクティブにした参加者が表示されます。
- [**Multimedia device and meeting application options (マルチメディアデバイスと会議アプリケーションのオプション)**] (動作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : 利用可能なオプションは、インストールされているライセンスとディスカッションプロファイルの設定によって異なります。
- 登録時のみ :
 - [**Camera control options (カメラコントロールオプション)**] が使用可能です。
 - [**Display video on device (デバイスでビデオを表示)**] : このオプションと [**Camera control (カメラコントロール)**] を選択すると、アクティブな発言者またはオーバービューカメラが、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスのカメラビューに表示されます。

- [**Display logo (ロゴを表示)**] : [**Camera control (カメラコントロール)**] が選択されていない場合、カスタマーロゴまたは空白の背景が、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスに表示されます。
- プレミアムライセンスおよびアルティメットライセンスの場合：
 - [**Camera control (カメラコントロール)**] と [**Camera override (カメラのオーバーライド)**] の両方が [**Camera control options (カメラコントロールオプション)**] で選択されている場合：
 - [**Display video on device (デバイスでビデオを表示)**] : このオプションと [**Camera control (カメラコントロール)**] を選択すると、アクティブな発言者またはオーバービューカメラが、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスのカメラビューに表示されます。
 - [**Display image of speaker (発言者の画像を表示)**] : このオプションを選択すると、サーバーはビデオスイッチャーとカメラをコントロールします。最近の発言者が、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスに表示されます。
 - [**Display image of newest speaker (最近の発言者の画像を表示)**] : このオプションを選択すると、最近の発言者の画像が、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスに表示されます。

[**Camera control (カメラコントロール)**] が [**Camera control options (カメラコントロールオプション)**] で選択されていない場合：

- [**Camera override (カメラのオーバーライド)**] は無効になり、[**Display logo (ロゴを表示)**] がオンになります。会社のロゴが、会議アプリケーションとマルチメディアデバイスに表示されます。



注記!

プロファイルが変更されても、そのプロファイルを使用している議題項目は自動的に更新されません。そのため、プロファイルの更新後、新しい設定を必要とするすべての議題項目にそのプロファイルを再適用する必要があります。

5.3.3

会議

会議を準備するには、次の手順に従います。

- 会議の追加または削除を行うには、**編集アイコン**を使用します。
- 新しい会議を追加するときは、**会議の詳細**を入力できます。
- (会議のすべての詳細を含めて) 会議をコピーするには、**コピーアイコン**を使用します。
- **A ボタン**を使用すると、登録者を作成して座席に割り当てることなく、言語選択機能を備えた会議を準備できます。

A ボタンの動作

このボタンは次の場合に有効になります。

- 会議を作成できるライセンスを持っている
- システムの電源がオンであり、座席に割り当てられたデバイスを取得できる
- 座席名が一意である

このボタンを押すと、座席名と同じユーザー名（氏名）を持つ登録者が作成されます。各登録者は、ユーザー名に対応する名前を持つ座席に割り当てられ、その座席で定義された権限を付与されます。このボタンを使用して会議を準備すると、[**Automatically start this meeting upon powering up the system**（システムの起動時にこの会議を自動的に開始）] と [**Automatically open meeting on activate and deactivate on close meeting**（有効化したときに会議を自動的に開き、無効化したときに会議を閉じる）] のオプションがその会議で有効になります。

注：登録者でも参加者グループの一部でもないユーザーを作成して座席名と同じユーザー名を付けた場合、その座席は空のままとなり、言語選択や投票の権限を持ちません。座席には登録者のみを割り当てることができます。

5.3.4

Meeting details（会議の詳細）

会議のリストを表示するには、メニューツリーで会議をクリックします。

- [**Name（名前）**] : 会議の名前を入力します。
- [**Copy link（リンクをコピー）**] : 会議リンクをコピーして、リモートから参加している参加者に送信します。

リモート参加者は、タブレットまたはコンピューターの Web ブラウザーを介して参加できます。

[**Security（セキュリティ）**] フィールドで定義されたユーザー名とパスワードを使用してログインします。登録者, ページ 51を参照してください。

参加者がリモート参加できるライセンスを確認するには、「**ライセンスの概要**, ページ 20」を参照してください。

- [**Description（説明）**] : 適切な説明を入力します。
- [**Start Date/Time（開始日時）**] : 必要な会議の開始日時を選択します。
- [**End Date/Time（終了日時）**] : 必要な会議の終了日時を選択します。
- [**URL**] : 「**ファイルのアップロードとアクセス**, ページ 180」に記載されているとおり、適切な URL を入力します。マルチメディアデバイスの青い「**More info（詳細）**」ハイパーリンクをクリックすると、**DcnmMeetingDocuments** Web サイトに保存されているドキュメントが表示されます。
- [**Automatically start this meeting upon powering up the system（システムの起動時にこの会議を自動的に開始）**] : このチェックボックスをオンにすると、システムまたは DICENTIS サーバーの起動時にこの会議が自動的に開始されます。会議がすでに有効な場合、このアクションは実行されません。
- [**Automatically open the meeting after the meeting is activated（会議の有効化による会議の自動開始）**] : このオプションを選択すると、会議が有効化されたとき、その会議は自動的に開始されます。
- [**Automatically start the agenda when the meeting is opened（会議の開始による議題の自動開始）**] : このオプションを選択すると、会議が開始されたとき、議題も自動的に開始されます。
- [**Identification（ID 確認）**] : このオプションを選択すると、会議参加者は自らを識別するように求められます。ID ライセンスを持つ座席だけが本人確認プロセスに参加します。次から必要なオプションを選択してください。
 - [**Participant can only log in at assigned seat（参加者は割り当てられた座席にのみログインできる）**] : 参加者は、会議の準備中に割り当てられた座席にのみログインできます。このオプションは、[**Identification（ID 確認）**] オプションおよび [**Verification（検証）**] オプションと組み合わせることができます。[**Identification（ID 確認）**] オプションも

[Verification (検証)] オプションも設定されていない場合、ウェルカム画面には参加者の名前とその座席で本人確認をするためのログインボタンが表示されます (マルチメディアおよび DCNM-DE のみ)。

注 : [Participant can only log in at assigned seat (参加者は割り当てられた座席にのみログインできる)] を有効にすると、ID が装備されていても登録者が割り当てられていないデバイスには、ブロックされた画面が表示されます。

– [Identify participant at seat by (座席の参加者を識別する方法)]

- [Swipe NFC card (NFC カードをスワイプ)] : 参加者は NFC カードを使用して自らを本人確認できます (DCNM-MMFF, DCNM-MMDOCK, DCNM-MMD2, DCNM-DE, DCNM-DSL, DCNM-DVT)。このオプションを使用するには、システムが NFC タグを使用できるように構成されている必要があります。「登録者, ページ 51」を参照してください。

- [Keep NFC card at device (NFC カードをデバイスに保持)] : 参加者は NFC カードを使用して本人確認できます (DCNM-MMFF, DCNM-MMDOCK, DCNM-MMD2, DCNM-DE, DCNM-DSL, DCNM-DVT)。NFC カードが NFC リーダーの読み取り範囲内にある限り、参加者はログインしたままになります。参加者が NFC リーダーの読み取り範囲外にカードを動かすと、ログアウトされます。このオプションを使用するには、システムが NFC タグを使用できるように設定されている必要があります。「登録者, ページ 51」を参照してください。[Keep NFC card at device (NFC カードをデバイスに保持)] オプションはデュアルモードと組み合わせて使用することはできません。座席とデバイス, ページ 78 の [Dual Use (デュアルモード)] オプションを参照してください。

- [User name (ユーザー名)] : 参加者は、ユーザー名を入力して本人確認します (マルチメディアデバイスのみ)。

- [Select from list (リストから選択)] : 参加者は、(スクリーンラインに表示される) 参加者のリストから自分の名前を選択して本人確認します (マルチメディアデバイスのみ)。

- [External system (外部システム)] : 参加者は、外部システムによって識別されます (すべての DICENTIS デバイス)。

注 : 識別が外部システムを介して行われる場合は、検証も外部システムを介してのみ可能です。

– [Verify participant at seat by (次の方法で参加者を確認する)] :

- [PIN code (PIN コード)] : 参加者は PIN コードを使用して自分自身を認証できます (マルチメディアデバイスおよび DCNM-DE のみ)。

- [Password (パスワード)] : 参加者は自身のパスワードを使用して自らを認証します (マルチメディアデバイスのみ)。

- [External system (外部システム)] : 参加者は外部システムによって認証されます (すべての DICENTIS デバイス)。

– 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合、3 つの識別オプションが利用できます :

- 識別なし

- NFC カードをスワイプすると、参加者はどの座席でもログインできます

- NFC カードをスワイプすると、参加者は指定された座席でのみログインできます

**注記!**

リモート参加者は、選択した識別モードに関係なくログインできます。識別モードが選択されておらず、リモート参加者が会議室の座席に割り当てられている場合、その参加者はすでに着席しているものとみなされ、リモートから参加することはできません。これを防ぐには、常に識別モードを選択するか、リモート参加者を会議室の座席に割り当てないように注意します。

定数

- **[Quorum (定数)]** : 定数は、会議または投票を続行するのに十分な参加者がいるかどうかを検証するために使用します。有効にした場合、結果回答が true または false かどうか自動的に計算されます。回答情報は、会議アプリケーション、シノプティックコントロール、.NET API、および会議プロトコルで確認できます。
 - **[Use vote weight (格差) の使用 :]** このオプションを選択すると、設定された格差が自動定数計算に使用されます (参加者の格差が 5 の場合、この参加者の出席が参加者 5 人の出席として計算されます)。
 - **[[Quorum expression (定数回答)]** : 表の右側にあるボタンを使用して [定数回答] に変数を挿入するか、定数フィールドに変数を入力します。
 - **[Test result (テスト結果)]** : テストの値を使用して回答を検証できます。回答が true の場合、テスト結果ボックスの色が緑色に変わり、false の場合は赤色に変わります。回答が無効の場合はオレンジ色に変わります。
- 例** : 定数に達するために投票権のある参加者の少なくとも 2/3 の出席が必要になる場合、定数回答は次のようになります。
- $$\text{PresentVoteRights} / \text{VoteRights} \geq 2/3 \text{ (投票権保有出席者 / 投票権保有者 } \geq 2/3 \text{)}$$

注 : **[Quorum (定数)]** は会議アプリとシノプティックコントロールに棒グラフで表示されます。正しく表示するために、値は 0 ~ 1 までと > または ≥ を使用する必要があります。これらの条件が満たされない場合、棒グラフは表示されず、回答に基づいて、true または false のみが表示されます。

5.3.5**参加者**

会議の登録者は、**[Participants (参加者)]** ペインの **[Add (追加)]** ボタンおよび **[Remove (削除)]** ボタンを使用して追加または削除できます。登録者を会議に追加するとすぐに、その登録者は参加者になります。

登録者は、「登録者, ページ 51」に記載されているようにシステムに追加されます。

会議で可能な参加者の数は、利用可能な参加者のライセンスによって決まります。会議に参加者を追加することは可能ですが、参加できる最大数は割り当てられた参加者ライセンスの数によって制限されます。システムにより、割り当てられたライセンス数に基づいて、特定の会議で許可される参加者数についてフィードバックが提供されます。

ボタン	説明
Add (追加)	登録者を会議に追加するために使用します。
Remove (削除)	選択した参加者をリストから削除します。

表 5.1: ボタンの機能

- [**Discuss (議論)**] : このオプションを選択すると、参加者に議論が許可されます。
- [**VIP**] : 特別な登録者や座席に対して投票結果 (中間 / 保留 / 終了時の結果) を表示する権限を付与するために使用できます。投票結果の表示方法は、[**Vote settings (投票設定)**]、[**Results (結果)**] の各設定によって異なります。「投票の詳細, ページ 65」を参照してください。
VIP 権限を持つ参加者 / 座席は、[Discussion settings (議論の設定)] の [**Show queue for participants (参加者に待機リストを表示)**] オプションが無効になっている場合でも待機リストを表示できます。「議論プロフィール」を参照してください。
- [**Vote (投票)**] : このオプションを選択すると、参加者に投票が許可されます。投票権のある参加者の数は、列のヘッダーのかっこ内に表示されるため、すべての必要な参加者に投票権があるかを確認できます。
- [**Vote weight (格差)**] : 参加者の格差を構成できます。列のヘッダーのかっこ内の値は、投票権がある参加者の格差の総合計です。「投票の詳細, ページ 65」も参照してください。
- [**Manage meeting (会議の管理)**] : このオプションを選択すると、参加者に会議を管理することが許可されます (DCNM-MMFF、参加者アプリケーション、DCNM-MMD2、会議アプリケーション、または DICENTIS Web サーバーのシノプティックコントロール)。
- [**Priority (優先)**] : このオプションを選択すると、参加者は優先ボタンを使用できます。
- [**Vip type (VIP タイプ)**] : マイクモードやオープンマイク数に関係なく、参加者に追加のマイク権限を割り当てます (小さい三角形とドロップダウンリストを使用して VIP タイプを選択します)。
 - [**Button Operated (ボタン操作)**] : マイクボタンを押すと、マイクは常に有効になります。これは、議長のデフォルト設定です。
 - [**Ptt Operated (PTT 操作)**] : Push-to-talk。マイクボタンを押し続けた場合、マイクが常に有効になります。これは、割り込みマイクとして使用されるディスカッションデバイスのデフォルト設定です。
- [**Seat name (座席名)**] : 参加者を選択した座席名に割り当てます。座席名を選択するには、小さい三角形とドロップダウンリストを使用します。
- [**Screen Line (スクリーンライン)**] : 参加者が目にするテキストや名前を表示します。スクリーンラインは、[**Configure (設定)**] > [**Rooms (会議室設定)**] で設定します。「会議室設定, ページ 72」を参照してください。



注記!

会議アプリケーションの座席に参加者を割り当てないでください。ユーザーが混乱する原因になる可能性があります。会議アプリケーションにはログイン画面があり、ユーザーはその画面を使用してシステムにログインする必要があります。

5.3.6

議題

各会議の一部である議題には、1 つ以上の項目を含めることができます。

- 項目の追加または削除を行うには、**編集アイコン**を使用します。
- 項目の順序を変更するには、**矢印ボタン**を使用します。
- 議題をコピーするには、**コピーアイコン**を使用します。
- 項目を準備するには、ツリー内で新しい項目を選択して、必要な情報を入力します。以下を参照してください。

- 項目の詳細, ページ 64
- 参加者リスト, ページ 64
- 発言待機者リスト, ページ 64

**注記!**

議題ペインのトップバーの項目 ([Subject (件名)]、[Description (説明)]、[URL]、[Discussion Settings (議論の設定)]) は、項目の 1 つを右クリックして必要な項目を選択/選択解除することで、表示/非表示を切り替えることができます。

5.3.7

項目の詳細

議題項目に対して次の情報を定義できます。

- [Subject (件名)] : 適切な件名を入力します。
- [Description (説明)] : 適切な説明を入力します。
- [URL] : 「ファイルのアップロードとアクセス, ページ 180」に記載されているとおり、適切な URL を入力します。マルチメディアデバイスで青色の [More info (詳細)] ハイパーリンクを押すと、ドキュメントを表示できます (DCNM-MMFF、参加者アプリケーション、DCNM-MMD2 のみ)。これらのドキュメントは顧客のウェブサイトには保存できません。
- [Discussion settings (議論の設定)] :
 - ドロップダウンリストから、必要なプロファイルを選択します。
 - ドロップダウンリスト内のテキストをクリックします。議題項目の議論設定が開きます。設定を行い、オプションで変更後のテンプレートを新しいプロファイルとして保存します。
 - 「議論テンプレート」も参照してください。

**注記!**

議論設定はプロファイル内で定義されているので、議論設定のローカルコピーが作成され、議題項目の中に保存されることになります。これは、議題項目の中でプロファイルを選択した後、プロファイルを変更したときでも、議題項目の議論設定が更新されないことを意味します。

5.3.8

参加者リスト

会議に割り当てられているすべての参加者を選択し、[Speaker waiting list (発言者待機リスト)] に追加できます。

- [Add (追加)] ボタンを使用して、選択した参加者を Speaker waiting list (発言者待機リスト) に追加します。
- [Filter by (フィルタ基準)] テキストボックスを使用して、例えば参加者の名前で検索を絞り込むことができます。

5.3.9

発言待機者リスト

Speaker waiting list (発言者待機リスト) を使用して、議題項目中に発言することを計画している参加者の順序を設定できます。

- 順序を変更するには、矢印ボタンを使用します。

- [Remove (削除)] ボタンを使用して、選択した参加者を Speaker waiting list (発言者待機リスト) から削除します。この参加者は、この会議では参加者のままとなります。

5.3.10

投票スクリプト

この機能は、アルティメット ライセンスでのみ使用できます。

1 つ以上の投票を含む投票スクリプトは、会議に追加することができます。次の手順に従って、投票スクリプトに投票を追加します。

1. ツリーで、[Voting script (投票スクリプト)] をクリックします。
2. 右ペインで 1 行クリックします。
3. ページの上部で、次を行うことができます。
 - 空の投票を作成するには、青色の + アイコンを使用します (設定はすべて手動で更新する必要があります)。
 - 選択した投票を削除するには、青色の - アイコンを使用します。
注：複数の投票を削除するには、Shift キーを押したまま複数の投票をクリックして選択し、赤色の × をクリックします。
 - 選択した投票の設定に基づいて新しい投票を作成するには、重複アイコンを使用します。
 - 選択した投票の順序を変更するには、上/下の矢印を使用します。
4. 投票を準備するには、ツリー内で投票を選択し、「投票の詳細, ページ 65」に記載されているように、必要な情報を入力します。

5.3.11

投票の詳細

投票は次の情報を定義できます。

[Number (番号)] : 投票参照番号を入力します。

[Subject (件名)] : 投票の件名を入力します。

[Description (説明)] : 投票に関する短い説明を入力します。

[URL] : マルチメディアデバイスで青色の [More info (詳細)] ハイパーリンクをクリックすると、DcnmMeetingDocuments Web サイトに保存されているドキュメントが表示されます (マルチメディアデバイスのみ)。

[Vote settings (投票設定)]

[Answer set (回答セット)] :

次のオプションを備えたドロップダウンリストです。

- [Yes/Abstain (はい/棄権)] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません)
- Yes/No (賛成/反対)
- Yes/No/Abstain (賛成/反対/棄権)
- Yes/No/Abstain/DNPV (賛成/反対/棄権/参加しない)
- [For/Abstain (賛成/棄権)] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません)
- For/Against (賛成 / 反対)
- For/Against/Abstain (賛成 / 反対 / 棄権)
- For/Against/Abstain/DNPV (賛成/反対/棄権/参加しない)

- [A/B] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません)
- [A/B/C] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません)
- [A/B/C/D] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません)

**注記!**

DNPV (投票に参加しない)。このオプションを選択すると、参加者は「投票に参加したくない」ことを示すことができます。

**注記!**

DCNM-DVT および DCNM-FVP では、文字 A、B、C、および D が表示されません。これらの装置では、文字は次の色で表されます。

A - 緑色

B - 赤

C - 黄色

D - オレンジ色

ボタン :

- [Hide answer buttons after casting vote (投票後に回答ボタンを非表示にする)] : 選択すると、デバイスの回答ボタンには投票したかどうかということ自体が表示されません。これにより、個々の結果を表示したり保存したりしないようにすることと併用した場合、他の参加者に影響を与えることを防ぎ、投票プロセスを可能な限り匿名で保持できます。[Store results (結果の保存)] の設定に応じて、集計結果と個々の結果を引き続き DICENTIS サーバーに保存できます。
- [Vote can be changed after casting (キャスト後に投票を変更可能)] : デフォルトで選択されており、参加者は投票後に投票を変更できます。このオプションの選択を解除すると、参加者は投票後に投票を変更できなくなります。
- [Cast vote if no vote is cast upon closing of the voting round (投票ラウンドの終了時に投票が行われなかった場合に投票する)] : このオプションを選択すると、会議に出席し、または出席ボタンを押した参加者が、投票ラウンドの終了まで投票しなかった場合に、どの回答に投票したものであるとして自動的に処理するかを設定できます。そのような参加者の回答として自動的に投票する投票オプションをドロップダウン リストから選択できます。フィールドのデフォルト値は [Abstain (棄権)] です。[Abstain (棄権)] が選択できない場合は選択した回答セットの最後の投票オプションが選択されます。間違いを防ぐため、回答セットを変更すると、このオプションは無効になります。
- **有効な投票を行うには、投票ラウンドが終了するまで、回答ボタンと不正通知スイッチを押し続ける必要があります。** 選択した場合、投票を行うには、参加者は、投票ラウンドが終了するまで 2 つのボタン (回答ボタンと不正通知ボタン) を押す必要があります。これにより、参加者が自分以外の投票を行うことができなくなります。
この機能は、長押しボタンが接点入力に接続されているフラッシュマウント投票パネルを使用している参加者に対してのみ機能することに注意してください。ボタンの設置の詳細については、DICENTIS 会議システムの設置マニュアルを参照してください。

[Voting timer (投票タイマー)] :

投票の時間を定義します。投票時間は、マルチメディアデバイスおよび会議アプリケーションの投票画面に表示されます (DCNM-MMFF、DCNM-MMD2、および参加者アプリケーションにのみ該当)。

投票タイマーには、次のようなラジオボタンのオプションがあります。

- [No voting timer (投票タイマーなし)] : このオプションを選択すると、投票タイマーは使用されず、投票タイマーの [Duration (継続時間)] ボックスは非表示になります。
- [Keep voting round open when time is reached (時間になると投票を開いた状態を維持)] : このオプションを選択すると、投票の時間が過ぎても、投票は開いた状態のままになります。参加者はまだ投票したり投票の内容を変更したりできます。追加の時間は負の値で表示されます。例えば、投票の時間が 30 秒間 (00:30) に設定されていた場合、1 分後に「-00:30」と表示されます。投票時間が -9:59 になるとカウントダウンは停止しますが、投票は手動で終了されるまで開いたままになります。
- [Hold voting round when time is reached (時間になると投票を保留)] : このオプションを選択すると、投票の時間が過ぎたとき、投票が保留になります。投票は、必要に応じて再開したり、保留にしたりすることができます。追加の時間は負の値で表示されます。参加者はまだ投票したり投票の内容を変更したりできます。
- [Close voting round when time is reached (時間になると投票を終了)] : このオプションを選択すると、投票の時間が過ぎたとき、投票は終了します。参加者はこれ以降、投票したり投票の内容を変更したりすることはできません。投票は指定された時間内に行う必要があります。
- [Duration (継続時間)] : 投票タイマーの値を入力します。上 / 下の矢印を使用して、時刻の分と秒を選択します。

多数:

- [Present button (出席ボタン)] : 選択されている場合、参加者は投票前に [Present (出席)] ボタンを押す必要があります。この設定は、全員が [Present (出席)] ボタンを押して 100% にする必要がある場合には、分母に [Present (出席)] 変数も入力して有効にします。実際には投票していないくても、出席ボタンを押す場合は十分にあります。
- [Vote weight (格差) の使用] : このオプションを選択すると、会議中に参加者ごとの格差を構成できます。これにより、参加者が会議に欠席した別の人のために投票すること (代理投票) が可能になります。票の格差は、[Vote weight (格差)] で選択または入力された数によって決まります。合計投票数は [Vote weight (格差)] の後に角括弧で囲まれて示されます。例えば、会議の参加者が 7 人であり、そのうちの 1 人の格差が 2 である場合、合計投票数は 8 になります。格差はすべての投票タイプ (無記名、記名など) で使用でき、API 結果、会議結果 XML ファイル、投票結果 XML ファイルで表示されます。
- [Majority calculation (多数計算)] 有効にした場合、回答の結果が true または false かどうか自動的に計算されます。回答情報は、会議アプリケーション、シノプティックコントロール、.NET API、および会議プロトコルで確認できます。
 - [Majority expression (多数定数)] : 表の右側にあるボタンを使用して [In favour (賛成)] フィールドと [100% setting (100% 設定)] フィールドに変数を挿入するか、回答フィールドに変数を入力します。
 - [Test result (テスト結果)] : テストの値を使用して回答を検証できます。回答が true の場合、テスト結果ボックスの色が緑色に変わり、false の場合は赤色に変わります。回答が無効の場合はオレンジ色に変わります。

例：多数に達するために投票権のある参加者の半数以上が賛成票を投じる必要がある場合、多数回答は次のようになります。

$Yes / VoteRights > 0.5$ (はい / 投票権保有者 > 0.5)

注：[Majority (多数)] は会議アプリとシノプティックコントロールに棒グラフで表示されます。正しく表示するために、値は 0 ~ 1 までと > または ≥ を使用する必要があります。これらの条件が満たされない場合、棒グラフは表示されず、回答に基づいて、true または false のみが表示されます。

結果：

さまざまな参加者の表示権限を差別化するために、参加者、VIP 表示権限を持つ参加者、および会議の管理権限を持つ参加者に対して個々、グループ、および合計の各結果の設定を適用できます。

この設定は API (会議アプリケーション、シノプティックコントロール、および API を使用するカスタムビルドのアプリ) を使用する外部システムにも適用されます。

注：操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合、VIP 権限を持つ参加者と会議管理権限を持つ参加者の設定オプションは使用できません。

- [Set results for (結果の設定条件)] :
 - [Open voting round (記名投票)] : 「記名投票」を構成します (「記名投票」は「公開投票」と呼ばれることもあります) 。個々の投票結果を見ることができます。このオプションを選択すると、個々の投票のデータは DICENTIS サーバーの XML ファイルに保存され、API 経由で外部システム (会議アプリケーションおよびシノプティックコントロールを含む) に渡されます。詳細については、「投票結果ファイル」を参照してください。
 - [Secret voting round (無記名投票)] : 無記名投票を構成します。個々の投票結果は表示できません。このオプションを選択すると、投票したかどうかということ自体を非表示にできます。個々の結果はマルチメディアデバイス、会議アプリケーション、API に表示されず、DICENTIS サーバーから、または API 経由で取得することもできません。
- [Display results (結果の表示)] :
 - [Individual vote is cast (個人票を投じる)] : この設定は、票を投じた参加者を表示しますが、票の内容は表示されません。
 - [Display individual and group results (個々およびグループの結果の表示)] : この設定は個々およびグループの結果の表示します。
 - [投票合計] : この設定は投票数を表示しますが、投票内容は表示されません。
 - [Display total results (合計結果の表示)] : この設定は合計結果を表示します。
 - [Display majority (多数を表示)] : この設定は多数の状態を表示します。
- [Selection (選択)] :
 - [Always (常時)] : 結果が常に表示されます。
 - [On hold/closed (保留 / 終了時)] : 保留または終了になったときに、結果が表示されます。
 - [On accepted/rejected (受理 / 拒否時)] : 投票が受理または拒否されたときに、結果が表示されます。
 - [Never (常に非表示)] : 結果は常に表示されません。

**注記!**

個々およびグループの投票結果は、マルチメディアデバイス、ディスカッションデバイス、会議アプリケーションのいずれにも表示されません。個々の結果は、上記のオプションの 1 つ以上が選択されている場合に、参加者がシノプティックコントロールにログインすると表示できます。

**注記!**

参加者が DICENTIS Web サーバーにログインすると、外部システムと参加者の両方の構成ルールが適用されます。まず、外部システムの制限 (設定) が適用され、次に参加者の制限 (設定) が適用されます。

例:

外部システムに対して [Display individual and group results (個々およびグループの結果を表示)] が [On hold/closed (保留 / 終了時)] に設定され、参加者に対して [Display individual and group results (個々およびグループの結果を表示)] が [Always (常時)] に設定されている場合、中間結果が API に渡されないため、保留 / 終了時の結果が表示されます。

- [Store results (結果の保存)] : 結果が DICENTIS サーバーでどのように処理されるかを決定します。
 - [Individual and totals (個々および合計)] : 合計および個々の結果が保存されます。
 - [Only totals (合計のみ)] : 合計結果のみが保存されます。
 - [Do not store totals (合計を保存しない)] : いずれの結果も保存されません。

注: 次の条件が満たされる場合、投票は無記名投票です。

1. 参加者の [Display Individual and group results (個々およびグループの結果を表示)] で、[Never (常に非表示)] を選択した場合。
2. VIP の [Display Individual and group results (個々およびグループの結果を表示)] で、[Never (常に非表示)] を選択した場合。
3. 会議の管理権限を持つ参加者の [Display Individual and group results (個々およびグループの結果を表示)] で、[Never (常に非表示)] を選択した場合。
4. [Store results (結果の保存)] で、[Only totals (合計のみ)] または [Do not store totals (合計を保存しない)] を選択した場合。

他のすべての状況では、投票は記名投票です。

[Save settings as default (設定を既定値として保存設定)] ボタン: 選択した投票の [Vote settings (投票設定)] を、新しい投票を作成するための既定値として保存します。

**注記!**

[Save settings as default (設定を既定値として保存設定)] 機能は、同じ投票設定を持つ投票を複数作成する場合に有用です。

- 次のようにボタンを使用します。
 - ツリーで緑色のアイコンをクリックして、再利用する投票を選択します。
 - [Save settings as default (設定を既定値として保存設定)] ボタンをクリックします。
 - [Voting script (投票スクリプト)] をクリックし、[+] アイコンを使用して、お気に入りの設定で新しい投票を作成します。

5.3.12

投票設定

この機能は、プレミアム ライセンスとアルティメット ライセンスでのみ利用できます。

[**Voting settings (投票設定)**] ページで、デフォルトの投票オプションを設定します。

これらの設定は、以下の時点で使用されます。

- 新しい投票ラウンドの作成時
- 臨時投票ラウンドの開始時。

詳細については、「*投票の詳細*, ページ 65」の「**投票設定**」を参照してください。

5.3.13

通訳の準備

この機能は、アルティメット ライセンスでのみ使用できます。

幹事は、会議前または会議中に会議アプリケーションまたは API を使用して、通訳デスクをリモートで構成できます。次の会議設定を通訳用に構成する必要があります。

- 会議に必要な言語 (会議アプリケーションの構成言語リストから)。すべてのブースに適用されます。
- 言語を DICENTIS 通訳デスクまたは外部入力に割り当てます。
- 通訳デスク A、B、および C 出力の言語を設定します。
- オートリレーブースを設定します。

構成手順：

1. [**Prepare (会議設定)**] > [**Meetings (会議)**] の順に開きます。
2. 通訳設定を構成する会議を選択し、[**Meeting details (会議の詳細)**] を開きます。
3. [**Interpreting (通訳)**] を選択します。
4. [**Use default room settings (デフォルトの会議室設定を使用する)**] はデフォルトで有効になっています。会議のデフォルト設定 ([**Configure (構成)**] > [**Rooms (会議室)**] から構成) を使用する場合は、設定をそのままにします。
5. 会議のデフォルト設定を使用しない場合は、[**Use default room settings (デフォルトの会議室設定を使用する)**] をオフにします。以下では、この会議の言語設定とデスク割り当て設定を定義できます。
 - **Language selection (言語選択)**。ここでは、会議で使用可能な言語を (定義済みの言語リストから) 選択し、言語とそのソースの順序と外観 (DICENTIS、DCN NG / Dante ゲートウェイ、または Dante™) を変更できます。オプションの詳細な説明については、「*言語選択*, ページ 85」を参照してください。
 - **Interpreter seats (通訳者の座席)**。ここには次の情報が表示されます。ブース、デスク、ステータス、デバイス情報、選択した A、B、C 出力、および選択したヘッドフォン。これらの設定を変更するには、1 つ以上の行を選択して、[**Edit (編集)**] をクリックします。
[**Desk and Booth settings (デスクとブースの設定)**] ペインが表示されます。複数の行を選択した場合、複数のブース / デスクに設定が適用されていることを示すために、"ブース：複数" と "デスク：複数" が表示されます。オプションの詳細な説明については、「*通訳デスク*, ページ 89」を参照してください。

ヒント： [**Rooms (会議室)**] からの構成設定はデスクに保存されています。出力言語は

[**Rooms (会議室)**] で設定された言語と異なる場合があるため、多くの場合、デスクの出力言語を再設定する必要があります。これは、すべてのデスクを選択して、[**Auto Configure (自動構成)**] ボタンをクリックすると簡単に設定できます。

注： デスクに番号のない A/B/C 出力を表示すると、これらの言語は会議に含まれません。会議に含まれる言語が A 出力にない場合、デスクは無効になっています。

6. 設定を保持するには [**Apply (適用)**]、キャンセルするには [**Discard (破棄)**] をクリックします。

5.4 Configure (設定)

[**Configure (設定)**] を使用して、システムの設定と構成を行います。メイン画面の構成を開始するには、[**Configure (設定)**] をクリックします。[**Configure (設定)**] 画面が開きます。この画面内を移動するには、左側のペインのツリーを使用します。ツリーのメニュー項目を開くには、小さい三角形をクリックします。

設定では以下のことができます。

- ユーザーグループの追加。
- ユーザー情報の追加、変更、または削除。
- 会議室設定の定義。

前提条件

- ログイン済みユーザーには、ユーザー権限「**Configure system (システムを構成)**」が必要です。

5.4.1 ユーザーグループ

ユーザーグループを定義するには権限が必要です。各ユーザーグループに対して権限を定義することにより、さまざまな種類のユーザーグループを作成できます。ユーザーグループの例には、「幹事」や「オペレータ」などがあります。

- ユーザーグループの追加、削除、コピーを行うには、**編集アイコン**を使用します。
- [**Access Rights (アクセス権限)**] : ユーザーグループごとに複数のオプションを選択できます。
- [**Authentication (認証)**] : ユーザーグループごとに [**Windows Authentication (Windows 認証)**] を選択できます。これを有効にすると、ユーザー名とパスワードは、Windows 認証サーバーのデータを使用して検証されます。これを無効にすると、パスワードは **DICENTIS 会議アプリケーション** に保存されているパスワードを使用して確認されます。

[**Windows Authentication (Windows 認証)**] を使用する場合、DICENTIS サービスを実行している PC と MMD が、Windows 認証サーバーにアクセスできる必要があります。ユーザー名はドメインと組み合わせて使用する必要があります。たとえば、*USA|Bill* のように指定します。ここで、*USA* はドメイン名で、*Bill* はユーザーのユーザー名です。

5.4.2 ユーザー

システムにログインする必要があるユーザーを追加するには、ツリー内の [**Users (ユーザー)**] をクリックします。

ここにはユーザーが表示されます。ユーザーを追加または削除するには、**編集アイコン**を使用します。

各ユーザーに対して、[**General (全般)**] フィールドと [**Security (セキュリティ)**] フィールドを入力できます。

- [**General (全般)**] フィールドは、例えば氏名、職責、国などです。

- [**Security (セキュリティ)**] フィールドは、会議アプリケーション、マルチメディアデバイス、および参加者アプリケーション (参加者が一時的な座席割り当てを使用する場合) へのログインを可能にするために使用されます。

5.4.3

言語

操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、会議アプリケーションのこのセクションは使用できません。

会議アプリケーションで定義済みの言語は削除できません。ただし、独自の (カスタム) 言語を追加または削除したり、会議の準備中に言語を表示するために使用する並べ替え順序を設定したりすることはできます。

カスタム言語を追加するには、次の手順を実行します。

1. [**Configure (構成)**] > [**Languages (言語)**] に移動します。
2. + 記号をクリックして新しい言語を追加します。リストに空白行が挿入されます。
3. [**Sorting order (並べ替え順序)**] に番号 (たとえば 26) を入力します。言語の並べ替え順序の番号は変更できます。これは、技術者が言語のセットアップを容易に構成するのに役立ちます。
「[言語選択, ページ 85](#)」を参照してください。
4. [**Language (言語)**] に名前 (たとえば「Swahili (スワヒリ語)」) を入力します。これは概要説明として使用されます。
5. [**Original name (元の名前)**] に言語の元の名前を入力します。たとえば、「Swahili (スワヒリ語)」を「Kiswahili」として表示できます。
6. [**Abbreviation (略称)**] に言語の略称を入力します。たとえば SWA です。「Swahili (スワヒリ語)」を OMI 出力 2 に割り当てた場合、ディスカッションおよびマルチメディアデバイスでは「26 Kiswahili」(番号と元の名前) として表示できます。
7. [**Short abbreviation (略称)**] には、言語の公式の 2 文字コードが表示されます。
8. オプションの [**User defined (ユーザー定義)**] には、ユーザー定義の略称を入力します。たとえば、ドイツ語の公式な略称は "DE" ですが、ユーザー定義の略称として「GER」と入力することもできます。ユーザー定義の略称が入力されていない場合、[**No (なし)**] と表示されます。

言語が表示される方法は、[**Language (言語)**] > [**Language is displayed on device as (デバイスで言語を次のように表示)**] で選択した設定によって決まります。

カスタム言語を削除するには、削除する行を選択して - 記号をクリックします。

5.4.4

会議室設定

[**Room (会議室設定)**] には、会議室に関連するすべての設定が含まれています。

会議室の詳細を変更するには、ユーザー権限「**Configure system (システムの構成)**」が必要です。

会議室設定の詳細

- [**Automatic seat assignment (座席の自動割り当て)**] : このチェックボックスをオンにすると、システムに接続された新しいデバイスは自動的に座席に割り当てられます。
システムの構成が終わったら、[**Automatic seat assignment (座席の自動割り当て)**] チェックボックスをオフにします。これにより、デバイスの交換や座席の追加などに関して、システムでさらに詳細な制御を行えるようになります。

- [**Participant's device GUI language (参加者デバイスの GUI 言語)**] : ドロップダウンリストを使用して、グラフィカルユーザーインターフェイスを備えたすべてのデバイスで必要とされる GUI の言語を選択します。この設定は、[**Persons (登録者)**] ページの GUI 言語設定で無効にできます。
操作モードが [**DICENTIS wireless system (DICENTIS ワイヤレスシステム)**] に設定されている場合、選択した言語がすべてのデバイスに適用されます。DICENTIS ワイヤレス会議システムで利用可能な言語からのみ選択できます。利用可能な言語を確認するには、DICENTIS ワイヤレス会議システムの構成マニュアルを参照してください。
- [**ScreenLine definition (スクリーンラインの定義)**] : ここでは、スクリーンラインを定義します。スクリーンラインを有効にするには、[**Apply (適用)**] ボタンをクリックします。登録者またはユーザーの [**General (全般)**] フィールドに入力した情報 (つまり名、姓、ミドルネーム、役職、地域、国) は、記述の直前に \$ 記号を使用して、ここに挿入します。
スクリーンラインの定義例 : \$FirstName \$LastName \$MiddleName \$Title \$Region \$Country
オプションで、フィールドの後に括弧に入れた数字を追加することで、表示される項目の文字数を 1 ~ 99 に制限します。1 より小さい数字または 99 より大きい数字は、通常テキストとして解析されます。スクリーンラインのエントリには、上記の項目が少なくとも 1 つ含まれている必要があります。エントリが受け付けられない場合、赤いボックスに囲まれて表示されます。
- [**Meeting notes location (会議メモの場所)**] : 会議メモの場所をここで定義します。デフォルトでは、会議メモはサーバー PC の \ProgramData\Bosch\DICENTIS に保存されます。
必要に応じて、[**Browse (参照)**] ボタンを使用して別の場所を選択します。会議メモの詳細については、「*DICENTIS Web* サーバー, ページ 102」を参照してください。
- [**Power off devices when system is idle for (デバイスの電源をオフにするまでのシステムのアイドル時間)**] (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) : この機能は、システムが一定時間アイドル状態になったときに、節電して機器の寿命を延ばすために、参加者のデバイスと通訳デスクの電源を自動的にオフにするためのものです。
注 : システムがアイドル状態であると見なされるのは、発言者リスト (順番待ち列) が空で、DICENTIS 通訳デスクのマイクがアクティブでないときです。マイクモードが [**Voice (音声)**] の場合、このモードは無効になります。
注 : このオプションでは、DICENTIS の (オーディオ) 電源スイッチングハブの高電力出力の 48V を無効にすることで、システムをオフにします。

**注記!**

PoE スイッチに接続されているディスカッションデバイスと通訳デスクの電源はオフになりません。

参加者のデバイスと通訳デスクは、次の方法により電源をオンにできます。

- 会議アプリケーションの電源オン機能。
- シノプティックコントロールの電源オン機能。
- DCNM-APS2/DCNM-PS2 (または DCNM-APS/DCNM-PS) の低電力または常時オンの DICENTIS 出力に接続されたマルチメディアデバイスの電源オン機能。
- 5.5.5 章の DICENTIS 設置マニュアルに記載されている回路図に従って、物理的な力をボタンに加える。

この機能は、新しいシステムではデフォルトで有効になっています。また、システムソフトウェアをバージョン 3.2 にアップグレードすると、デフォルトで有効になります。

- **Room name (会議室名)** : 他の DICENTIS システムと簡単に区別できるよう、会議室名を入力します。名前は必要に応じて設定できます。設定後、名前は次の場所に表示されます。
 - 会議アプリケーション。
 - .Net API。
 - DICENTIS Web サーバー。
 - 会議プロトコル。
 - 会議メモと投票メモ。
- **Room contact email (会議室の連絡用メールアドレス)** : 将来のリリース用。
- **[Operation mode (操作モード)]** : DICENTIS 有線システムまたは DICENTIS 無線システムに設定できます。
- **[HTTP proxy devices (HTTP プロキシデバイス)]** (操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は利用できません) :
 - **[Proxy address (プロキシアドレス)]** : プロキシサーバーを実行しているホストのアドレス (IP アドレスまたはホスト名) 。
 - **[Proxy port (プロキシポート)]** : プロキシサーバーを実行しているホストのポート番号。これは、プロキシサーバーがクライアントをリッスンするポートです。
- **[Image server info (画像サーバー情報)]** :
 - **[Image server url (画像サーバー URL)]** : 画像サーバーを実行しているホストのアドレス (IP アドレスまたはホスト名) 。デフォルトでは、DICENTIS 会議アプリケーションがインストールされているのと同じ PC です。パフォーマンスやスペースの問題を避けるには、画像サーバーを異なるコンピューターにインストールすることができます。「異なるコンピュータへの画像サーバーのインストール, ページ 178」を参照してください。
 - **[Test image server connection (画像サーバー接続のテスト)]** ボタン : 画像サーバー接続が機能しているかどうかをテストするために使用します。構成が正しく機能していると、メッセージ「**Successful (成功しました)**」が表示されます。これは特に、画像サーバーを異なる PC に移動した場合に役立ちます。

注記!

[Discussion profiles (議論プロファイル)] で **[Display image of newest speaker (最近の発言者の画像を表示)]** を有効にした場合、システムに 500 を超えるマルチメディアデバイスがある場合、DICENTIS サーバーに高い CPU 負荷が発生します。これを防ぐには、別の画像サーバーを使用して DICENTIS サーバーの負荷を軽減します。

- **[Customer logo (カスタマーロゴ)]** : **[Change (変更)]** をクリックして、次の場所に表示されるロゴ (たとえば企業ロゴ) を選択します。
 - マルチメディアデバイス (DCNM-MMD と DCNM-MMD2) のログイン画面。
 - タッチスクリーン付きディスカッションデバイス (DCNM-DE) のログイン画面。
 - マルチメディアデバイス (DCNM-MMD と DCNM-MMD2) のホーム画面。
 - タッチスクリーン付きディスカッションデバイス (DCNM-DE) の発言者リストの裏。
 - 会議アプリケーションのホーム画面とカメラビュー。

- マルチメディアデバイス (DCNM-MMD と DCNM-MMD2) のカメラビュー (カメラが構成されていない場合、または [Prepare (準備)] > [Discussion profiles (議論プロファイル)] > [Speaker Viewing Options (発言者表示オプション)] で [Display video on device (デバイスでビデオを表示)] が選択されていない場合)。「会議, ページ 59」を参照してください。

注 :

- ログ画像の推奨サイズは 1024 × 600 ピクセルです。マルチメディアデバイス (DCNM-MMD および DCNM-MMD2) の画面解像度は 1024 × 600 です。タッチスクリーン付きディスカッションデバイス (DCNM-DE) の画面解像度は 480 × 272 です。マルチメディアフル機能 (DCNM-MMFF) の画面解像度は 1920 × 1200 です。
- カメラビューで表示するために画像の各端が 150 ピクセル分トリミングされるため、選択したロゴは角の部分が無地にしておくことをお勧めします。
- 文字の読みやすさを最適にするため、背景が暗い色 (黒色が望ましい) の画像を使用することをお勧めします。テキストが読みにくくなるため、白色や明るい色の背景は使用しないでください。
- 縦横比が 1024 × 600 ピクセルと異なる場合、カメラビューウィンドウに適合するよう、画像は自動的に縦長に拡大されます (左側と右側が少しトリミングされます)。
- 操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合、この機能は使用できません。DCNM-WDE には、DICENTIS ワイヤレス会議システムの Web ブラウザーインターフェイスを通じて構成されたロゴが表示されます。

参照情報

- 会議, ページ 59

5.4.5

音声設定

操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、会議アプリケーションのこのセクションは使用できません。

このような状況では、DICENTIS ワイヤレス会議システムの Web ブラウザーインターフェイスを通じてオーディオを設定する必要があります。

- [Audio tones (音声トーン)] : [Set... (設定...)] および [Remove (削除)] ボタンを使用して、[Summon (召集)] および [Priority (優先)] のカスタムチャイムをアップロードおよび削除します。
音声ファイルの仕様は次のとおりです。
 - PCM 形式。
 - 16 ビットサンプル。
 - 48 k のサンプルレート。
 - モノラル。
 - 最大 700 KB のファイルサイズ。
- [Audio tones audible on headphones (音声トーンをヘッドホンに出力)] : 選択すると、音声トーンが参加者と通話者のヘッドホンに送信され、[Recorder (Int. floor) (レコーダ (通訳フロア))] に設定されている場合は [Out 2 (出力 2)] にも送信されます。デフォルトではオフです。
- [Mic (マイク)] : マイクに向かって誰かが話している場合、マイクの信号を表示します。
- [System (システム)] :

- [**Master volume (マスター音量)**] : デバイスのスピーカーと音声外部出力を制御するためのマスター音量。
- [**LSP**] : デバイスのスピーカーの音量をデシベル (dB) 単位で設定します。
- [**SR**] : 音声外部出力の音量を設定します。
- [**Change EQ... (EQ の変更...)**] : デバイスのスピーカーと音声外部出力の両方に対してイコライザを設定します。
- **ライン、Dante、および OMNEO 入力/出力 :**
 - [**In 1 (入力 1)**] : ライン/Dante™/OMNEO 入力 1 の感度を設定します。
 - [**Out 1 (出力 1)**] : ライン出力 1 の感度を設定します。
 - [**Ambient (アンビエント)**] : 入力 1 のアンビエント音声をオンまたはオフに設定します。
 - [**ON (オン)**] : マイクがアクティブでない場合、入力 1 に接続された音声は、デレゲートヘッドホンとレコーダ出力のみに転送されます。
 - [**OFF (オフ)**] (デフォルト設定) : 入力 1 に接続された音声は、常にデレゲートスピーカー、デレゲートヘッドホン、および PA 出力に転送されます。
 - [**In 2 (入力 2)**] : ライン/Dante™/OMNEO 入力 2 の感度を設定します。
 - [**Out 2 (出力 2)**] : ライン出力 2 の感度を設定します。
 - [**In 2 (入力 2)**] / [**Out 2 (出力 2)**] モード選択メニュー : ライン/Dante™/OMNEO 入力 2 およびライン/Dante™/OMNEO 出力 2 のモードを定義します。ドロップダウンリストの矢印をクリックして、次のいずれかを選択します。
 - [**LSP**] : このオプションを選択すると、デレゲートスピーカーからの音声は外部システムによって増幅されます。
 - [**Recorder (Int. floor) (レコーダ (通訳フロア))**] : このオプションを選択すると、音声を録音するか、通訳者に送信できます。
 - [**Mix - Minus (ミックスマイナス)**] : このオプションを選択すると、電話カプラなどを經由して 2 つのシステムが接続されている場合に、ハウリングが抑制されます。
 - [**Insertion (インサージョン)**] : このオプションを選択すると、外部システムによって音声処理/イコライズされます。このモードでもヘッドルーム補正は有効です。 [**Unprocessed (未処理)**] : 選択すると、[**In 2 (入力 2)**] / [**Out 2 (出力 2)**] から未処理のオーディオ (ドライ信号) を送受信します。
 - [**Mix - Minus unprocessed (ミックスマイナス未処理)**] : [**Dante In 2 / Out 2 (Dante 入力 2 / 出力 2)**] のみ。選択すると、入力遅延が 15 ミリ秒に増加し、ローカル音響フィードバックが抑制された後、Dante オーディオが挿入され、ハイブリッド会議でシステムを使用した場合に音声改善されます。
- **ハイブリッド会議の音声を設定するには :**
 1. Dante 入力 2 と出力 2 の音声を未処理のミックスマイナスに設定し、ミュートを解除します。
 2. Dante Controller で、DICENTIS-<hostname PC>MG のフロア用のマルチキャスト フローを作成します。
詳細については、「*Dante™ 互換デバイスの構成*, ページ 184」の章のマルチキャスト ストリームの作成方法に関するセクションを参照してください。
 3. Dante Controller を使用して、以下をルーティングします。
 - DICENTIS-<ホスト名 PC> Dante 出力 Out 2 から DICENTIS-<ホスト名 PC>-MG フロア
 - DICENTIS-<ホスト名 PC>-MG フロアから DICENTIS-<ホスト名 PC> Dante 入力 In2

注：Audinate から Dante Controller ソフトウェアをダウンロードしてインストールする必要があります。

- **Acoustic Feedback (ハウリング) :**
 - [**No Acoustic Feedback Suppression (AFS) (ハウリング抑制機能 (AFS) なし)**] : AFS 機能を「オフ」に設定します。
 - [**Natural speech Acoustic Feedback Suppression (ナチュラルスピーチハウリング抑制機能)**] : AFS 機能を「オン」に設定し、発言向けの自然なアルゴリズムを選択します。
 - [**Maximum Acoustic Feedback Suppression (最大ハウリング抑制機能)**] : AFS 機能を「オン」に設定し、発言向けの最大のアルゴリズムを選択することにより、高いシステム音量レベルでの音響フィードバック (ハウリング) のリスクを低減します。
注：音量レベルを高くすると音声アーチファクトが発生する可能性があります。
 - [**Loudspeaker is active when microphone is on (マイクがオンのときにスピーカーを有効にする)**] : マイクがオンのときに、デバイスのスピーカーを有効にします。
 - [**Attenuate headphone when speaking by x dB (発言時にヘッドホンの音量を x dB 下げる)**] : x はテキストボックスまたはスライダを使用して設定できます。x の範囲は 0 dB ~ 12 dB です。マイクがオンのときにデバイスのヘッドホンの音量が下がります。
- [**Mute (ミュート)**] : このオプションを選択すると、ライン入力/出力または Dante 入力/出力がミュートされます。入力 1/出力 1 用と入力 2/出力 2 用に別々のミュートボタンがあります。
- [**Test Tone (テストトーン)**] : システム内で音響をテストする目的で使用します。[**Off (オフ)**]、[**1 kHz**]、[**Sweep (スイープ)**] のいずれかを選択します。
注：[**Test Tone (テストトーン)**] オプションが選択されている場合、[**Test Tone (テストトーン)**] チェックボックスが [**System (システム)**] および [**Line Input / Output (ライン入出力)**] フィールドに表示されます。
- [**Headroom (ヘッドルーム)**] : [**Unprocessed (未処理)**] を選択した場合、ライン 2 出力と Dante 2 出力のヘッドルームを設定できます。範囲は 3 dB ~ 30 dB です。ヘッドルームとは、過渡ピークや大きい音が入力されたときにシステムがクリッピングするまでのバッファを指します。

5.4.6

音声ルーティングの設定

オーディオルーティングに関する次のオプションを使用できます。

- [**LSP**] : 外部音響拡声システムに接続可能な信号をオーディオ電源スイッチングハブの音声出力 2 から送信する場合は、このモードを使用します。オーディオ電源スイッチングハブでは、次の項目を設定できます。
 - 音声信号レベル。
 - 音声のイコライゼーション。オーディオ電源スイッチングハブの音声入力 2 の信号がフロア信号に追加されます。
- [**Recorder (Int. floor) (レコーダ (通訳フロア))**] : デフォルトの音声 I/O ルーティングモードです。外部音声レコーダまたは通訳システムに接続可能な信号をオーディオ電源スイッチングハブの音声出力 2 から送信する場合は、このモードを使用します。オーディオ電源スイッチングハブは、信号の音量レベルに影響を与えません。オーディオ電源スイッチングハブの音声入力 2 の信号がフロア信号に追加されます。
- [**Mix-minus (ミックスマイナス)**] : このモードを使用すると、電話カプラなどを使用して音声入力と音声出力 2 経由で 2 つのシステムが接続されている場合、ハウリングを抑制できます。

- **[Insertion (インサージョン)]** : このモードを使用すると、オーディオ電源スイッチングハブの音声出力 2 と音声入力 2 を使用して、外部の音声デバイスからの信号を追加できます。このモードでもヘッドルーム補正は有効です。未処理の信号が必要な場合は、設定をデフォルトの -30 dB のままにしておきます。

例 : 外部オーディオミキサーは、オーディオ電源スイッチングハブの音声出力 2 と音声入力 2 の間に接続します。

- **[Unprocessed (未処理)]** : このモードを使用すると、未処理の音声 (ドライ信号とも呼ばれます) が、オーディオ電源スイッチングハブの入力 2 と出力 2 で受送信されます。これらの設定の概要については、次の図を参照してください。

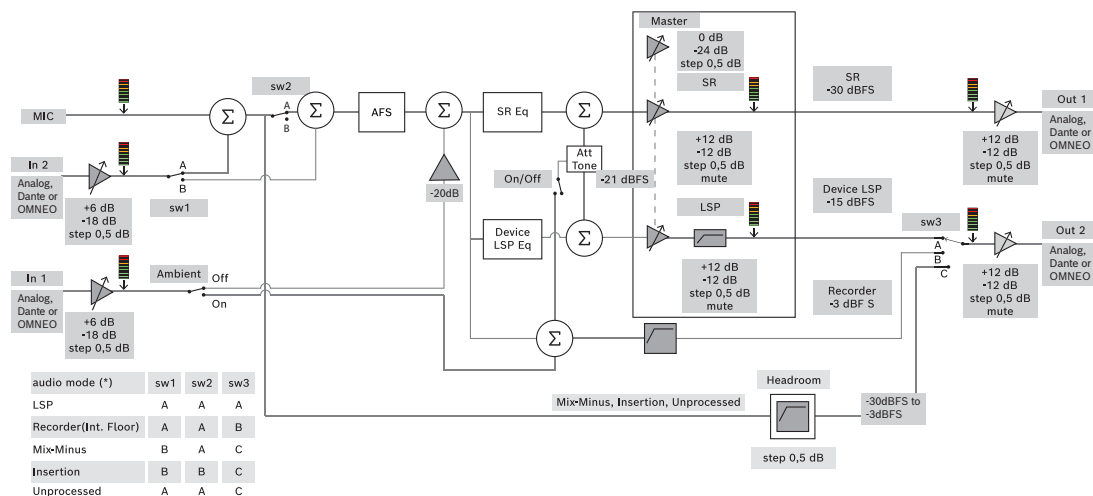


図 5.5: オーディオルーティングの設定

注記 :

- 入力 1 および 2 は、オーディオ電源スイッチングハブ、Dante™、または OMNEO 入力のアナログ入力とすることができます。
- 出力 1 および 2 は、オーディオ電源スイッチングハブ、Dante™、または OMNEO 出力のアナログ出力とすることができます。
- アナログ出力のみ -12 ~ +12dB の音量コントロールを備えています。
- アナログの Dante™ 入出力と OMNEO 入出力は、それぞれ別の構成で同時に使用できます。
- 入力/出力 2 がインサージョンモードに設定されている場合、順序はアナログ > Dante™ > OMNEO になります。

5.4.7

カメラ設定

DICENTIS は、ビデオ管理ソリューションとしてメディアゲートウェイを使用します。このセクションの URL をクリックしてメディアゲートウェイの Web ページに移動し、必要な設定を行います。詳細については、メディアゲートウェイ、ページ 126 を参照してください。

5.4.8

座席とデバイス

この画面の主な目的は、デバイスへの座席の割り当てと、デバイスからの座席の割り当て解除です。

[Rooms (会議室設定)] タブの下にある **[Automatic seat assignment (座席の自動割り当て)]**

チェックボックスをオンにすると、システムに新しく接続されたデバイスは、座席に自動的に割り当てられます。

座席の割り当てや割り当て解除を手動で行う場合は、[**Rooms (会議室設定)**] タブの下にある [**Automatic seat assignment (座席の自動割り当て)**] チェックボックスをオンにしてはなりません。[**Assign Device to Seat (デバイスを座席に割り当て)**] ボタンおよび [**Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)**] ボタンを使用して、デバイスを手動で割り当ておよび割り当て解除します。これらのボタンと関連オプションについては、次のセクションで説明します。

[**Seat Assignment (座席の割り当て)**] ペイン

- [**Configure mode (select on device) (構成モード (デバイスで選択))**] : デバイスの場所の確認に使用します。このオプションを選択すると、すべてのデバイスで [**Select device (デバイスを選択)**] ボタンが表示されます。このボタンまたはマイクボタンを押すと、次のようになります。
 - マイク LED のスイッチがオンになります。
 - 座席とデバイス名の隣にある [**Select (選択)**] 列に十字線が表示されます。デバイスが選択されているとき、十字線は青色の背景内に無色で表示されます。デバイスが選択されていないとき、十字線は無色の背景内に青色で表示されます。この機能は、大きな会議室で座席の位置を確認するとき、特に有用です。



注記!

[**Configure mode (構成モード)**] がアクティブな場合、デバイスはディスカッション目的に使用できません。マイクボタンを押すと、デバイスの位置を確認することができます。

シノプティックコントロールが使用されており、[**Configure mode (select on device) (構成モード (デバイスで選択))**] チェックボックスがオンになっている場合 :

- シノプティックレイアウトでアイコンを移動すると、デバイスのマイク LED が点灯します。これにより、構成の際に会議室内のデバイスを容易に識別できるようになります。
- デバイスの [**Select device (デバイスを選択)**] ボタンが選択された場合、シノプティックレイアウト内のアイコンが赤に変わります。
- デバイスの [**Microphone (マイク)**] ボタンが選択された場合、シノプティックレイアウト上のアイコンが赤に変わります。

注 : このオプションは、有効な会議がない場合のみ使用できます。有効な会議がある場合は、会議の邪魔になるからです。

[**初回のログイン, ページ 104**] も参照してください。

- [**Rename seats (座席の名前を変更)**] : 会議室での座席の位置を示す論理的な名前 (たとえば、「Row 1, Seat 1 (1 列目の座席 1) 」) を割り当てることができます。

[**Configure mode (構成モード)**] が有効でこのチェックボックスが選択されている場合は、選択される最初の座席の名前を入力できます。入力した座席名は、[**Select device (デバイスを選択)**] またはマイクボタンをタッチした最初のデバイス/座席に付けられます。連続するデバイスごとに、番号が 1 つずつ増加します。座席名にテキストのみが入力されている場合、値は増加しません。

次の点に注意してください :

- 座席名は参加デバイスのホスト名として使用されるため、Docent、Dante コントローラー、ファームウェアアップロードツール、およびログでデバイスを簡単に見つけることができます。ホスト名に使用できるのは ASCII 文字のみです。ASCII 以外の文字はハイフンに置き換えられま

す。

- システムが DICENTIS ワイヤレス会議システムに接続され、DICENTIS ワイヤレス会議システムの操作モードを DICENTIS 制御に設定すると、ワイヤレスデバイスはリストに「WDE-
<number>」と表示されます。

注記!



座席の名前を変更した後、[**Configure mode (構成モード)**] を選択解除して、ディスカッションデバイスを通常の状態に復元してください。[**Configure mode (構成モード)**] が有効である場合、会議を有効にすることはできません。その逆に、会議が進行中のときは [**Configure mode (構成モード)**] を使用できません。

- [**Select (選択)**] : 割り当てられたディスカッションデバイスの場所の確認に使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。[**Select (選択)**] の十字線をクリックして、マウスボタンを押したままにします。座席とデバイス名の隣に青色のチェックマークが表示されます。選択されたデバイスは下側のペインでも示されます。マウスのボタンをクリックするたびにデバイスの画面が点滅するので、マルチメディアデバイスに割り当てられた座席の位置を確認することができます。
- [**Name (名前)**] : 座席の名前です。このフィールドを選択するには、ダブルクリックします。新しい座席名を入力することができます。
- [**Status (状態)**] : 座席に割り当てられたマルチメディアデバイスの状態を示します。
 - 青色のチェックマーク : デバイスは座席に割り当てられています。
 - 赤色の x 印 : デバイスは座席から割り当て解除されています。
- [**Devices (デバイス)**] : 接続されているデバイスのリストです。
- [**VIP**] : 特別な登録者や座席に対して投票結果 (中間/保留/終了時の結果) を表示する権限を付与するために使用できます。投票結果の表示方法は、[**Vote settings (投票設定)**] > [**Results (結果)**] の設定によって異なります。「[投票の詳細, ページ 65](#)」を参照してください。
VIP 権限を持つ参加者/座席は、[**Discussion settings (議論の設定)**] の [**Show queue for participants (参加者に待機リストを表示)**] オプションが無効になっている場合でも待機リストを表示できます。「[議論プロファイル, ページ 54](#)」を参照してください。
- [**Discuss (議論)**] : 座席の「**Discussion (議論)**」権限を設定するために使用します。
- [**Manage meeting (会議の管理)**] : 座席の「**Manage meeting (会議の管理)**」権限を設定するために使用します。
- [**Priority (優先)**] : 座席の「**Priority (優先)**」権限を設定するために使用します。
- [**VIS type (VIS タイプ)**] (**Very Important Seat : VIS**) : このドロップダウンリストは、マイクモードやオープンマイク数に関係なく、座席に追加のマイク権限を割り当てるために使用します。
 - [**None (なし)**] : VIP 設定は選択されていません。
 - [**Button operated (ボタン操作)**] : マイクボタンを一度押すと、マイクが有効になります。これは、議長のデフォルト設定です。
 - [**Ptt Operated (PTT 操作)**] : Push-To-Talk。マイクボタンを押したままの状態の間、マイクが有効になります。これは、割り込みマイクに使用されるデフォルトの設定です。

- **[Voting (投票)]** : この機能は、プレミアム ライセンスとアルティメット ライセンスで利用できます。**投票機能**は、座席に割り当てることができます。この機能を備える座席の数が列のヘッダーに表示されます。このオプションを選択すると、次のようになります。
 - 空いている投票ライセンスの数が減ります。
 - 投票セッションを管理およびコントロールできます (DCNM-MMFF、参加者アプリケーション、DCNM-MMD2、会議アプリケーション、API)。
 - ライセンスが付与された DICENTIS デバイスで、デバイスのディスプレイにある色分けされた代表ボタンにタッチして投票することができます。
 - 投票結果は、色分けされた棒グラフとして会議デバイスのディスプレイ上に自動的に表示されます (会議アプリケーション、DCNM-MMD2、DCNM-MMFF、参加者アプリケーション、DCNM-DE、シノプティックアプリケーション、API)。

注 : 有効な会議内で投票を管理およびコントロールするには、ユーザー権限「**Manage meeting (会議の管理)**」が必要です。
- **[Identification (ID)]** : この機能は、プレミアム ライセンスとアルティメット ライセンスで利用できます。このボックスをオンにすることで、座席は会議の準備時に構成された本人確認プロセスに参加します。これにより、参加者のログイン ID 認証情報をライセンスが付与された座席に割り当てることができます。この機能を備える座席の数が列のヘッダーに表示されます。
- **[Language selection (言語選択)]** : この機能は、プレミアム ライセンスとアルティメット ライセンスで利用できます。言語選択機能は、座席に割り当てることができます。これにより参加者は、各自の座席で通訳言語を選択することができます。この機能を備える座席の数が列のヘッダーに表示されます。参加者のみが言語選択機能にアクセスできます。装置が参加者によって使用されていない場合、その機能はその装置では使用できません。
- **[Camera (カメラ)]** : この機能は、登録時にのみ利用可能で、プレミアム ライセンスおよびアルティメット ライセンスでは利用できません。このドロップダウンリストは、カメラを選択するために使用します。カメラ名は **[Camera settings (カメラ設定)]** で変更できます。「**カメラ設定**, ページ 78」を参照してください。
- **[Preposition (プレポジション)]** : この機能は、登録時にのみ利用可能で、プレミアム ライセンスおよびアルティメット ライセンスでは利用できません。オーバービューで使用するプレポジションを定義します。「オーバービュー用に選択されたカメラ」がプレポジションをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。
- **[Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)]** : 選択したデバイスを座席から割り当て解除します。

次のようにボタンを使用します。 **[Devices (デバイス)]** 列で、割り当て解除するデバイスをクリックします (その行は青色で強調表示されます)。 **[Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)]** ボタンをクリックします。 **[Status (状態)]** 列に、割り当てられていないデバイスを意味する赤いアイコンが表示されます。割り当てられていないデバイスの詳細は **[Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)]** ウィンドウに表示されます。Ctrl キーを押したまま、目的の行を左クリックすると、複数の行を選択できます。
- **[Delete empty seats (空席を削除)]** : 空席の行を削除します。空席の行は、上記で説明されているとおり、デバイスが座席から割り当てを解除されたときに作成されます。このボタンをクリックすると、複数の座席の行が同時に削除されます。
- **[Create Empty Seat (空席を作成)]** : 座席にデバイスを割り当てるために、新しい行を作成します。

- [**Edit (編集)**] : 複数の参加者と座席の設定を変更できます。Ctrl キーを押したまま、目的の行を左クリックすると、複数の行を選択できます。
- [**Dante out (Dante 出力)**] : 設定オプションを使用して、テーブルトップ型または埋め込み型ディスカッションデバイスを備えた各席の Dante 出力を設定します。これにより、Dante コントローラーを使用して、座席の個々のマイク出力を外部 Dante デバイスにルーティングできます。

次の点に注意してください :

- Dante ストリームごとに 1 つの DCNM-LDANTE ライセンスが必要です。Dante ソースの名前はシートの名前と同じです。シートには一意の名前を付けることをお勧めします。ディスカッションデバイスがデュアルに設定されている場合、このデバイスを使用する両方の席のオーディオは同じ Dante ストリームによってルーティングされます。
- Dante ユニキャストがサポートされています。サービスの再起動後、Dante マルチキャスト設定がクリアされます。
- Dante コントローラーを使用してデバイスをロックしないでください。
- 卓上ディスカッションデバイスの出力 02 のみを使用します。
- DCNM-FBD2 で Dante が有効になっている場合、サイド 2 の機能は無効になりますが、両方のマイク入力をサポートする演壇機能は引き続き有効です。



注記!

Dante 出力が [Always enabled (常に有効)] に設定されている場合、マイクのオーディオはデバイスの Dante 出力で常に利用できます。デバイスを使用する参加者は、オーディオを無効にしたり、ミュートしたりすることはできません。

[Unassigned Devices (未割り当てデバイス)] ペイン

- [**Select (選択)**] : 割り当て解除されたマルチメディアデバイスの場所の確認に使用します。次のようにボタンを使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます) 。 [**Select (選択)**] チェックボックスをクリックして、マウスボタンを押したままにします。座席名とデバイス名の横に青色の十字線が表示されます。マルチメディアデバイスの場所を確認しやすいように、マウスボタンをクリックするたびにデバイスの画面が点滅します。
- [**Name (名前)**] : インストール済みコンポーネントの名前 (例 : EINZ1315-MeetingApplication、MMD-5811430716101008-MultimediaDevice) 。
- [**Type (タイプ)**] : デバイスのタイプ (例 : MultimediaDevice) 。
- [**Serial (シリアル)**] : デバイスのシリアル番号 (例 : 5811430716101008) 。
- [**Version (バージョン)**] : デバイスのファームウェアバージョン (例 : 2.70.17663) 。
- [**Assign Device to Seat (デバイスを座席に割り当て)**] : 選択したデバイスを座席に割り当てます。既存のデバイスに不具合がある場合など、デバイスを交換するときにこのボタンを使用します。DICENTIS ネットワークに直接接続された参加者アプリは、デバイスの登録後、未割り当てデバイスとして一覧表示されます。ディスカッションデバイスと同様に、任意の座席に割り当てることができます。ボタンは次のように使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます) 。 [**Seat Assignment (座席の割り当て)**] ペインで、デバイスを割り当てる座席をクリックします。 [**Unassigned Devices (未割り当てデバイス)**] ペインで、 [**Assign Device to Seat (デバイスを座席に割り当て)**] ボタンをクリックします。

注 : DCNM-MMDOCK にドッキングされたタブレットで実行されている参加者アプリは、そのデ

バイスと自動的にペアリングされるため、座席に割り当て可能な個別のデバイスとしては一覧表示されません。DCNM-MMDOCK を座席に割り当てると、対応する参加者アプリも同じ座席に自動的に割り当てられます。

- [**Create Seat from Device (デバイスから座席を作成)**] : [**Seat Assignment (座席の割り当て)**] ペインで新しい座席の行を作成し、選択したデバイスをその座席に割り当てます。新しい座席の位置を簡単に作成し、自動的にデバイスを割り当てるには、このボタンを使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。[**Create Seat from Device (デバイスから座席を作成)**] ボタンをクリックします。デバイスおよび新しく作成された座席が [**Seat Assignment (座席の割り当て)**] ペインに表示されます。

注記!



同じ座席に 2 つのマイクを割り当てます。

たとえば、演壇または議長席の場合、DCNM-FBD2 を使用して 2 つのマイクを備えた座席を作成できます。1-A 装置と 2-A 装置の両方を同じシートに割り当てます。これにより、音声レベルが 1 つのマイクを備えた座席と等しくなるように、DCNM-FBD2 が自動的に構成されます。

これは、2 つのマイク入力を備えた DCNM-FBD2 にのみ適用されます。

このセットアップでは、デュアル機能を使用しないでください。

下側の [Overview (概要)] ペイン

このペインでは、マルチメディアデバイス、(オーディオ) 電源スイッチングハブ、ビデオスイッチャー、会議アプリケーション、カメラなど、すべてのインストール済みコンポーネントの概要とバージョンおよび状態が表示されます。このペインから、電源オフ機能や音量コントロール機能を有効化できます。また、診断にも有用です。

- [**Select (選択)**] : マルチメディアデバイスの場所の確認に使用します。
- [**Name (名前)**] : インストール済みコンポーネントの名前 (例 : EINZ1315-MeetingApplication、MMD-5811430716101008-MultimediaDevice)。
- [**Dual Use (24) (デュアルモード (24))**] : デバイスを 2 人の参加者が共有できるようにします (DCNM-FBD2、DCNM-D、DCNM-DE、DCNM-DSL のみ)。
- [**Type (タイプ)**] : コンポーネントのタイプ。
- [**Status (状態)**] : コンポーネントの動作状態。
- [**Serial Number (シリアル番号)**] : コンポーネントのシリアル番号。
- [**Version (バージョン)**] : コンポーネントのファームウェアのバージョン。
- [**Power Off (電源オフ)**] : デバイスがシステムの電源をオフにすることが許可されます (DCNM-MMD2、会議アプリケーション、シノプティックアプリケーション、API)。
- [**Volume Control (音量コントロール)**] : デバイスが主音量を制御することが許可されます (DCNM-MMD2、会議アプリケーション、API)。
- [**Paired using secure communication settings (安全な通信設定を使用してペアリング)**] (カスタムのセキュア通信設定を構成している場合のみ使用可能) : このチェックボックスを選択すると、接続されたデバイスがシステムとペアリングされ、そのデバイスにカスタムのセキュア通信設定が適用されます。チェックボックスをオフにすると、デバイスのペアリングが解除され、セキュア通信設定がデフォルトに戻ります (別の DICENTIS システムとデバイスをペアリングする場合などに使用)。

**注記!**

デバイスの [Paired using secure communication settings (安全な通信設定を使用してペアリング)] チェックボックスをオフにすると、そのデバイスはシステムによって検出されても、カスタムのセキュア通信設定を受け取りません。

5.4.9**参加者申込**

参加者アプリを構成するには、 [Seats and devices (座席とデバイス)] の [Participant app (参加者アプリ)] タブに移動します。ここでは、参加者アプリの登録プロセスを管理し、システムに登録されているアプリの概要を取得し、登録されているすべてのアプリのリストを検索できます。

[Participant app registration management (参加者アプリ登録管理)] ペイン

このペインでは、アプリをシステムに登録する方法を選択できます。

- **Username/password based registration (ユーザー名/パスワードベースの登録)** : アプリの手動登録を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。登録する参加者アプリを開き、ユーザー名とパスワードを入力します。プロセスを完了するには、 [Register (登録)] をクリックします。

注 : システムの構成権限を持つユーザーのみがこの操作を実行できます。

- **[Start Automatic Registration (自動登録を開始)]** : このボタンをクリックすると、DICENTIS サーバー ネットワークに接続されているすべてのアプリが自動的に登録されます。登録を手動で停止したり、希望の時間経過後に自動的に登録を停止するようにタイマーを設定したりすることができます。

[Information pane (情報)] パネル

このペインには、システム内でアクティブなアプリライセンスの数、接続されているアプリの数、登録されているアプリの数の概要が表示されます。システムには任意の数のアプリを登録できますが、システム上でアクティブにできる参加者アプリの数は、参加ライセンスの数と同じ数に限られます。

[Registered participant apps (登録参加者アプリ)] ペイン

ここでは、登録したアプリを管理できます。登録内容は保存されるため、すでに登録されているアプリについては、会議の開始時に登録プロセスを省略できます。登録済みアプリのリストは、各行がアプリに対応し、次の情報が含まれています。

- **[Device ID (デバイス ID)]** : アプリが実行されているタブレットの ID を表示します。
- **[Registration method (登録方法)]** : アプリがシステムにどのように登録されたかを示します。
- **[Last connection time (最終接続時刻)]** : アプリが最後に接続した時刻を表示します。
- **[Assigned to seat (座席に割り当て)]** : アプリが割り当てられている座席を表示します。アプリが座席に永続的に割り当てられている場合、フィールドにはそれぞれの座席名が表示されます。アプリが座席に一時的に割り当てられている場合、フィールドには「LINK」というテキストが表示されます。
 - 永久割り当て : これは、 [Seat Assignment (座席の指定)] の [Seats and Devices (座席とデバイス)] タブで実行されます。参加者アプリは「PAPP」というテキストで識別されます。ディスカッションデバイスを割り当てるのと同じ方法で、それらを座席に割り当てる

必要があります。

注：参加者がディスカッション機能を使用するには、座席にディスカッションデバイスも割り当てられている必要があります。

- [Temporary seat assignment (一時的な座席の割り当て)] : この割り当て方法を使用するには、参加者を会議に割り当ててから、会議を有効化する必要があります。参加者は、ユーザーアカウント (ユーザー, ページ 71 で設定) を使用して参加者アプリにログインした後、*Meeting details (会議の詳細)*, ページ 60 で定義されている識別メソッドを使用して座席にログインする必要があります。アプリは自動的にこの座席に割り当てられます。会議が終了すると、座席の割り当てはキャンセルされます。
- [Connected (接続済み)] : アプリの接続状態を表示します。
登録済みアプリのリストでは、次の操作を実行できます。
- [Manually add app by ID (IDでアプリを手動で追加)] : ID を入力し、+ アイコンを押して、アプリをリストに追加します。
- [Filter by (フィルター)] : 文字列を使用してデバイス ID で検索します。不明な文字のプレースホルダーとしてアスタリスクを使用します。
- [To remove an app from the list (リストからアプリを削除するには)] : 希望のアプリを選択し、- アイコンを押します。



注記!

ユーザー所有のタブレットで実行されている参加者アプリは、DCNM-MMDOCK デバイスに接続されている場合でも、登録が必要であり、DCNM-LPAPP-PE、DCNM-LPPP-P1Y、DCNM-LPUP-P1Y、DCNM-LPPP-S1Y、または DCNM-LPUP-S1Y ライセンスを使用します。



注記!

デフォルト構成の DICENTIS サーバーの場合、すべてが自動的に正しく構成されます。したがって、アクションは必要ありません。

DcnmSynopticControl サイトの SSL 証明書が変更されると、タブレットの登録は無効になり、更新する必要があります。詳細については、*参加者アプリの SSL 証明書の更新*, ページ 188 を参照してください。

5.4.10

言語選択

操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、会議アプリケーションのこのセクションは使用できません。

ここでは、次のものを構成できます。

- コントリビューションデバイスで使用可能な言語
- コントリビューションデバイスで言語を次のように表示 :
 - [Original (オリジナル)] : 言語の元の説明を表示します。
 - [Number and abbreviation (番号と略称)] : [Languages (言語)] で言語に割り当てられた番号を、略称とともに表示します。
 - [Number and original (番号とオリジナル)] : 言語の番号と元の説明を表示します。
 - [Abbreviation (略称)] : 言語の略称を表示します。

- [Skip unused (assigned) languages (未使用の (割り当て済み) 言語をスキップ)] : 未使用の言語 (" (---) " として表示される) が参加者のデバイスでスキップされます。通訳者の場合、使用されていない言語はスキップできません。これは、通訳者用デバイスのロータリを使用して入力をセットアップする際に、言語の順序やステップをカウントする機能に影響があるためです。
- [Dante I/O licenses (Dante I/O ライセンス数)] : Dante™ I/O ライセンスの数を次のように分けて示します。
 - [Total Dante I/O licenses (Dante I/O ライセンスの合計数)] : Dante™ I/O ライセンスの合計数を示します。
 - [Dante inputs (Dante 入力)] : 言語の入力に使用する Dante™ ライセンスの数を示します。
 - [Dante remote desk inputs (Dante リモートデスク入力)] : リモートデスクから送信される言語に使用する Dante™ ライセンスの数を示します。
 - [Send to Dante (Dante へ送信)] : Dante™ への言語の送信に使用するライセンスの数を示します。
 - [Unprocessed send to Dante (Dante への未処理送信)] : Dante™ への未処理の言語の送信に使用するライセンスの数を示します。
 - [Remaining Dante I/O Licenses (残りの Dante I/O ライセンス数)] : 残りの Dante™ I/O ライセンスの数を示します。

**注記!**

[Remaining Dante I/O Licenses (残りの Dante I/O ライセンス数)] の値が 0 より下の場合、参加者と通訳者は一部の言語を使用できません。

- [Unprocessed language streams (未処理の言語ストリーム)] : このチェックボックスをオンにすると、言語の 2 番目のストリームを作成するための追加オプションが有効になります。この 2 番目のストリームは、未処理の音声ストリームを必要とする外部参加者のために使用できます。また、言語ごとに [Unprocessed (未処理)]、[Headroom (ヘッドルーム)]、[Send to Dante (Dante へ送信)]、[Floor filling (フロアフィリング)] の各オプションを構成することもできます。

注 : DICENTIS システムでは、最大 100 個の言語ストリームをサポートしています。このオプションを有効にすると、言語ごとに 2 番目の未処理のストリームを作成できるように、言語の数が 100 から 50 に変更されます。

**注記!**

未処理の言語ストリームは、DICENTIS 通訳デスクから送信される言語についてのみ作成できます。

- [Languages (言語)] : 会議システムから受け取った使用可能な通訳言語が表示されます。
 - + 記号をクリックして新しい言語を追加します。言語は、[Sorting order (並べ替え順序)] の定義に従って自動的に入力されます。「言語, ページ 72」を参照してください。言語が言語リスト内に挿入されている場合は、空の言語 (---) が追加されます。言語がリストの最後に挿入されている場合は、挿入された言語は以前に使用された最も大きい番号の言語の後に追加されます。

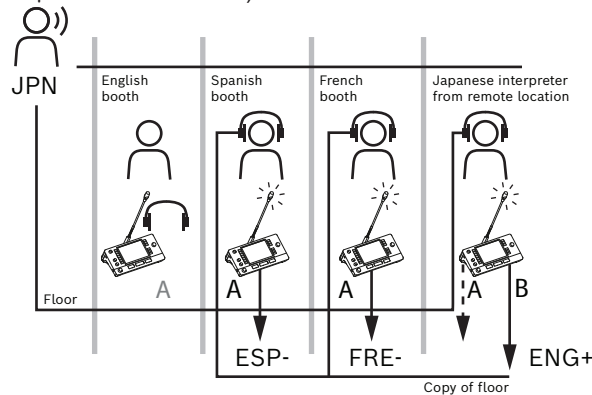
- **-記号**をクリックして言語を削除します。
- 言語の順序を変更するには、「上方向」や「下方向」をクリックします。
- **[Order (順序)]** : 言語が参加者のデバイスに表示される順序を示します。
- **[Language (言語)]** : 参加者のデバイスに表示される通訳言語を選択します。
- **[Source (ソース)]** : 参加者のデバイスで利用できる言語のソースを選択します。

次のオプションがあります。

- **[Default (デフォルト)]** : このオプションを選択すると、ソース言語は DICENTIS 通訳デスクからの言語になります。デバイスに対して通訳者の座席を割り当てたり、割り当てを解除したりする方法については、「[通訳デスク, ページ 89](#)」を参照してください。

言語が複数のソース (たとえば、DICENTIS、OMNEO、Dante™) から送信される場合も、[Default (デフォルト)] を選択します。言語を提供するソースを制御するには、シノプティックコントロール、会議プロトコル、または .NET API を使用します。

これにより、地域の通訳者 (DCNM-IDESK) がフロア言語を知っている場合はその通訳者が通訳し、地域の通訳者がフロア言語を知らない場合は遠隔地の通訳者 (DanteTM または OMNEO) が通訳できます。



- **[OMNEO]** : このオプションを選択すると、ソース言語は、OMNEO メディアインターフェイス (OMI) 経由で通訳デスクが接続されている DCN NG システムからの言語になるか、OMNEO ストリームを使用するネットワークと Dante™ ストリームを使用するネットワーク間のインターフェイスを強化する Dante ゲートウェイからの言語になります。OMI チャンネルの構成方法または Dante ゲートウェイの接続方法については、「[Floor and language routing \(フロアおよび言語ルーティング \)](#)」, ページ 96」を参照してください。
- **[Dante]** : このオプションを選択すると、ソース言語は Dante™ を使用するサードパーティのシステムからの言語になります。Dante™ のソースはマルチキャストである必要があります。構成オプションについては、「[Dante™ 互換デバイスの構成](#)」, ページ 184」を参照してください。

出力ごとに Dante™ I/O (DCNM-LDANTE) ライセンスが必要です。

最大 100 種類の言語を Dante™ マルチキャストストリームとして受信できます。言語ごとに 1 つの Dante™ ストリームのライセンスが必要です。Dante Controller には、DICENTIS で使用できる最大 100 種類の言語を表す 100 個の Dante™ レシーバが表示されます。Dante Controller の言語の番号には、DICENTIS 会議アプリケーションの言語リスト内の番号 (順序) との相関関係があります。

注 : 言語が Dante ソースとして設定されていないか、DICENTIS の [Send to Dante (Dante へ送信)] で設定されていない場合、Dante Controller に緑色のチェックマークが表示されません。

**注記!**

PC にイーサネットカードが 2 つある場合、DICENTIS サービスを操作している PC と同じ PC で Dante Controller を操作しないでください。これにより、Dante Controller に伴う問題を防止できます。

- [**Send to Dante (Dante へ送信)**] : DICENTIS がソースとして選択されている場合は、このチェックボックスをオンにすると、言語を Dante™ 経由でサードパーティのデバイスに送信することができます。出力ごとに Dante™ I/O (DCNM-LDANTE) ライセンスが必要です。最大 100 種類の言語を Dante™ マルチキャストストリームとして送信できます。言語ごとに 1 つの Dante™ ストリームのライセンスが必要です。Dante Controller には、DICENTIS で使用できる最大 100 種類の言語を表す 100 個のトランスミッタが表示されます。Dante Controller の言語の番号には、DICENTIS 会議アプリケーションの言語リスト内の番号 (順序) との相関関係があります。

**注記!**

DICENTIS システムの Dante™ ストリームは、サービスの一部である Dante 仮想デバイスにより、Dante Controller に表示されます。

Dante 仮想デバイスは音声を転送しますが、音声の制御や設定は行いません。そのため、クロック同期が赤色で表示され、ストリームに関するその他の情報が N/A となるか表示されなくなります。

- [**Displayed on device (デバイスに表示)**] : 言語が参加者のデバイスに表示される方法を示します。
- [**Unprocessed (未処理)**] : 選択すると、言語が未処理の OMNEO マルチキャストソースとして利用できるようになり、録音することや、別のシステムに送信することができます。
- [**Send to Dante (Dante へ送信)**] : 選択すると、言語が Dante™ マルチキャストソースとして利用できるようになり、録音することや、別のシステムに送信することができます。Dante™ 側では、言語 1 ~ 50 が通常の言語、言語 51 ~ 100 が未処理の言語です (たとえば、言語 78 は言語 28 の未処理の Dante™ ストリームです)。

注 : [**Send to Dante (Dante へ送信)**] を選択するには、まず [**Unprocessed (未処理)**] を選択する必要があります。

- [**Headroom (ヘッドルーム)**] : 言語のヘッドルームを調整できるようになり、受信システムの入力レベルを調整することができます。
- [**Floor filling (フロアフィリング)**] : 通訳がアクティブでないときに言語ストリームをフロア音声で埋めることができるようにする場合に選択します。
- [**Source (ソース)**] : リモート通訳用のソース (DICENTIS、OMNEO、Dante) を示します。1 つの言語のソースとして、DICENTIS 通訳デスク、OMNEO (OMN-DANTEGTW を使用する Dante™ ユニキャストストリームが、PRS-40MI4 を使用する DCN NG)、Dante™ マルチキャストストリームから複数を選択することもできます。

言語の選択/設定を有効にする

- デバイスで言語を選択できるようにするには、[**Seats and devices (座席とデバイス)**] 画面で [**Language selection (言語選択)**] チェックボックスをオンにします。「座席とデバイス、ページ 78」を参照してください。

**注記!**

マイクをオフにしたり、会議を中断したりせずに、言語の追加や削除を行うことができます。

5.4.11**通訳デスク**

操作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、会議アプリケーションのこのセクションは使用できません。

DCNM-IDESK、DCNM-IDESKVID の構成方法は 2 通りあります。

- 会議アプリケーションの通訳セットアップ。この機能にはアルティメット ライセンスが必要です。
- DCNM-IDESK/DCNM-IDESKVID デバイス自体の通訳セットアップ。「*IDESK の構成 (デバイス上での直接構成)*」, ページ 158」を参照してください。

どちらの方法でも、通訳デスクを構成する前に、会議アプリケーションで次の設定が行われていることを確認します。

- システム言語が [**Configure (構成)**] > [**Languages (言語)**] で定義されていること。言語リストはユーザー自身の言語で拡張でき、言語の順番も定義できるため、頻繁に使用する言語は一番上に配置されます。「*言語*」, ページ 72」を参照してください。

- 参加者用デバイスの使用可能言語が [**Configure (構成)**] > [**Rooms (会議室)**] > [**Language Selection (言語選択)**] で定義されていること。「*言語選択*」, ページ 85」を参照してください。

注：デバイスで言語を選択する必要がある場合は、[*座席とデバイス*」, ページ 78] 画面で [**Language Selection (言語選択)**] チェックボックスをオンにします。

会議アプリケーションの通訳セットアップ

会議アプリケーションによる構成には、アルティメット ライセンスが必要です。

[**Interpreter desks (通訳デスク)**] 機能を使用すると、通訳デスクのデフォルト設定を作成して、デバイスに対して通訳デスクを割り当てたり、割り当てを解除したりできます。

デバイスを手動で割り当ておよび割り当て解除するには、[**Assign device to desk (デバイスをデスクに割り当て)**] ボタンおよび [**Un-assign devices from desk (座席からデスクを割り当て解除)**]

ボタンを使用します。未割り当てデバイスからデスクを作成するには、[**Create Desk from Device (デバイスからデスクを作成)**] ボタンを使用します。これらのボタンと関連オプションについては、次のセクションで説明します。

- [**Configure mode (select on device) (構成モード (デバイスで選択)**)] : 通訳デスクの場所の確認に使用します。このチェックボックスを選択すると、すべての通訳デスクに [**Select device (デバイスを選択)**] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、次のようになります。

- マイク LED のスイッチがオンになります。
- 選択したデバイスの十字線記号の背景が青色で表示されます。

この機能は、多数ある通訳者ブースでデスクの場所を確認するとき、特に有用です。

**注記!**

[**Configure mode (構成モード)**] がアクティブな場合、デバイスはディスカッション目的に使用できません。マイクボタンを押すと、デバイスの位置を確認することができます。

[General settings (全般設定)]

次のマイクモードは、ブース間およびブース内で使用できます。

- [Merge (統合)] : 複数の通訳デスクで同じ言語のマイクをアクティブにすることができます。システムによってどのマイクで話されているかが検出され、そのマイクが通訳用に使用されます。統合は 1 つのブースから 2 つの言語を配信するときにも使用できます。
- [Interlock (インターロック)] : アクティブな通訳デスクの信号を他の通訳デスクで中断することはできません。
- [Override (オーバーライド)] : 他の通訳デスクでアクティブな通訳デスクの信号をオーバーライドできます。

ブース間の追加のマイクモードには次のものがあります。

- [Interlock on A and Override on B & C (A でインターロック、B および C でオーバーライド)] : チャンネル A の信号を別のブースの通訳デスクで中断することはできませんが、チャンネル B および C の信号をオーバーライドすることができます。

通訳デスク上の Enable (有効) チェックボックス設定は、デフォルトで選択されています。チェックボックスの選択を解除すると、次のようになります。

- B - B ボタンによる設定モードは無効になります。これにより、権限のないユーザーがデバイスを設定できなくなります。
- B - B ボタンを押すとウィンドウが開き、システム情報を表示したり、ディスプレイの明るさを調整したりできます。

注記!

通訳言語が通訳者によって提供されない場合は、DCNM-IDESK デバイスでその言語のフロア音声を受信することができます。これをフロアフィリングといいます。これを正しく動作させるには、DICENTIS によって提供される言語数とデバイス数が同じか、デバイス数の方が多い必要があります。

デバイスがフロアフィリングに失敗すると、フロアフィリングは自動的に他のデスクに引き継がれます。デバイスが見つからないことが確認されるまで、最大 15 秒かかります。

言語が 2 つのみの場合は、1 つのデバイスで両方の言語のフロアフィリングを提供できます。これは言語のソースが DICENTIS である場合にのみ実行できます。ソースが OMNEO または Dante™ である場合は、各システムでフロアフィリングを構成する必要があります。



スピークスロー設定

通訳者が、現在の発言者が通訳には速すぎるペースで話していることを信号で知らせることができます。議長は DICENTIS Web サーバーでこの信号を確認し、発言者にゆっくり話すよう要求できます。

- [Release time of speak slow request (スピークスロー要求のリリースタイム)] : [speak slow (ゆっくり話す)] ボタンを離した後で、通訳者からのスピークスロー要求が有効なまま維持される秒数を設定します。デフォルトは 1 秒です。
- [Minimum number of speak slow requests (スピークスロー要求の最少回数)] : スピークスロー信号をオンにするために有効にする必要がある、スピークスロー要求の回数を設定します。デフォルトは 3 回です。
- [Release time of speak slow signaling (スピークスロー信号のリリースタイム)] : リクエストの回数がしきい値を下回った後も、スピークスロー通知を有効なまま維持する秒数を設定します。デフォルトは 5 秒です。

例：アクティブな発言者の話す速度が速すぎるため、通訳者がスピークスロー要求を出します。スピークスロー信号は、スピークスロー要求が最少回数である3回に達すると有効になります。議長が、アクティブな発言者にゆっくり話すよう警告を出します。アクティブな発言者がゆっくり話し始めたら、通訳者は [speak slow (ゆっくり話す)] ボタンを離します。スピークスロー要求のリリースタイムである 1 秒が経過すると、スピークスロー要求は期限切れになります。スピークスロー通知は、スピークスロー信号のリリースタイムが経過した後も、5 秒間は有効なまま維持されます。

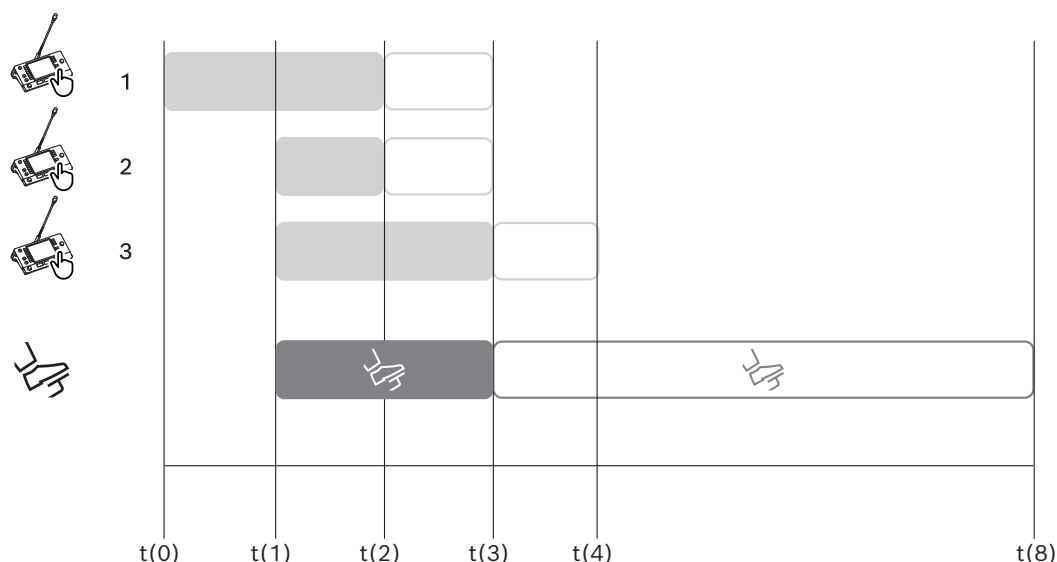


図 5.6: スピークスローの例

時刻	対応策	結果
t(0)	アクティブな発言者が通訳には速すぎるペースで話しています	
	通訳者 1 がスピークスロー要求を出します	スピークスロー要求が 1 回のみのため、スピークスロー信号は有効になりません
t(1)	通訳者 2 と 3 がスピークスロー要求を出します	リクエストが最少回数の 3 回に達したため、スピークスロー信号が有効になります 議長がアクティブな発言者にゆっくり話すよう要求します
t(2)	アクティブな発言者がゆっくり話し始めます	
	通訳者 1 と 2 が [speak slow (ゆっくり話す)] ボタンを離します	リクエストのリリースタイムである 1 秒のカウントが始まります 3 回のリクエストは有効なまま維持されます
t(3)	通訳者 3 が [speak slow (ゆっくり話す)] ボタンを離します	通訳者 3 からのリクエストに対するリリースタイムのカウントが始まります
	通訳者 1 と 2 からのリクエストのリリースタイムが期限切れになります	有効なリクエストが 1 つのみとなるため、スピークスロー信号のリリースタイムである 5 秒のカウントが始まります スピークスロー信号は有効なまま維持されます
t(4)	通訳者 3 からのリクエストのリリースタイムが期限切れになります	スピークスロー信号のリリースタイムは有効なまま維持されます。 スピークスロー信号は引き続き表示されたままとなります
t(8)	スピークスロー信号のリリースタイムが期限切れになります	スピークスロー信号を無効にするアクティブなリクエストがありません

ヘッドホン

Selectable headphones (選べるヘッドホン) をクリックすると、ドロップダウン リストが表示されます。

通訳者は選択可能なヘッドフォンのみを選択できます。通訳デスクで選択したヘッドフォンが選択可能なヘッドフォンのリストから削除された場合は、最初に使用可能なヘッドフォンが選択されます。

注 : DCNM-IDESK および DCNM-IDESKVID は ISO 20109 : 2025 に準拠しているため、選択可能なすべてのヘッドホンには聴覚保護機能が備わっています。

[Desk Assignment (デスクの割り当て)] ペイン

通訳デスクのデスク割り当てに関する情報を表示します。

- [Select (選択)] : 割り当てられたディスカッションデバイスの場所の確認に使用します。
行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。[Select (選択)] の十字線をクリックして、マウスボタンを押したままにします。選択したデバイスは、十字線記号の背景が青色で表示されます。選択されたデバイスは下側のペインでも示されます。マウスのボタンをクリックするたびにデバイスの画面が点滅するので、通訳デスクに割り当てられたデスクの位置を確認することができます。
- [Booth (ブース)] : デスクが割り当てられているブースの番号です。
- [Desk (デスク)] : デスクが割り当てられているデスクの番号です。
- [Status (状態)] : デスクに割り当てられた通訳デスクの状態を表示します。
 - 青色のチェックマーク : デバイスはデスクに割り当てられています。
 - 赤色の x 印 : 該当のデスクに割り当てられているデバイスがない、または割り当てられているデバイスがまだ接続されていないか検出されていません。
- [Devices (デバイス)] : デスクの名前。
- [A, B, C output (A、B、C 出力)] : 通訳デスクが通訳できる出力言語名を表示します。
- [E, F, G button (E、F、G ボタン)] : 各ボタンに割り当てられている機能を表示します。
- [Video sync (ビデオ同期)] : AV 同期の音声遅延に設定された値を表示します。
- [Headphones (ヘッドホン)] : 通訳デスク用に構成されているヘッドフォンを表示します。

[Desk Assignment (デスクの割り当て)] ペインの下にあるボタン

- [Un-assign devices from desk (デスクからデバイスを割り当て解除)] : 選択したデバイスをデスクから割り当て解除します。
次のようにボタンを使用します。[Devices (デバイス)] 列で、割り当て解除するデバイスをクリックします (その行は青色で強調表示されます)。[Un-assign Devices from desk (デスクからデバイスを割り当て解除)] ボタンをクリックします。[Status (状態)] 列に、割り当てられていないデバイスを意味する赤いアイコンが表示されます。割り当てられていないデバイスの詳細は [Unassigned Devices (未割り当てデバイス)] ウィンドウに表示されます。
- [Delete empty desks (空きデスクを削除)] : 空きデスクの行を削除します。空きデスクの行は、上記で説明されているとおり、デバイスがデスクから割り当てを解除されたときに作成されます。このボタンをクリックすると、複数のデスクの行が同時に削除されます。

- [**Create Desk (デスクを作成)**] : デスクにデバイスを割り当てるために、新しい行を作成します。ブース番号、デスク番号、言語ソース ([**Default (デフォルト)**]、[**OMNEO**]、または [**Dante**]) を選択できます。Dante または OMNEO を選択して、遠隔地の通訳者から通訳を受信することをシステムに許可できます。
- [**Edit (編集)**] : 選択したデバイスの [**Desk and Booth settings (デスクとブースの設定)**] ペインが開きます。
- [**Auto Configure (自動構成)**] : 選択したデバイスを自動的に構成します。これは、A 出力がブース番号に対応する言語に設定されることを意味します。B および C 出力は [**none (なし)**] に設定され、入力言語の 7 つのボタンは、第 1 ボタンは第 1 言語、第 2 ボタンは第 2 言語などのように構成されます。

注 : [**Edit (編集)**] オプションおよび [**Auto Configure (自動構成)**] オプションは、同時に複数の (ブース) デスクで使用できます。まず、編集または自動構成するすべてのデスクを選択し、[**Edit (編集)**] ボタンまたは [**Auto Configure (自動構成)**] ボタンをクリックします。こうすることで、ブース内のデスクを簡単に構成することができます。ほとんどの場合、ブースは 1 つの言語に翻訳することに専念しているので、同じ設定をすべてのデスクに適用できるためです。

Desk and Booth settings (デスクとブースの設定)

- [**A output (A 出力)**] : A 出力の言語を選択できます。通常は、通訳者が通訳する言語となります。A 出力言語が設定され、会議で使用できる場合にのみ、デスクを使用できます。
[**None (なし)**] を選択して、デスクを無効にします。
- [**B / C output (B/C 出力)**] : 使用可能な言語のリストから、B および C 出力に使用する言語を選択できます。B および C 出力に A 出力の言語が選択されている場合、会議の開始時にその言語がデフォルトとして選択されます。
- [**E / F / G button (E/F/G ボタン)**] : これらのボタンを、次の機能から構成できます。
 - [**Clock / Speech timer (時計とスピーチタイマー)**] で時計とスピーチタイマーを切り替えます。[**Clock (時計)**] は、現在の時刻を表示します。[**Speech timer (スピーチタイマー)**] は、経過時間を示します。これは、[**E button (E ボタン)**] のデフォルト機能です。
 - [**Video / Presentation (ビデオとプレゼンテーション)**] を使用して、ビデオとプレゼンテーションを切り替えます。[**Video (ビデオ)**] を選択するとカメラビューが、[**Presentation (プレゼンテーション)**] を選択するとプレゼンテーションストリームが、いずれも外部モニターに表示されます。これは、[**F button (F ボタン)**] のデフォルト機能です。
 - 会議言語の [**Language overview (言語概要)**] と、それぞれの通訳のステータスを表示します。これは、[**G button (G ボタン)**] のデフォルト機能です。
 - [**Speak slow (ゆっくり話す)**] 信号を出して、現在の発言者が通訳するには速すぎるペースで話していることを議長に知らせます。
 - 最適な音質を得るために、[**Headphones / Headset (ヘッドホン / ヘッドセット)**] メニューを開き、使用するヘッドホンまたはヘッドセットを選択します。

FLR	有効な通訳はありません。フロア音声は言語にコピーされます
+	直接通訳

-	リレー通訳
--	ダブルリレー通訳

**注記!**

会議の前に必ず E、F、G ボタンを設定できます。会議が非アクティブになると、設定はデフォルトに設定されます。

ボタンの 1 つに複数の機能を割り当てた場合、このボタンにはデフォルトの機能が割り当てられます。

ビデオ機能のない通訳デスクに**ビデオプレゼンテーション**が割り当てられている場合は、空のボタンが表示されます。

- [**Audio delay for AV sync (AV 同期用の音声遅延)**] : AV 同期用の音声遅延のオプションを追加設定することができます。
- [**Headphones (ヘッドホン)**] : どのヘッドホンが接続されているかを構成できるほか、ヘッドセットのマイクを自動的に選択するかどうかを設定できます。
- [**Microphone (マイク)**] : ヘッドセットが接続されていることをデバイスが検出したときにアームマイクを使用する必要がある場合は、このチェックボックスをオフにします。
ヘッドセットのマイクをオフにすると、マイク機能はオフにならずに、ヘッドセットのマイクからアームマイクに即座に切り替わります。反対にオンにすると、ヘッドセットのマイクに切り替わります。
- [**Source (ソース)**] : DICENTIS 通訳デスクを使用する場合は、DICENTIS を選択します。遠隔システムを使用して言語を提供する場合は、Dante™ または OMNEO を選択します。
- [**Auto relay (オートリレー)**] : このブースがオートリレーブースの場合はチェックボックスをオンにします。通常、通訳者はフロア言語を理解して、対象言語に通訳します。発言者がほとんどの通訳者が通訳できない言語を使用する場合は、ほとんどの通訳者が理解できる言語に通訳する通訳者が 1 人います。オートリレー通訳は、ソース言語 (フロア信号) から他の通訳者が理解できる言語への通訳を指します。オートリレー通訳では、ブースのすべての通訳デスクで自動的にフロア信号が置き換わります。すべての通訳者は、オートリレー通訳を基にして通訳を行います。ブースをオートリレーブースとして設定する場合、(オートリレー) ブースが出力 B に通訳すると、他のすべてのブースが自動的にフロアからオートリレーに切り替わります。

例 :

アクティブな発言者が日本語を話す場合。日本語の通訳デスク (ブース 1) では、オートリレーが有効になっています。日英通訳を行う通訳者は出力 B を選択し、英語のオートリレー通訳を他のすべての通訳者に送信します。すべての通訳デスクでは、フロア/オートリレーボタンの隣にある LED が、通訳デスクがオートリレー通訳を受けている状態であることを示します。

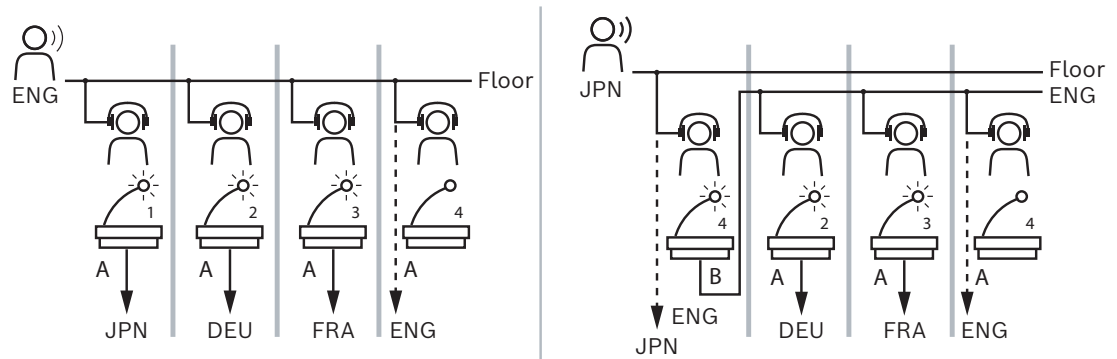


図 5.7: 通常通訳とオートリレー通訳

[Unassigned Devices (未割り当てデバイス)] ペイン

- [**Select (選択)**] : 割り当て解除された通訳デスクの場所の確認に使用します。
次のようにボタンを使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。[**Select (選択)**] チェックボックスをクリックして、マウスボタンを押したままにします。選択したデバイスの十字線記号の背景が青色になります。マウスのボタンをクリックするたびにデバイスの画面が点滅するので、通訳デスクの位置を確認することができます。
- [**Name (名前)**] : インストール済みコンポーネントの名前 (例 : IDESK-0b2460)。
- [**Type (タイプ)**] : デバイスのタイプ (例 : 通訳デスク)。
- [**Serial (シリアル)**] : デバイスのシリアル番号 (例 : 5811430716101008)。
- [**Version (バージョン)**] : デバイスのファームウェアバージョン (例 : 2.70.17663)。
- [**Assign device to desk (デバイスをデスクに割り当て)**] : 選択したデバイスをデスクに割り当てます。デバイスに不具合のある場合など、既存のデバイスを交換するときはこのボタンを使用します。
次のようにボタンを使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。[**Desk Assignment (デスクの割り当て)**] ペインで、デバイスを割り当てるデスクをクリックします。[**Unassigned Devices (未割り当てデバイス)**] ペインで、[**Assign device to desk (デバイスをデスクに割り当て)**] ボタンをクリックします。
- [**Create desk from device (デバイスからデスクを作成)**] : [**Desk Assignment (デスクの割り当て)**] ペインで新しいデスクの行を作成し、選択したデバイスをそのデスクに割り当てます。
新しいデスクの位置を簡単に作成し、自動的にデバイスを割り当てるには、このボタンを使用します。行の任意の場所をクリックして選択します (その行は青色で強調表示されます)。
[**Create desk from device (デバイスからデスクを作成)**] ボタンをクリックします。デバイスおよび新しく作成されたデスクが [**Desk Assignment (デスクの割り当て)**] ペインに表示されます。

下側の [Overview (概要)] ペイン

このペインには、すべてのインストール済みのコンポーネントの概要、およびそのバージョンと状態が表示されます。

- [**Select (選択)**] : 通訳デスクの場所の確認に使用します。
- [**Name (名前)**] : インストール済みコンポーネントの名前 (例 : IDESK-0b2460)。
- [**Type (タイプ)**] : コンポーネントのタイプ。

- [**Status (状態)**] : コンポーネントの動作状態。
- [**Serial Number (シリアル番号)**] : コンポーネントのシリアル番号。
- [**Version (バージョン)**] : コンポーネントのファームウェアのバージョン。

参照情報

- *IDESK の構成 (デバイス上での直接構成)*, ページ 158
- *言語*, ページ 72
- *言語選択*, ページ 85
- *座席とデバイス*, ページ 78

5.4.12

Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)

DICENTIS システムは、次のように OMNEO を使用して他のシステムに接続できます。

- OMNEO メディアインターフェイス (PRS-4OMI4) を使用して、DCN Next Generation から通訳を受信できます。
- Dante ゲートウェイ (OMN-DANTEGTW) を使用して、Dante™ ユニキャストストリームとして通訳を受信できます。
- OMNEO メディアインターフェイス (PRS-4OMI4) を使用して DCN Next Generation に通訳を送信し、インテグラスワイヤレス言語配信システムをご利用いただけます。
- Dante ゲートウェイ (OMN-DANTEGTW) を使用して、Dante™ ユニキャストストリームとして通訳を送信できます。

注記!



OMNEO メディアインターフェイス (PRS-4OMI4) が、最新の DCN Next Generation ダウンロードツールと DICENTIS ファームウェアアップグレード (DICENTIS サーバーで実行されるバージョンと同じバージョン) の両方を使用して更新されていることを確認してください。Dante ゲートウェイ (OMN-DANTEGTW) の OMNEO 側は、DICENTIS システムと同じバージョンに更新する必要があります。

[**Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)**] パネルで、DICENTIS システムで送受信するフロアと言語を構成できます。

- **上部の表**を使用して、OMNEO 出力を DICENTIS 入力に接続できます。これにより、OMNEO インターフェイスを使用して DCN Next Generation からの通訳を受信できます。
 - DICENTIS 入力番号は、会議またはシステムの言語の番号を表します。
 - 言語を複製することはできないため、行と列ごとに 1 つのチェックマークのみ許可されています。
- **下部の表**を使用して、DICENTIS 出力を OMNEO 入力に接続できます。これにより、フロアおよび通訳を送信できます。
 - DICENTIS 出力番号は、会議またはシステムの言語番号を表します。
 - [**Configure (構成)**] > [**Rooms (会議室)**] > [**Language Selection (言語選択)**] の [**Unprocessed language streams (未処理の言語ストリーム)**] オプションを有効にすると、言語チャンネルの最大数が 50 になります (たとえば、[**Language 1 (言語 1)**]、[**Language 1 Unprocessed (言語 1 未処理)**] など)。これにより、通常の言語ストリームと未処理の言語ストリームの両方を送信できます。
 - 列ごとに 1 つのチェックマークのみ許可されています

- 複数の受信システムに通訳を転送できるように、列ごとに複数のチェックマークが許可されています。

[Receiving languages from DCN Next Generation (DCN Next Generation からの言語を受信)]

1. 会議アプリケーション :

- DCN Next Generation システムにフロア言語を配信するために使用する OMNEO チャンネルを構成します。デフォルトでは、フロア言語は 1 つだけです。通訳が複数の DCN Next Generation システムにより提供される場合は、それぞれの DCN Next Generation システムに接続されている OMI デバイスにフロアを転送する必要があります。
- 「言語選択, ページ 85」の章で、DCN Next Generation のソース言語を構成します。
- [Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)] ページで、どの OMI 出力をどの DICENTIS OMNEO 入力に接続するかを構成します。

2. DCN-IDESK は、次の目的で使用します。

- DCN Next Generation チャンネルの言語を構成します。これを行う方法については、『DCN Next Generation 設置マニュアル』を参照してください。

3. OMNEO メディアインターフェイス (PRS-4OMI4) のプッシュ / 回転ボタンは、次の目的で使用します。

- DICENTIS からフロア音声を受信するために使用する OMNEO 入力を構成します。これを行うには、次の手順に従います。
 - OMNEO 入力番号を選択します。
 - フロアの DCN Next Generation チャンネルを構成します (00 は DCN Next Generation のフロアチャンネルです)。
- 通訳言語を DICENTIS に送信するために使用する OMNEO 出力を構成します。これを行うには、次の手順に従います。
 - OMNEO 出力番号を選択します。
 - DICENTIS に転送される DCN Next Generation チャンネル (01 ~ 31) を構成します。



注記:

DCN Next Generation からフロアを受信するには、XLR ケーブルを DCN-CCU2 出力 2 と DCNM-APS2 入力 2 に接続します。

[Sending languages to DCN Next Generation (DCN Next Generation に言語を送信)]

1. 会議アプリケーション :

- DCN Next Generation システムにフロア言語および通訳を配信するために使用する OMNEO チャンネルを構成します。

2. OMNEO メディアインターフェイス (PRS-4OMI4) のプッシュ / 回転ボタンは、次の目的で使用します。

- DICENTIS からフロア音声を受信するために使用する OMNEO 入力を構成します。これを行うには、次の手順に従います。
 - OMNEO 入力番号を選択します。
 - フロアの DCN Next Generation チャンネルを構成します (00 は DCN Next Generation のフロアチャンネルです)。

- 通訳言語を DICENTIS で受信するために使用する OMNEO 入力を構成します。これを行うには、次の手順に従います。
 - OMNEO 入力番号を選択します。
 - DICENTIS から受信する DCN Next Generation チャンネル (01 ~ 31) を構成します。

DICENTIS と DCN NG の連携

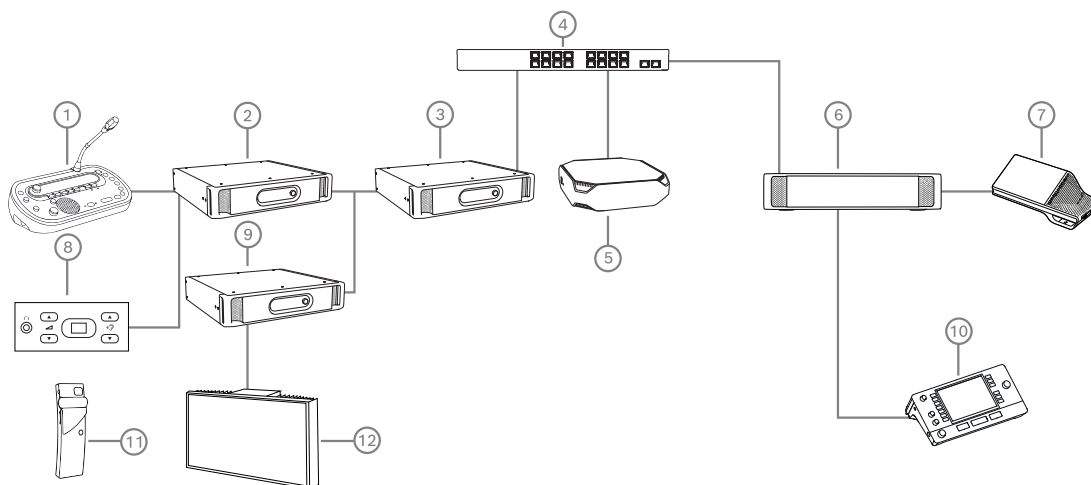


図 5.8: DICENTIS と DCN NG の連携

1. DCN-IDECK :
 - どの言語がどの出力チャンネルを使用するかを構成するための通訳デスク。
2. DCN-CCU2 :
 - DCN Next Generation および DCN ワイヤレスシステム用のセントラルコントロールユニット。
3. PRS-40MI4 :

プッシュ/回転ボタン付き OMNEO メディアインターフェイスによる割り当て:

 - DCN NG チャンネルを OMI 出力に
 - DCN NG チャンネルを OMI 入力に
4. ネットワークスイッチ :
 - デバイスをネットワークで接続します。
5. DICENTIS サーバー :
 - 言語選択ライセンスを座席に割り当てます。
 - システムチャンネルを構成します。
6. DCNM-APS2 (オーディオ電源スイッチングハブ) :
 - 音声信号を転送、制御、および処理します。
 - DICENTIS デバイスに電力を供給します。
7. ディスカッションデバイスまたはマルチメディアデバイス (DCNM-DE、DCNM-DSL) :
 - 参加者は、DICENTIS デバイスでフロアおよび通訳言語を選択することができます。
8. DCN-FCS :
 - DCN NG または DICENTIS 通訳を聴くためのフラッシュ言語選択機能。
9. INT-TX :
 - 赤外線言語配信用のインテグラストランスミッタ。
10. DCNM-IDECK または DCNM-IDECKVID :
 - 同時通訳用の通訳デスク。
11. LBB4540 :
 - インテグラス ポケットレシーバ
12. LBB451x/00 :

– インテグラス ラジエータ

**注記!**

参加者のデバイスは、DCN Next Generation システムまたは DICENTIS システムのどちらかにしか参加できません。

Dante ゲートウェイを使用した Dante™ との言語の送受信

Dante ゲートウェイを使用すると、DICENTIS システムを接続して (誤動作のない) Dante™ ストリームのユニキャストを実現できます。Dante ゲートウェイを使用した場合、言語はさまざまなソース (DICENTIS 通訳デスク) からではなく、単一のソース (Dante ゲートウェイ) から送信されます。

DICENTIS からストリームを送信するには、次の手順に従います。

1. 会議アプリケーションで、どの言語をローカル (デフォルト) で提供するかを設定します。
2. 会議アプリケーションの [Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)] メニューを使用して、DICENTIS のトランスミッタストリームを Dante ゲートウェイのレシーバストリームに転送します。以下の「フロアおよび言語ルーティング」の図を参照してください。
3. Dante ゲートウェイの Dante™ 側で Dante Controller または Dante Domain Manager™ を使用して、Dante ゲートウェイのトランスミッタストリームをサードパーティレシーバに転送します。

DICENTIS でストリームを受信するには、次の手順に従います。

1. 会議アプリケーションで、どの言語を Dante ゲートウェイ (OMNEO) から提供するかを設定します。
2. Dante ゲートウェイの Dante™ 側で Dante Controller または Dante Domain Manager™ を使用して、サードパーティトランスミッタを Dante ゲートウェイのレシーバ入力にルーティングします。
3. 会議アプリケーションの [Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)] メニューを使用して、Dante ゲートウェイのトランスミッタストリームを DICENTIS のレシーバ入力に転送します。以下の「フロアおよび言語ルーティング」の図を参照してください。

DICENTIS Meeting application

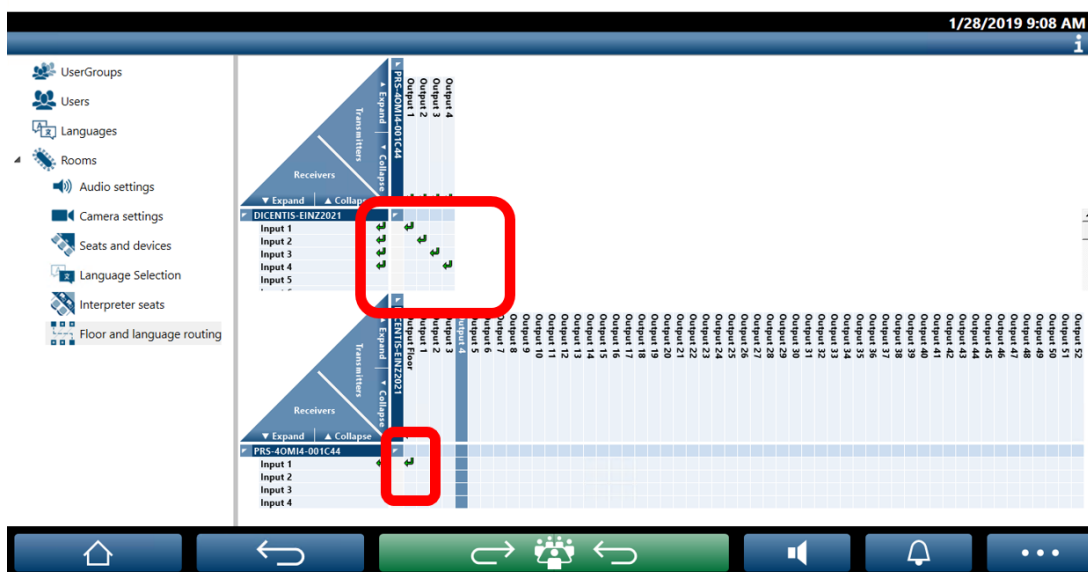


図 5.9: Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)

2 つの DICENTIS システムへの接続

Dante ゲートウェイを使用すると、2 つ以上の会議室 (ディスカッションおよび通訳に参加する参加者用の会議室と、聴衆および追加の通訳用の会議室) を接続できます。

- 各会議室の構成は別々に実行します。
- Dante™ ネットワークを、音声のルーティングと録音に使用します。
- Dante ネットワークは、Dante Controller または Dante Domain Manager を使用して構成します。

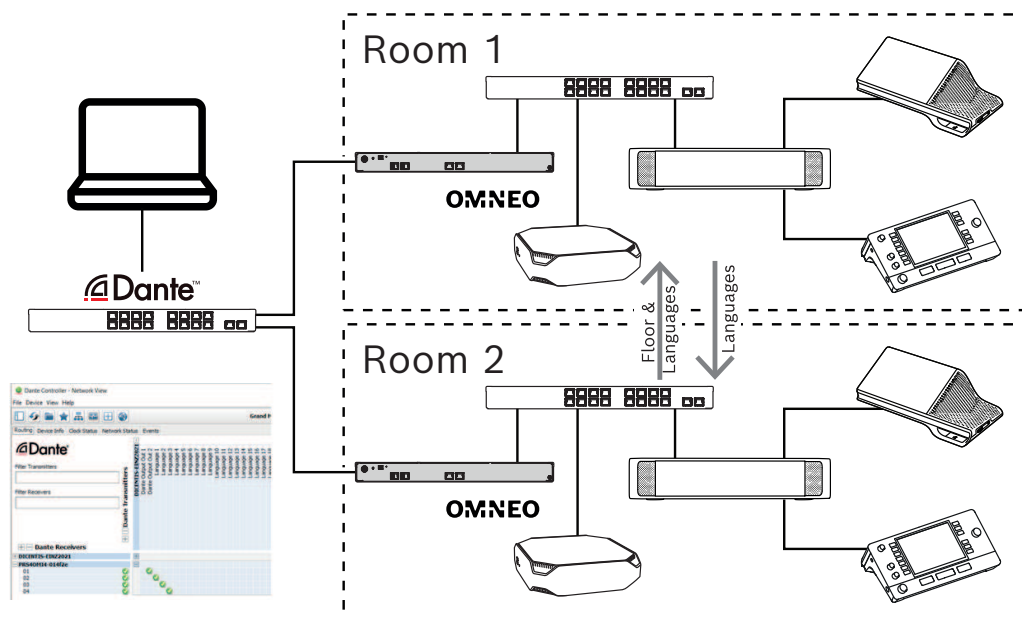


図 5.10: Dante ゲートウェイの構成

注：ミックスマイナスを使用して、2つの会議室の参加者に発言させることができます。ミックスマイナスは、会議室の数が2つを超える場合は機能しません。

**注記!**

ディスカッションが1つの会議室でのみ行われている場合は、[Recorder/Int. floor (レコーダ/通訳フロア)] を使用してもう1つの部屋にフロアを配信します。

6 DICENTIS Web サーバー

DICENTIS Web サーバーは、サーバーソフトウェアとともに自動的に DICENTIS サーバーにインストールされ、会議プロトコルを使用して通信します。

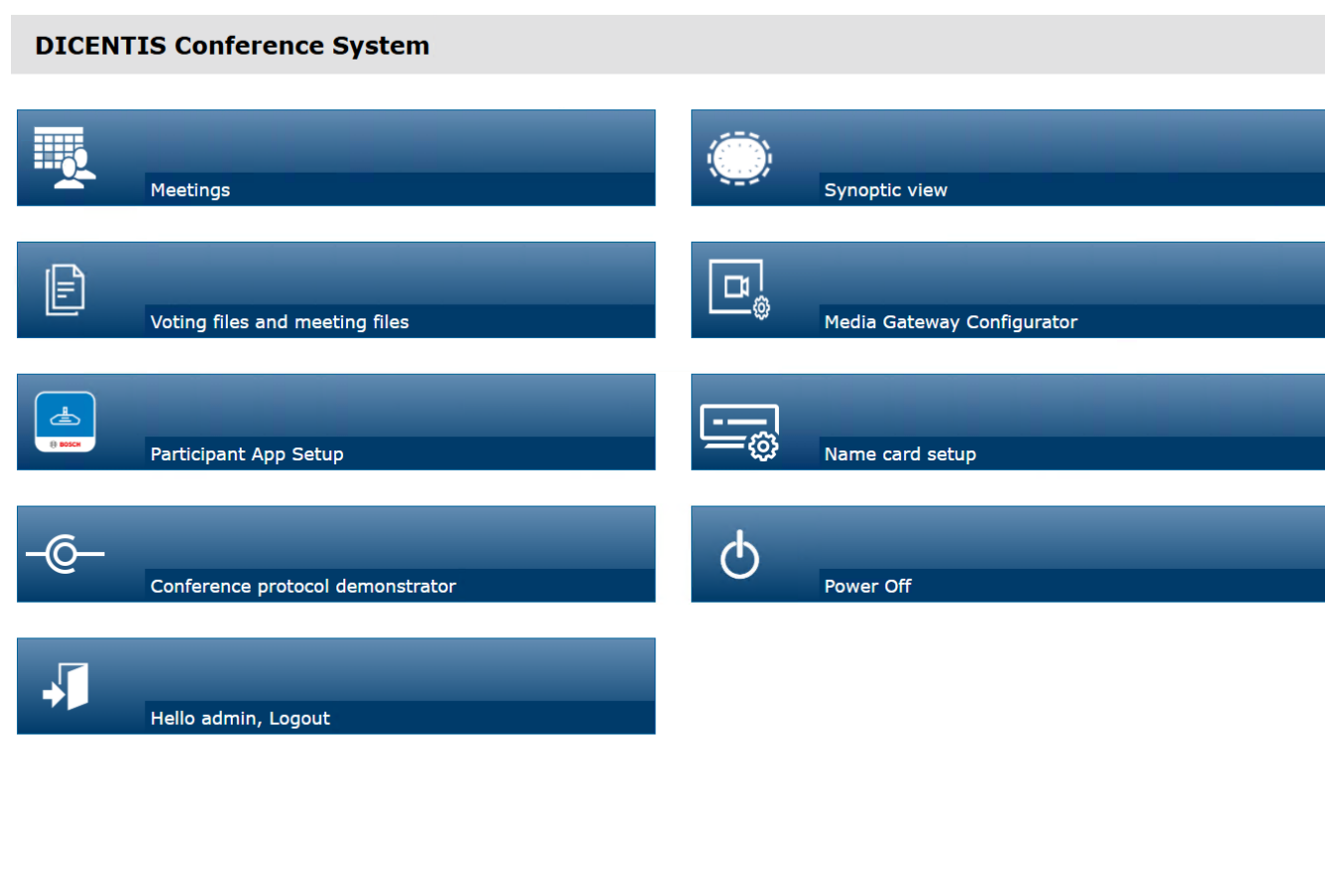


図 6.1: DICENTIS Web サーバーのメイン画面

議長または書記は、発言者室のビジュアルレイアウト経由で発言を許可または停止することによって会議を管理し、議論をより生産的なものにすることができます。これらのレイアウトでは、定数と多数に加えて個々の投票結果も示されます。

Web サーバーでは、投票ファイルと会議メモに簡単にアクセスでき、表示または印刷することができます。

ホールディスプレイ用に、次の情報が提供されます。

- スピーチタイマーのディスプレイ。
- 投票タイマーのディスプレイ。
- 会議と議題に関する情報。
- 投票に関する情報と全体の投票結果（円グラフまたは棒グラフで表示）。
- 定数と多数に関する情報。

オペレータは次のことを行えます。

- 参加者とチャット；
- 会議の議題の管理。

- プレゼンテーションの制御。
- 投票の制御。
- スピーチタイマーの管理。
- 通訳デスクとブースの状態の表示と制御。
- 電源オン/オフ機能の使用。
- マスター音量コントロール。
- 電子名刺の構成。

必要なビューはユーザーごとに異なるため、複数のシノプティックビューを作成できるようになっています。最後に開いたビューは記憶され、次のログイン時に開きます。

制御と構成を行える機能の種類は、ユーザー/人の権限によって異なります。概要については、下の表を参照してください。

	権限	マイクの 状態	Voting	参加者	通訳	会議メモ と投票 ファイル	音量コン トロール	電源オン/ オフ	Web サーバーの 構成
ユーザー	なし	表示	表示	表示	-	-	-	-	-
	Activate meeting (会議を有効化)	表示と制御	表示と制御	表示	表示と制御	表示	コントロール	コントロール	-
	Prepare meeting and agenda (会議と議題の準備)	表示	表示と制御	表示	-	表示と削除	-	-	-
	アクセス権を指定	表示	表示	表示	-	-	-	-	-
	システムを構成	表示と制御	表示	表示	表示と制御	表示	コントロール	コントロール	構成
人	参加者でない	-	-	-	-	-	-	-	-
	参加者	表示	表示	表示	-	-	-	-	-
	「Manage meeting (会議の管理)」権限を持つ参加者	表示と制御	表示	表示	表示と制御	表示	表示	表示	-

**注記!**

Internet Explorer はバージョン 3.2 からサポート対象外になりました。

6.1 初回のログイン

DICENTIS Web サーバーは HTTPS 接続と証明書を使用して接続を保護します。サーバーデバイスに初めてログインするときに、新しい証明書が自動的にインストールされます。

クライアントデバイスでは、証明書を手動でインストールする必要があります。

1. クライアントデバイスから、アドレス `http://<サーバー>/DICENTISCertificates` を開きます。
2. ページの右上隅にあるドロップダウンメニューで、手順を表示する言語を選択します。
3. 手順に従って証明書をダウンロードし、ブラウザを構成します。

注：ブラウザが自動的に認識されない場合は、ページ上部のドロップダウンメニューを使用して正しいブラウザを選択してください。

6.2 構成手順

前提条件

- このページを使用するには、ログイン中のユーザーが「Configure System (システムの構成)」権限を持つユーザーグループ (たとえば管理者ユーザー) に属している必要があります。

シノプティックビューを構成するには、次の手順に従います。

1. ユーザー "Admin" を使用してシノプティックアプリケーションにログインします。
 - [**Select background (背景を選択)**] ボタンをクリックし、会議室に適した背景を選択します。
 - [**Start configuration (構成を開始)**] ボタンをクリックします。
 - シノプティックアイコンを、会議室内の物理的な座席位置にドラッグアンドドロップします。座席リストにドラッグアンドドロップすることによってレイアウトから不要な座席を削除することもできます。[**Show grid (グリッドを表示)**] と [**Snap to grid (グリッドに合わせる)**] を使用すると、(大きい) 会議室で容易に配置できます。
 - ブース、多数、定数、投票のアイコンを、シノプティックレイアウト内の適切な位置にドラッグアンドドロップします。

注：シノプティックアプリケーションで [**Start illuminate device (デバイスの点灯を開始)**] が選択されている場合、シノプティックレイアウトでデバイスアイコンを移動するとマイク LED が点灯するので、会議室内で容易に識別できます。デバイスの [**Select device (デバイスを選択)**] または [**Microphone (マイク)**] ボタンが選択された場合、シノプティックレイアウト内のアイコンが赤に変わります。

- 青色の + および - 記号を使用して、アイコンのサイズを調整します。
 - レイアウトに満足できたら、[**Stop configuration (構成を停止)**] をクリックします。
2. 投票が開始されたときに、シノプティックレイアウトを投票結果の表示に自動的に切り替えることができます。この設定は、[**Manual / Auto switch (手動/自動切り替え)**] ボタンで行います。投票結果を表示するには、Web クライアントの座席に投票ライセンスが必要です。

複数のシノプティックレイアウト

レイアウトを複数追加し、会議中に選択できるようになりました。

レイアウトを管理するには、次の手順に従います。

- ▶ 右側のメニューの [Layouts (レイアウト)] ボタンをクリックして、[Edit Layouts (レイアウトの編集)] ウィンドウを開きます。
ここでは、様々なレイアウトの追加、構成、削除、名前の変更、優先順序の変更を行うことができます。
- ⇒ 使用可能なレイアウトが複数ある場合、ユーザーは画面下部にあるドロップダウンリストを使用して、別のレイアウトに切り替えることができます。

投票結果を円グラフまたは棒グラフとして表示する

1. グラフでは、[External system (外部システム)] の [Display total results (合計結果の表示)] 設定が使用されます。[Display total results (合計結果の表示)] が [Never (常に非表示)] に設定されている場合、グラフを描画できません。
詳細については、「投票の詳細, ページ 65」で「Results (結果) 」->「Selection (選択) 」を参照してください。
2. 円のサイズを定義するには、投票の 100% 設定を構成する必要があります。100% 設定が構成されていない場合、グラフを描画できません。
詳細については、「投票の詳細, ページ 65」で「Majority (多数) 」->「Majority calculation (多数計算) 」を参照してください。

6.3

マイクの制御



注記!

DICENTIS サーバーの IP アドレスが変更された場合、シノプティックコントロールボタンが会議アプリケーションに表示されない可能性があります。この問題を解決するには、正しいアドレス (<http://<DICENTISサーバーのIPアドレスまたはホスト名>/synopticcontrol>) に手動で 1 回だけアクセスします。

発言者のマイクの管理

1. 初回のログインと参加者写真の使用が行われていることを確認します。
2. シノプティックコントロールに次のようにログインします。
 - 「会議のアクティブ化」権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを使用するか、または
会議がアクティブ化されている場合、「会議の管理」権限を持つ参加者のユーザー名とパスワードを使用します。
3. シノプティックアイコンを左クリックして、次の操作を実行します。
 - 参加者に発言権を与える。
 - アクティブな発言者を停止する。
4. シノプティックアイコンを右クリックすると、参加者のマイクを拡張制御できます。さまざまなディスカッションモードでは、さまざまなアクションのセットを使用できます。

[Discussion mode - Open (ディスカッションモード - オープン)] :

- 参加者のマイクがオフの場合は、次のことができます。
 - 参加者に発言権を与える。

- 参加者を発言者リストに追加する。
- 参加者が **発言者リスト**に追加されている場合は、次のことができます。
 - 参加者の位置を移動する。
 - 参加者を発言者キューから削除する。
- 参加者が **発言**している場合、次のことができます。
 - アクティブな発言者を停止する。

[Discussion mode - Response (ディスカッションモード - 返答)] :

- 参加者の**マイクがオフ**の場合は、次のことができます。
 - 参加者に発言権を与える。
 - 参加者を発言者リストに追加する。
 - 別の参加者が発言しているときに、その参加者を返答者リストに追加する。
- 参加者が **発言者リスト**に追加されている場合は、次のことができます。
 - 参加者の位置を移動する。
 - 参加者を発言者キューから削除する。
 - 別の参加者が発言しているときに、その参加者を返答者リストに追加する。
- 参加者が **返答者リスト**に追加されている場合は、次のことができます。
 - 参加者の位置を移動する。
 - 参加者を返答者リストから削除する。
 - 参加者を発言者リストに追加する。
- 参加者が **応答**している場合、次のことができます。
 - アクティブな返答者を停止する。
 - アクティブな応答者をミュート/ミュート解除する。
- 参加者が **発言**している場合、次のことができます。
 - アクティブな発言者を停止する。
 - アクティブな発言者をミュート/ミュート解除します。

ディスカッションモード - ファーストインファーストアウト :

- 参加者の**マイクがオフ**の場合は、次のことができます。
 - 参加者に発言権を与える。
- 参加者が **発言**している場合、次のことができます。
 - アクティブな発言者を停止する。

ディスカッションモード - 音声:

- このディスカッションモードでは利用できるアクションはありません



注記!

リモートから参加している会議参加者をミュート/ミュート解除することはできません。



注記!

プライバシー上の理由により、リモートで参加する参加者に発言権が与えられると、その参加者のマイクはミュートのままになります。発言するには、リモート参加者がマイクのミュートを解除する必要があります。

シノプティックアイコンはさまざまな色で表示され、参加者の状態を示します。

- 発言中/応答中 - 赤
- 発言中でない/マイクがオフ - グレー
- 発言者リスト内 - 緑色
- 発言者リストの先頭 - 緑色の点滅
- 返答リスト内 - 黄色
- 返答リストの先頭 - 黄色の点滅

シノプティックレイアウトをマイクコントロールから投票結果に変更

シノプティックレイアウトは、マイクステータスの表示と、個別の投票結果の表示の間で、手動で切り替えることができます。このためには、下のバーにある 2 つのアイコンを使用します。個別の投票結果の表示に自動的に切り替えるオプションが設定されていても、オペレータはいつでも手動で表示を切り替えることができます。

個別のマイク感度を調整する

発言者の声に応じてマイク感度を調整できます。アクティブな発言者の概要アイコンを右クリックし、[**Set microphone sensitivity (マイク感度の設定)**] を選択すると、感度スライダーバーが表示されます。

マイク感度はデフォルトで 0dB に設定されており、-6dB から 6dB の範囲で調整できます。スライダーを上下にドラッグするか、+ および - ボタンを押すと、感度値を 0.5 dB ずつ増減できます。

注：動作モードが DICENTIS ワイヤレスシステムに設定されている場合は、この機能は使用できません。

6.4 Manage speech time (スピーチ時間の管理)

このオプションを有効にすると、要素リストを通じてシノプティックレイアウトにスピーチタイマーを含めることができます。タイマーは、発言者リストで定義された順序に従って、発言機会ごとに表示されます。VIP または VIS の権限を持つ参加者が発言権を持っているとき、タイマーは表示されません。

スピーチタイマーは次のいずれかのステータスを示します。

色 / ステータス	製品説明
緑色	タイマーが動作しています。
赤色	最初に設定された時間があと 60 秒で終了します。
Overtime (時間切れ)	最初に設定された時間が過ぎました。タイマーは赤色のままカウントを続け、時間がマイナスの値で表示されます。

会議アプリケーションのディスカッション設定で [**Adjust speech time (スピーチ時間を調整)**]

チェックボックスを選択すると、「Manage meeting (会議の管理)」権限を持つ参加者や「Activate meeting (会議を有効化)」権限を持つユーザーが、シノプティックビューでスピーチタイマーを調整できます。スピーチタイマーウィンドウの +/- ボタンを使用してタイマーの時間 (最大 99 分) を設定したり、タイマーの実行開始後に最初に設定された時間にリセットしたりできます。

6.5 投票の制御

書記はシノプティックビューで、準備済みの投票と臨時投票を管理できます。

シノプティックビューのタスクバーにある [Voting (投票)] アイコンをクリックすると、フローティングウィンドウが表示されます。このウィンドウは位置とサイズを調整可能で、次の 2 種類のオプションが表示されます。

- Manage a prepared voting round (準備済みの投票の管理)
- Manage an ad hoc voting round (臨時投票の管理)

注記!



投票の制御ウィンドウで利用できるオプションは、持っているライセンスの種類に基づいて決まります。たとえば、プレミアムライセンスを持っているシステムでは、臨時投票を管理する機能のみがこのウィンドウで提供されます。アルティメットライセンスを持っているシステムでは、臨時投票と準備済みの投票の両方をこのウィンドウで管理できます。

投票の制御ウィンドウを開いた後は、次の手順を実行します。

1. または、次のことを行います。
 - 準備済みの投票のリストから投票を選択するか、
 - [Number (番号)]、[Subject (件名)]、[Description (説明)] の各フィールドに、臨時投票の詳細を入力します。[Number (数値)] フィールドのみが必須です。
2. [Ready to vote (投票準備完了)] をクリックします。
3. ステップ 1 で選択した投票の詳細がウィンドウに表示されます。次のいずれかを実行できます。
 - [Recall (取り消し)] ボタンをクリックしてステップ 1 に戻るか、
 - [Open (開く)] ボタンをクリックして、選択した投票を開きます。
4. 投票のステータスを示す進行状況トラッカーがウィンドウに表示されます。このとき、次のことを行えます。
 - [Pause/Resume (一時停止 / 再開)] ボタンをクリックして投票を一時停止 / 再開します。
 - [Abort (中止)] ボタンをクリックすることで、投票を中止してステップ 1 に戻ります。
 - [Close (閉じる)] ボタンをクリックして投票を終了します。
5. 前のステップで [Close (閉じる)] ボタンをクリックすると、進行状況トラッカーの完了がウィンドウで示されます。このとき、次のいずれかを行えます。
 - [Accept (受理)] ボタンをクリックして投票結果を受理するか、
 - [Reject (拒否)] ボタンをクリックして投票結果を拒否します。

会議アプリケーションの投票設定で、1 つの投票について投票タイマーを有効にすると、その投票の実施期間中に要素リストを通じてシノプティックビューに投票タイマーを含めることができます。これは、プレミアムまたはアルティメットライセンスを持っている場合にのみ可能です。

6.6 プレゼンテーションの制御

シノプティックビューでプレゼンテーションのソースを制御できます。この機能は次のユーザーが利用できます。

- 「Activate meeting (会議を有効化) 」権限を持つユーザー。
- 「Manage meeting (会議の管理) 」権限を持つ参加者。

プレゼンテーションソースのステータスを確認して制御するには、シノプティックビューのタスクバーにある次のボタン / アイコンを使用します。

ボタン / アイコン	製品説明
	プレゼンテーションが共有されていないときは、このステータスアイコンがタスクバーに表示されます。アイコンをクリックするとその他のオプションが表示されます。
	ステータスアイコンをクリックするとこのボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、ローカルプレゼンテーションの共有が開始されます。
	ローカルプレゼンテーションが共有されているときは、このステータスアイコンがタスクバーに表示されます。アイコンをクリックするとその他のオプションが表示されます。
	ステータスアイコンをクリックするとこのボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、ローカルプレゼンテーションの共有が停止されます。
	リモート参加者が画面を共有しているときは、このステータスアイコンがタスクバーに表示されます。アイコンをクリックするとその他のオプションが表示されます。
	ステータスアイコンをクリックするとこのボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、リモート参加者による画面共有が停止されます。

6.7

議題の制御

シノプティックビューのタスクバーにある [Agenda control (議題の制御)] アイコンをクリックすると、フローティングウィンドウが表示されます。このウィンドウは位置とサイズを調整可能で、[Agenda control (議題の制御)] ウィンドウには、有効な会議のために準備された議題項目のリストが表示されます。この機能は、準備済みの会議を有効化した場合にのみ使用できます。臨時会議ではこの機能は使用できません。

[Open (開く)] / [Close (閉じる)] ボタンを使用して、議題項目を開いたり閉じたりできます。議題項目を開くと、該当する行が強調表示されます。議題項目をスクロールしている間も、この行はリストの上部で強調表示されます。

6.8

会議の制御

会議の管理はシノプティックコントロールを通じて行えます。シノプティックコントロールで実行されたアクションは会議アプリケーションに反映されます (その逆も同様です) 。

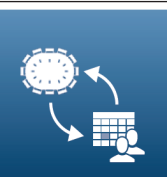
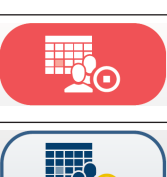
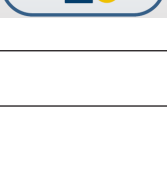
シノプティックコントロールにログインした後、[**Meetings (会議)**] タブをクリックして会議ビューに移動します。会議ビューには準備済みの会議のリストが表示されます。会議を名前で検索するか、リストに表示された結果を [**Start date (開始日)**] と [**End date (終了日)**] のフィールドによってフィルタできます。

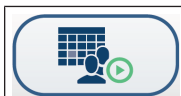
会議アプリケーションでは、[**Prepare (会議設定)**] > [**Meetings (会議)**] から、

[**Automatically open meeting on activate and deactivate on close meeting (有効化したときに会議を自動的に開き、非有効化したときに会議を閉じる)**] チェックボックスを会議ごとに有効化 / 無効化できます。この設定により、シノプティックコントロールで会議を制御する方法が決まります。

シノプティックコントロールで会議を制御する方法は次のとおりです。

1. 会議ビューで、制御する会議に対応する行を見つけます。
2. 上記のチェックボックスが有効になっている会議 ([**Action (アクション)**] 列で [**Open (開く)**] が利用可能になっている) を制御する場合：[**Open (開く)**] をクリックします。
[**Open (開く)**] ボタンが [**Close (閉じる)**] ボタンに置き換わります。
上記のチェックボックスが無効になっている会議 ([**Action (アクション)**] 列で [**Activate (有効化)**] が利用可能になっている) を制御する場合は：[**Activate (有効化)**] をクリックします。[**Activate (有効化)**] ボタンが [**Close (閉じる)**] と [**Deactivate (無効化)**] のボタンに置き換わります。
3. 会議のステータスを確認して制御するには、次のボタン / アイコンを使用します。

ボタン / アイコン	製品説明	
	会議が有効化されていると、このステータスアイコンがタスクバーに表示されます。シノプティックビューでアイコンをクリックすると、その他のオプションが表示されます。	すべての会議を制御するために使用できるボタン／アイコン。
	会議が開いていると、このステータスアイコンがタスクバーに表示されます。シノプティックビューでアイコンをクリックすると、その他のオプションが表示されます。	
	このアイコンはタスクバーに常に表示されます。アイコンをクリックすると、会議ビューとシノプティックビューを切り替えることができます。	
	シノプティックビューでステータスアイコンをクリックすると、このボタンが表示されます。ボタンをクリックすると会議が無効化されます。	
	シノプティックビューでステータスアイコンをクリックすると、このボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、開いている会議が閉じます。	上記のチェックボックスが有効になっている会議を



シノプティックビューでステータスアイコンをクリックすると、このボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、閉じている会議が開きます。

制御するために使用できるボタン／アイコン。

6.9

シノプティックビューの切り替え

会議中にシノプティックビューを切り替えることができます。タスクバーの左側にある 3 つのボタンを使用して、シノプティックビューを切り替えたり、有効なビューを確認したりします。1 つのシノプティックビューを有効にすると、該当するアイコンの上部に白いバーが表示されます。

ボタン	Synoptic view (シノプティックビュー)
	ディスカッションビュー：座席のディスカッションステータスを確認し、ディスカッションを管理できます。
	マイク感度ビュー：マイクの感度を確認して調整できます。
	投票ビュー：参加者の投票に関する情報が表示されます。

6.10

参加者とチャット

問題が発生した場合には、オペレータ/事務員が参加者とチャットしてサポートを提供できます。チャット機能にアクセスするには、Synoptic (シノプティック) ビューのタスクバーにあるメッセージアイコンをクリックします。このとき、次のことを行えます。

- 参加者を検索して会話を開始します。
- 未読メッセージを開いて参加者に返信します。
未読メッセージがある場合は、Synoptic (シノプティック) ビューのタスクバーのメッセージアイコンの上に通知が表示されます。

注：リモートで参加した参加者のみがチャットでメッセージを送受信できます。

6.11

ホールディスプレイの自動ログインとレイアウト選択の設定

DICENTIS Web サーバーは、ホールディスプレイやモニターで使用することができます。ホールディスプレイの Web ブラウザは次のように設定できます。

- 自動ログイン
- そのモニターのレイアウトの選択
- ブラウザのフルスクリーン実行
- シノプティックレイアウトの下部バーの非表示。

また、これらの機能を使用して、たとえば議長のレイアウトを自動選択することもできます。

ホールディスプレイのユーザーを作成するには

1. 会議アプリケーションを管理者権限で開きます。
 2. [**Configure (設定)**] をクリックします。
 3. [**User Groups (ユーザーグループ)**] で、+ 記号をクリックして新しいユーザーグループを作成します。[**Access rights (アクセス権)**] はいずれもオンにしないでください。
 4. [**Users (ユーザー)**] で、+ 記号をクリックして新しいユーザーを作成します。
 5. ユーザーに [**User name (ユーザー名)**] を付けます。
 6. 作成したユーザーグループに新しいユーザーを割り当てるには、ドロップダウンリストから新しい [**User group (ユーザーグループ)**] を選択します。
 7. [**Change password (パスワードの変更)**] をクリックして、新しいユーザーのパスワードを作成します。
- 会議アプリケーションを閉じます。

ホールディスプレイの Web ブラウザを設定するには

1. ホールディスプレイに接続された PC で Web ブラウザを開きます。
2. 初回のログイン, ページ 104 の指示に従って、必要な証明書をインストールします。
3. `https://<hostname DICENTIS server>:31416/downloadAutoLogin.html` ファイルをダウンロードします。
4. `c:\halldisplay\` フォルダを作成します。
5. ダウンロードしたファイルを新しいフォルダにコピーします。

PC の電源を入れたときに自動的に開くショートカットを作成するには

注： 次の手順は、Google Chrome のみに使用できます。他のブラウザを使用している場合は、必要に応じて変更してください。

1. デスクトップを右クリックします。
2. [**New (新規)**] をクリックします。
3. [**Shortcut (ショートカット)**] をクリックします。
 - [**Create Shortcut (ショートカットの作成)**] ウィンドウが表示されます。
4. [**Type the location of the item (項目の場所を入力)**] に、以下を入力します。


```
"C:\Program Files (x86)\Google\Chrome\Application\Chrome.exe"
-start-fullscreen "file:///C:\halldisplay\autoLogin.html?Server=https://<ホスト名 DICENTIS サーバー>:31416/&navbar=off&layout=<レイアウト名>"
```

 - **"C:\Program Files (x86)\Google\Chrome\Application\Chrome.exe"** : ブラウザとして Chrome を選択します。
 - **-start-fullscreen** : Google Chrome をフルスクリーンモードで起動します。
 - **"file:///C:\halldisplay\autoLogin.html"** : ユーザー名とパスワードを入力することなく、ブラウザで自動的にログインします。ホールディスプレイコンピュータが DICENTIS サーバーに接続できない場合は、通知ページが表示されます。
 - **Server=https://<ホスト名 DICENTIS サーバー>:31416/** : ショートカットを DICENTIS Web サーバー宛に設定します。<ホスト名 DICENTIS サーバー> は、DICENTIS サーバーのホスト名に置き換えてください。
 - **navbar=off** : 下部のナビゲーション バーを非表示にします。

- **layout=<レイアウト名>** : 要求されたレイアウトを自動的に選択し、メインページをスキップします。<レイアウト名> は、レイアウトの名前に置き換えてください。
- 5. [**Next**] をクリックします。
- 6. [**Type a name for this shortcut (このショートカットの名前を入力)**] に、「ホールディスプレイ」などの論理名を入力します。
- 7. [**Finish (終了)**] をクリックします。
- 8. ショートカットをスタートアップフォルダーである C:\Users\All Users\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup に移動します。
- 9. ショートカットをダブルクリックします。
 - DICENTIS Web サーバーの開始ページで、ブラウザがフルスクリーンで開きます。
- 10. 作成した [**User (ユーザー)**] に制限付きの権限でログインします。
 - 自動ログイン用のセキュリティトークンが作成されます。ここで、最終ログインは必ず権限を制限されたユーザーであることを確認します。
- 11. DICENTIS Web サーバーからログアウトします。

これで設定は完了です。次回 PC の電源を入れると、自動的に次のように起動されます。

- 選択したモードでブラウザを開きます。
- DICENTIS Web サーバにログインします。
- 選択したシノプティックレイアウトを表示します。
- 下部のナビゲーションバーを非表示にします。

Windows PC を使用している場合のヒント

- 自動的にログインするように Windows を設定できます。お使いの Windows バージョンに合った手順をオンラインで検索してください。
- タスクバーを非表示にするように Windows を構成できます。
- 1. **タスクバー** を右クリックします。
- 2. [**Taskbar settings (タスクバー設定)**] を選択します。
- 3. **Automatically hide the taskbar in desktop mode (デスクトップモードでタスクバーを自動的に非表示にする)** を **On (オン)** にスライドします。

6.12 会議後のツール

インストール済みのライセンスとシステム設定に応じて、DICENTIS システムでは会議後の分析 (たとえば、会議の議事録作成) に使用できる XML 会議メモファイルと投票結果ファイルを自動的に作成できます。会議メモファイルと投票結果ファイルには独自の XSLT スタイルシートがあり、これによって XML の内容をブラウザに簡単に表示できます。これらのスタイルシート内の「ルックアップテーブル」を変更して、たとえばローカル言語で情報が表示されるようにすることもできます。詳細については、続くセクションを参照してください。

デフォルトでは、XML 会議メモファイルと投票結果ファイル (どちらも信頼性チェック付き) はサーバー PC に保存されます。必要に応じて、ファイルの保存場所を変更できます。会議メモについては、「**会議室設定**, ページ 72」セクションの「**Meeting notes location (会議メモの場所)**」にある説明を参照してください。

6.12.1 Web サーバー経由のアクセス

投票結果と会議ファイルには、DICENTIS Web サーバーのメインページからアクセスできます。

[**Voting files and meeting files (投票ファイルと会議ファイル)**] を選択すると、「Voting files and meeting files (投票ファイルと会議ファイル)」ページに移動します。次の人がこのページを表示できます。

- 「Manage meeting (会議の管理)」権限を持つ参加者。メモを表示できます。
- 「Activate meeting (会議を有効化)」権限を持つユーザー。メモを表示できます。
- 「Prepare meeting (会議の準備)」権限を持つユーザー。メモを表示および削除できます。

メモページでは、表示するファイルの種類を [**File type (ファイルの種類)**] ドロップダウンメニューで選択します。

- [**All files (すべてのファイル)**] : 投票メモと会議メモを表示します。
- [**Meeting notes (会議メモ)**] : 会議メモだけを表示します。
- [**Voting notes (投票メモ)**] : 投票メモだけを表示します。

検索期間の [**Start date (開始日)**] と [**End date (終了日)**] を入力した後、検索バーにキーワードを入力して検索を実行します。

結果が画面の左側に表示されます。

- [**File name (ファイル名)**] : ファイルの名前。
- [**Date created (作成日)**] : メモが作成された日付。
- [**Delete (削除)**] : ファイルを削除する場合は、このアイコンをクリックします。

画面の右側には、ファイルのプレビューが表示されます。プレビューにマウスを合わせた後、[**Print (印刷)**] アイコンを選択すると選択したメモを印刷でき、[**Expand (展開)**] アイコンを選択するとメモが新しいページで開きます。3 番目のアイコンを選択すると、会議と投票の XML データの信頼性 (ファイルのプレビューを開始した時点で検証される) に関する警告が表示されます。詳細については、「*信頼性チェック*, ページ 116」を参照してください。

次のいずれかの場合は、「**Could not preview the file (ファイルをプレビューできません)**」というメッセージが表示されます。

- メモに関連する会議がまだアクティブである。
- ファイルが正しく閉じられなかった (これが起きるのは、会議がアクティブのときにコンピュータを再起動した場合など) 。

会議メモには次の情報が含まれています。

- 会議の要約。
- 出席している参加者と欠席している参加者のリスト。
- 議題項目の概要。
- 投票に関する情報。
- 定数と多数に関する情報。

投票メモには次の情報が含まれています。

- 投票の回数、案件、説明。
- 投票の構成。
- 出席していた参加者を含む、投票の要約。
- 個々およびグループの結果。

- 投票の終了時に保存された、定数と多数。

6.12.2

XSLT スタイルシートの変更

投票結果が保存される場所には会議メモファイルと投票メモファイル用の XSLT スタイルシートが含まれており、これによって XML の内容をブラウザに簡単に表示できます。

これらの XSLT スタイルシート内の「ルックアップテーブル」を変更して、たとえばローカル言語で情報が表示されるようにすることもできます。これを行うには、次の手順に従います。

1. DICENTIS サーバーで会議メモの保存先として選択したフォルダを参照します。「**会議室設定**, ページ 72」セクションの「**Meeting notes location (会議メモの場所)**」にある説明を参照してください。
2. XSLT スタイルシートのバックアップを作成します。
3. ソースコードエディタ (たとえば Notepad++) を使用して XSLT スタイルシートを開きます。
4. ルックアップテーブルで、select 値を必要に応じて変更します。name 値は変更しないでください。次の例を参照してください。

select のデフォルト設定 :

```
<xsl:variable name="variableMeeting" select="'Meeting'" />
<xsl:variable name="variableMeetingName" select="'Name: '" />
<xsl:variable name="variableDescription" select="'Description: '" />
```

ローカル言語用に変更した select 値 :

```
<xsl:variable name="variableMeeting" select="'Vergadering'" />
<xsl:variable name="variableMeetingName" select="'Naam: '" />
<xsl:variable name="variableDescription" select="'Beschrijving: '" />
```

[Change and modify the displayed logo (表示ロゴの変更)] :

```
<xsl:variable name="variableLogoPath" select="'path of the logo'"/>
<xsl:variable name="variableLogoHeight" select="'100'"/>
<xsl:variable name="variableLogoWidth" select="'100'"/>
```

6.12.3

ソフトウェア更新後のスタイルシートへのカスタム設定の追加

DICENTIS ソフトウェアが更新されても、既存の XSLT スタイルシートは上書きされません。上書きされるとカスタム設定がすべて削除されてしまうからです。その代わり、インストールソフトウェアは、最新の更新がすべて含まれた新しいバージョンのスタイルシートをデフォルトの :

\\ProgramData\\Bosch\\DICENTIS ディレクトリ、または結果を保存する場所を変更した場合に入力した場所にコピーします。

この新しいスタイルシートを更新するには (また、以前のスタイルシートから任意のカスタム設定を追加するには)、次の手順に従います。

MeetingResult.xslt スタイルシート :

1. **MeetingResult.xslt** の名前を適切な名前 (たとえば **MeetingResult_old1.xslt**) に変更します。

2. 自動的に作成された **MeetingResult_new.xslt** を開き、**MeetingResult_old1.xslt** に行ったのと同じカスタム設定を適用します。
3. 必要に応じて、任意の新しいカスタム設定を **MeetingResult_new.xslt** に追加します。
4. **MeetingResult_new.xslt** の名前を **VotingResult.xslt** に変更します。

VotingResult.xslt スタイルシート :

1. **VotingResult.xslt** の名前を適切な名前 (たとえば **VotingResult_old1.xslt**) に変更します。
2. 自動的に作成された **VotingResult_new.xslt** を開き、**VotingResult_old1.xslt** に行ったのと同じカスタム設定を適用します。
3. 必要に応じて、任意の新しいカスタム設定を **VotingResult_new.xslt** に追加します。
4. **VotingResult_new.xslt** の名前を **VotingResult.xslt** に変更します。

注 : インストールソフトウェアは、ソフトウェアの更新中、**MeetingResult_new.xslt** と **VotingResult_new.xslt** を常に上書きします。そのため、どのようなカスタム設定もこれらの名前のファイルに保存してはなりません。

6.12.4

信頼性チェック

会議メモと投票メモには、その内容を検証するための信頼性チェック構造があります。ソフトウェアバージョン 3.60 からは証明書技術が導入され、改ざんに対する保護が強化されています。

ファイルが改ざんされているかどうかをチェックするには、プレビューにマウスを合わせて信頼性アイコンを表示します。

- チェックマーク付きのシールドアイコン : 証明書技術に基づく**信頼性チェックに合格済み**。
- シールドアイコン : 3.50 以前のリリースの信頼性チェックに基づく**信頼性チェックに合格済み**。
- 三角形の警告アイコン : **信頼性チェックに不合格**。これが起きるのは、ファイルが改ざんされた場合か、証明書を検証するためのルート証明書がサーバーにない場合です。

信頼性チェックは、3.60 ソフトウェアのインストール時にインストールされたルート証明書に基づいて行われます。

必ずこの証明書のバックアップを作成してください。サーバーコンピュータを交換した場合は、信頼性チェックを実行できるように新しいサーバーに証明書をインストールする必要があります。

この署名証明書は次の場所に保存されています。\\Program Files\\Bosch\\DICENTIS\\<ホスト名> signing root authority.crt

証明書を別のコンピュータにインストールするには、次の手順に従います。

1. 証明書を右クリックし、[**証明書のインストール**] を選択します。
2. [**ローカルコンピュータ**] を選択します。
3. [**証明書をすべて次のストアに配置する**] を選択します。
4. [**参照**] を選択します。
5. [**信頼されたルート証明機関**] を選択します。
6. [**次へ**] を選択します。

7. [完了]を選択します。

証明書が正しくインストールされたかどうかを確認するには、PowerShell を使用します。コマンド `dir Cert:\LocalMachine\Root\` を実行すると、証明書が表示されるはずです。

7 ハイブリッド会議用の DICENTIS の構成

DICENTIS ハイブリッド ミーティングを使用すると、物理的に会議室にいない参加者も、Web ブラウザを使用してリモートから参加できます。

7.1 システムセットアップ

7.1.1 ライセンス

会議に参加する各参加者には、参加者ライセンスが必要です。リモート参加者にはハイブリッドアドオンライセンスが必要です。



注記!

プリペイドライセンスとサブスクリプションライセンスを併用することはできません。

最大 250 人の参加者がリモートから会議に参加できます。現在、23 人のリモート参加者のビデオを同時に表示できます。

参加者がオンプレミスとリモートの両方で使用できる機能セットは、参加者のライセンスによって異なります。

参加者ライセンスの詳細については、「[ライセンスの概要](#), ページ 20」を参照してください。

7.1.2 利用規約

エンドカスタマーは DICENTIS ハイブリッド ミーティングを使用する前に、使用条件に同意する必要があります。

システムをインストールする者は、Electro Voice Dynacord B.V. に連絡して、契約プロセスを開始します。その後、エンドカスタマーは受信したメールに返信することにより、使用条件に同意します。

7.1.3 追加のハードウェア

DICENTIS サービスを実行するコンピュータには、2 つ目のネットワークアダプタが必要です。

DICENTIS システムのソフトウェアビデオスイッチングを使用する場合、追加の機器は必要ありません。

7.1.4 ネットワーク要件

ハイブリッド会議をスムーズに実行するには、次の要件を満たす必要があります。

- 会議室の帯域幅：
 - 上り：50Mbps 以上
 - 下り：50Mbps 以上
- UDP/TCP：
 - ハイブリッド会議の場合、優れたユーザーエクスペリエンスを実現するために UDP トランスポートの使用を強くお勧めします。TCP トランスポートの場合、リモート参加者との間で音声とビデオの遅延が増加します。
- PC 要件：
 - DCNM-SERVER3。
- リモート参加する参加者の帯域幅：
 - 上り：5Mbps 以上

- 下り : 20Mbps 以上

DICENTIS リモート参加システムでは、制御トラフィックとメディアトラフィックの両方について、クラウドサービスへのアウトバウンドアクセスが必要です。すべての接続は、DICENTIS サーバーからインターネットに対して開始されます。インバウンドポートを開く必要はありません。次の要件を参照してください :

- コントロールゲートウェイ :

コントロールゲートウェイは、HTTPS 経由で次のクラウドサービスに接続します。必要なのは TCP ポート 443 のみです。

接続先	プロトコル / ポート	目的
*.meet.dicentis.com	HTTPS / TCP 443	オーケストレーション、ライセンス、認証
*.azure-devices.net	WebSocket 経由の AMQP / TCP 443	Azure IoT Hub (デバイスメッセージング)

すべてのトラフィックは TLS で暗号化されます。これらの接続では、HTTP プロキシサーバーがサポートされます。

- メディアゲートウェイ :

メディアゲートウェイは、WebRTC ベースの音声およびビデオ転送に AWS Chime SDK を使用します。必要なポートと IP アドレス範囲は、AWS によって定義および管理されます。

最新かつ完全な一覧については、AWS の公式ドキュメント [[Configuring your network for Amazon Chime SDK meetings - Amazon Chime SDK \(Amazon Chime SDK 会議用のネットワークの構成\)](#)] を参照してください。

プロトコル / ポート	目的
TCP 443	シグナリングとメディアのフォールバック
UDP 3478	STUN / TURN (WebRTC の ICE ネゴシエーション)
UDP 3479	STUN / TURN (WebRTC の ICE ネゴシエーション)

注記:

メディアゲートウェイの UDP ポートに対するファイアウォールルールは、DNS ホスト名ではなく、IP アドレス範囲に基づいて設定する必要があります。AWS の STUN / TURN トラフィックは、DNS ルックアップを伴わずに IP アドレスから直接到着するため、ホスト名に基づくルールには一致しません。Chime サービスには、AWS が <https://ip-ranges.amazonaws.com/ip-ranges.json> で公開している IP アドレス範囲を使用してください。これらの IP アドレスは AWS が管理しているため、一覧は変更される場合があります。ルールを最新の状態に保つ方法については、AWS のドキュメントを参照してください。



7.1.5

ホールディスプレイと室内カメラ

会議室とリモート参加者との間でビデオを互いに共有できるようにメディアゲートウェイを設定する必要があります。プレゼンテーションについても同様です。

7.1.6

オーディオのセットアップ

会議室とリモートの参加者との間で音声を送受信する必要があります。

– **ハイブリッド会議の音声を設定するには：**

1. Dante 入力 2 と出力 2 の音声を未処理のミックスマイナスに設定し、ミュートを解除します。
2. Dante Controller で、DICENTIS-<hostname PC>MG のフロア用のマルチキャスト フローを作成します。

詳細については、「*Dante™ 互換デバイスの構成*, ページ 184」の章のマルチキャスト ストリームの作成方法に関するセクションを参照してください。

3. Dante Controller を使用して、以下をルーティングします。

- DICENTIS-<ホスト名 PC> Dante 出力 Out 2 から DICENTIS-<ホスト名 PC>-MG フロア
- DICENTIS-<ホスト名 PC>-MG フロアから DICENTIS-<ホスト名 PC> Dante 入力 In2

注：Audinate から Dante Controller ソフトウェアをダウンロードしてインストールする必要があります。



注記!

セキュリティ上の理由から、ルーティング後に Dante コントローラーを使用してデバイスをロックすることを強くお勧めします。

7.2

リモート参加者のセットアップ

リモート参加者が会議に参加するには、会議アプリケーションでそのリモート参加者に対してユーザーが定義されている必要があります。会議室にいる参加者にも同じことが当てはまります。

リモート参加者がリモート Web アプリケーションにログインするには、資格情報が設定されている必要があります。**ユーザー名とパスワード**の組み合わせを参加者ごとに定義する必要があります。

各ユーザーのセットアップは 1 回のみ必要です。詳細については、*登録者*, ページ 51 を参照してください。

7.3

ハイブリッド会議の準備

会議が設定された後、リモート参加者と会議室にいる参加者の両方を会議に割り当てる必要があります。

リモート参加者に会議へのリンクを送信すると、リモートから参加できます。各会議には固有のリンクがあります。会議のリンクは、[会議の詳細] の **会議名** の横にあります。詳細については、

「*Meeting details (会議の詳細)*, ページ 60」を参照してください。

会議の詳細に設定された識別オプションを変更しても、リモート参加者が自分自身を識別する方法は変わりません。リモート参加者は、たとえば NFC カードの使用が識別モードとして設定されている場合でも、常に資格情報を使用してログインする必要があります。

7.4

ハイブリッド会議の管理

リモート参加者がログインできるようになる前に、会議アプリケーションを通じて会議をアクティブ化する必要があります。アクティブ化後、ログインが可能になるまでに数分かかります。

DICENTIS Web サーバーを使用して、オンラインクラウドのステータスを確認できます。リモート参加者がオンライン会議を利用できる場合、DICENTIS Web サーバーのクラウドアイコンが表示されます。クラウドアイコンにポインターを合わせると、会議の状態が表示されます。

ステータスには次のものがあります。

メッセージ	アイコンの色	原因	修復方法
-------	--------	----	------

会議が非アクティブ	白	準備された会議がアクティブ化されていない	n.a.
クラウド接続の進行状況	ホワイト、回転ホイール付き	会議がアクティブ化され、リモート参加の準備が整っています	待機中
ハイブリッド会議の接続は完全にテスト済みで、正常に動作しています。いつでも会議を始められます	白	n.a.	n.a.
MissingCertificate	赤色	クラウドサービスに対して DICENTIS サーバーを識別する証明書が存在しません	DICENTIS アクティベーションツールを使用して証明書を取得してください
CertificateRefreshFailed	赤色	DICENTIS サーバーを識別する証明書のクラウドサービスへの更新に失敗しました	DICENTIS アクティベーションツールを使用して新しい証明書を取得してください
CertificateExpired	赤色	クラウドサービスに対して DICENTIS サーバーを識別する証明書が期限切れです。これは、DICENTIS サーバーが 4 週間以上インターネットに接続されていない場合に発生する可能性があります。	DICENTIS アクティベーションツールを使用して新しい証明書を取得してください
NoInternet	赤色	インターネットに接続されていません。これは www.google.com を読み込んでテストできます	インターネットへの接続を修復してください
NoHybridServices	赤色	インターネットには接続されていますが、Bosch ハイブリッド サービスにアクセスできません	テクニカルサポートに電話してください
GeneralMultimediaFailure	赤色	オーディオ/ビデオのトランスポートに問題があります。この問題は参加者全員に当てはまります	テクニカルサポートに電話してください
LocalMultimediaFailure	赤色	オーディオ/ビデオのトランスポートに問題があります。リモート参加者間の音声/ビデオは引き続き機能する可能性があります	UDP メッセージをインターネットに送信でき、プロキシを使用していないことを確認してください
UpdateFailed	赤色	ローカル DICENTIS サーバーの DICENTIS ハイブリッド ミーティング コンポーネントの更新に失敗しました	DICENTIS サーバーが週末にインターネットにアクセスできることを確認してください

7.5 リモート参加者としてミーティングに参加する

リモート参加者が会議に参加するには、その会議をアクティブ化する必要があります。会議リンクをクリックすると、DICENTIS ハイブリッド ミーティングページが開きます。ミーティングが利用可能な場合、リモート参加者はログインするように求められます。ミーティングが利用できない場合、この情報は DICENTIS ハイブリッド ミーティング ページに表示されます。ミーティングが利用可能になるとすぐに、ログインが自動的に表示されます。参加者はページを更新する必要はありません。

ログインに成功したら、オーディオ装置とビデオ装置を選択する必要があります。一部のオーディオおよびビデオ装置が利用できない可能性があります。それらの装置が別の AV アプリケーションによってすでに使用されていることが原因です。

リモート参加者がマイクをアクティブにしたまま会議から退席すると、その参加者は離席中の発言者として発言者リストに残ります。その後の処理は、参加者が復帰するかどうかで異なります。

- 参加者が会議に復帰すると、離席中の発言者が通常の発言者になります。
- 会議に復帰しない場合、書記は会議アプリケーションまたはシノプティックコントロールを使用して離席中の発言者を削除できます。

何らかの理由で、リモート参加者のマイクがシステムによってオンにされた場合、その参加者はマイクがミュートされた状態で発言者リストに入れます。参加者は発言する前にマイクのミュートを解除する必要があります。これにより、リモートの参加者がいつでもマイクを制御できるようになり、参加者のプライバシーが保護されます。

7.6 自動更新

サーバー上で実行されている DICENTIS サービスには、ハイブリッド会議に必要ないくつかのコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントは定期的に自動的に更新されます。毎週日曜日の午前 3 時 (DICENTIS サーバー時刻) とサーバーの毎回の起動時に、Windows タスクスケジューラのタスク (Bosch -> DICENTIS Hybrid) が実行されます。

これらの自動更新は、ビデオの切り替えに使用されるメディアゲートウェイにも適用されます。



注記!

更新中、DICENTIS サービスは一時的に停止します。これにより、実行中の会議が非アクティブ化されます。更新が完了すると、DICENTIS サービスが自動的に再起動されます。ただし、自動的に非アクティブ化された会議は、自動的に再びアクティブ化されることはありません。

7.7 シングル サインオン (SSO) ログイン

DICENTIS Hybrid は、リモート参加者向けのシングル サインオン (SSO) をサポートしています。この機能により、ユーザーは組織の認証情報を使用してログインできるため、ログイン プロセスがシームレスになり、リモート参加者のセキュリティが大幅に向上します。この機能には次のような利点があります。

- **ユーザー エクスペリエンス:** 参加者は、さまざまなアプリケーションの複数のログイン認証情報を覚えておく必要がありません。SSO を使用すると、単一の共通認証情報を使用してすべての統合システムにアクセスできるため、ワークフローが簡素化されます。また、ユーザーはパスワードをリセットするためにオペレータに頼る必要がなくなるため、オペレータへの依存度も軽減されます。

- **セキュリティの強化:** すべての認証リクエストは、クライアントの IT チームによって管理される集中型アイデンティティプロバイダー (IdP) を通じて処理されます。これにより、パスワード関連のセキュリティ侵害のリスクが軽減され、組織のセキュリティポリシーへの準拠が保証されます。
- **集中型アクセス制御:** パスワード管理とユーザーアクセスは、クライアントの IT 部門によって制御されます。これにより、組織はセキュリティポリシーを強制し、多要素認証 (MFA) を適用し、単一の制御ポイントからユーザーロールを管理できるようになります。

7.7.1

DICENTIS ハイブリッド ミーティングでのシングル サインオン (SSO) の仕組み

クライアントのアイデンティティプロバイダーは、承認および認証システムとして機能します。組織のユーザーディレクトリと照合して参加者の真正性を検証します。クライアントの IdP で MFA が構成されている場合、参加者も MFA を使用して認証する必要があります。

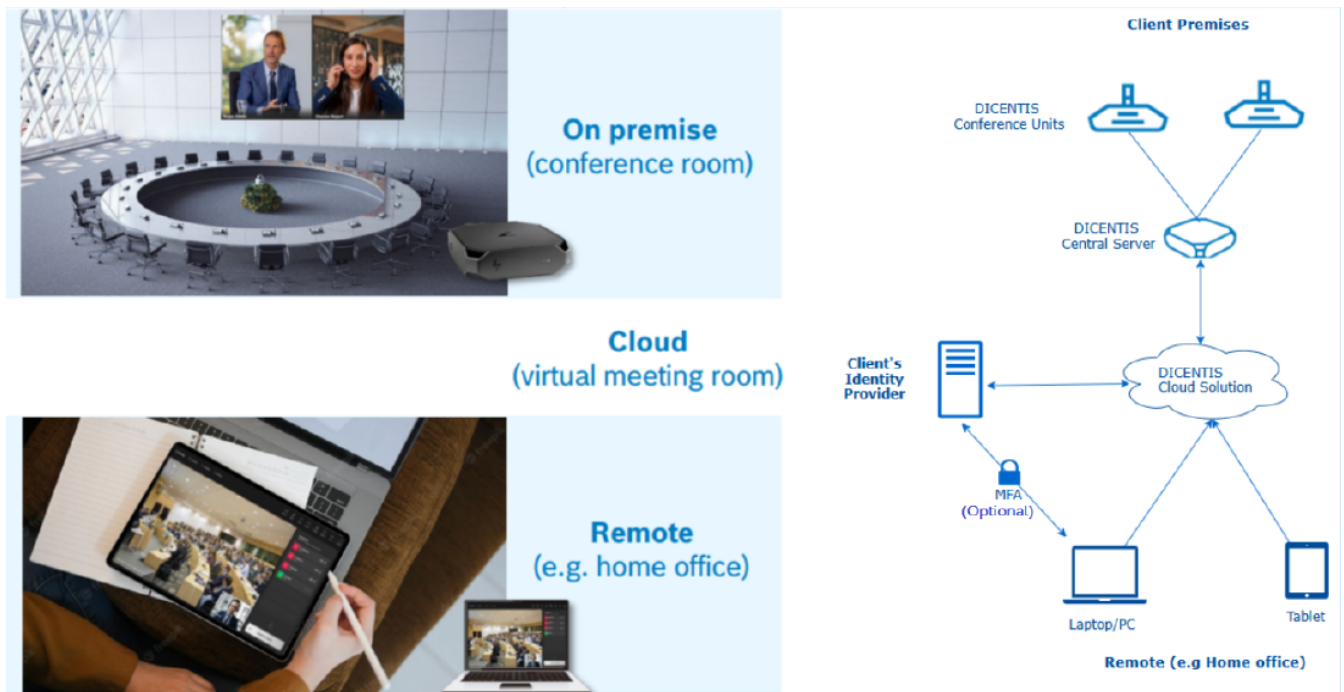


図 7.1: SSO の DICENTIS ハイブリッド ミーティングとの統合

シングルサインオン機能を有効にするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 顧客と参加者に設定した Microsoft Entra アイデンティティプロバイダー (IdP) を登録する必要があります。
- Microsoft Entra は OAuth 2.0 をサポートしています。
- DICENTIS の場合は、ソフトウェアバージョン 6.80 以上、DICENTIS ハイブリッドの場合は、ソフトウェアバージョン 1.12.6 以上をインストールする必要があります。

7.7.2

シングルサインオン (SSO) ログインを有効にする

DICENTIS ハイブリッドの SSO プロセスは、次の 3 つの段階で構成されます。

1. アイデンティティプロバイダー (IdP) のセットアップと DICENTIS の構成: 顧客の IT チームが IdP を構成し、技術者が DICENTIS システムで SSO セットアップを完了します。
2. 会議アプリケーションでの会議と登録者の準備: オペレータは参加者を追加し、会議設定を構成して SSO ベースのログインを有効にします。
3. リモート参加者の SSO ログイン: 参加者は、組織の SSO 認証情報を使用して DICENTIS ハイブリッド ミーティングに参加します。

ステージ 1: アイデンティティ プロバイダーのセットアップ (手順 1) と DICENTIS の構成 (手順 2)

手順 1 - 1 つのアイデンティティ プロバイダーを使用して DICENTIS ハイブリッドを構成します (顧客の IdP で顧客の IT チームによって実行されます)。

1. 顧客のアイデンティティ プロバイダー (IdP) でアプリケーション登録を作成します。
注: 詳細な手順については、選択した IdP の公式ドキュメントを参照してください。たとえば、Microsoft Entra ID を使用する場合は、それぞれの[登録ガイド](#)を参照してください。
2. 新しいプロバイダーを設定する場合、または既存のプロバイダーを使用する場合は、以下を構成します。
 [Manage-Authentication (管理 - 認証)] でリダイレクト URL を追加します。プラットフォームタイプとして [Single-Page-Application (シングルページアプリケーション)] を選択します。
 a) 許可されるリダイレクト URL : <https://meet.dicentis.com/oauth/signin>。
 b) 許可されるサインアウト URL : <https://meet.dicentis.com/oauth/signout>。
3. IdP から次の詳細を収集します。これは、DICENTIS で SSO を構成するための手順 2 で必要になります。
 a) クライアント ID (例: 72e19633-7ba8-46e3-ba60-xxxxxxxxxxxx)。
 b) 権限 (例: <https://login.microsoftonline.com/894e28d7-bdf4-4edb-92c0-93e5fb84cde8/v2.0>"<https://login.microsoftonline.com/894e28d7-bdf4-4edb-92c0-xxxxxxxxxxxx/v2.0>)。
 c) ディレクトリ (テナント) ID (例: 894e28d7-bdf4-4edb-92c0-xxxxxxxxxxxx)。
注: AUTHORITY_URL を作成するには、<ディレクトリ (テナント) ID> を自身のテナント ID に置き換えます。上記の例を検討してください: [https://login.microsoftonline.com/%3cDirectory%20\(tenant\)%20ID%3e/v2.0](https://login.microsoftonline.com/%3cDirectory%20(tenant)%20ID%3e/v2.0)"[https://login.microsoftonline.com/<ディレクトリ \(テナント\) ID>/v2.0](https://login.microsoftonline.com/<ディレクトリ (テナント) ID>/v2.0)。
4. アプリ登録に進みます。
 a) [Token configuration (トークン構成)] で:
 - オプションのクレームを追加します: [Token type (トークン タイプ)] として ID を選択し、[Claim (クレーム)] としてメール (必須)、[upn] (オプション) を選択して、[Add (追加)] をクリックします。
 b) [API permissions (API のアクセス許可)] で:
 - アクセス許可を追加します: [Microsoft] > [Delegated Permissions (委任されたアクセス許可)] を選択し、[OpenId permissions (OpenId のアクセス許可)] で [Email (メール)]、[OpenId]、および [Profile (プロフィール)] を選択します。
 - 管理者のアクセス許可: アクセス許可が追加されると、管理者の同意が必要になります。[Enterprise Application (エンタープライズ アプリケーション)] に進み、[Security (セキュリティ)] > [Permissions (アクセス許可)] で管理者の同意を付与します。
注: 許可は管理者アカウントからのみ付与されます (管理者アカウントでログイン)。許可が付与されると、それらは [Admin consent (管理者の同意)] タブに記載されます。



注記!

複数の IdP は標準構成の一部ではないため、使用しないでください。

手順 2 - DICENTIS で SSO を構成します (DICENTIS サーバー上の技術者が実行します)。

1. `C:\Program Files\Bosch\DICENTIS\AuthConfiguration` に移動します。
2. 次のファイルを開きます: `AuthConfiguration.jsonc`

3. 以下の構造に従って、アイデンティティ プロバイダーの詳細を追加します。

```
{
  "OAuth2Configurations": [
    {
      "clientId": "<YOUR_CLIENT_ID>",
      "authority": "<YOUR_AUTHORITY_URL>"
    }
  ]
}
```

次のことに注意してください:

- a) `clientId` と `authority` のフィールドを設定する必要があります。
- b) `authority` のフィールドの末尾にスラッシュを付けてはなりません。Microsoft Entra ID の権限の例: <https://login.microsoftonline.com/894e28d7-bdf4-4edb-92c0-93e5fb84cde8/v2.0> (最新の OpenID バージョンを使用するには、v2.0 を含む権限全体を指定する必要があります)。

4. ファイルを保存した後、構成を確認します。

- a) `C:\ProgramData\Bosch\DICENTIS\Logs\ControlGateway.log` でログを確認します。

- b) `Successfully loaded Auth config` を探します。

検証に失敗した場合は、ログでエラーを確認し、構成を修正します。

ステージ 2: 会議アプリケーションでの会議準備 (オペレータが実行)

1. [**Person (登録者)**] ([**Prepare (準備)**] > [**Meeting (会議)**] > [**Person (登録者)**]) に移動します。
2. 参加者の詳細を入力します。

次のことに注意してください。

- a) SSO ログインには必須なので、参加者のメール アドレスを入力する必要があります。入力した電子メール アドレスは、顧客のアイデンティティ プロバイダー (IdP) に登録されている電子メール アドレスと一致する必要があります。SSO を使用するリモート参加者の場合は、パスワードを生成しないことをお勧めします。これにより、SSO が唯一のログイン方法として使用されることが保証され、適切なセキュリティがサポートされ、認証方法が混在することが防止されます。
- b) ゲスト参加者 (組織外) の場合は、ユーザー名とパスワードを作成する必要があります。

DICENTIS ハイブリッド ミーティングに SSO が構成されている場合、電子メール アドレスが提供されているすべての参加者が SSO を使用してログインできます。

ステージ 3: リモート参加者の SSO ログイン

1. DICENTIS ハイブリッド ミーティングのリンクを開きます。
2. ログイン ページで、[**Continue with SSO (SSOで続行)**] ボタンをクリックします。
組織のアイデンティティ プロバイダー (IdP) である Microsoft のログイン ページにリダイレクトされます。
3. 企業の認証情報を入力してください。
4. 多要素認証 (MFA) が有効になっている場合は、MFA 手順を完了します。
5. 認証が成功すると、設定ページにリダイレクトされます。[**Join (参加)**] をクリックして、会議に参加します。

8 メディアゲートウェイ

メディアゲートウェイは、ソフトウェア 5.0 のリリースとプレミアムライセンスとアルティメットライセンスの提供により、高度なビデオ管理ソリューションとして導入されました。

メディアゲートウェイは以下をサポートします。

- ファイル入力 (画像またはビデオ)
- RTSP 入力デバイス (サポートしている機器, ページ 150を参照)
- さまざまなビュー (キャンバス)
- 複数の出カストリーム
- ビデオ スイッチャー (サポートしている機器, ページ 150を参照)
- ソフトウェアビデオスイッチング :
 - ビデオレイアウト内の複数のビデオフィード
 - IP ビデオ

メディアゲートウェイには 2 つのモード (Basic と Advanced) があり、システムで利用可能なライセンスに基づいて自動的に設定されます。メディアゲートウェイの **Advanced モード**は、DCNM-CRN、DCNM-DEMO、DCNM-RENTAL、およびすべての参加者ベースのライセンスで利用できます。

	プレミアム	アルティメット
パーペチュアル	DCNM-LPP-PE	DCNM-LPU-PE
プリペイド	DCNM-LPPP-P1Y	DCNM-LPUP-P1Y
Subscription	DCNM-LPPP-S1Y	DCNM-LPUP-S1Y

メディアゲートウェイの **Basic モード**は、登録済みであるが、上記のいずれのライセンスも持たないシステムでも利用できます。Basic モードと Advanced モードの詳細については、「[設定方法](#), ページ 130」を参照してください。

8.1 梱包品

メディアゲートウェイはさまざまなコンポーネントで構成されます。

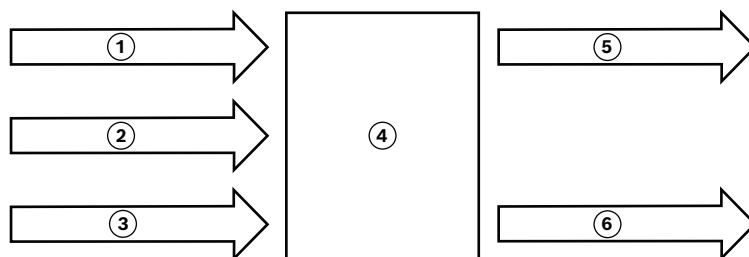


図 8.1: メディアゲートウェイの機能説明

1. **入力ソース** - カメラやエンコーダーから H.264 および H.265 でエンコードされた RTSP ストリームまたは画像/ビデオ ファイル。
2. **構成** - メディアゲートウェイの動作を定義します。詳細については、「[設定方法](#), ページ 130」の章を参照してください。
3. **DICENTIS 状態** - アクティブなマイクの数と、会議室にいる参加者およびリモートで参加している参加者からのプレゼンテーションで構成されます。
4. **メディアゲートウェイ**
5. **ビデオ出力** - オーバーレイを含む、H.264 または H.265 形式のユーザー定義の出力ストリーム。設定では、コンテンツ、解像度、条件、動作を設定します。
6. **制御出力** - IP カメラの PTZ 制御および、使用されている場合は外部 SDI スイッチャーの制御を行います。

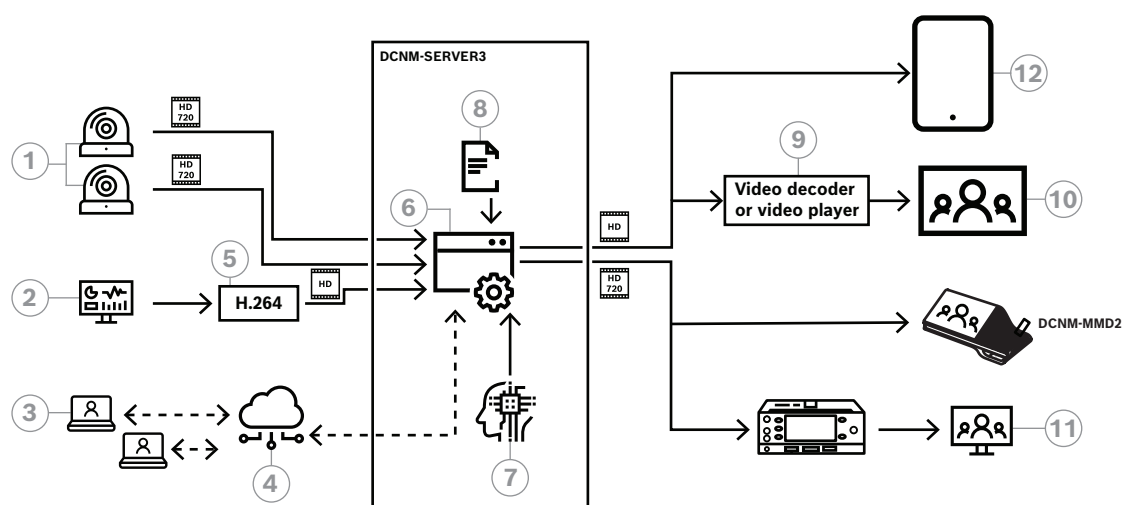


図 8.2: メディアゲートウェイ - 概念図

1	カメラ (Cameras)	2	ローカルのプレゼンテーションソース
---	---------------	---	-------------------

3	リモートの参加者	4	クラウド
5	H.264 エンコーダ	6	メディアゲートウェイ
7	DICENTIS システム状態	8	メディアゲートウェイの構成
9	ビデオ デコーダーまたはビデオ プレーヤー*	10	モニタ
11	通話者モニター	12	参加者申込

* オプションとして、DICENTIS メディア プレーヤーをクライアント PC 上で実行されるビデオ プレーヤー アプリケーションとして使用できます。詳細については、
「DCNmMediaPlayer のインストールと実行」の章を参照してください。

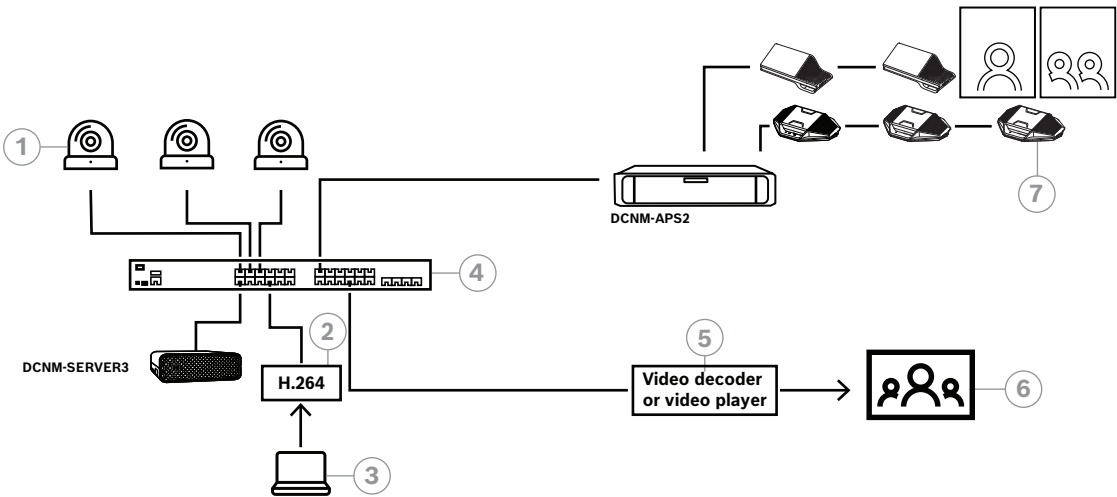


図 8.3: ソフトウェアビデオスイッチングを使用したスタンドアロン DICENTIS システム

1	カメラ (Cameras)	2	H.264 ビデオエンコーダ
3	ローカルプレゼンテーション	4	ネットワークスイッチ
5	ビデオ デコーダーまたはビデオ プレーヤー *	6	モニタ
7	会議デバイス		

* オプションとして、DICENTIS メディア プレーヤーをクライアント PC 上で実行されるビデオ プレーヤー アプリケーションとして使用できます。詳細については、
「DCNmMediaPlayer のインストールと実行」の章を参照してください。

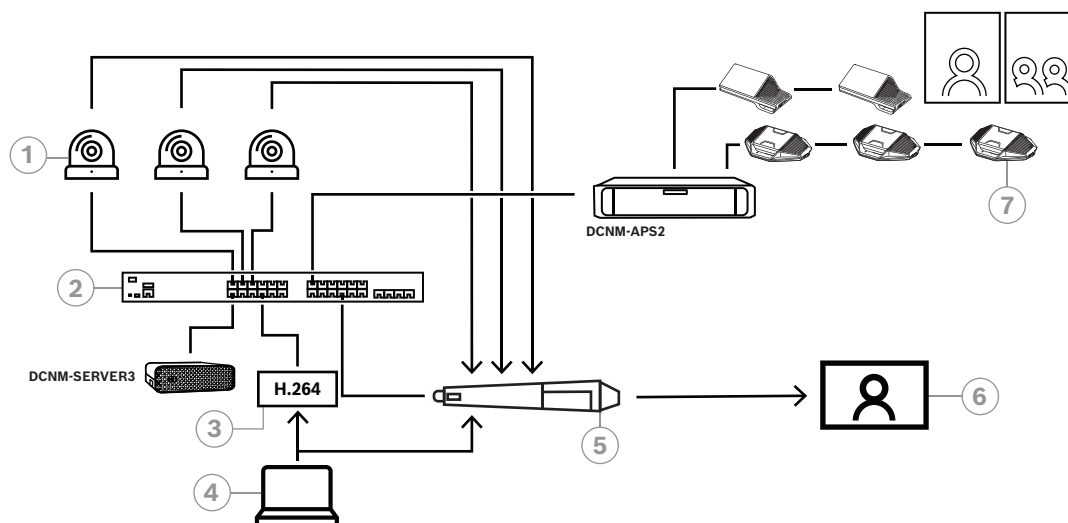


図 8.4: SDI ハードウェアスイッチングを使用したスタンドアロン DICENTIS システム

1	SDI 出力を備えたカメラ	2	ネットワークスイッチ
3	H.264 ビデオエンコーダ	4	ローカルプレゼンテーション
5	外部 SDI スイッチャー	6	モニタ
7	会議デバイス		

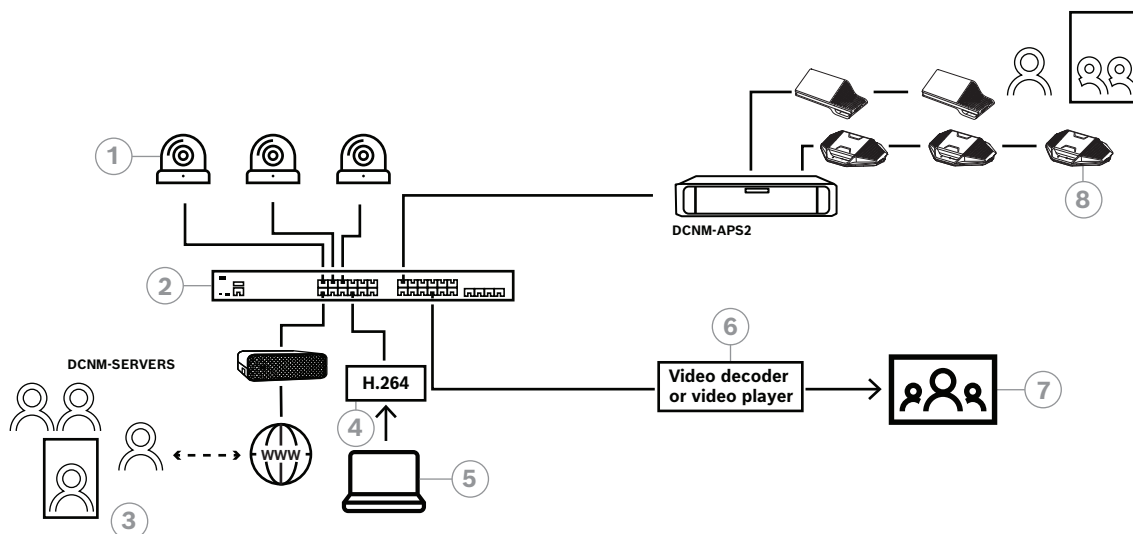


図 8.5: ソフトウェアビデオスイッチングを使用した DICENTIS ハイブリッドミーティング

1	カメラ (Cameras)	2	ネットワークスイッチ
3	リモートの参加者	4	H.264 ビデオエンコーダ
5	ローカルプレゼンテーション	6	ビデオ デコーダーまたはビデオ プレーヤー *
7	モニタ	8	会議デバイス

* オプションとして、DICENTIS メディア プレーヤーをクライアント PC 上で実行されるビデオ プレーヤー アプリケーションとして使用できます。詳細については、

「DCNmMediaPlayer のインストールと実行」の章を参照してください。

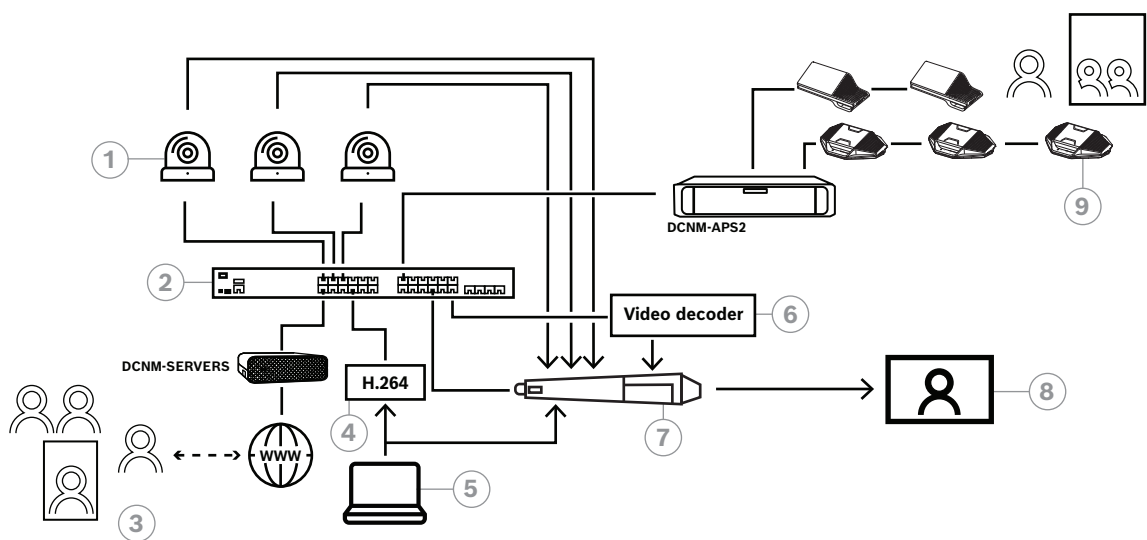


図 8.6: SDI ハードウェア スイッチングを使用した DICENTIS ハイブリッド ミーティング

1	SDI 出力を備えたカメラ	2	ネットワークスイッチ
3	リモートの参加者	4	H.264 ビデオエンコーダ
5	ローカルプレゼンテーション	6	SDI 出力付きビデオデコーダー
7	外部 SDI スイッチャー	8	モニタ
9	会議デバイス		

8.2 設定方法

Media Gateway は Web ページから設定します。Web ページにアクセスするためのリンクは、**https://<hostname または DICENTIS サーバーの IP アドレス>:31416/Mediagateway** という形式にする必要があります。

メディアゲートウェイを構成するには、**システム構成**の権利が必要です。
設定方法は、Webページに記載されています。

メディアゲートウェイは **Basic** モードと **Advanced** モードの 2 つのモードで動作します。使用するモードはシステムで利用可能なライセンスによって決まります (第 8 章参照)。 **Advanced** モードでは、Canvas および Contents を使用した高度なビデオ合成機能を構成できますが、 **Basic** モードではビデオ転送設定のみがサポートされます (「ビデオ転送, ページ 132」を参照)。

設定作業は 8 つのセクションで構成されます。

- **入力** - ネットワーク上の ONVIF デバイスを検出し、カメラまたはビデオ/画像ファイルなどの新しい IP ビデオソースを追加します。

- **シートマップ** - 座席とプリセットを定義します。座席にはカメラ/プリセットの複数の組み合わせを含めることができます。中央、左、右のビューを使用して、どの角度からショットを行うかを定義します。これは、サイドバイサイドのビデオ分割に使用されます。
注：メディアゲートウェイが正しく動作するには、DICENTIS 内の座席名が一意である必要があります。
- **ビデオスイッチャー** - SDI ビデオスイッチャーを設定します。
- **キャンバス** - ビデオの視聴回数を定義します。ビデオビューはシングル、分割、クアッドなどにすることができます。
- **コンテンツ** - キャンバスが選択されたときを定義します。たとえば、誰も話していないときに概要キャンバスが選択されるように、または 2 人の参加者が発言しているときに分割ビデオビューが選択されるように定義できます。
- **ストリーム** - 出力ストリームを定義します。録画とブロードキャスト、または大画面での投影に別のエンコーディングを使用したい場合があります。
- **構成** - ここでは一般的な設定（ローカル プレゼンテーションのストリーム、カメラ オーバーレイを使用するかどうかなど）を行います。
- **全体設定** - ここには、オーバーレイテキストのフォント、サイズ、色などのグローバル設定があります。

注記!

Basic モードには次の制限があります。



- [Canvas (キャンバス)]、[Contents (コンテンツ)]、[Global (グローバル)] 設定セクションは使用できません。
- あらかじめ定義された転送ストリームのみ使用可能です（スピーカー / ルームのビデオ用とローカル プレゼンテーション用の 2 種類）。
- DICENTIS Participant App の画面共有機能およびハイブリッド会議機能は使用できません。
- ファイル入力はサポートされていません。

注記!

Basic モードの制限によりストリームが利用できない場合は、次のストリームをメディアゲートウェイ設定ファイル（C:\ProgramData\Bosch\DICENTIS\MediaGateway\MediaGatewaySettings.jsonc）の Stream セクションに追加する必要があります。



```
{
  "id": "stream2",
  "stream-mode": "VideoForwarding",
  "encoding": "H264",
  "server-type": "RTSP"
},
{
  "id": "stream1",
  "stream-mode": "PresentationForwarding",
  "encoding": "H264",
  "server-type": "RTSP"
}
```


8.3 ビデオ転送

DICENTIS 6.60 およびハイブリッドバージョン 1.10.6 では、「転送ストリーム」と呼ばれる新しいストリームタイプが導入されています。遅延を最小限に抑え、元のソースビデオの品質を維持するために、転送ストリームは処理されず、キャンバスやオーバーレイなどのビデオ構成は含まれません。これらのストリームは、次の規則に基づいて、入力ストリームを出力ストリームの 1 つに直接転送します。

- プレゼンテーション転送 - 「ローカルプレゼンテーションソース ID」に選択した入力をこのストリームに直接転送します。
- ビデオ転送 - アクティブな発言者がいない場合は、「概要ソース ID」に選択した入力を直接転送します。アクティブな発言者がいる場合、座席マップ内の参加者に割り当てられたカメラフィールドがこのストリームに転送されます。



注記!

概要またはプレゼンテーションソースが設定されていない場合、ビデオ出力に  が表示されます。

転送ストリームで使用されるすべての入力（概要 / 座席カメラおよびプレゼンテーションソース）に次のカメラ設定を使用します。

パラメータ	値	注記
エンコーディング	H.264 または H.265	DCNM-MMD2 または DCNM-IDECK をお持ちの場合は、H.264 を使用してください。それ以外の場合は、H.264 または H.265 を使用できます。
ビデオ解像度	1280 × 720 または 1920 × 1080	DCNM-MMD2 をお持ちの場合は、720p を使用してください。DCNM-IDECK や参加者アプリをお持ちの場合は、1080p を使用してください。
フレームレート	50 または 60	
最大ビットレート	2500 bit/s	
GOP 長	15	「I フレーム距離」とも呼びます。
B フレーム	Disabled（無効）	I フレームと P フレームのみ。

表 8.1: 転送ストリームで使用する入力のカメラ設定

ビデオ処理と転送のオプションの比較については、以下の表を参照してください。

特長	ビデオ処理	ビデオ転送	注記
遅延時間	高*	低	
構成	あり	いいえ	たとえば、分割ビューでキャンバス、領域、オーバーレイなどのビデオ構成を許可します。

設定	複雑	シンプル	セットアップ構成は、キャンバス、オーバーレイ、コンテンツなどを作成する自由度がある場合、複雑になる可能性があります。一方、事前に定義された動作に従って直接転送する場合であれば、シンプルになります。
ビデオの動作	編集可能	定義済み	ビデオの動作はユーザーによってカスタマイズ可能です。たとえば、2人の発言者の分割画面にしたり、論理に基づいて事前定義することができます。
デコーディング	あり	いいえ	処理されたストリームは、処理される前にメディアゲートウェイによってデコードされます。
エンコーディング	あり	いいえ	処理されたストリームは、処理後に再エンコードされます。転送ストリームは再エンコードされず、ソースエンコーディングが使用されます。
品質	中*	高	
VM サポート	いいえ	あり	詳細については、以下のセクションを参照してください。

表 8.2: ビデオ処理と転送オプションの比較

*GPU のパフォーマンスに依存します。ハイエンドの GPU により、ビデオの遅延が少なくなり、ビデオ品質が向上します。

仮想マシン用のメディアゲートウェイの構成

ビデオストリームの転送には GPU リソースは必要ないため、ビデオ転送ストリームのみを使用して仮想マシン上でメディアゲートウェイを実行できます。次の条件が満たされた場合、メディアゲートウェイは自動的に仮想マシンモードに切り替わります。

- ストリーム：処理済みストリームは定義されていません（転送ストリームのみが許可されます）
- 構成：
 - 「DCNM デバイスプレゼンテーションストリーム ID」は、定義されたプレゼンテーション転送ストリームに設定されます
 - 「DCNM デバイスビデオストリーム ID」は、定義済みのビデオ転送ストリームに設定されます
 - 「リモートビデオソース ID」が「なし」に設定されています
 - 「リモートプレゼンテーションソース ID」が「なし」に設定されています
 - ファイル入力が定義されていません

**注記!**

VM モードでは、「DICENTIS 参加者アプリ」の画面共有とハイブリッド会議は利用できません (リモート参加者は会議に参加できません)。

8.4

参加者アプリの画面を共有するためのメディアゲートウェイの設定

DICENTIS 6.7.0 および DICENTIS Hybrid 1.11.X では、バージョン 2.1.0 以降の参加者アプリのユーザーが画面共有機能を利用できます。画面共有がアクティブになると、メディアゲートウェイで画面共有入力がローカルプレゼンテーションソースとして使用されます。したがって、この機能を有効にするには、メディアゲートウェイでローカルプレゼンテーションを設定する必要があります。

以下では、参加者の 1 人がアクティブ化したときに、参加者アプリの画面共有を DCNM デバイスのプレゼンテーションストリームチャンネルに配信するための設定例を示します。

- ソース ID タイプが「Presentation (プレゼンテーション)」のキャンバスが存在しない場合は作成する必要があります。

Name	Area	Configurations	Actions
Canvas name PresentationCanvas	FPS 60	Width 1920 Height 1080	
	Area 1	Width 1920 Height 1080 X (px) 0 Y (px) 0 Crop Fill Source ID Type Presentation	
	Overlay 1	X (%) 20 Y (%) 0 Font ... Gl... Sour... Text Text Presentation Overlay	

- 作成したソース ID タイプが「Presentation (プレゼンテーション)」のキャンバスをいずれかのストリームに割り当てます。

Name	Type	Configuration	Actions
Stream name PresentationStream	Mode Processed	Source ID Canvas: Presentation... Width 1920 Height 1080 Encoding H264 Bitrate (Kbps) 3000	

- キャンバスを割り当てたストリームを、DCNM デバイスのプレゼンテーションストリーム ID として定義します。

Configured Outputs

DCNM Devices	DCNM Devices Video Stream ID Stream: stream1	DCNM Devices Presentation Stream ID Stream: PresentationStream
--------------	---	---

**注記!**

独自の設定を定義することで、システム環境や要件に合わせてカスタマイズできます。ただし、参加者アプリの画面共有機能を使用するには、ソース ID タイプ「Presentation (プレゼンテーション)」のキャンバスがいずれかの出力に直接またはコンテンツ経由で割り当てられ、かつメディアゲートウェイが Basic モード / Video Forwarding モード以外のモードで動作している必要があります。

8.5 ハイブリッド会議用メディアゲートウェイの構成 (詳細モード)

このセクションでは、会議室カメラ、ローカル参加者、およびリモート出席者を組み合わせたハイブリッド会議をサポートするようにメディアゲートウェイを構成する方法について説明します。構成を完了する方法の詳細については、次のセクションを参照してください。

8.5.1 キャンパスの作成

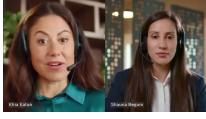
キャンパスレイアウトでは、カメラ画像、プレゼンテーションコンテンツ、および参加者のビデオフィードをどのように組み合わせるかを定義します。

8.5.1.1 キャンパス構成の主要概念

レイアウトを作成および構成する前に、メディアゲートウェイインターフェイスで使用する基本パラメーターを理解しておくことが重要です：

- **[Z-order (Layering) (Z オーダー (レイヤー化))]**：画面上のビデオ要素の重なり の優先順位 (どの要素を前面または背面に表示するか) を定義します。Z オーダーの値が小さいほど (例 : 0)、背景レイヤーを表し、値が大きいほど、背景の上に描画されるオーバーレイ (参加者スロットなど) を表します。
- **[Opacity (Transparency) (不透明度 (透明度))]**：レイヤーの不透明度を 0% (完全に見えない) ~ 100% (完全に不透明) の範囲で指定します。参加者のビデオフィードでは、背景に重ねた際の明瞭さを最大限に確保するため、不透明度を 100% に設定しておくことをお勧めします。
- **[Coordinates (X / Y Position) (座標 (X / Y 位置))]**：キャンパス上のビデオ領域またはテキスト要素の正確な位置を指定します。原点 (0,0) は、画面の左上隅です。
- **[Scaling Mode (Fill / Fit) (スケーリングモード (Fill / Fit))]**：ビデオソースを割り当てられた領域にどのように適合させるかを指定します。たとえば、**[FILL (フィル)]**では、ボックス全体を埋めるようにビデオを引き伸ばすかトリミングします。一方、**[FIT (フィット)]**では、元の縦横比を維持しながら画像を比例拡大 / 縮小します。

ハイブリッド会議のシナリオをサポートするために、次のキャンパスを作成できます：

概要		参加者が発言していないときの会議室の概要 (キャンパス : 概要, ページ 136を参照)
概要 + リモート参加者		概要カメラとリモート参加者の組み合わせ (キャンパス : 概要 + リモート参加者, ページ 137を参照)
概要 + リモート発言者		概要カメラとリモート発言者の組み合わせ (キャンパス : 概要 + リモート発言者, ページ 139を参照)
1 人の発言者		1 人のアクティブな発言者用のレイアウト (キャンパス : 1 人の発言者, ページ 141を参照)
2 人の発言者		2 人のアクティブな発言者用のレイアウト (キャンパス : 2 人の発言者, ページ 142を参照)

4 人の発言者		4 人のアクティブな発言者用のレイアウト（キャンバス：4 人の発言者、ページ 143 を参照）
プレゼンテーション		プレゼンテーションがアクティブなときに使用するレイアウト（キャンバス：プレゼンテーション、ページ 146 を参照）

表 8.3: ハイブリッド会議シナリオ用のキャンバスオプション

8.5.1.2

キャンバス：概要

このキャンバスは、参加者が誰も発言していないときに表示されます。

設定

Canvas name
Overview

FPS
30 — +

Width
1920

Height
1080

🗑️ +

Area 1

Width
1920

Height
1080

X (px)
0

Y (px)
0

Z Order
0

Opacity (%)

Crop
Fill

🗑️ +

Source ID Type
Other source

Source ID
Input: Overview Cam

Overlay 1

X (%)
5

Y (%)
90

Font ...
Cu...

Sour...
Text

Text
Overview

🗑️

Font-Family
Arial

Font Size
30 — +

Text Color
#FFFFFF

Backgrou...
#4F5E57

Font...
Bo...

図 8.7: 概要キャンバスの構成

結果



図 8.8: 概要キャンパスの出力

8.5.1.3

キャンパス：概要+リモート参加者

このキャンパスは、概要カメラとともにリモート参加者を表示する必要がある場合に使用します。

設定

Canvas name Overview*RemoteParticipants	FPS 60	—	+	Width 1920	Height 1080							
--	-----------	---	---	---------------	----------------	--	--	--	--	--	--	--

Area 1	Width 400	Height 250	X (px) 1500	Y (px) 820	Z Order 2	Opacity (%) 100	Crop Fill			
Source ID Type Remote participa...			Number 1			—		+		

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...		Source Type Participant name				
Font-Family Arial			Font Size 20	—	+	Text Color #FFFFFF	Background #4F5E57	Font... Bo...	

Area 2	Width 400	Height 250	X (px) 1500	Y (px) 550	Z Order 2	Opacity (%) 100	Crop Fill			
Source ID Type Remote participa...			Number 2			—		+		

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...		Source Type Participant name				
Font-Family Arial			Font Size 20	—	+	Text Color #FFFFFF	Background #4F5E57	Font... Bo...	

Area 3	Width 400	Height 250	X (px) 1500	Y (px) 270	Z Order 2	Opacity (%) 100	Crop Fill			
Source ID Type Remote participa...			Number 3			—		+		

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...		Source Type Participant name				
Font-Family Arial			Font Size 20	—	+	Text Color #FFFFFF	Background #4F5E57	Font... Bo...	

Area 4	Width 400	Height 250	X (px) 1500	Y (px) 5	Z Order 2	Opacity (%) 100	Crop Fill			
Source ID Type Remote participa...			Number 4			—		+		

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...		Source Type Participant name				
Font-Family Arial			Font Size 20	—	+	Text Color #FFFFFF	Background #4F5E57	Font... Bo...	

Area 5	Width 1920	Height 1080	X (px) 0	Y (px) 0	Z Order 1	Opacity (%) 100	Crop Fill			
Source ID Type Other source			Source ID Input: Overview Cam			—		+		

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...		Sour... Text		Text Overview		
Font-Family Arial			Font Size 40	—	+	Text Color #FFFFFF	Background #4F5E57	Font... Bo...	

図 8.9: 概要 + リモート参加者キャンパスの構成

結果



図 8.10: 概要 + リモート参加者キャンパスの出力

8.5.1.4

キャンパス：概要 + リモート発言者

このキャンパスは、会議室の概要カメラフィードとともにリモート発言者を表示するために使用します。以下の構成例では、発言者用に 2 つのカメオスロットが構成されています。ただし、必要に応じて、レイアウトにカメオを追加できます。

設定

Canvas name
Overview+RemoteSpeakers

FPS
60

—

+

Width
1920

Height
1080

Area 1

Width
400

Height
250

X (px)
1500

Y (px)
270

Z Order
2

Opacity (%)
100

Crop
Fill

∨

Source ID Type
Remote speaker

∨

Number
2

—

+

Overlay 1

X (%)
5

Y (%)
90

Font ...
Cu...

∨

Source Type
Participant name

∨

Font-Family
Arial

∨

Font Size
20

—

+

Text Color
#FFFFFF

Backgrou...
#4F5E57

Font...
Bo...

∨

Area 2

Width
400

Height
250

X (px)
1500

Y (px)
5

Z Order
2

Opacity (%)
100

Crop
Fill

∨

Source ID Type
Remote speaker

∨

Number
1

—

+

Overlay 1

X (%)
5

Y (%)
90

Font ...
Cu...

∨

Source Type
Participant name

∨

Font-Family
Arial

∨

Font Size
20

—

+

Text Color
#FFFFFF

Backgrou...
#4F5E57

Font...
Bo...

∨

Area 3

Width
1920

Height
1080

X (px)
0

Y (px)
0

Z Order
1

Opacity (%)
100

Crop
Fill

∨

Source ID Type
Other source

∨

Source ID
Input: Overview Cam

∨

Overlay 1

X (%)
5

Y (%)
90

Font ...
Cu...

∨

Sour...
Text

∨

Text
Overview

Font-Family
Arial

∨

Font Size
40

—

+

Text Color
#FFFFFF

Backgrou...
#4F5E57

Font...
Bo...

∨

図 8.11: 概要 + リモート発言者キャンパスの構成

結果

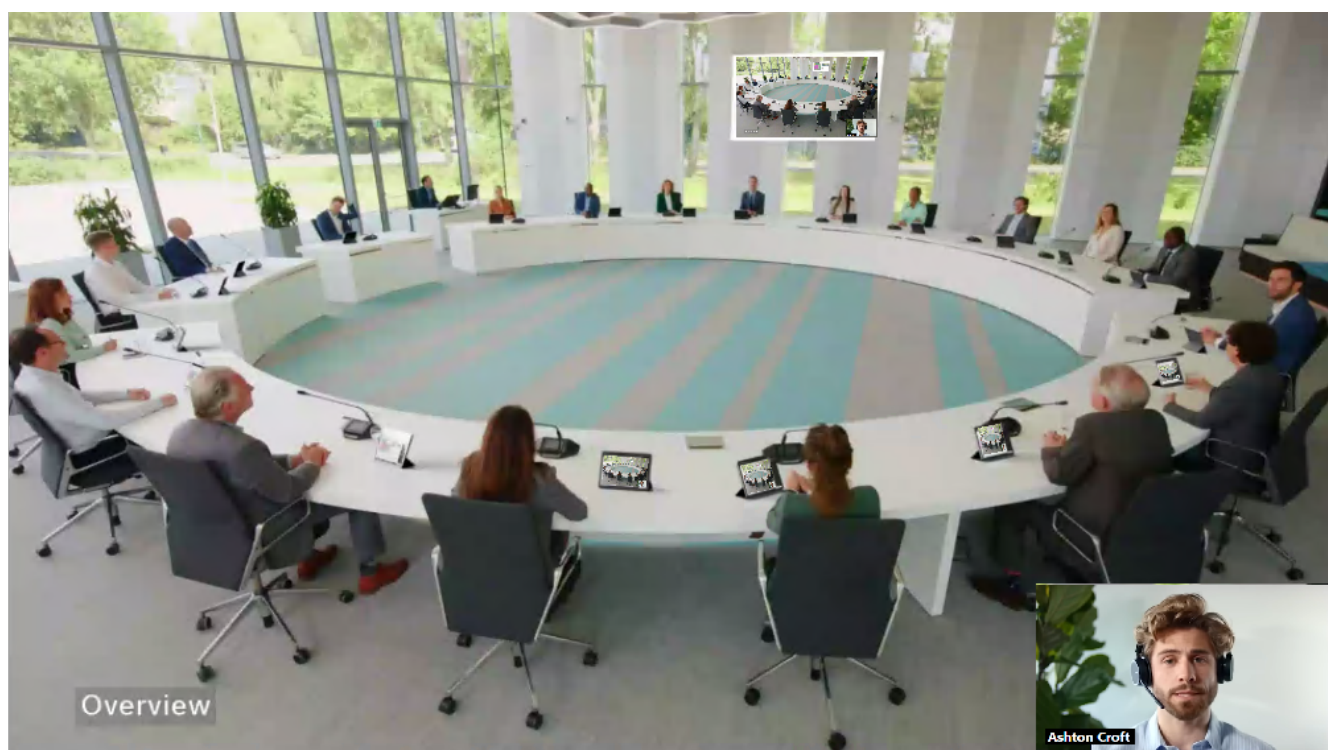


図 8.12: 概要 + リモート発言者キャンパスの出力

8.5.1.5

キャンバス：1 人の発言者

このキャンバスには、1 人のアクティブな発言者（現在発言中の参加者）のビデオフィードが全画面表示されます。発言者は、ローカル参加者またはリモート参加者のいずれでもかまいません。

設定

Canvas name OneSpeaker	FPS 15 — +	Width 1920	Height 1080					🗑️ 🏠	
Area 1		Width 1920	Height 1080	X (px) 0	Y (px) 0	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill ⌵	+
Source ID Type Speaker		Number 1							
Overlay 1		X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu... ⌵	Source Type Participant name ⌵				🗑️
Font-Family Arial ⌵		Font Size 30 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo... ⌵				

図 8.13: 1 人の発言者キャンパスの構成

結果



図 8.14: 1 人の発言者キャンパスの出力

8.5.1.6

キャンパス : 2 人の発言者

2 本の参加者用マイクが同時に開いていると、このキャンパスが自動的にトリガーされ、両方のアクティブな発言者が表示されます。発言者は、ローカル参加者またはリモート参加者のいずれでもかまいません。

設定

Canvas name TwoSpeakers	FPS 60 — +	Width 1920	Height 1080						🗑️ +	
Area 1		Width 960	Height 1080	X (px) 0	Y (px) 0	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill ▾	🗑️ +	
Source ID Type Speaker ▾		Number 2 — +								
Overlay 1		X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu... ▾	Source Type Participant name ▾					🗑️
Font-Family Arial ▾		Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo... ▾					
Area 2		Width 960	Height 1080	X (px) 961	Y (px) 0	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill ▾	🗑️ +	
Source ID Type Speaker ▾		Number 1 — +								
Overlay 1		X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu... ▾	Source Type Participant name ▾					🗑️
Font-Family Arial ▾		Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo... ▾					

図 8.15: 2 人の発言者キャンパスの構成

結果



図 8.16: 2 人の発言者キャンパスの出力

8.5.1.7

キャンパス : 4 人の発言者

このキャンパスには、3 人または 4 人のアクティブな発言者が同時に表示されます。発言者は、ローカル参加者またはリモート参加者のいずれでもかまいません。

設定

Canvas name FourSpeakers	FPS 30 — +	Width 1920	Height 1080							
-----------------------------	---------------	---------------	----------------	--	--	--	--	--	--	--

Area 1	Width 960	Height 540	X (px) 0	Y (px) 0	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill			
	Source ID Type Speaker		Number 4 — +							

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...	Source Type Participant name				
	Font-Family Arial	Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo...			

Area 2	Width 960	Height 540	X (px) 960	Y (px) 0	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill			
	Source ID Type Speaker		Number 3 — +							

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...	Source Type Participant name				
	Font-Family Arial	Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo...			

Area 3	Width 960	Height 540	X (px) 0	Y (px) 540	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill			
	Source ID Type Speaker		Number 2 — +							

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...	Source Type Participant name				
	Font-Family Arial	Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo...			

Area 4	Width 960	Height 540	X (px) 960	Y (px) 540	Z Order	Opacity (%)	Crop Fill			
	Source ID Type Speaker		Number 1 — +							

Overlay 1	X (%) 5	Y (%) 90	Font ... Cu...	Source Type Participant name				
	Font-Family Arial	Font Size 40 — +	Text Color #FFFFFF	Backgrou... #4F5E57	Font... Bo...			

図 8.17: 4 人の発言者キャンパスの構成

結果



図 8.18: 3 人のアクティブな発言者を表示した 4 人の発言者キャンパスの出力



図 8.19: 4 人のアクティブな発言者を表示した 4 人の発言者キャンパスの出力

注：キャンバスレイアウトは、最大 4 人の発言者を同時に表示するように設定されています。画面上の黒い枠は、該当するスロットが現在割り当てられていないことを示しているだけです。

8.5.1.8 キャンバス：プレゼンテーション

このキャンバスには、プレゼンテーションがアクティブなときにプレゼンテーションが表示されます。

設定

Canvas name Canvas Presentation	FPS 60	—	+	Width 1920	Height 1080								
Area 1				Width 1920	Height 1080	X (px) 0	Y (px) 0	Z Order 1	Opacity (%) 100	Crop Fill ⬆			
Source ID Type Other source				Source ID Input: FinancialOverview									

図 8.20: プレゼンテーションキャンバスの構成

結果

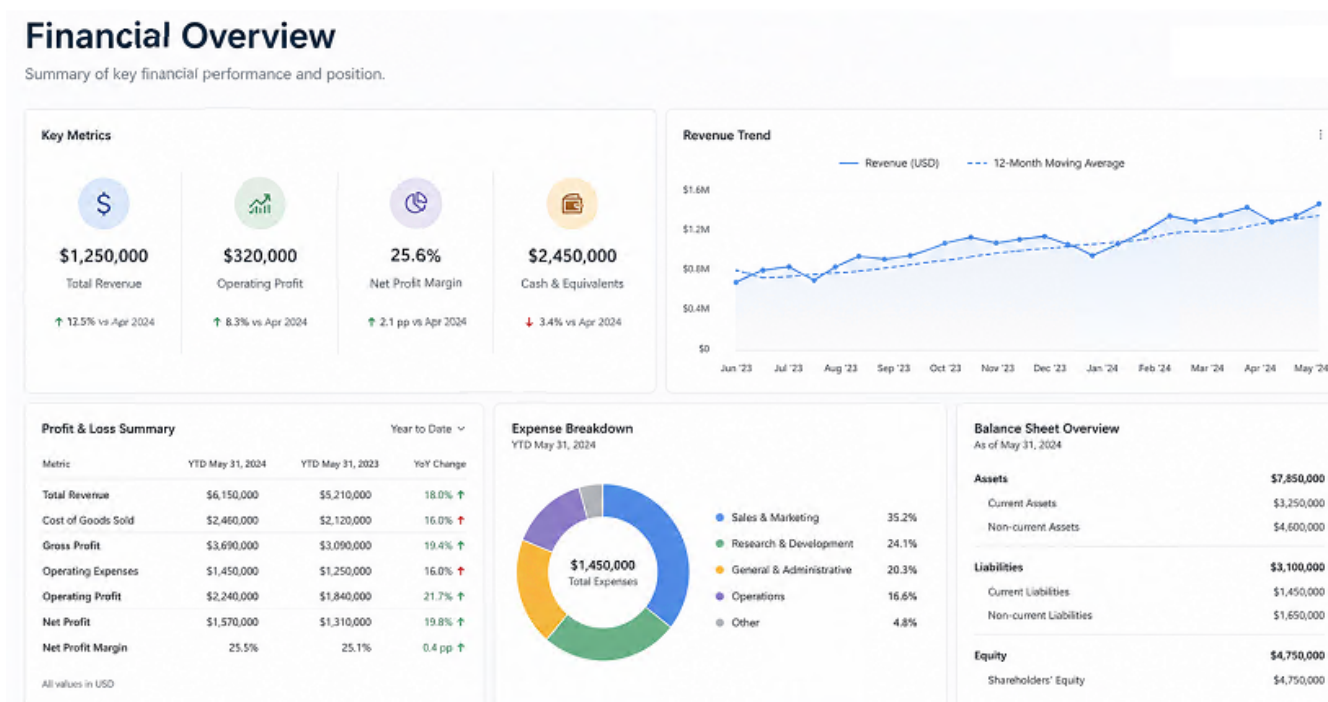


図 8.21: プレゼンテーションキャンバスの出力

8.5.2 コンテンツとシーンの構成

アクティブな発言者の数とプレゼンテーションの状態に応じてキャンバスを選択し、シーンを定義します。リモート参加者とローカル参加者に異なるビューを構成できます。

会議の要件に応じて、[**LocalView (ローカルビュー)**] のデフォルトのフォールバックレイアウトとして、**概要+リモート参加者**キャンバスまたはカスタムの**概要+リモート発言者**キャンバスを選択できます。以下の構成例では、**概要+リモート参加者**キャンバスがデフォルトレイアウトとして使用されています。

Contents name LocalView						
Source ID Canvas: FourSpeakers	Variable Nr of speaker(s)	Operator >=	Value 3	- +		+
Source ID Canvas: TwoSpeakers	Variable Nr of speaker(s)	Operator =	Value 2	- +		+
Source ID Canvas: OneSpeaker	Variable Nr of speaker(s)	Operator =	Value 1	- +		+
Source ID Canvas: Overview+Remote...						
Contents name RemoteView						
Source ID Canvas: FourSpeakers	Variable Nr of speaker(s)	Operator >=	Value 3	- +		+
Source ID Canvas: TwoSpeakers	Variable Nr of speaker(s)	Operator =	Value 2	- +		+
Source ID Canvas: OneSpeaker	Variable Nr of speaker(s)	Operator =	Value 1	- +		+
Source ID Canvas: Overview						

図 8.22: コンテンツとシーンの構成例

8.5.2.1 シーンロジックとフォールバック動作

システムは、リアルタイムの会議状況（アクティブなマイクの数やプレゼンテーション共有の状態など）に基づいて、構成済みのキャンバスを自動的に切り替えます。自動化ルールは次のように動作します：

- **アクティビティが多いシナリオ（発言者 3 人以上）**：アクティブな発言者が 3 人以上になると (*Nr of speaker(s) >= 3*)、システムは活発なディスカッションに対応するため、**4 人の発言者キャンバス**をトリガーします。
- **アクティビティが中程度のシナリオ（発言者 2 人）**：ちょうど 2 本のマイクがアクティブになると (*Nr of speaker(s) == 2*)、システムは**2 人の発言者キャンバス**に切り替わります。
- **1 人の発言者のシナリオ（発言者 1 人）**：1 人の参加者だけが発言している場合 (*Nr of speaker(s) == 1*)、システムは**1 人の発言者キャンバス**を全画面表示します。
- **アクティブなプレゼンテーション**：プレゼンテーションフィードがアクティブになると (*Presentation == True*)、発言者数にかかわらず、システムは**プレゼンテーションキャンバス**を自動的に優先して切り替えます。
- **フォールバック / デフォルト状態**：アクティブな発言者がおらず、プレゼンテーションもアクティブでない場合、システムは出力先のビューに応じてデフォルトキャンバスに自動的に戻ります：
 - [LocalView（ローカルビュー）] の場合：システムは**概要 + リモート参加者キャンバス**に戻ります。
 - [Remote Participants（リモート参加者）] の場合：システムは**概要キャンバス**を表示します。

8.5.3 リモートビデオストリームの設定

リモート参加者のコンテンツをローカル参加者のデバイスに送信するには、次のようにストリームを定義する必要があります：

Name	Type	Configuration						Actions	
Stream name PresentationStream	Mode Processed ⌵	Source ID Canvas: Canvas Pres... ⌵	Width 1920	Height 1080	Encoding H264 ⌵	Bitrate (Kbps) 3000 — +	🗑️	🔗	
Stream name LocalStream	Mode Processed ⌵	Source ID Content: LocalView ⌵	Width 1920	Height 1080	Encoding H264 ⌵	Bitrate (Kbps) 3000 — +	🗑️	🔗	

図 8.23: ストリーム構成

8.5.4

ローカル DCNM デバイスとリモート参加者へのビデオソースの割り当て

メディアゲートウェイの構成セクションで、[Remote Video Source ID (リモートビデオソース ID)] と [Remote Presentation Source ID (リモートプレゼンテーションソース ID)] を、セクション *コンテンツとシーンの構成*, ページ 146 で作成したコンテンツアイテム [RemoteView (リモートビュー)] に設定します。これにより、メディアゲートウェイが適切なビデオストリームをリモート参加者に転送できるようになります。

さらに、[LocalView (ローカルビュー)] コンテンツを DCNM デバイスに表示できるように、[DCNM Devices Video Stream ID (DCNM デバイスビデオストリーム ID)] と [DCNM Devices Presentation Stream ID (DCNM デバイスプレゼンテーションストリーム ID)] を、前の手順で作成したストリームに設定します。

Output Mapping

DCNM Devices	DCNM Devices Video Stream ID Stream: LocalStream	DCNM Devices Presentation Stream ID Stream: PresentationStream
Remote	Remote Video Source ID Content: RemoteView	Remote Presentation Source ID Canvas: Canvas Presentation

図 8.24: 出力マッピング構成

8.5.5

最終出力

構成を保存してメディアゲートウェイが自動的に再起動すると、発言者数とプレゼンテーションの状態に基づいて、ビデオストリームがローカルデバイスとリモート参加者に配信されます。以下の例を参照してください：

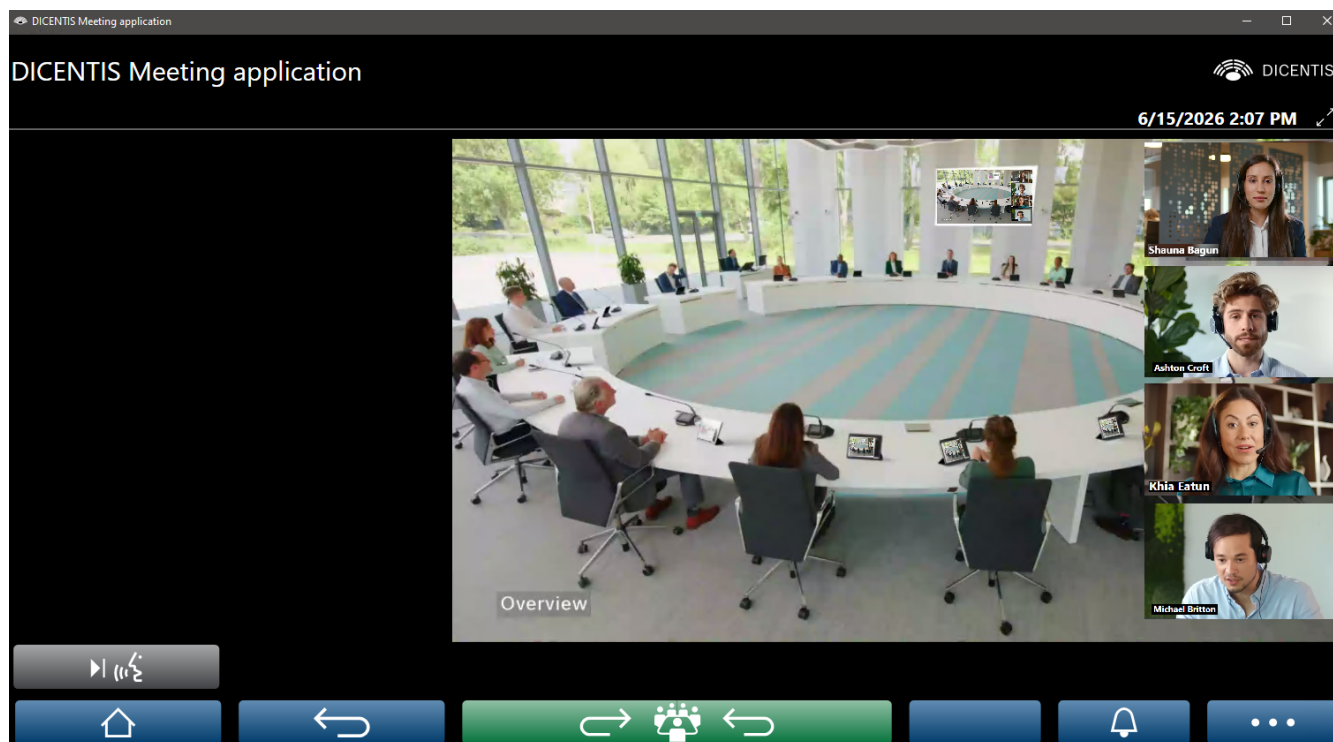


図 8.25: 会議の進行中に概要 + リモート参加者キャンバスを表示している会議アプリケーションとデバイス

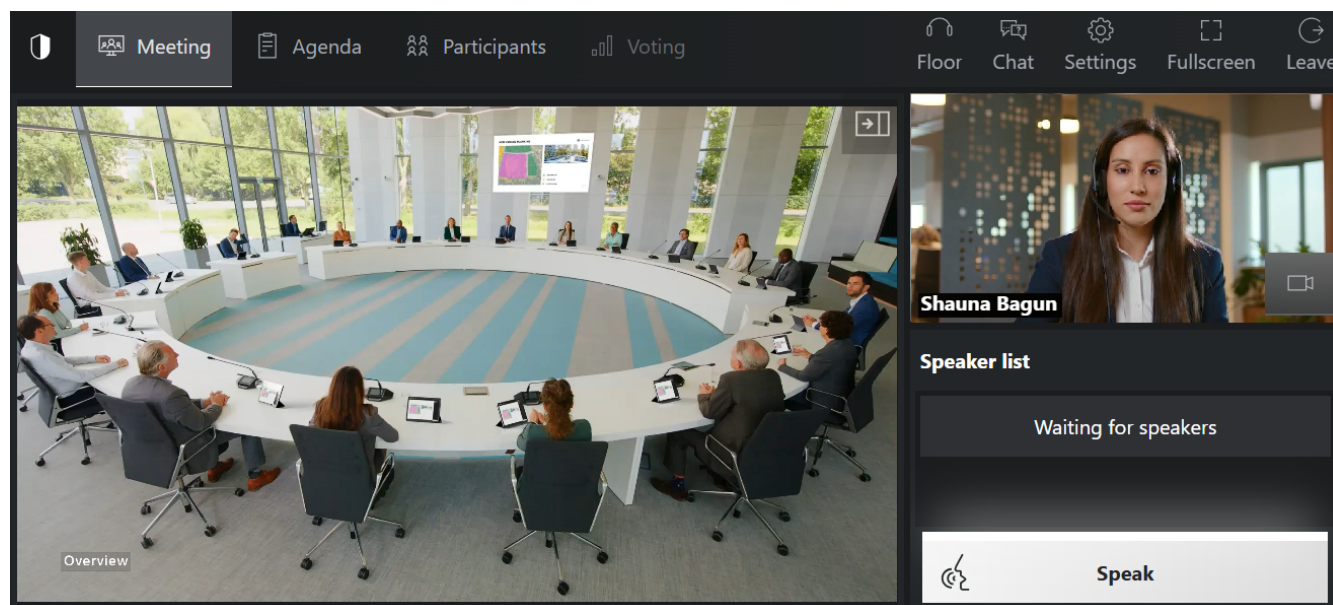


図 8.26: リモート参加者に表示される概要キャンバス

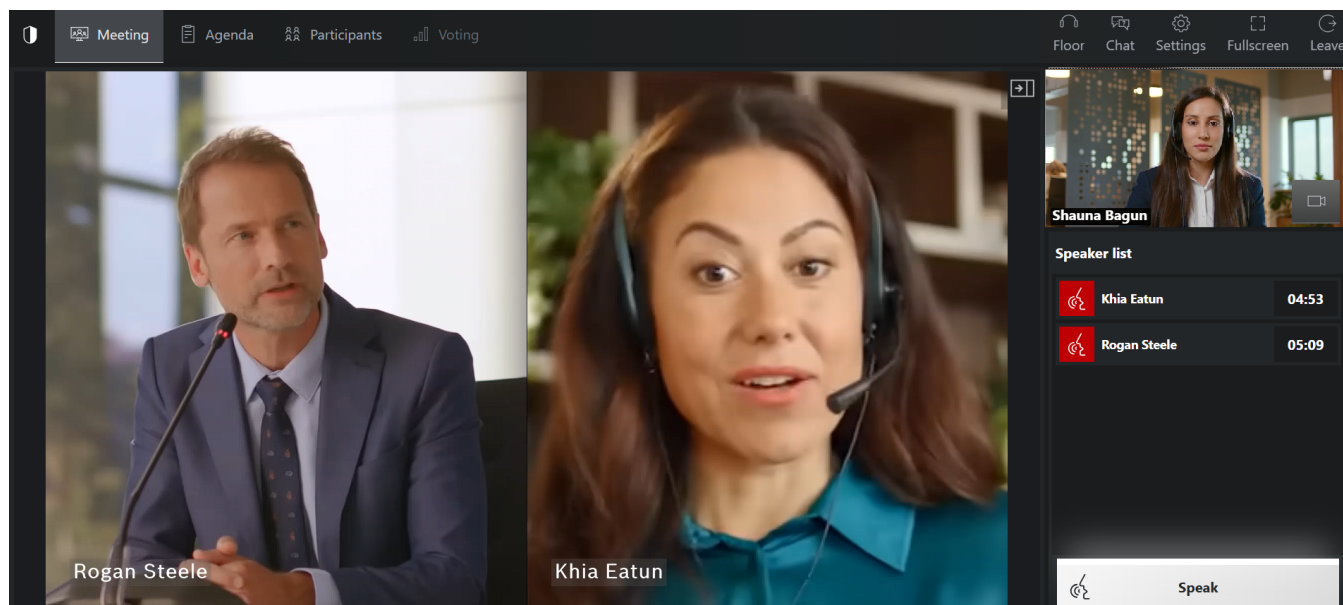


図 8.27: リモート参加者に表示される 2 人の発言者キャンパス

8.6 サポートしている機器

メディアゲートウェイは、準拠した IP カメラまたはビデオエンコーダーから、標準の H.264 (B フレームなし) または H.265 でエンコードされた RTSP ビデオストリームを受信できます。さらに、メディアゲートウェイは、ONVIF を実装したデバイスのカメラコントロールのほか、Sony と Panasonic の独自の制御プロトコルをサポートします。

注: メーカーや個々のカメラモデルによって実装が異なるため、特定の RTSP ストリーム形式やカメラ制御コマンドは、メディアゲートウェイで完全にサポートされない場合があります。

次のリストには、メディアゲートウェイで正しく動作することが確認された検証済みおよびテスト済みの機器が含まれています。

サポートされているカメラ

ONVIF Profile-S:

- Avonic
 - AV-CM93-IP
 - AV-CM93-NDI
 - AV-CM93-DAV
 - AV-CM83-IP
 - AV-CM73-IP
 - AV-CM71-IP
 - AV-CM70-IP
 - AV-CM70-NDI
 - AV-CM40-IP
 - AV-CM32-IP
- Bosch
 - Bosch ONVIF Profile-S カメラ
 - Bosch VCD-811
 - Bosch IP 4000
 - Bosch IP 5000
- Lumens

- VC-A71P
- VC-TR61
- VC-A61P (Lumens VCAW209 が必要)
- VC-A53
- VC-A51P
- VC-A50P
- VC-TR40
- VC-R30
- Aver
 - PTZ310 (AVer v0.0.0000.90 が必要)
- Winsafe
 - AMC-G320
 - AMC-E200TV4

Sony CG1 :

- Sony
 - SRG-A12
 - SRG-A40
 - BRC-X400
 - SRG-X400
 - SRG-X120
 - SRG-360SHE
 - SRG-300SE / 301SE

パナソニック HD 統合カメラインターフェース :

- Panasonic
 - AW-UE160
 - AW-UE150
 - AW-UE100
 - AW-UE80
 - AW-UE70
 - AW-UE50
 - AW-UE40
 - AW-HE130
 - AW-HE120
 - AW-HE60
 - AW-HE50
 - AW-HE40



注記!

Panasonic カメラの H.264 ビデオを DCNM-MMD2 デバイスに表示するには、カメラで特定の設定が必要になる場合があります。詳細 / サポートについては ASA にお問い合わせください。

サポートされているビデオ エンコーダ

- Extron
 - SMP 351
 - SMP 352
 - SMP 111
 - SME 211
 - SMD 202

- Epiphan Video
 - VGADVI Broadcaster
- Lumens
 - OIP-N40E
 - OIP-N60D

サポートされているビデオスイッチャー

メディアゲートウェイを使用して、次のビデオスイッチャーモデルを制御できます。

- TV One CORIOMatrix
- Kramer MV-6 ビデオスイッチ
- TvOne C2
- Blackmagic ATEM M/E Constellation

8.7 メディアゲートウェイのパフォーマンスの制約と Advanced モードの GPU 要件

メディアゲートウェイの Advanced モードには、グラフィカルプロセッシングユニット (GPU) が必要です。このモードでは、ストリーム処理に関連するエンコーディング、合成、およびデコーディングプロセスにより、さらに 50 ~ 60 ミリ秒のビデオ遅延が発生します。

より強力な GPU により、全体的なビデオパフォーマンスが次のように向上します。

- ビデオ品質の向上。
- より多くの出力ストリームの処理。

サポートされている出力機能

- DCNM SERVER3 では、内蔵 GPU は、解像度、ビットレート、エンコーディングにかかわらず、最大 3 つの処理済み出力ストリームをサポートしています。
- DCNM SERVER4 では、サポートされる処理済み出力ストリームの数は固定されていません。出力容量は GPU 処理負荷に依存します。約 75% の GPU 負荷で最大 7 つの処理済み出力ストリームによる安定した動作が検証が、H.264 および H.265 エンコーディングを使用する 60 FPS、1080p および 720p のストリーム構成で検証されています。

ストリームの転送には GPU 処理は必要ありません。必要に応じて任意の数の転送ストリームを追加できます。

注記!

DCNM SERVER4 の場合、Intel グラフィックスドライバーをバージョン 32.0.101.6629 (ドライバーの日付: 2025/02/18) にアップグレードすると、メディアゲートウェイが機能しなくなる恐れがあります。

このドライバーのアップグレードは実行しないでください (Intel グラフィックスドライバーのバージョン 32.0.101.6314 を使用し、保持してください)。



DCNM-SERVER4 用外部 GPU

DCNM SERVER4 は外部 GPU で拡張でき、ビデオパフォーマンスをさらに向上させ、処理されるビデオ出力の数を増やすことができます。

DCNM SERVER4 での使用が検証されている GPU モデルは次のとおりです。

- NVIDIA A2000 (Ampere、2021 年)
 - HP NVIDIA ドライバー バージョン: 32.0.15.8142
 - NVIDIA ドライバー 581.80
- NVIDIA RTX 2000 (Ada Generation、2024 年)

- HP NVIDIA ドライバー バージョン: 32.0.15.8142
- NVIDIA ドライバー 581.80

8.8 メディアゲートウェイのビデオ出力への字幕の追加

字幕機能では、音声をテキストに変換してビデオ出力ストリームに表示することで、発話内容を視覚的に表現します。この機能により、聴覚障害のある参加者のアクセシビリティが向上し、多言語環境がサポートされ、音響条件の厳しい会議室でも内容をより明確に理解できるようになります。

DICENTIS メディアゲートウェイと統合すると、構成済みの任意のビデオキャンバスに字幕オーバーレイを追加し、会議中に音声をテキストに変換した情報をリアルタイムで表示できます。

8.8.1 前提条件

字幕機能を構成する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください：

- **ソフトウェアバージョン**
DICENTIS システムソフトウェアバージョン 6.80 以降がシステムにインストールされている必要があります。
- **ライセンス**
次のいずれかのライセンスがシステムで有効化されている必要があります：
 - DCNM-CRN
 - DCNM-DEMO
 - DCNM-RENTAL
 - DCNM-LPP-PE
 - DCNM-LPU-PE
 - DCNM-LPPP-P1Y
 - DCNM-LPUP-P1Y
 - DCNM-LPPP-S1Y
 - DCNM-LPUP-S1Y

8.8.2 字幕用メディアゲートウェイの構成

メディアゲートウェイの出力ストリームで字幕を有効にするには、次の手順に従います：

1. Web ブラウザーを開き、メディアゲートウェイの構成ページ (<https://<MediaGatewayIP>:31416/MediaGateway>、例：<https://172.16.4.1:31416/MediaGateway>) に移動します。
2. [**Canvases (キャンバス)**] セクションに移動します。
3. 出力ストリームに使用するキャンバスに [**Caption overlay (字幕オーバーレイ)**] を追加します。
4. [**Update (更新)**] をクリックして変更を保存します。

メディアゲートウェイが再起動すると、構成したキャンバスに字幕オーバーレイが表示されます。

注：オーバーレイ構成に用意されている [**X(%)**]、[**Y(%)**]、および [**Font (フォント)**] フィールドを使用して、字幕の位置と外観を調整できます。

8.8.3 メディアゲートウェイへの字幕データの送信

8.8.3.1 プラグイン情報

プラグイン名

`plugin://mediagatewaycaption.boschsecuritysystems.com:0`

コマンド

`ADD_SPEECH_TO_TEXT_RESULT`

8.8.3.2

会議プロトコルを介して字幕を送信する

字幕データを送信するには、会議プロトコルの `sendPluginCommand` 操作を使用します。

操作 :

`sendPluginCommand`

パラメーター :

```
{
  "pluginName": "plugin://mediagatewaycaption.boschsecuritysystems.com:0",
  "command": "ADD_SPEECH_TO_TEXT_RESULT",
  "parameters": "<JSON_STRING>"
}
```

8.8.3.3

字幕データモデル

`parameters` フィールドの `<JSON_STRING>` には、次の形式の字幕データを含める必要があります :

```
{
  "captions": [
    {
      "final": true, // true = final transcription, false = interim
      "startTime": "00:00:00", // optional, format HH:MM:SS
      "length": "00:00:00", // optional, format HH:MM:SS
      "caption": "Caption text" // transcription text
    }
  ]
}
```

会議プロトコルおよび API の使用方法の詳細については、<https://software-download.keenfinity-group.com/conference> を参照してください。

9 システム拡張

DICENTIS 会議システムには小規模から、中規模、大規模までの拡張性があります。このセクションでは、小規模、中規模、および大規模システムについて、またこれらのシステムでの要件について説明します。

小規模から中規模の DICENTIS 会議システム（「一般的なシステムセットアップ」を参照）は、以下で構成されています。

- 最大 450 台の DICENTIS ノード。

DICENTIS 機器のノードおよび装置数については、以下の表「**DICENTIS 機器のノードおよび装置数**」を参照してください。

- 1 つのサブネット内のすべての DICENTIS 装置。
- オーディオ処理用の DICENTIS オーディオ電源スイッチングハブ 1 台。
- DICENTIS サービスをホストするサーバー PC 1 台。

大規模な DICENTIS 会議システムは、以下で構成されています。

- 最大 1500 台の DICENTIS 装置。
- ルーター / L3 スイッチを使用して接続された複数のサブネット。
 - 各サブネットには最大 450 個の DICENTIS ノードが所属できます。
DICENTIS 機器のノード数については、次の表を参照してください。
 - 1 つ目のサブネットには、次が設置されています。
 - オーディオ処理用の DICENTIS オーディオ電源スイッチングハブ 1 台。
 - DICENTIS サービスをホストするサーバー PC 1 台。
 - システムのサイズを大きくするための ARNI-Enterprise 1 台。
 - 他のすべてのサブネットには、システムのサイズを大きくするための ARNI-Standard 1 台が設置されています。

注：他のサブネットには DICENTIS オーディオ電源スイッチングハブは設置されていません。

装置	ノード数	装置数	IP アドレス
DICENTIS サーバー	0	0	1
DICENTIS 会議アプリケーション	0	0	0
DICENTIS オーディオ電源スイッチングハブ	1	1	1
DICENTIS 電源スイッチングハブ	1	1	1
DICENTIS マルチメディアデバイス	2	1	2
DCNM-MMFF マルチメディア フル機能	1.5	1	2
DCNM-MMDOCK マルチメディアドッキング	1	1	2
DICENTIS ディスカッションデバイス	1	1	1
DICENTIS ディスカッションデバイスの選択言語	1	1	1
DICENTIS ディスカッションデバイス 投票	1	1	1
DICENTIS 拡張ディスカッションデバイス	1	1	2
DICENTIS 通訳デスク	1	1	2
DICENTIS 通訳デスク ビデオ出力付き	1	1	3
DICENTIS フラッシュベースデバイス 2	1	1	1
DICENTIS フラッシュ言語選択機能	1	1	1

装置	ノード数	装置数	IP アドレス
参加者アプリケーションを実行しているタブレット	0.5	0	1
INT-TXO トランスミッタ OMNEO	1	1	2
OMN-DANTEGTW Dante ゲートウェイ	1	0	1
PRS-40MI4 OMNEO メディアインターフェイス	1	0	1
OMN-ARNIE ARNI-E OMNEO インターフェイス	0	1	1
OMN-ARNIS ARNI-S OMNEO インターフェイス	0	1	1
DICENTIS 電子名刺片面/両面	0	0	1

表 9.1: DICENTIS 機器のノードおよび装置数

450 個を超えるノードがある大規模なシステムには ARNI (Audio Routed Network Interface) が必要です。システムのセットアップについては、ハードウェア設置マニュアルの「システム拡張」を参照してください。

ARNI (Audio Routed Network Interface) は、複数の DICENTIS システムサブネットを接続するために使用されます。複数のサブネットが必要な場合は、2 種類の ARNI を使用する必要があります。

- OMN-ARNIS (ARNI-S OMNEO インターフェイス) : ARNI-S は、DICENTIS 装置が 450 台を超えるほどシステムサイズを拡大する場合に必要です。そのサブネットですべて最大 450 台の DICENTIS ノードがサポートされます。そのサブネットですべて DHCP サーバーとしても機能します。
- OMN-ARNIE (ARNI-E OMNEO インターフェイス) : ARNI-E は、DICENTIS ノードが 450 台を超えるほどシステムサイズを拡大する場合に必要です。そのサブネットですべて最大 450 台の DICENTIS ノードがサポートされます。そのサブネットですべて DHCP サーバーとしても機能します。それぞれ ARNI-S がある、最大 40 個のサブネットを接続してまとめることができます。

**注記!**

冗長 ARNI は、DICENTIS ソフトウェアバージョン 6.81 以降でのみサポートされます。

**注記!**

ARNI の詳しい説明は、ARNI のマニュアルにあります:<https://www.keenfinity-group.com/xc/en/> > DICENTIS 製品関連情報

DICENTIS 会議システムサブネットと ARNI の前提条件

- 複数のサブネットが使用される場合、DICENTIS PC サーバーが存在するサブネットに ARNI-E が必要であり、残りのサブネットに ARNI-S が必要です。
- ARNI Configuration Tool を使用する必要があります。これは、DICENTIS システムサーバーソフトウェアのインストール後、スタートメニューにあります。
- ARNI を構成するときは、DICENTIS サーバー PC サービスが実行中でないことを確認してください。サービスはサーバーコンソールを使用して停止します。
- ARNI を構成するときは、ARNI を直接 (間に (管理されている) スイッチを使用しないで) PC に接続してください。
- マルチサブネット構成をセットアップするときは、ARNI を 1 つずつ PC に接続して構成してください。

ARNI の構成

1. 必要 / リクエストがあれば、ARNI を OMNEO ファームウェアアップグレードツールで DICENTIS システム設定によってすでに利用できるかインストールされているファームウェアバージョンにアップグレードします。
2. ARNI Configuration Tool を起動します。
3. ARNI Configuration Tool のウィザード手順に従って、1 つまたは複数の ARNI を構成します。追加情報：
 - 冗長化して作業していない場合、ARNI のタイプが常に優先されます。
 - 特にシステムで複数の ARNI が使用されている場合、各 ARNI に名前を付けてください。
 - IGMP querier が無効になっていることを確認してください。
 - すべての ARNI に対して DHCP を有効にしてください。
 - ARNI の IP アドレスを変更する必要がある場合は、ARNI Configuration Tool で ARNI を初期設定値にリセットします。「Restore factory defaults (初期設定に戻す)」機能を使用します。

VLAN のあるスイッチの構成

VLAN のあるスイッチを構成するには、以下を確認します。

- DICENTIS デバイス、DCNM-APS および DCNM-PS ユニットを含むすべての VLAN について、ARNI を DHCP サーバーとして使用します。その他の VLAN には、他の任意の DHCP サーバーを使用できます。
- すべてのポートに対して IGMP スヌーピングを有効にします。
- すべての VLAN の間でマルチキャストルーティングを有効にします。「dense-mode」ルーティングモードを使用します。
- すべての VLAN の間でユニキャストルーティングを正しく構成します。
- MTU 1500 以上を使用します。
- モード「RSTP」へのスパニングツリープロトコルを有効にします。
- IGMP バージョン 3 を使います。
- マルチキャストでの登録タイムアウトを 1 秒に設定します。

10 IDESK の構成 (デバイス上での直接構成)

デバイス自体の DCNM-IDE SK/DCNM-IDE SKVID を構成するには、同時に B - B ボタンを押します。B - B ボタン (入力チャンネル B および出力チャンネル B) は、ディスプレイの両側に配置されており、小さな線状の隆起が付いているので認識しやすくなっています。構成ペインが開き、次のオプションが表示されます。

- [Booth No. - Desk No. (ブース番号 - デスク)] : デバイスをブースとそのブース内のデスクに割り当てるために使用します。既に使用されている番号にデスクを割り当てると、以前のブースとデスクの組み合わせが新しいデスクによって上書きされます。

注 : 新しいデスクを DICENTIS システムに接続しても自動的に割り当てられません。デスク上の B - B ボタンまたは会議アプリケーション/API を介して構成する必要があります。以前に接続したデスクを接続すると、元のブース番号とデスク番号に戻ります。

- [Available languages (利用可能な言語)] : 言語数と利用可能な言語を構成することができます。「言語選択, ページ 85」を参照して、使用可能な言語を決定します。
- [Output A + B + C (出力 A + B + C)] : A 出力の言語 (通常、通訳者がソース言語から通訳する言語) と B および C 出力の言語 (使用可能な言語のリスト内) を選択します。
- [Display brightness (ディスプレイの明るさ)] : ボタン (1 ~ 15) を押しながらロータリコントロールを使用してディスプレイの明るさを調整します。デフォルト値は 7 です。
- [Auto configure desks (デスクの自動構成)] : システム内のすべての通訳デスクを自動的に構成します。これは、A 出力がブース番号に対応する言語に設定されることを意味します。B および C 出力は [none (なし)] に設定され、入力言語の 7 つのプリセット ボタンは、第 1 ボタンは第 1 言語、第 2 ボタンは第 2 言語などのように構成されます。
- [System information (システム情報)] : 通訳者用デバイスおよび OMNEO (ファームウェアバージョン、IP アドレスなど) のシステム情報を表示します。
- 上記の各メニューオプションを終了するには、ディスプレイの右下にある [Exit (終了)] ボタンをクリックします。

注 : 通訳デスクの設定に加えられたすべての変更は、会議アプリケーションに直接リアルタイムで表示されます。このため、有効な会議が継続している場合は変更による影響が生じる可能性があります。したがって、有効な会議がある間は設定を変更しないでください。

注 : 通訳者が通訳デスクを操作する方法に関する説明については、「DCNM-IDE SK/DCNM-IDE SKVID」用に別途提供されている「クイックユーザーガイド」を参照してください。

11

電子名刺の構成

電子名刺は、プレミアムまたはアルティメットライセンスプランを備えたシステムでサポートされます。デバイスは以下のことを表示できます。

- 座席情報
- 参加者情報
- 会議情報

構成 Web インターフェイスへのアクセス

電子名刺の構成は、[**Name card setup (名刺セットアップ)**] タブをクリックして、DICENTIS Web サーバーからアクセスできる Web インターフェイスを介して行われます。構成が完了したら、参加者によるアクションは必要ありません。名刺のソフトウェアは、会議プロトコルを通じて DICENTIS システムによって実行されます。

注: サーバー PC 経由で Web インターフェイスにアクセスすることもできます: `https://<DICENTIS サーバーの IP アドレス>:31480`

Web インターフェイスでは DICENTIS ユーザー管理を使用しているため、**システムの構成権限**がある場合は DICENTIS ユーザーでログインできます。以下の点にご注意ください：

- 電子名刺のソフトウェアは自己署名証明書に依存しています。
- ホスト名は Chrome では機能しますが、Edge では機能するとは限りません。
- 別の PC から IP アドレスを介して Web インターフェイスにアクセスできます。

Web インターフェイスのサイドバーメニューには、次の 4 つのページが含まれます。

- **座席の割り当て**：このページで、デバイス表と座席表を切り替えることができます。デバイス表には接続されているすべての電子名刺が一覧表示され、座席表には DICENTIS の座席が表示されます。ここで、電子名刺を座席に割り当てることができます。
- **テンプレート管理**：このページでは、電子名刺のテンプレートを構成し、使用するテンプレートを定義します。
- **設定**：このページには、デバイスを DICENTIS サービスに接続するために使用される IP アドレスが記載されています。ソフトウェアが DICENTIS サーバーにインストールされている場合、これは DICENTIS サービスを実行するアダプターの IP アドレスです。
- **情報**：このページには、使用中のオープンソースコンポーネントのライセンスが一覧表示されます。

電子名刺の座席への割り当て

座席の割り当て ページで、システムの状態を切り替え、デバイスを座席に割り当てます。

- **動作状態**：これはデフォルトの状態です。システムが動作状態に設定されている場合、各電子名刺の座席を **割り当てられた座席 ID** ドロップダウンメニューから選択できます。
- **構成状態 (マイクのリンク)**：電子ネームカードの上部のボタンと DICENTIS ディスカッションデバイスのマイクボタンを同時に押すことで、電子ネームカードに座席を割り当てることができます。一時的な状態です。

注：すべての電子ネームカードに対してこれを繰り返した後、システムの状態を [Operating (動作中)] に戻します。

- **構成状態 (アルファベット順のリンク)**：この状態では、電子ネームカードの上部ボタンを押すことで、座席名のアルファベット順に電子ネームカードを座席に割り当てることができます。

注：DICENTIS ディスカッションデバイスのボタンを押す必要はありません。

テンプレートの管理

電子ネームカードには次の 4 つの動作モードがあります。

- 空席：参加者がいない座席。
- 参加者に割り当てられている座席（まだ着席していない）：このモードでは、各参加者が着席する場所を示すウェルカムスクリーンを表示できます。
- 着席した参加者：このモードでは、参加者が着席しているか、ログインしているときに表示される内容を定義します。
- 参加者が着席し、投票ラウンドがアクティブな状態：このモードでは、参加者が着席しており、投票ラウンドがアクティブな場合に表示される内容を定義します。投票ラウンドがキャンセルまたは中止されると直ちに終了します。また、投票ラウンドが承認または却下された場合は、結果を確認できるように 10 秒後に終了します。

テンプレート管理ページで、各動作モードのテンプレートを設定します。必要に応じて、既存のテンプレートを選択したり、新しいテンプレートを作成したり、テンプレートを変更したりできます。テンプレートは、電子名刺の両側（参加者側と他の会議出席者側）に表示される情報を定義します。

注：デバイスが PoE 経由で電力が供給され、DICIENTIS 電源オフコマンドを受信すると、構成できない特別な電源オフテンプレートに切り替わります。DICIENTIS 経由で電力が供給されている場合、この特別なテンプレートに切り替わりません。

モニタリング、ファームウェアのアップグレード、サポート

[**Seat assignments (座席の割り当て)**] ページのボタンと列を使用して、デバイスを管理および監視します：

- [**Freeze / Unfreeze updates (更新の停止 / 再開)**] ボタン：システムで変更が発生したときに、電子ネームカードの更新を一時的に停止します。
- [**Actions (アクション)**] ボタン ([**Actions (アクション)**] 列)：[**Devices (デバイス)**] テーブルで、システム状態が [**Operating (動作中)**] に設定されている場合、このボタンを使用して次のオプションにアクセスします：
 - [**Show device ID (デバイス ID を表示)**]：電子ネームカードにデバイス ID を表示して、室内での位置を特定します。
 - [**Clear (クリア)**]：電子ネームカード上のすべてのデータを消去し、ディスプレイを空にします。
 - [**Refresh (更新)**]：[**Show device ID (デバイス ID を表示)**] 機能および [**Clear (クリア)**] 機能を使用した後、電子ネームカードのデータを更新します。
 - [**Upgrade (アップグレード)**]：電子ネームカードを最新のファームウェアにアップグレードします。
注：一度にアップグレードするデバイスは 1 台だけにしてください。
 - [**Enable Auth (認証を有効化)**]：電子ネームカードとサービス間の通信のセキュリティを強化するため、認証を有効にします。状態が [**Disabled (無効)**] の場合、結果が [**Failed (失敗)**] でも無視できます。
注：電子ネームカードを別のサーバーで使用する場合は、デバイスの電源を入れ、上部ボタンを 10 秒以上押し続けてリセットする必要があります。
- [**Device ID (デバイス ID)**] 列：電子ネームカードの MAC アドレスが表示されます。
- [**Device FW Version | Device TCM Version (デバイス FW バージョン | デバイス TCM バージョン)**] 列：電子ネームカードの現在のファームウェアバージョンが表示されます。

- [FW Version Update | TCM Version Update (FW バージョン更新 | TCM バージョン更新)]
列：新しいファームウェアバージョンが使用可能かどうかが表示されます。アップグレードは、
[Actions (アクション)] ボタンを使用して実行します。
- [Temperature (温度)] 列：電子ネームカードの現在の温度が表示されます。
- [Auth (認証)] 列：認証が有効になっているかどうかが表示されます。状態が [Disabled (無効)] の場合、結果が [Failed (失敗)] でも無視できます。
- [Running time (稼働時間)] 列：電子ネームカードの稼働時間が表示されます。

12 会議プロトコル

会議プロトコルはプラットフォームに依存しないプロトコルです。拡張性を実現する WebSocket 技術、セキュリティを強化する HTTPS、およびプラットフォームからの独立性を可能にする JSON をベースとしています。

会議プロトコルに関するドキュメント (ConferenceProtocol.chm) は、提供物の Docs ディレクトリに含まれています。また、デフォルトで C:\Program Files\Bosch\DICENTIS\ConferenceProtocol.chm にもあります。

要件

会議プロトコルは DICENTIS Web サーバーに接続します。

DICENTIS Web サーバーの要件：

- ディスカッションを管理するための、会議の管理機能
- DICENTIS システムの電源オン/オフを切り替えるための、電源オフ機能
- DICENTIS システムの主音量を制御する方法：音量コントロール機能

オンラインデモンストレータを提供しています。https://<IP アドレス>:31416/Demonstrator/ConferenceProtocolDemonstrator.html からアクセスできます。

1. DICENTIS ユーザーでログインします。会議がアクティブな場合は、参加者のユーザー名を使用してログインできます。
2. ブラウザの F12 ボタンを使用してコンソールビューにアクセスし、通信を確認します。
3. [Debugger (デバッガ)] ビューを使用して [Demonstrator/Controllers (デモンストレータ/コントローラ)] を参照します。conferenceServices.js でコマンドとコンテキストの概要を確認できます。

注：Tools ディレクトリには、Linux ベースデモンストレータのソースコード「ConferenceProtocolDemonstrator.zip」も含まれています。

13 システムサーバー

DCNM-SERVER4 システムサーバーは、標準の HP Z2 Mini G1i ハードウェアを使用しています。HP Z2 Mini G1i のハードウェアマニュアルは、<https://support.hp.com/nz-en/product/hp-z2-mini-g1i-workstation-desktop-pc/2102764572> を参照してください。

DCNM-SERVER3 システムサーバーは、標準の HP Z2 Mini G9 ハードウェアを使用しています。HP Z2 Mini G9 のハードウェアマニュアルは、<https://support.hp.com/us-en/product/hp-z2-mini-g9-workstation-desktop-pc/2101025774/manuals> を参照してください。

DICENTIS システムサーバーは、Windows がプリインストールされ、DICENTIS ソフトウェアが構成された状態で提供されます。



注記!

DICENTIS システムサーバーは、汎用のコンピューティングデバイス (PC など)、汎用サーバー、またはこれらシステムの商業的に実現可能な代替品としては販売されていません。

DICENTIS システムサーバーの主な機能は、DICENTIS サービスのホスティングです。サードパーティのソフトウェアプロバイダによって追加される他のソフトウェアは、DICENTIS システムサーバーの主な機能を提供および再現することはできません。

リモートデスクトップ接続によるサーバー PC への接続

リモートデスクトップ接続アプリケーションを使用して、サーバー PC に接続し、必要な設定を行います。

1. リモートデスクトップ接続アプリケーションを開きます。
2. サーバー PC の IP アドレスを入力して、[Connect (接続)] をクリックします。
3. ユーザーのパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



注記!

デフォルトのパスワードはデバイスで確認できます。セキュリティのために、デフォルトのパスワードは新しいものに変更することをお勧めします。

リモートデスクトップセッションにログインしている状態で、CTRL + ALT + END キーを同時に押します。すると、ローカル PC ではなくリモートサーバーのタスクメニューが起動します。[change a password (パスワードの変更)] オプションを選択し、デフォルトのパスワードを変更します。

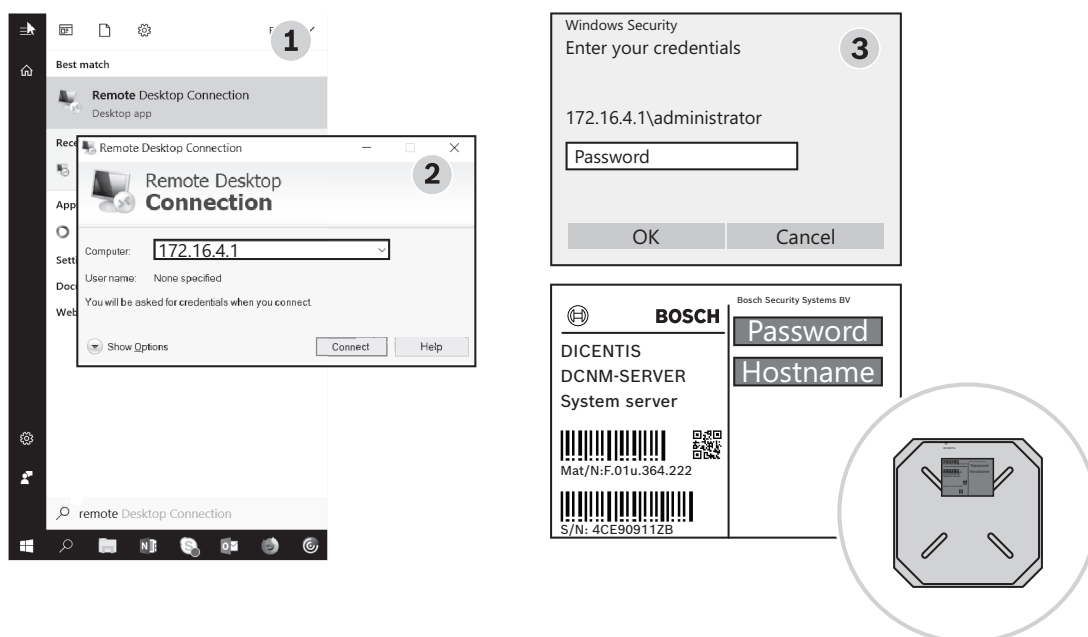


図 13.1: リモートデスクトップ接続

**注記!**

ホスト名を使用してコンピュータに接続することもできます (オフィスネットワークが正しく構成されている場合)。DICENTIS サーバーのホスト名は、デバイス底部のラベルに記載されています。たとえば、DICENTIS- <DICENTIS 側のイーサネットアダプターの MAC アドレスの末尾の 3 バイト> のような形式です。IP アドレスは変わることがあるため、ホスト名を使用した接続のほうが、信頼性が高くなります。

**注記!**

最新の Windows 更新プログラムと最新のウイルス検索プログラムで、システムを最新の状態に保ってください。このためにオフィスネットワークポートを使用することもできます。システムを使用していないときに Windows 更新プログラムと電源の再投入が実行されるように、Windows の設定で日付と時刻を調整する必要があります。Windows タスクスケジューラを使用して、Windows 更新プログラムの実行を日曜の午前 1 時にスケジュール設定します。必要に応じて、更新後にコンピュータを自動的に再起動するように更新タスクを設定します。

ログイン後、次の手順を実行します。

1. Windows の日付と時刻の設定を調整して、正しいタイムゾーンを設定します。
2. デバイスを最新バージョンにアップグレードします。「デバイスへのソフトウェアのダウンロード, ページ 30」を参照してください。
3. DICENTIS システム サーバー ソフトウェアを登録します。「ライセンス要件, ページ 19」を参照してください。

注： 出荷時にインストールされている DICENTIS ソフトウェアは、最新バージョンでない場合があります。4.1 章を参照して、最新バージョンのダウンロードおよびインストールの方法を確認してください。

**注記!**

ユーザーデータ (投票、会議メモ、および参加者の画像) がデータベース内に保存されている場合があります。DICENTIS サーバーを廃棄する場合は、DICENTIS サーバーのすべてのユーザーデータを消去してください。「[使用しない画像の削除, ページ 188](#)」を参照してください。

13.1

サーバーでのバックアップの作成

Windows Server バックアップアプリケーションがインストールされており、デスクトップにショートカットがあります。システムを完全に構成した後、このアプリケーションを使用して、構成と DICENTIS ライセンスを含め、システムのバックアップを作成できます。システムの構成に問題が生じたときや、ストレージメディアドライブを交換したときに、このイメージを復元できます。

バックアップを作成するには、次の手順に従います。

1. デスクトップ上の Windows Server Backup アプリケーションのアイコンをダブルクリックして、アプリケーションを起動します。
2. [Backup Once... (バックアップ (1 回限り) ...)] を選択します。
3. [Full server (サーバー全体)] を選択します。
4. 容量が 32GB 以上ある外部のメディアドライブ (USB やネットワークドライブなど) 上にバックアップを作成します。

13.2

サーバーの出荷時のイメージの復元

出荷時のデフォルトの状態に戻すには、DICENTIS サーバーの出荷時のイメージを復元します。

**注記!**

工場出荷時のイメージを復元すると、DICENTIS 上のすべてのユーザーデータが削除されます。

* 後でライセンスを有効にできるように、出荷時のイメージを復元する前にライセンスを返却してください。

* イメージの復元後にデータベースを復元できるように、データベースをバックアップして外部のデバイスに保存してください。

出荷時のイメージを復元するには、次の手順に従います。

1. キーボード、モニター、およびマウスを DICENTIS サーバーに接続します。
2. DICENTIS サーバーの電源をオンにします。「Protected by HP Sure Start」と表示されたら F8 キーを押し、Windows の詳細ブートオプションに入ります。
3. [Repair your computer (コンピュータの修復)] を選択します。
4. [Choose an Option (オプションの選択)] が表示されたら、[Troubleshoot (トラブルシューティング)] > [Advanced Options (詳細オプション)] > [See more recovery options (その他の回復オプションを表示)] > [System image recovery (システム イメージの回復)] を選択します。
5. 画面に表示される指示に従います。

注 : 出荷時のイメージは Recovery ドライブにあります。

14 Dante ゲートウェイ

Dante ゲートウェイは、DICENTIS システムを Dante™ 経由で接続する場合や、ユニキャスト Dante™ ストリームや誤動作防止モードが必要な場合に使用します。

OMNEO 側には、冗長性を確保するために、2 つのイーサネットコネクタがあります。Dante™ 側にも、冗長性を確保するために、2 つのイーサネットコネクタがあります。

Dante ゲートウェイ：

- 複数の OMNEO デバイスを 1 つの Dante™ インターフェイスにまとめます。
- 64 個の Dante™ ストリームを受信し、64 個の OMNEO ストリームとして送信します。そのうち 16 個のストリームを暗号化できます。
- 64 個の OMNEO ストリーム (そのうち 16 個のストリームを暗号化可能) を受信し、64 個の Dante™ ストリームとして送信します。
- 1 つのユニキャストまたはマルチキャストストリームが含まれる暗号化された複数の OMNEO フローを、複数のユニキャストまたはマルチキャストストリームが含まれた Dante™ フローに変換します。
- Dante™ 側で Dante Controller によるステティックルーティングを、OMNEO 側でダイナミックルーティング (AES70) をサポートします。
- Dante™ 側で誤作動のない冗長性を、OMNEO 側で RSTP 冗長性を実現できます。
- OMNEO システムと Dante Domain Manager™ を併用できます。



注記!

OMNEO の入力または出力 17 ~ 64 を使用すると、これらのストリームが DICENTIS システムによって非暗号化モードに自動的に設定されます。



注記!

Dante ゲートウェイは、DICENTIS システムとともに提供されるファームウェアでアップグレードする必要があります。ファームウェアアップロードツールは、DICENTIS 側と Dante™ 側の両方で、正しいファームウェアのアップロードに使用できます。

OMNEO 側を構成するには、会議アプリケーションを使用します。

1. 会議アプリケーションを開きます。
2. [**Configure (構成)**] > [**Rooms (会議室)**] > [**Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)**] の順に移動します。

詳細については、「*Floor and language routing (フロアおよび言語ルーティング)*」, ページ 96」を参照してください。

Dante™ 側を構成するには、Dante Controller または Dante Domain Manager™ を使用します。

Dante™ 側のネットワークモードを構成するには、OMNEO Control を使用します。これにより、透明/グリッチフリー設定の変更が可能になります。詳細については、OMNEO Control のマニュアルを参照してください。OMNEO Control とマニュアルは、<https://software-download.keenfinity-group.com/OMNEO> でダウンロードできます。

**注記!**

OMN-DANTEGTW では、同じトランスミッターストリームからのストリームを最大 16 個受信することができます。同じトランスミッターストリームからのストリームを 17 個以上受信すると、どのストリームも聞こえなくなります。

15 ヒント

この章には次の情報が記載されています。

- *NetTime* オプションの変更, ページ 169
- 幹事の PC を他の VLAN で *DICENTIS* サーバーとして使用できるように構成する, ページ 169
- コントロールの暗号化の無効化, ページ 170
- データベースのバックアップの作成
- データベースの復元
- 現在のバージョンへのデータベースの更新
- クリーンなデータベースの作成
- データベースの削除
- *DICENTIS* を (リモート) *SQL server* に接続, ページ 170
- *DICENTIS* ソフトウェアを前のバージョンにダウングレード, ページ 173
- 4.1 以降の *DICENTIS* ソフトウェアを 4.0 以前のバージョンにダウングレードする, ページ 174
- 異なるコンピュータへの画像サーバーのインストール, ページ 178
- フェイルセーフモードからのデバイスの復旧, ページ 179
- 不具合のあるデバイスの交換, ページ 179
- ファイルのアップロードとアクセス, ページ 180
- *DICENTIS* マルチメディアデバイスの日付時刻形式の設定, ページ 181
- *ARNI* をサポートしている *DICENTIS* システムの *DICENTIS* サーバーに固定 IP アドレスを使用する, ページ 182
- *DICENTIS* で動作するネットワークインターフェイスの選択, ページ 183
- 電源ボタンを使用してサーバーの電源をオフにする, ページ 183
- カメラストリームとプレゼンテーションストリーム, ページ 184
- バックアップの作成とシノプティック構成の復元, ページ 184
- *Dante™* 互換デバイスの構成, ページ 184
- *Dante™* デバイスの PIN コードの設定
- デバイスへのサードパーティ製アプリケーションの追加, ページ 185
- デバイスへの他のキーボードの追加, ページ 186
- 議題項目の変更時にサードパーティの *Android* アプリをマルチメディアデバイスで使い続ける, ページ 186
- コマンドラインツールによる証明書の作成, ページ 187
- 使用しない画像の削除, ページ 188
- *ONVIF* カメラの検出
- *API* アプリケーション (*Synoptic* を含む) に対する *.net API* での安全なログイン, ページ 188
- 参加者アプリの *SSL* 証明書の更新, ページ 188
- *DCNmMediaPlayer* のインストールと実行, ページ 189
- 6.8 以降の *DICENTIS* ソフトウェアを以前のバージョン (V4.1 ~ V6.7) にダウングレードする, ページ 190

参照情報

- *DCNmMediaPlayer* のインストールと実行, ページ 189

- 6.8 以降の DICENTIS ソフトウェアを以前のバージョン(V4.1 ~ V6.7) にダウングレードする, ページ 190

15.1 NetTime オプションの変更

NetTime は、DICENTIS 会議システムで使用するタイマーを同期させるために使用します。DICENTIS 会議システムが企業の環境で使用される場合、NetTime オプションを変更する必要がある可能性があります。

これらのオプションを変更するには、次の手順に従います。

1. 通知領域で [**NetworkTime**] アイコンを右クリックし、[**Properties (プロパティ)**] > [**Settings (設定)**] の順に選択します。
2. お使いの環境のタイムサーバーの正しいホスト名と IP アドレスを入力します。通常、タイムサーバーは DHCP サーバーと同じサーバーです。詳細については、IT 部門にお問い合わせください。
3. [**OK**] をクリックします。
4. [**Stop (停止)**] をクリックしてから [**Start (開始)**] をクリックすると、新しい設定が有効になります。

注：NetTime をアンインストールした場合、必ず Windows Time サービスを [**Automatic (自動)**] に変更しておいてください。

15.2 幹事の PC を他の VLAN で DICENTIS サーバーとして使用できるように構成する

詳細情報

幹事（または書記）は自身の PC で会議アプリケーションを使用して会議を準備する必要があります。幹事の PC が DICENTIS サーバーとは異なる VLAN にある場合、会議アプリケーションは DICENTIS サーバーを見つけることができません。これは、DICENTIS デバイスと会議アプリケーションで使用される DNS-SD プロトコルが、異なる VLAN 間では機能しないためです。

必要に応じて、技術者は次の手順を使用して、DICENTIS サーバーと通信できるように幹事の PC の会議アプリケーションを構成できます。

手順

幹事の PC で次の手順を実行します。

1. DICENTIS サーバーへの ping を実行します。
 - [**スタート**] ロゴをクリックします。
 - 検索フィールドに「**コマンド**」と入力し、[**プログラム**] の下に表示された [**コマンドプロンプト**] を選択します。
 - 「**ping** [DICENTIS サーバーのホスト名]」と入力します。
 - **Enter** キーを押すと、DICENTIS サーバーへの ping が実行されます。
2. DICENTIS サーバーへの ping を実行できない場合は、IT 部門のサポートが必要な可能性があります。それでも DICENTIS サーバーへの ping を実行できない場合は、IP アドレスを代わりに使用できます。ただし、IP アドレスは変化する可能性があるため、これはお勧めしません。
3. 会議アプリケーションへのショートカットをデスクトップに作成します (**C:\Program Files (x86)\BoschDICENTIS** ディレクトリにある **Bosch.Dcnm.UserInterfaces.MeetingManager.exe** ファイルを使用します) 。
4. ショートカットを右クリックし、[**プロパティ**] を選択します。
5. [ショートカット] タブで、PC が接続する必要のあるサーバーを追加することによってリンク先を更新します。

- **使用法** : **Bosch.Dcnm.Userinterfaces.MeetingManager.exe** [/server 'servername']
/server DCNM サーバーのホスト名または IP アドレスを指定するオプションのパラメータ
 - **例** : **Bosch.Dcnm.Userinterfaces.MeetingManager.exe /server**
COMPUTERNAME.network.com
6. ショートカットをダブルクリックします。会議アプリケーションからリモートサーバーに接続することができます。

その他の情報

- **/window** : 会議マネージャーを (フルスクリーンの代わりに) ウィンドウで起動します。
- **/?** : コマンドライン引数の説明を含むメッセージボックスを表示します。

15.3 コントロールの暗号化の無効化

コントロールの暗号化は、次の手順で無効化できます。

1. **C:\Program Files\Bosch\DICENTIS** にあるファイル
Bosch.Dcnm.Services.DeviceService.Main.exe.config を編集します。
 2. この部分

```
<add key="OcpControlSecurityForced" value="true"/>
```


を次のように変更します。

```
<add key="OcpControlSecurityForced" value="false"/>
```
 3. サーバーコンソールを使用してサービスを再起動します。
 4. この部分

```
<add key="OcpControlSecurityEnabled" value="true"/>
```


を次のように変更します。

```
<add key="OcpControlSecurityEnabled" value="false"/>
```
 5. 会議アプリケーションを使用して、システムの電源を切ります。
 6. サーバーコンソールと電源を使用して、サービスを再起動します。
 7. 会議アプリケーションを使用して、システムの電源を入れます。
- コントロールの暗号化を有効にするには、値を再度 true に設定してからサービスを再起動します。

15.4 DICENTIS を (リモート) SQL server に接続

DICENTIS システムは環境変数を使用してデータベースにアクセスします。環境変数が存在しない場合、デフォルト値が使用されます。

データベース名とデータベースサーバーに使用される環境変数は、次のとおりです。

MMCN_DB_SERVER	データベースサーバーの PC 名とサーバーインスタンス名。 形式 : MachineName\instanceName (デフォルトのインスタンスを使用する場合、インスタンス名は省略できます。ローカルマシンを使用する場合、マシン名をドット (「.」) にすることができます) デフォルト: .\SQLDICENTIS2025
MMCN_DB_USER_ID	SQL server のユーザー ID (SQL 認証)。指定されていない場合、統合認証が使用されます。
MMCN_DB_PW	SQL server のパスワード (SQL 認証)。MMCN_DB_USER_ID と組み合わせた場合にのみ有効です。
MMCN_DB_DATABASE	DICENTIS データベースの名前。デフォルト: DcnmDatabase

注：DICENTIS は 2 つのデータベースを使用します。**DcnmDatabase** は、すべての構成を保存するために、**DcnmLoggingDatabase** はロギングを保存するために使用します。環境変数を使用すると、**DcnmDatabase** を別のサーバー/データベースにリダイレクトすることができます。**DcnmLoggingDatabase** はリダイレクトできません。ロギングデータベースは、常にデフォルトのサーバー上にあります (\SQLDICENTIS2025)。

新しい環境変数の作成

新しい環境変数を作成するには、次の手順に従います。

1. [PC] を右クリックし、[Properties (プロパティ)] > [Advanced system settings (システムの詳細設定)] > [Environment Variables (環境変数)] > [System variables (システム環境変数)] > [New (新規)] の順に選択します。
2. 必要な変数名を入力します。
3. 必要な変数の内容を入力します。

SQL server でのデータベースの作成

- コンソールツール DcnmDatabaseConsole.exe は、データベースの作成に使用します。このツールをコピーする必要がある場合は、次のファイルをコピーしてください。

DcnmDatabaseConsole.exe

DcnmDatabaseConsole ツールでも、環境変数を使用してデータベースを作成します。環境変数を設定してコンソールウィンドウを開き、「DcnmDatabaseConsole -n」を使用すると、リモートデータベースが作成されます。

注：DcnmDatabaseConsole.exe を使用する場合、データベースを作成するのに必要な権限を持つユーザー認証情報が必要です。

環境変数は、DcnmDatabaseConsole.exe に引数を渡すことで、無効にできます (コマンドラインの構文や使用できるオプションに関してヘルプを参照したいときは、コマンドに -? オプションを付けて実行してください)。

- サーバー名とインスタンス名を渡すには、-s を使用します。
- SQL 認証 (省略した場合は Windows 認証) のユーザー ID を渡すには、-u を使用します。
- ユーザー ID のパスワードを渡すには、-p を使用します。
- データベース名を渡すには、-d を使用します。

リモートとターゲット

DcnmDatabaseConsole.exe はデータベースのバックアップ機能および復元機能を実行するためのコマンドラインオプションも備えています。これらの機能は、リモート SQL サーバーと組み合わせて使用する場合、制限があります。

リモートマシン：DICENTIS サービスが実行されている場所。

- 新しいデータベースをリモートマシンから作成できます。
- データベースのバックアップをリモートマシンから開始できます。

ターゲットマシン：データベースが実行されている場所。

- データベースはターゲットマシンからのみ復元できます。

Windows 認証の例

これは、Windows 認証を使用して、マシン **SQLSRV** 上にある **SQLENT1** という名前のリモート SQL server に接続する方法の例です。

使用するシステムのデータベースは **MainConfHall** です。

環境変数	値
MMCN_DB_SERVER	SQLSRV\SQLNT1
MMCN_DB_DATABASE	MainConfHall

データベース作成 :

リモート :

```
DcnmDatabaseConsole -n
```

ターゲット上 :

```
DcnmDatabaseConsole -s \SQLNT1 -d MainConfHall -n
```

SQL 認証の例

これは、SQL 認証を使用して、マシン **SQLSRV** 上にある **SQLNT2** という名前のリモート SQL server に接続する方法の例です。

使用するユーザー名は **DcnmUser**、パスワードは **P@ssw0rd** です。使用するデータベースは **ConfHall53** です。

環境変数	値
MMCN_DB_SERVER	\\SQLSRV\SQLNT2
MMCN_DB_DATABASE	ConfHall53
MMCN_DB_USER_ID	DcnmUser
MMCN_DB_PW	P@ssw0rd

データベース作成 :

リモート :

```
DcnmDatabaseConsole -s \\SQLSRV\SQLNT2 -d ConfHall53 -u DcnmUser -p P@ssw0rd -n
```

ターゲット上 :

```
DcnmDatabaseConsole -s .\SQLNT2 -d ConfHall53 -u DcnmUser -p P@ssw0rd -n
```

デフォルトのインスタンスへの SQL 認証の接続の例

これは、SQL 認証を使用して、マシン **SQLSRV** 上にあるデフォルトの SQL server に接続する方法の例です。この例は前のバージョンの例と同じです。ただし接続は、定義されたインスタンスではなく、デフォルトの SQL server への接続です。

使用するユーザー名は **DcnmUser**、パスワードは **P@ssw0rd** です。使用するデータベースは **ConfHall53** です。

環境変数	値
MMCN_DB_SERVER	\\SQLSRV
MMCN_DB_DATABASE	ConfHall53
MMCN_DB_USER_ID	DcnmUser
MMCN_DB_PW	P@ssw0rd

注：この場合、Integrated Security=True は削除されています。

データベース作成：

リモート：

```
DcnmDatabaseConsole -n
```

注：パラメータが設定されていない場合、環境変数が使用されます。パラメータが設定されている場合、パラメータが環境変数よりも優先されます。

ターゲット上：

```
DcnmDatabaseConsole -s . -d ConfHall153 -u DcnmUser -p P@ssword -n
```

15.5 DICENTIS ソフトウェアを前のバージョンにダウングレード

DICENTIS ソフトウェアをアンインストールして前のバージョンをインストールしても、現在のバージョンのデータベースは前のバージョンと互換性を持っていないため、システムは動作しません。前のバージョンのデータベースを復元するか、現在のデータベースを削除する必要があります。

前のバージョンのソフトウェアをインストールできるよう、現在のデータベースを削除します。「データベースの削除」を参照してください。

現在のバージョンをアンインストールします。

1. Windows の [スタート] メニューで、[コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順に選択します。
2. 次のプログラムを手動でアンインストールします。
 - ARNI Configuration Tool。
 - Bosch DICENTIS。
 - Bosch DNS-SD Service (アンインストールすると再起動するように求められます)。
 - OMNEO ARNI ファームウェア。
 - OMNEO Firmware Upload Tool。
 - OMNEO Docent。
 - MMFF ファームウェアパッケージ (バージョン 7.00 以降がインストールされている場合にのみ該当)。
3. PC を再起動します。
4. 「DICENTIS ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」に記載されているとおり、前のバージョンの DICENTIS ソフトウェアをインストールします。

前のバージョンのデータベースバックアップを復元します。

「データベースの復元」を参照してください。

データベースをインストール済みのソフトウェアバージョンに更新します。

1. DICENTIS サーバーコンソールを使用して DICENTIS サービスを停止します。
2. **管理者モード**でコマンドプロンプトを開きます。
3. **C:\Program Files\Bosch\DICENTIS** に移動します。
4. データベースを現在のバージョンに更新するには、**DcnmDatabaseConsole.exe** を実行します。
5. DICENTIS サーバーコンソールを使用して DICENTIS サービスを再起動します。

**注記!**

カスタムのセキュア接続設定を使用している場合に、カスタムのセキュア接続設定がサポートされていない下位バージョンにダウングレードするには、まず [Seats and Devices configuration (シートとデバイスの設定)] セクションからすべてのデバイスのペアリングを解除します。ペアリングを解除しない場合は、リセットボタンを使用して各デバイスを手動でリセットする必要があります。

15.6

4.1 以降の DICENTIS ソフトウェアを 4.0 以前のバージョンにダウングレードする

バージョン 4.1 以降からバージョン 4.0 以前にダウングレードすると、それらのバージョンで作成した最後のデータベースが使用されます。バージョン 4.1 以降では、4.0 以前とは異なるデータベースを使用します。

現在のバージョンをアンインストールします。

1. Windows の [スタート] メニューで、[コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順に選択します。
2. 次のプログラムを手動でアンインストールします。
 - ARNI Configuration Tool。
 - Bosch DICENTIS。
 - Bosch DNS-SD Service (アンインストールすると再起動するように求められます)。
 - OMNEO ARNI ファームウェア。
 - OMNEO Firmware Upload Tool。
 - OMNEO Docent。
 - MMFF ファームウェアパッケージ (バージョン 7.00 以降がインストールされている場合にのみ該当)。
3. PC を再起動します。
4. 「*DICENTIS* ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」に記載されているとおり、前のバージョンの DICENTIS ソフトウェアをインストールします。

データベースの互換性がないという通知が表示されてインストールが失敗する場合は、データベースを削除してください。

注: これにより、構成全体が削除されます。

1. サービスを介して **SQL サーバー (SQLEXPRESS)** を停止します。
2. C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.SQLDICENTIS2014\MSSQL\DATA にある 2 つのファイル (DcnmDatabase_log.LDF と DcnmDatabase.mdf) を削除します。
3. DICENTIS サーバーを再起動します。
4. 「*DICENTIS* ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」に記載されているとおり、前のバージョンの DICENTIS ソフトウェアをインストールします。

15.7

DICENTIS 会議システム Pre-4.40 の場合

アクティベーションツールの説明

- [**Fulfillments (フルフィルメント)**] ウィンドウ: システムで有効化されたフルフィルメントが表示されます。複数のフルフィルメントが有効化された場合、[**Fulfillments (フルフィルメント)**] ウィンドウの上部に [**All Fulfillments (すべてのフルフィルメント)**] の行が表示されます。

す。フルフィルメントの行を 1 つ選択すると、関連するライセンスが [**List of licenses and quantity (ライセンスと数量のリスト)**] ペインに表示されます。フルフィルメントの行の色分けの意味は、次のとおりです。

- 黒色：フルフィルメントに問題はありません。
- オレンジ色：フルフィルメントは信頼できません。修復する必要があります。
- 取り消し線付き灰色：フルフィルメントが返却され、応答が削除されるのを待っています。
- 取り消し線付き灰色：フルフィルメントの期限切れです。システムをクリーンアップするためにライセンスを返却してください。
- [**List of licenses and quantity (ライセンスと数量のリスト)**] ウィンドウ：このウィンドウでは、各ライセンスの「Qty (数量)」（ライセンスの数）、「Order number (オーダー番号)」、「Description (説明)」、「Activated (有効化済み)」（ライセンスの有効化の日付）、および「Expires (有効期限)」（ライセンスの有効期限）が表示されます。
- [**Software Maintenance Agreement (ソフトウェアメンテナンス契約)**] ウィンドウ：ソフトウェアメンテナンス契約 (SMA) の終了日が表示されます。[SMA end date (SMA 終了日)] はその日を過ぎると赤色になり、「System is not operational! Additional SMA is required (システムを操作できません。追加の SMA が必要です)」というテキストが赤色でウィンドウの下部に表示されます。
- [**Add fulfillment (フルフィルメントの追加)**]：このボタンはフルフィルメントを追加するために使用します。1 つのフルフィルメントは、システムに追加の機能を追加する 1 つ以上のライセンスで構成されています。
- [**Return fulfillments (フルフィルメントの返却)**]：このボタンは、必要に応じてフルフィルメント / ライセンスを返却するために使用します。返却プロセスは、ソフトウェアを別のサーバーにインストールする場合など、システムで当該の機能が不要になったときに実行します。

注記!



[**Update license (ライセンスの更新)**] ボタンをクリックするか (オンライン モード)、アクティベーション サイトで応答ファイルをダウンロードし、アクティベーション ツールでその応答ファイル进行处理することで (オフライン モード)、アクティベーション ツールのバージョンをアップグレードできます。

15.7.1

システムの最初の有効化

初めてシステムを有効化する場合、次に示す手順に従います。

- 開始する前に、次のものが揃っていることを確認します。
 - アクティベーション ID (ソフトウェアライセンスの購入後に電子メールで送信されます)。
 - 技術者の権限。
 - インターネットに接続されている PC。
 - USB スティック (オフラインアクティベーション用)。

注記!



次の手順を実行するには、ユーザーアカウントに「Technician (技術者)」権限が必要です。これらの権限は、組織の「Admin user (管理者ユーザー)」が付与することができます。

サーバー PC で次の手順を実行します。

- Windows タスクバーで [**DICENTIS Server Console (DICENTIS サーバーコンソール)**] を右クリックして [**Activate licenses (ライセンスの有効化)**] をクリックすることにより、DICENTIS アクティベーションツールを起動します。
- [**Add fulfillment (フルフィルメントの追加)**] ボタンをクリックします。
- アクティベーション ID を含むすべての必要な情報を入力します。アクティベーション ID は、システムアクティベーション Web サイトの概要ページにあり、ソフトウェアライセンスの購入後に受信した電子メールに記載されています。

オンラインアクティベーションの手順は以下のとおりです。

- [**Online (オンライン)**] タブで、ディーラーサイトの [**User name (ユーザー名)**] と [**Password (パスワード)**] を入力し、[**Activate licenses (ライセンスの有効化)**] をクリックします。
- アクティベーション処理の進行中は [**Progress (進行状況)**] メッセージパネルにステータスメッセージが表示されます。
- [**(サービスの再起動)**] を右クリックすることにより、サービスを再起動します (「サーバーコンソール, ページ 34サーバーコンソール, ページ 34」を参照)。これでシステムは有効になりました。

注記!



インターネット接続にプロキシ設定が必要な場合は、[**Use this link to configure your proxy settings (プロキシ設定にはこのリンクを使用)**] をクリックしてプロキシ設定に直接アクセスすることができます。そのページで [**Bypass proxy server for local addresses (ローカルアドレス用プロキシサーバーをバイパス)**] チェックボックスをクリックして、ローカルネットワークでロゴや画像が正しく表示されるようにします。

オフラインアクティベーションの手順は以下のとおりです。

引き続きサーバー PC で次の手順を実行します。

- [**Offline (オフライン)**] タブで、[**Create request (リクエストを作成)**] ボタンをクリックし USB スティックにリクエストファイルを保存します。
- アクティベーションツールを開いたままにして、アクティベーションウェブサイトからの応答ファイルを容易に処理できるようにしておきます。
 - 注 : アクティベーション ID がリストに記載されている場合にのみ [**Create request (リクエストを作成)**] ボタンにアクセスできます。
- インターネット接続のあるコンピュータで、<https://license.keenfinity-group.com/> にアクセスします。
- 技術者権限のあるユーザー名とパスワードを使用してログインします。
- [**Manage license (ライセンスの管理)**] タブのページを選択します。
- USB スティックを使用して、このページでリクエストファイルを処理します。
- リクエストファイルを処理した後、応答ファイルを USB スティックに保存します。

サーバー PC に戻り次の手順を実行します。

- USB スティックを挿入します。

- [Add fulfillment (フルフィルメントの追加)] ウィンドウの [Process response (応答の処理)] ボタンをクリックします。
- 応答ファイルをアップロードします。
- d [Restart services (サービスの再起動)] を右クリックすることにより、サービスを再起動します (「サーバーコンソール, ページ 34」を参照)。これでシステムは有効になりました。

15.7.2

その他のフルフィルメント / ライセンスの追加

その他のフルフィルメント / ライセンスをシステムに追加するには、有効な SMA がシステムにある必要があります。これにより、DICENTIS の最新の機能が正しく動作することが保証されます。



注意!

有効な SMA なしで DICENTIS システムをアップグレードすると、システムが機能しなくなる場合があります。

15.7.3

ライセンスの返却と修復

ライセンスの返却

アクティベーションツールの [Returning a license (ライセンスの返却)] 機能は、次のいずれかの目的で使用します。

- ライセンスの返却。
- ライセンスのリリース。これは、DICENTIS ソフトウェアを別のサーバーにインストールする可能性がある場合に行います。

ライセンスの返却はオンラインおよびオフラインの両方で可能です。

オンラインでライセンスを返却するには、次の手順を実行します。

1. [Return fulfillments (フルフィルメントの返却)] ボタンをクリックします。
2. [Online (オンライン)] タブで、ディーラーサイトの [User name (ユーザー名)] と [Password (パスワード)] を入力し、[Return fulfillments (フルフィルメントの返却)] ボタンを押してフルフィルメントを返却します。

オフラインでライセンスを返却するには、次の手順を実行します。

1. [Return fulfillments (フルフィルメントの返却)] ボタンをクリックします。
2. [Offline (オフライン)] タブで、返却するフルフィルメントを選択します。
3. [Process response message (応答メッセージを処理)] ボタンをクリックすることにより、確実にプロセスを終了させます。

Web サイトでの手順は、ライセンスを有効化する場合と似ています。

ライセンスの修復

ライセンスに破損が生じると、ソフトウェアが正しく機能しなくなります。サーバーコンソールの画面に警告メッセージが表示され、障害が通知されます。その後、アクティベーションツールの

[Repair license (ライセンスを修復)] ボタンが有効になります。

ライセンスを修復するには、[**Repair license (ライセンスを修復)**] ボタンをクリックし、画面上の指示に従います。Web サイトでの手順は、ライセンスを有効化する場合と似ています。「その他のフルフィルメント / ライセンスの追加, ページ 177」を参照してください。

15.8 FNPライセンスファイルのバックアップの作成

注記: この機能は、新しいライセンス方法では不要になりました。

ライセンスをシステムにインストールした後、ライセンスファイルをバックアップする必要があります。これにより、ライセンスが入っているハードドライブがクラッシュしたりフォーマットされたりしたときにライセンスの消失を防ぐことができます。当該のディレクトリを安全な場所 (別のハードドライブが望ましい) に保存する必要があります。

これを行うには、次の手順に従います。

1. 'Bosch DICENTIS' のすべてのサービス (**Bosch DICENTIS License Manager** および **FlexNet Licensing Server 64'** サービスを含む) を停止します。バックアップや復元を実行する前に必ずこの手順を行ってください。
2. 信頼されるストレージのバックアップを作成するには、**C:\ProgramData\FlexNet** をバックアップ場所にコピーします。
3. 復元を行うには、これらのファイルを元々あった PC にコピーします。



注記!

Windows では、このフォルダとファイルは通常では隠されています。表示されるように Windows エクスプローラーを設定するには、[整理] > [フォルダーと検索のオプション] > [表示] を選択します。

15.9 異なるコンピュータへの画像サーバーのインストール

パフォーマンスの向上やスペースの節約を実現するため、DICENTIS 画像サーバーを次の手順で異なるコンピュータにインストールすることができます。

1. DVD を開きます。
2. **DCNmCertificate.msi**、**DCNmApi.msi**、**DCNmServerTools.msi**、**DCNmImageServer.msi** の場所を特定します。
3. 画像サーバーをインストールするコンピュータにログインします。
4. **DCNmCertificate.msi** をインストールします。
5. **DccnmApi.msi** をインストールします。
6. **DCNmServerTools.msi** および **DccnmImageServer.msi** をインストールします。
7. 画像サーバーが使用するコンピュータ名または IP アドレス、およびポートをメモします。
 - デフォルトは 31418 です。

セキュリティ上の理由から、画像サーバーコンピュータにサーバー証明書をインストールします。DICENTIS サーバーコンピュータのプライベートルート証明書を使用して画像サーバー PC でサーバー証明書を作成する場合、クライアント PC は、DICENTIS Web サーバー (シノプティックコントロール、会議プロトコル) と画像サーバー (参加者のイメージ、ロゴ) の両方に対して 1 つの証明書をダウンロードするだけで済みます。

1. 画像サーバーコンピュータで、**Certificate Manager** を開きます。
2. ルート証明書を開きます。

DICENTIS サーバーコンピュータでも使用されているルート証明書の <name>-private.pfx とパスワードを使用します。

3. 各情報を [**Server certificate (サーバー証明書)**] フィールドに入力します。
4. [**Create and install (作成とインストール)**] をクリックして、画像サーバーコンピュータでサーバー証明書を作成し、インストールします。

**注記!**

画像サーバーコンピュータ上でサーバー証明書を作成するには、DICENTIS サーバーコンピュータからルート証明書の <name>-private.pfx とパスワードを取得する必要があります。それらを取得できない場合は、DICENTIS サーバーコンピュータに新しいルートおよびサーバー証明書を作成し、インストールする必要があります。

画像サービスの場所を変更するには、次の手順を実行します。

1. 会議アプリケーションを起動します。
2. [**Configure (構成)**] > [**Rooms (会議室)**] に移動します。
3. 新しい画像サーバーの URL を [**Image Server url (画像サーバー URL)**] に入力します。
例: コンピュータ名が CITYCOUNCILIMAGESERVER で、ポートが 31418 の場合、URI には **https://CITYCOUNCILIMAGESERVER:31418/** と入力します。
4. [**Test image server connection (画像サーバー接続のテスト)**] をクリックして、新しい DICENTIS 画像サーバーが有効であることを確認します。
5. [**Apply (適用)**] をクリックして新しい画像サーバーの URL を保存します。

15.10

フェイルセーフモードからのデバイスの復旧

システムの可用性を維持するためには最大限の努力が行われていますが、場合によっては、DICENTIS デバイスがフェールセーフモードに入り、ファームウェアのリロードが必要になることがあります。ファームウェアをリロードするには、次の手順を実行します。

1. デバイスの電源をオンにします。
2. **Firmware Upload Tool** を起動します。しばらくすると、Firmware Upload Tool に [**devices in failsafe mode (フェールセーフモードのデバイス)**] ウィンドウが開き、不具合のあるデバイスの ID が表示されます。
3. デバイスが Firmware Upload Tool の当該のタブに表示されるまで待機します (DCNM-APS / DCNM-APS2、DCNM-PS2 または DCNM-MMD2 / DICENTIS ディスカッションデバイス)。
4. **Firmware Upload Tool** を閉じます。これで、デバイスは再び正常に動作するようになります。

15.11

不具合のあるデバイスの交換

不具合のあるデバイスを、再構成しなくても簡単に交換できます。次の手順に従います。

1. 不具合のあるデバイスを交換します。
2. 必要に応じて、交換後のデバイスを正しいファームウェアでアップグレードします。
3. [**Configure (設定)**] > [**Seats and Devices (座席とデバイス)**] > [**Seat Assignment (座席の割り当て)**] の順に選択します。
4. [**Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)**] ボタンを使用して、不具合のあるデバイスを座席から割り当て解除します。不具合のあるデバイスの番号と名前を記録します (デバイスの底のステッカーを参照)。

ヒント: 携帯電話を使用するとステッカーの写真を簡単に撮ることができます。

5. [**Automatic seat assignment (自動座席割り当て)**] が有効になっている場合は、まず交換後のデバイスを現在の座席から割り当て解除してから、正しい座席に割り当てする必要があります。
[**Unassign Devices from Seat (座席からデバイスを割り当て解除)**] ボタンを使用して、交換後のデバイスを座席から割り当て解除します。
6. [**Assign Device to Seat (デバイスを座席に割り当て)**] ボタンを使用して、交換後のデバイスを正しい座席に割り当てます。
7. [**Delete empty seats (空席を削除)**] ボタンで空席を削除します。

15.12

ファイルのアップロードとアクセス

詳細情報

会議中、参加者はマルチメディアデバイス上の青色の [**More info (詳細)**] ハイパーリンクをクリックして、ファイル (ドキュメント、画像、プレゼンテーション) を開いて表示できます (DCNM-MMFF、参加者アプリケーション、および DCNM-MMD2 のみ)。[**More info (詳細)**] ハイパーリンクは次の情報ごとに表示されます。

- 各会議
- 各議題項目
- 各投票

このハイパーリンクを使用できる参加者の場合は、次のとおりです。

- ドキュメントをお客様のコンテンツ管理システム (CMS) にアップロードする必要があります。また、
- URL (リンク) を [**Prepare (会議設定)**] ページで次の項目のために入力する必要があります。
 - 各会議 (「 *Meeting details (会議の詳細)* , ページ 60」 を参照)
 - 各議題項目 (「 *項目の詳細* , ページ 64」 を参照)
 - 各投票 (「 *投票の詳細* , ページ 65」 を参照)

必要に応じてドキュメントフォルダを作成することができます。例えば、「会議」、「議題」、「投票」用のドキュメントフォルダを個別に作成して、関連ドキュメントをそれぞれのフォルダに保存できます。または、「会議」用フォルダを 1 つ作成して、すべてのドキュメントをそこに保存することもできます。

フォルダを個別に作成することの利点としては、[**More info (詳細)**] ハイパーリンクの 1 つを押すと、関連するドキュメントだけが表示されるということが挙げられます。たとえば、投票用の [**More info (詳細)**] ハイパーリンクを押すと、投票に関連するドキュメントだけが表示されます。ただし、各フォルダの [**Prepare (会議設定)**] ページでそれぞれのハイパーリンクの内容を入力する必要があるという点が不便です。

アプリケーションのデモ用に、会議資料用の Web サーバーを手動でインストールできます

(**Tools\DCNmMeetingDocuments.msi**)。これは、ドキュメントを閲覧できる単純な Web サイトです。meetingdocuments ディレクトリは、サーバー上で最も使用可能なスペースの多いドライブにインストールされます。

注：必ずしも C ドライブではありません。

技術者のタスク

meetingdocuments ディレクトリを次のようにセットアップします。

1. インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーと Explore (inetmgr) を使用して、meetingdocuments ディレクトリがインストールされているドライブを確認します。

2. 幹事がアクセスできるように **meetingdocuments** ディレクトリを共有します。
3. 幹事のコンピュータ上の **meetingdocuments** ディレクトリへのショートカットを作成します。

DcnmMeetingDocuments Web サイトでフォルダを 1 つ以上作成します。

1. **meetingdocuments** ディレクトリで、各会議用にフォルダを作成します (例: **meeting_1**、**meeting_2**、**meeting_3**)。これらのフォルダは、[**More info (詳細)**] ハイパーリンクを押すと表示されるドキュメントを保存するために使用します。
2. オプション: 会議用フォルダの中に、各議題項目や各投票用のフォルダを作成することもできます (例: **agenda_1**、**agenda_2** および **voting round_1**、**voting round_2**)。

幹事または書記のタスク

meetingdocuments ディレクトリにファイルをアップロードします。

1. **meetingdocuments** ディレクトリへのショートカットをクリックするか、Windows エクスプローラーを使用して (ドライブ) `\\inetpub\wwwroot\DcnmMeetingDocuments` を参照します。
2. 技術者が「**技術者のタスク**」に記載されているとおりに適切なフォルダを作成したかどうかを確認します。前のセクションを参照してください。
3. 必要に応じて、ドキュメントや画像、プレゼンテーションなどのファイルを適切なフォルダにアップロードします。

会議および議題項目の URL (リンク) を次のように入力します。

- 次の形式を使用して、会議および議題項目で URL (リンク) を作成します。
http://<DICENTIS サーバー PC の IP アドレス>:31415/Default.aspx
- 各会議にドキュメントを入れる独自のディレクトリがある場合、URL (リンク) は次の形式になります。
http://<DICENTIS サーバー PC の IP アドレス>:31415/Default.aspx?meeting=<この会議で使用したディレクトリの名前>
- 各議題にドキュメントを入れる独自のディレクトリがある場合、URL (リンク) は次の形式になります。
http://<DICENTIS サーバー PC の IP アドレス>:31415/Default.aspx?meeting=<この会議で使用したディレクトリの名前>&agenda=<この議題項目に使用したドキュメントが入っているディレクトリの名前>
- *Meeting details (会議の詳細)*, ページ 60
- *項目の詳細*, ページ 64
- *投票の詳細*, ページ 65

URL (リンク) を確認する

1. 各会議を有効化し、[**More info (詳細)**] ハイパーリンクを押すと会議用ドキュメントへの URL (リンク) が表示されることを確認します。
2. オプション: 会議の各議題項目および各投票についても同じことを行います。

15.13

DICENTIS マルチメディアデバイスの日付時刻形式の設定

DICENTIS マルチメディアデバイス DCNM-MMD および DCNM-MMD2 では、サーバー PC の次の日付と時刻の設定が使用されます:

- タイムゾーン
- サマータイム設定
- 時刻形式 (短い形式)
- 日付形式 (短い形式)

これを正しく動作させるには、次の手順を実行する必要があります。

1. サーバー PC での日付時刻形式の設定
 - **コントロールパネル**を開きます。
 - **[日付、時刻、または数値の形式の変更]**を選択します。
 - **[形式]**タブページ (**[地域]**ダイアログボックス) で、**日付 (短い形式)**と**時刻 (短い形式)**を設定します。

必要な場合、独自の日付時刻形式を作成することもできます。

注：形式が長すぎると、デバイスに表示しきれない可能性があります。

- **[適用]**を選択します。
2. 設定が管理設定に含まれるようにサーバーを構成します。
 - **[管理]**タブページ (**[地域]**ダイアログボックス) を開きます。
 - **[設定のコピー...]**ボタンを選択します。
 - チェックボックスをオンにします。
 - ようこそ画面とシステムアカウント。
 - **[OK]**を選択します。
 3. しばらくしてから、DCNM-MMD / DCNM-MMD2 上で形式が更新されていることを確認します。



注記!

DCNM-MMFF および参加者アプリケーションの時刻形式は、アプリケーションの設定ページにある **[General (全般)]** タブで構成できます。

15.14

ARNI をサポートしている DICENTIS システムの DICENTIS サーバーに固定 IP アドレスを使用する

固定 IP アドレスを割り当てる DICENTIS システムでコンピュータを使用するには、次の設定を行います。

1. **[Control Panel (コントロールパネル)] > [Network and Internet (ネットワークとインターネット)] > [View network status and tasks (ネットワークの状態とタスクの表示)] > [Change adapter settings (アダプターの設定の変更)]** の順に移動します。
2. **[Internet Protocol Version 4 (Internet Protocol バージョン 4)]** を選択します。
3. **[Properties (プロパティ)]** ボタンをクリックします。
4. **[Use the following IP address (次の IP アドレスを使用する)]** : サーバーまたはコンピュータの IP アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイを含める必要があります。
[Use the following DNS server addresses (次の DNS サーバーアドレスを使用する)] : ARNI の IP アドレスを含める必要があります。
5. **[Advanced (詳細)]** ボタンをクリックします。
6. **[Advanced TCP/IP settings (TCP/IP 詳細設定)]** の **[DNS]** ページは、以下の設定になっている必要があります。

- [Append primary and connection specific DNS suffixes (プライマリおよび接続専用の DNS サフィックスを追加する)] がオンになっている
- [Append parent suffixes of the primary DNS suffix (プライマリ DNS サフィックスの親サフィックスを追加する)] がオンになっている
- [DNS suffix for this connection: (この接続の DNS サフィックス :)] が parent.bosch.omneo になっている
- [Register this connection's addresses in DNS (この接続のアドレスを DNS に登録する)] がオンになっている
- [Use this connection's DNS suffix in DNS registration (この接続の DNS サフィックスを DNS 登録に使う)] がオンになっている

注：これらの設定がネットワークで行われた定義と一致していることを確認してください。

1. 次の画面コマンドを実行して設定が正しいことを確認するための簡単なテストを行います。C:
`\Program Files\Bosch\DNS-SD>BoschDNSSDClient.exe -b _ocasec`
 "parent.bosch.omneo" ドメインに登録されている DICENTIS のリストが表示されていれば OK です。
 Bosch-ARNI は "ローカル" ドメインに 1 回、"parent.bosch.omneo" ドメインに 1 回、合計 2 回登録されていますが、これは正常です。"ローカル" ドメインに登録されている Bosch-ARNI のみが表示される場合は、DNS 設定が正しくありません。

15.15 DICENTIS で動作するネットワークインターフェイスの選択

環境変数 DCNM_PREFERRED_NIC を使用すると、DICENTIS で使用するインターフェイス名またはデバイス名 (ipconfig コマンドを使用したときの呼称は [説明]) を設定できます。

1. Windows の [Network Connections (ネットワーク接続)] メニューを使用して、インターフェイスの名前またはデバイス名を取得します。
2. 次を使用して新しい環境変数を作成します。
`"This PC" \ Properties \ Advanced system settings \ Environment Variables \ System variables \ New`
 変数名: `DCNM_PREFERRED_NIC`

注：NIC 名は、大文字と小文字が区別されます。

注：優先 NIC が IP アドレスを受け取っていない (たとえば、ケーブルが接続されていないか、名前が正しくない) 場合、サービスは開始されません。

注：環境変数が設定されていない場合に、複数のネットワークインターフェイスがあるときは、最初に検出されたネットワークインターフェイスが使用されます。

15.16 電源ボタンを使用してサーバーの電源をオフにする

DICENTIS サービスはサーバーコンピュータ上で実行されます。これらはサービスなので、手動で起動する必要も、さらにはこのコンピュータにログインする必要もありません。コンピュータの電源を入れるだけで、システムを起動することができます。コンピュータの電源ボタンは、コンピュータの電源をオフにするように設定できるので、電源をオフにするためにコンピュータにログインする必要はありません。

注：コンピュータの電源をオフにすることは可能ですが、その必要はありません。

コンピュータの電源をオフにするように電源ボタンを構成するには、次の手順を実行します。

1. [Control Panel (コントロールパネル)] > [Hardware (ハードウェア)] > [Power Options (電源オプション)] の順に移動して、電源ボタンの機能を変更します。
2. [When I press the power button (電源ボタンを押したときの動作)] オプションを [Shut down (シャットダウン)] にします。

15.17 カメラストリームとプレゼンテーションストリーム

カメラストリームおよびプレゼンテーションストリームは、DICENTIS VideoSwitcher サービスによって DICENTIS デバイスに配信されます。

これらのストリームは、自身のディスプレイまたは録画アプリケーションで使用できます。

- カメラストリーム : `Rtsp://<DICENTIS server>:9554/stream2`
- プレゼンテーションストリーム : `Rtsp://<DICENTIS server>:9554/stream1`

カメラストリームの場合は、カメラコントロールを有効にする必要があります。

プレゼンテーションストリームの場合は、プレゼンテーションストリームを有効にする必要があります。

15.18 バックアップの作成とシノプティック構成の復元

シノプティックレイアウトの構成はデータベースにはありませんが、別の場所にあるファイルに保存されています。

シノプティック構成のバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

レイアウトのバックアップ用に、次のディレクトリのバックアップを作成します (データは容量が最大のドライブに保存されます。この例では D です)。D:

```
\Inetpub\wwwroot\DcnmSynopticControl\Data
```

背景イメージのバックアップを作成するには、次をコピーします。D:

```
\Inetpub\wwwroot\DcnmSynopticControl\Images
```

この情報を作成したデータベース バックアップと一緒に保存しておく (セクション 13.6 を参照)、

次の方法で構成を復元できます。

1. データベースの復元 (セクション 13.7 と 13.8 を参照)
2. 保存済みのシノプティックの構成と背景イメージを正しい場所に貼り付けることによる復元

15.19 Dante™ 互換デバイスの構成

DICENTIS 会議システムは、サードパーティ製の Dante™ 互換デバイス (ラップトップなど) との統合をサポートします。どの Dante™ 入力/出力を DICENTIS 会議システムの Dante™ 入力/出力にルーティングするかは、Audinate の Web サイトからダウンロードできる Audinate の Dante Controller で設定します。

注 : Dante™ 機能を実現するため、DICENTIS 会議システム上で Dante 仮想デバイスが動作しています。1 台のコンピュータでアクティブにできる Dante™ デバイスは 1 つだけなので、他の Dante™ デバイスを DICENTIS 会議システムサーバーにインストールすることはできません。

注 : Dante Controller は、ネットワーク上のどのコンピュータからでも実行できます。その役割は、Dante™ 互換デバイスの間で Dante™ 入出力をルーティングすることです。

1. Dante Controller の [**Network view (ネットワークビュー)**] を開きます。
2. APS からの新しい Dante™ デバイスが画面上に表示されます。
 - Dante レシーバ :
DICENTIS <サーバーのホスト名>
 - Dante 入力 1
 - Dante 入力 2
 - Dante トランスミッタ :
DICENTIS <サーバーのホスト名>
 - Dante 出力 1

- Dante 出力 2
- ネットワーク上に見える他のすべてのデバイスも表示されます。

次に、トランスミッタからのマルチキャストストリームを作成する必要があります。DICENTIS 会議システムがこれらを使用するからです。

1. **Ctrl-D** を押して、[**Device info (デバイス情報)**] ビューを開きます。
2. DICENTIS で使用するよう設定するデバイスを選択します。
3. [**Transmit (送信)**] タブに移動します。
4. **Ctrl-M** を押してマルチキャストフローを作成します。
1 つのマルチキャストフローに対してチャンネルを 1 つだけ選択してください。
5. マルチキャストフローを作成したら、Dante Controller のネットワークビューに戻り、必要な接続を作成します。成功した接続にはチェックマークが表示されます。
Dante™ の構成方法の詳細については、『Dante Controller User Guide (Dante Controller ユーザーガイド)』を参照してください。

15.20

デバイスへのサードパーティ製アプリケーションの追加

マルチメディアデバイスにサードパーティ製 Android アプリケーションを追加するには、APK (Android アプリケーションパッケージ) アップロードツールを使用します。サードパーティ製アプリケーションを追加する前に、そのアプリケーションがマルチメディアデバイスと互換性があるかどうかを確認する必要があります。



注意!

ファームウェアをマルチメディアデバイスにアップロードすると、インストール済みのサードパーティ製アプリケーション (APK) はすべて削除されます。



注記!

APK アップロードツールを OMNEO ファームウェアアップグレードツールと同時に実行することはできません。

マルチメディアデバイスにサードパーティ製 Android アプリケーションを追加するには、次の手順に従います。

1. APK ファイルをサーバー PC に配置します。
2. [**Browse (参照)**] ボタンをクリックします。
3. APK の場所を参照します。
4. その APK を必要とするマルチメディアデバイスを選択します。
5. APK を選択します。
6. [**Upload (アップロード)**] をクリックします。



注記!

新しい APK がマルチメディアデバイスのホーム画面に表示されない場合は、ホームボタンを複数回クリックしてみるか、マルチメディアデバイスを再起動します。

15.21 デバイスへの他のキーボードの追加

必要な場合は、他の非ヨーロッパ系言語のキーボード（中国語や韓国語のキーボードなど）を DICIENTIS デバイスに追加することができます。

別の言語の Android キーボードを追加するには、まずそのキーボード用の APK をアップロードしてから、次のセットアップ手順に従います。APK のアップロードの詳細については、「デバイスへのサードパーティ製アプリケーションの追加, ページ 185」を参照してください。

次に APK の例を 2 つ挙げます。

- com.google.android.inputmethod.korean-0.91.apk、韓国語、877 KB
- com.google.android.inputmethod.pinyin-3.2.1.65352638.apk、中国語、12.103 KB

セットアップ手順

DICIENTIS デバイスで、次の手順に従います。

1. ホームアイコンを押してから [WWW] を押し、インターネットブラウザを開きます。
2. ブラウザのアドレスバーを押してキーボードを表示します。
3. キーボードの右下にある「スライダアイコン」を押します。
4. [Input Languages (入力言語)] を押します。
5. [Use system language (システム言語を使用)] チェックボックスをオフにする。
6. リストから言語を 2 つ以上選択します。
7. ブラウザでアドレスバーを押してキーボードを表示します。
8. Bosch のロゴの隣にある「Android ボタンバー」にある「キーボードアイコン」を押します。
9. [Set up input methods (入力方法を設定)] を押します。
10. 他のキーボードを確認します。
11. ブラウザでアドレスバーを押してキーボードを表示します。
12. Bosch ロゴの隣にある「Android ボタンバー」にある「キーボードアイコン」を押します。
13. 使用するキーボードを選択します。



注記!

追加のキーボードは、各 DCNM-MMD2 デバイスで個別に構成する必要があります。



注記!

追加のキーボードは、ファームウェアのアップグレード後、再構成する必要があります。

15.22 議題項目の変更時にサードパーティの Android アプリをマルチメディアデバイスで使い続ける

サードパーティのアプリをマルチメディアデバイスの UI として使用している場合、議題項目を開くと、マルチメディアデバイスは DiscussApp (参加中のディスカッション) にナビゲートします。

議題項目を開くと、`com.bosch.mmd.ui.action.DISCUSS` インテントが送信されます。

サードパーティのアプリもこのintentを受信できます。受信方法については、<https://developer.android.com/guide/components/intents-filters> を参照してください。

このイベントが初めて送信されたときに、マルチメディアデバイスにポップアップが表示されます。

1. [Use by default for this action (この操作をデフォルトで使用)] チェックボックスをタップします。
 2. 目的のアプリをタップします。
- ⇒ 選択したアプリがデフォルトで使用されるようになります。

以下の AndroidManifest.xml を参照してください。

```
<activity
    android:name=".DiscussAppActivity"
    android:label="@string/app_name"
    android:launchMode="singleTask" >
    <intent-filter>
    <action android:name="android.intent.action.MAIN" />

    <category android:name="android.intent.category.LAUNCHER" />

    <action android:name="com.bosch.mmd.ui.action.DISCUSS" />
    <action android:name="com.bosch.mmd.ui.action.SHOW_PRESENTATION" />

    <category android:name="android.intent.category.DEFAULT" />
    </intent-filter>
</activity>
```

15.23

コマンドラインツールによる証明書の作成

UI ツール以外に、コマンドラインツール *Bosch.TestUtils.CertificateGenerator.exe* を使用して証明書の作成、インストール、アンインストールを行うこともできます。

このツールは、デフォルトで C:\Program Files\Bosch\DICENTIS にインストールされており、管理者権限で開いたコマンドプロンプトから実行できます。

/help を使用すると、次のようなコマンドの説明と使用法を確認できます。

- ルート証明書を作成するコマンド : *CreateRootCertificate -RootCertificateName <name> -RootCertificatePassword <password>*
- ルート証明書をクライアントにインストールするコマンド : *InstallRootCertificate -RootCertificateCrtFilePath <file path>*
- サーバー証明書を作成するコマンド : *CreateServerCertificate -RootCertificatePfxFile <file path> -RootCertificatePassword <password> -ServerCertificateName <name> -ServerCertificatePassword <password> -IPAddresses <IP Addresses comma separated> -DnsNames <DNS Names comma separated>*
- サーバー証明書をサーバーにインストールするコマンド : *InstallServerCertificate -ServerCertificatePfxFile <file path> -ServerCertificatePassword <password>*
- ルート証明書またはサーバー証明書をアンインストールするコマンド : *UnInstallCertificate -CertificateName <name>*

例 :

```
Bosch.TestUtils.CertificateGenerator.exe CreateRootCertificate -
RootCertificateName DICENTIS_ROOT_CA -RootCertificatePassword DICENTIS
```

このコマンドを実行すると、次の 2 つのファイルが作成されます。

- C:\Program Files\Bosch\DICENTIS\ DICENTIS_ROOT_CA-private.pfx
- C:\Program Files\Bosch\DICENTIS\ DICENTIS_ROOT_CA.crt

サーバー証明書を作成するには、PFX ファイルに加えてルート証明書のパスワードが必要です。CRT ファイルはクライアントが Web サイトにアクセスするために必要です。

15.24 使用しない画像の削除

参加者を削除するとその画像も削除されますが、データベースだけを削除した場合は参加者の画像が残ります。この画像は次の手順で削除できます。

1. **管理者モード**でコマンドプロンプトを開きます。
2. \\inetpub\wwwroot\DcnmImageServer\bin に移動します (通常、このフォルダは容量が最大のドライブにあります)。
3. CleanupUnusedImages.exe を実行すると、データベース内に存在しなくなった参加者の画像が削除されます。

注 : CleanupUnusedImages.exe /q を使ってコマンドをサイレントモードで実行すると、使用しない画像の削除を自動化できます。

15.25 API アプリケーション (Synoptic を含む) に対する .net API での安全なログイン

4.40 ソフトウェア・バージョンでは、DICENTIS Web サーバーがサービスに接続するために使用されていたユーザー シノプティックが削除されました。

ユーザー構成で jsonc ファイルを使用することにより、他の API アプリケーションも同じメカニズムを使用できるようになり、DICENTIS データベースでシステムユーザーを作成しなくても、.net API にアクセスできるようになります。

DICENTIS Web サーバーでは依然として、API を使用してサービスに接続するために、ユーザー名とパスワードを持つユーザーが必要です。ユーザー名とパスワードが構成され、サービスを実行しているコンピュータに保存されるようになりました。

この設定は、C:\ProgramData\Bosch\DICENTIS\API\Conference_Protocol_user.jsonc に保存されます。この jsonc ファイルには、以下が含まれます。

- ユーザー名。
- パスワード (ソフトウェアのインストール時に生成されます)。
- ユーザー権限。



注記!

セキュリティ面の理由から、ユーザー権限は必要な権限のみに制限してください。

15.26 参加者アプリの SSL 証明書の更新

DcnmSynopticControl サイトの SSL 証明書が、たとえば IP アドレスまたはホスト名の更新により変更された場合、既存のタブレット登録は無効になり、更新する必要があります。タブレットを再度登録することで登録を更新できます。

タブレットを登録する前に、ファイル C:\Program Files (x86)\Bosch\DICENTIS ParticipationApp\appsettings.json に次のエントリを追加する必要があります。

```
{
```

```
"WebApi": {  
  "CertificateFriendlyName": "friendly name"  
},  
}
```

証明書のフレンドリ名は、DcnmSynopticControl サイトのバインディングにあるインターネット情報サービスで確認できます。

15.27 DCNmMediaPlayer のインストールと実行

DCNmMedia をインストールして構成するには、次の手順に従います。

手順 1. DCNmMediaPlayer をインストールする

1. DICENTIS ISO ディレクトリを開きます。
2. \Tools\DCNmMediaPlayer.msi に移動します。
3. インストールソフトウェアを実行し、画面の指示に従います。

手順 2. 構成ファイルを作成する

1. インストール ディレクトリを参照します: C:\Program Files\Bosch\DICENTIS\MediaPlayer
2. DCNmMediaPlayerSettings.jsonc という名前のファイルを作成します。
3. 次の内容をファイルに挿入します。

```
{  
  "media-gateway-stream": {"video-uri": "rtsp://172.16.4.1:9554/stream1"}  
}
```

手順 3. ビデオ ストリームを構成する

1. 必要なストリーム アドレスと一致するように、DCNmMediaPlayerSettings.jsonc で RTSP URI を更新します。
注: メディア ゲートウェイ - ストリーム構成ページからこのアドレスをコピーできます。

手順 4. DCNmMediaPlayer を起動する

1. インストールディレクトリ内の Bosch.Dicentis.ServerCore.DCNmMediaPlayer.exe をダブルクリックします。

アプリケーションを起動すると、次の画面が開きます:

- RTSP ストリームを表示するビデオ ウィンドウ。
- DICENTIS ロゴを表示するコンテナ ウィンドウ。これはビデオ プレーヤーを監視し、必要に応じて再起動します。

手順 5. アプリケーションを閉じる

- メディア プレーヤーを終了するには:
 1. ビデオウィンドウ内で **Alt + Enter** を押して、終了します。
注: コンテナは数秒後にプレーヤーを自動的に再起動します。
- 完全に終了するには:
 1. コンテナ ウィンドウを開きます。
 2. **ESC** を押します。

3. コンテナが閉じられた後、ビデオプレーヤー ウィンドウがまだ表示されている場合は手動で閉じます。

15.28

6.8 以降の DICENTIS ソフトウェアを以前のバージョン(V4.1 ~ V6.7) にダウングレードする

バージョン 6.8 以降から以前のバージョンにダウングレードすると、それらのバージョンで作成した最後のデータベースが使用されます。バージョン 6.8 以降では、以前のバージョンとは異なるデータベースを使用します。

現在のバージョンをアンインストールします。

1. Windows の [スタート] メニューで、[コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順に選択します。
2. 次のプログラムを手動でアンインストールします。
 - ARNI Configuration Tool。
 - Bosch DICENTIS。
 - Bosch DNS-SD Service (アンインストールすると再起動するように求められます)。
 - OMNEO ARNI ファームウェア。
 - OMNEO Firmware Upload Tool。
 - OMNEO Docent。
 - MMFF ファームウェアパッケージ (バージョン 7.00 以降がインストールされている場合のみ該当)。
3. PC を再起動します。
4. 「*DICENTIS* ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」に記載されているとおり、前のバージョンの DICENTIS ソフトウェアをインストールします。

データベースの互換性がないという通知が表示されてインストールが失敗する場合は、データベースを削除してください。

注：これにより、構成全体が削除されます。

1. サービスを介して SQL サーバー (SQLEXPRESS) を停止します。
2. C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLDICENTIS2019\MSSQL\DATA にある 2 つのファイル (DcnmDatabase_log.LDF と DcnmDatabase.mdf) を削除します。
3. DICENTIS サーバーを再起動します。
4. 「*DICENTIS* ソフトウェアスイートのインストール, ページ 28」に記載されているとおり、前のバージョンの DICENTIS ソフトウェアをインストールします。

16 トラブルシューティング

トラブルシューティングの詳細については、『DICENTIS ハードウェア設置マニュアル』の「Installation Test (設置テスト) 」セクションも参照してください。

製品関連の情報については、<https://www.keenfinity-group.com/xc/en/> を参照してください。

16.1 デバイスの LED の動作

複数の DICENTIS デバイスで、異なる LED の動作を使用してステータスを示します。

DCNM-D / DCNM-DVT / DCNM-DSL / DCNM-DE / DCNM-FBD2 / DCNM-MMFF / DCNM-MMDOCK	
マイクとそのボタンの LED : 緑色と赤色が交互に点灯 DCNM-DSL / DCNM-DE / DCNM-MMFF : ディスプレイに [Please upgrade (アップグレードしてください)] と表示される	デバイスが出荷時のまま
DCNM-Dx : マイクボタンの LED : 緑色に点灯、マイクの LED : オフ -> マイクボタンの LED : オフ、マイクの LED : 赤く点滅 DCNM-MMFF / DCNM-MMDOCK : 背面 LED が 赤色に点滅 DCNM-FBD2 / DCNM-MMDOCK / DCNM-MMFF : マイクボタンの LED とマイクの LED が 緑色に点灯	デバイスが起動中
マイク LED : 緑色に点灯 DCNM-MMFF / DCNM-MMDOCK : 背面 LED が 緑色に点灯 DCNM-DE : ディスプレイに [No communication with DICENTIS server (DICENTIS サーバーとの通信がありません)] と表示される	デバイスは起動しているがサービスに接続されておらず、リンクローカルアドレスがある
マイクの LED : 赤色に点灯 DCNM-MMFF / DCNM-MMDOCK : 背面 LED が 赤色に点灯 DCNM-DE : ディスプレイに [No communication with DICENTIS server (DICENTIS サーバーとの通信がありません)] と表示される	デバイスは起動しているがサービスに接続されておらず、DHCP アドレスがある

マイク LED とマイクボタンの LED : オフ システムが [ディスカッションモード: オープン (自動)] に設定されている場合 : マイク LED : オフおよびマイクボタン LED : 白色 DCNM-DE : 議論の画面がディスプレイに表示される	デバイスがサービスに接続されている
---	--------------------------

DCNM-MMD2	
マイクとそのボタンの LED : 緑色と赤色が交互に点灯 ディスプレイに [Please upgrade (アップグレードしてください)] と表示される	デバイスが出荷時のまま
マイク LED : 赤色点滅/背面LED : 赤色点滅	デバイスが起動中
マイク LED : 緑色に点灯 / 背面 LED : 赤色に点灯 ディスプレイに [Cannot communicate with DICENTIS server (DICENTIS サーバーと通信できません)] と表示される	デバイスは起動しているがサービスに接続されておらず、リンクローカルのアドレスがある
マイク LED : 赤色に点灯 / 背面 LED : 赤色に点灯 ディスプレイに [Cannot communicate with DICENTIS server (DICENTIS サーバーと通信できません)] と表示される	デバイスは起動しているがサービスに接続されておらず、DHCP アドレスがある
背面 LED : オフ ディスプレイに DICENTIS のロゴが表示される	デバイスが座席に割り当てられていない
マイクとボタンの LED : オフ 議論の画面がディスプレイに表示される	デバイスがサービスに接続されている

DCNM-FSL	
上下のボタンが交互に点滅 ディスプレイに [Please upgrade (アップグレードしてください)] と表示される	デバイスが出荷時のまま

音声 LED と言語 LED の両方： 常に点灯	デバイスは起動しているがサービスに接続されておらず、DHCP アドレスがある
ディスプレイ： オフ ヘッドフォンが接続されてない状態での、両方の音量の LED と両方の言語の LED： オフ ヘッドフォンが接続され、言語が設定されている状態での、両方の音量の LED と両方の言語 LED： オン	デバイスがサービスに接続されている

DCNM-IDESK	
マイクとそのボタンの LED： 緑色と赤色が交互に点灯 ディスプレイに [Please upgrade (アップグレードしてください)] と表示される	デバイスが出荷時のまま
マイク LED： 赤色に点灯 / 背面 LED： 赤色に点灯 ディスプレイに [Cannot communicate with DICENTIS server (DICENTIS サーバーと通信できません)] と表示される	デバイスは起動しているが、サービスに接続されていない
ディスプレイに DICENTIS のロゴが表示される	デバイスが座席に割り当てられていない

**注記!**

デバイスの右側にある [More (その他)] ボタンをクリックして、リンクローカルのアドレスや DHCP アドレスなどの追加情報を取得します。

16.2

Network Docent

Network Docent は、AV オペレータの日常業務を支援するために開発されました。このソフトウェアは、ネットワーク環境をスキャンして可視化し、ネットワークベースの AV システムのすべてのデバイスとケーブル接続に関する詳細情報を提供します。Network Docent を使用すると、AV システムの中断や不正操作の原因となる一般のおよび単純なネットワークエラーを解決するためのガイダンスを特定して提供できます。そのため、Network Docent により、ネットワークベースの AV システムの設置や操作にかかる時間と労力が削減されます。

バージョン 3.2 以降、Network Docent ソフトウェアは DICENTIS ソフトウェアパッケージの一部としてインストールされるようになりました。

**注記!**

Network Docent のインストール時に DICENTIS ソフトウェアのインストールを中止しないでください。

このツールの使用方法については、Network Docent のマニュアルを参照してください。
Network Docent ソフトウェアとマニュアルは、<https://software-download.keenfinity-group.com/OMNEO> からダウンロードすることもできます。

16.3 DeviceBrowser を使用した接続済みデバイスの確認

DeviceBrowser.exe はコマンドプロンプトツールです。これを使用すると、技術者は接続されているデバイスの概要を把握できます。タイプ、数、デバイスの接続先の VLAN が表示されます。

ツールを起動するには、次の手順に従います。

1. Windows のスタートボタンをクリックします。
2. 検索フィールドに **command** と入力して Enter キーを押します。
コマンドプロンプトが開きます。
3. **cd** と入力して Enter キーを押します。
4. **cd "Program Files\Bosch\DICENTIS"** と入力して Enter キーを押します。
5. **DeviceBrowser.exe** と入力して Enter キーを押します。
ツールが自動的にネットワークの DICENTIS デバイスをスキャンします。
CTRL + C キーを押すと、スキャンを停止できます。

16.4 会議を中断せずに言語の追加や削除を行う

会議中に、中断せずに通訳言語の追加や削除を行うことができます。

言語を削除すると、次のようになります。

- 削除した言語を選択していた参加者のデバイスがフロアに切り替わります。
- 削除した言語を A 出力として選択していた通訳デスクにブロックされた画面 (DICENTIS ロゴ) が表示されます。
- 削除した言語を通訳している通訳デスクのマイクがオフになります。

16.5 既知の問題

既知の問題と解決方法については、次のセクションを参照してください。

- ネットワーク, ページ 194
- ソフトウェアのインストール / ハードウェアの設置, ページ 195
- 会議アプリケーションと DICENTIS デバイス, ページ 195
- カメラコントロール
- MMD にロゴと参加者の画像が表示されない, ページ 196

16.5.1 ネットワーク

問題:

Cisco c3560x (ファームウェア : 15.0.1 SE3 c3560e-universalk9-mz.150-1.SE3.bin) を使用したマルチサブネット DICENTIS 会議システムで音声が遅れます。

解決方法：

次のような、テスト済みでサポートされているファームウェアのバージョンを使用してください。

- 12.2.55 SE5 (c3560e-universalk9-mz.122-55.SE5.bin)
- 15.2.2E (c3560e-universalk9-mz.152-2.E.bin)

問題：

クライアント PC が、同じサブネットにない DICENTIS サーバーに接続しません。

解決方法：

すべてのクライアント PC が DICENTIS サーバーと同じサブネットにあるようにシステムを定義および構成してください。

16.5.2**ソフトウェアのインストール / ハードウェアの設置****問題：**

フェールセーフデバイスが (ARNI を備えたマルチサブネットのネットワークなど) FWUT と同じサブネットにない場合、デバイスは FWUT によって自動的に復元されません。

解決方法：

フェールセーフモードになっているすべてのデバイスの接続を解除し、それらを ARNI を持たない 1 つのサブネットのシステムに接続してください。フェールセーフのメカニズムはマルチキャスト DNS に基づいており、これがこの技術的制約の原因になっています。フェールセーフはマルチキャスト DNS で動作します。これは技術的制約です。

問題：

DICENTIS ソフトウェアサービスを実行中の PC で新しいユーザーが作成されると、システムが停止します。

解決方法：

サーバー PC を再起動してください。

16.5.3**会議アプリケーションと DICENTIS デバイス****問題：**

インターネットの閲覧後にブラウザのホームボタンと [**Back To Active (会議に戻る)**] ボタン (大きな緑色のボタン) を使用して有効な会議に戻ると、4 秒ほどの遅れが発生します。

解決方法：

これは Android の通常の動作です。

ブラウザの戻るボタンを使用してから [**Back To Active (会議に戻る)**] ボタンを使用すると、遅れは発生しません。

問題：

会議アプリケーションに、無効なボタンや見つからないボタンが表示されています。また、DICENTIS デバイスには、接続されていない画面が表示されています。

解決方法：

サーバー PC のスリープモードを無効にして、サーバーを再起動してください。

問題：

会議アプリケーションと DICENTIS デバイスで、異なる時刻が表示されています。

解決方法：

会議アプリケーションを実行している PC でサマータイムを有効にしてください。

16.5.4 通訳デスクに DICENTIS ロゴが表示される

問題：

デバイスが通訳デスクとブースに割り当てられていません。

解決方法：

通訳デスクまたは会議アプリケーションを使用して、デバイスを通訳デスクとブースに割り当てます。

問題：

通訳デスクに A 出力の言語が構成されていません。

解決方法：

通訳デスクまたは会議アプリケーションを使用して、A 出力の言語を構成します。

問題：

通訳デスクの A 言語が DICENTIS 以外のソースに割り当てられています。

解決方法：

[Rooms (会議室)] > [Language (言語)] を選択するか、準備された会議で、ソースを DICENTIS に設定します。

問題：

デバイスのファームウェアが正しくありません。

解決方法：

DICENTIS サーバーにインストールされている Firmware Upload Tool を使用して、ファームウェアをアップロードします。

16.5.5 MMD にロゴと参加者の画像が表示されない

問題：

DICENTIS 会議システム 3.60 にアップグレードすると、セキュリティ上の理由で TLS1.0 が無効化され、TLS1.2 が有効化されます。マルチメディアデバイスでは TLS1.2 がサポートされていないため、ロゴと参加者の画像が表示されなくなります。

解決方法：

次の手順に従い、サーバーで TLS1.0 を有効化します。

1. 管理者モードでコマンドプロンプトを開きます。
2. DICENTIS ISO ファイルから `\Tools\TLS_MMD\EnableTLS1.0.bat` を実行します。
3. サーバーの電源を入れ直します。

注：このディレクトリには TLS1.0 を無効化するためのファイルも含まれています。

17 顧客サービスとトレーニング

エラーが解消されない場合は、サプライヤーまたはシステム インテグレータに問い合わせるか、直接担当者までご連絡ください。



サポート

<https://www.keenfinity-group.com/xc/en/> でサポート サービスにアクセスします。

セキュリティ勧告については、[製品セキュリティ](#)ウェブページにアクセスしてください。



トレーニング

トレーニング コース、ビデオ チュートリアルおよび文書へのアクセスは、次のウェブサイトをご覧ください: <https://academy.keenfinity-group.com/sui/landingPage>。

Electro Voice Dynacord B.V.

Achtseweg Zuid 173
5651 GW Eindhoven
The Netherlands

www.keenfinity-group.com

© Electro Voice Dynacord 2026